

構造特記仕様書（ ■：適用 □：不適用）

1 共通事項

1.1 建築物概要

工事名称： 谷山支所庁舎大規模改修その他工事
工事種別： □新 築 ■増 築 □増改築 □改 築
階 数： 地 上： 4 階 地 下： 階 塔 屋： 階
構造種別： 地上階：鉄骨造
計算ルート：ルート3

1.2 準拠規準及び図書

本工事は設計図書及び特記仕様書の他、下記の規準、図書の最新版を参考とする。
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編） 令和7年版」（以下、「標仕」）

A. 土工事、山留め工事

日本建築学会 JASS 3 土工事 及び 山留め工事
日本建築学会 山留め設計施工指針
日本建築学会 建築基礎構造設計基準・同解説

B. 地業工事

日本建築学会 JASS 4 地業 及び 基礎スラブ工事
専門業者の評定資料 等

C. 鉄筋コンクリート工事

日本建築学会 JASS 5 鉄筋コンクリート工事
日本建築学会 鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説

D. 鉄骨工事

日本建築学会 JASS 6 鉄骨工事
日本建築学会 鉄骨工事技術指針・工場製作編 及び 工事現場施工編
日本建築学会 溶接工作規準・同解説 I～VIII
日本建築学会 鉄骨精度測定指針
日本建築学会 鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準 等

E. プレキャスト工事

日本建築学会 JASS 10 プレキャストコンクリート工事
日本建築学会 プレストレストコンクリート設計施工基準・同解説

1.3 提出書類と提出期日

| | 提出書類名 | 提出期日 | 備 考 |
|----------|---|--|---|
| 全体工事 | ・全体工程表 ・部分工程表 ・協力業者リスト | 決定後 10日以内 決定後 10日以内 決定後 10日以内 | 直営業者を含む。各業者の窓口の氏名を記入 |
| 杭工事 | ◎施工要領書 ・結果報告書 | 施工前 15日以上 施工後 15日以内 | 施工中の異常については即時連絡する （他工事もこれに準ずる） |
| 土工事 | ◎掘削計画書 ◎山留計画書 | 施工前 15日以上 施工前 15日以上 | 計画書も含む |
| コンクリート工事 | ◎躯体図 ◎調合計画書 ◎打設計画書 ・試験報告書 | 施工前 20日以上 施工前 20日以上 施工前 20日以上 試験後 15日以内 | セメント、砂、砂利試験データ、生コンプラントからの所要時間、調合計画の計算書を含む 打設位置、バイブレー機種、台数 等 |
| 鉄筋工事 | ◎加工図 ☆材料試験報告書 ・ガス圧接試験要領書 ☆超音波探傷検査報告書 | 施工前 20日以上 施工前 10日以上 施工前 10日以上 試験後 10日以内 | 標準部分（HOOP、STP、フッカー等）特に複雑な部分 規格品の場合は規格証明 規格品の場合は規格証明（高力ボルトを含む） |
| 鉄骨工事 | ☆材料試験報告書 ◎工場製作要領書 ◎現場施工要領書 ◎工作図 ☆超音波探傷検査報告書 ・製品検査報告書 | 製作前 10日以上 製作前 30日以上 建方前 30日以上 製作前 30日以上 検査後 10日以内 検査後 10日以内 | 規格品の場合は規格証明（高力ボルトを含む） 溶接エリスト、資格リストを含む 同 上 検査資格者リストを含む |
| 特殊工事 | ◎製作要領書 ◎工作図 ◎建方要領書 | 製作前 30日以上 製作前 20日以上 建方前 30日以上 | プレキャスト工事 ALC板工事 等 計算書も含む |

- （注）1. ☆印を付したものは、不合格の場合は直ちに報告すること
2. 提出部数（構造設計者用として）
・印のあるもの（返却を要しない） 1 部
◎印のあるもの（返却を要する） 2 部（但し、最終版は1部でよい）
3. 提出期日については協議により変更可能

2 土工事

2.1 埋戻し及び盛土の種別

| 適用 | 材 料 | 工 法 | 備 考 |
|----|---------------|--------------|-----|
| ■ | 根切土中の良質土 | 機器による締固め | |
| □ | 他現場の建設発生土の良質土 | 機器による締固め | |
| □ | 山砂の類 | 水締め、機器による締固め | |

2.2 残土処理

■場外に搬出して適切に処理 □構内の指定場所に敷きならす

2.3 山留め工法

■指定無 □指定有 工法：

3 地業工事

3.1 共通事項

■探掘、地盤調査及び試験杭等の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。立会試験施工結果により最終決定とする
■ボーリング標準貫入値、土質構成は地盤調査図を参照
□杭径、杭本数、耐力、試験杭の位置は杭伏図、杭断面リストを参照
□根切底の確認は立会いを要する

3.2 地盤調査

■メーカー仕様による
□ボーリング調査（調査内容はS-09参照） □静的貫入試験 □標準貫入試験
□土質試験 □物理探査 □平板載荷試験
□水平地盤反力係数の測定 ■杭業者が必要とする事前調査

■敷地内土質調査済み □未調査

3.3 □直接基礎

| 基礎形式 | 基礎深さ | 支持層 | 長期設計支持力 | 備 考 |
|------|-------|-----|-------------------|-----|
| | GL- m | | kN/m ² | |
| | GL- m | | kN/m ² | |
| | GL- m | | kN/m ² | |

3.4 □場所打コンクリート杭

工 法： □アースドリル □リバースサーキュレーション
□オールケイシング □BH杭
□ミニアース □深礎杭

拡底杭： □無 □有（日本建築センターの一般評定を受けたもの）

鋼管付杭： □無 □有

超音波孔壁測定： □行う（直杭：全本数 拡底杭：本） □行わない

3.5 □既製コンクリート杭（JIS規格品又は認定品とする）

杭 種： □PHC 杭（JIS規格品又は認定品） □A種 □B種 □C種
□CPRC 杭（認定品） □I種 □II種 □III種
□外殻鋼管付コンリート杭（認定品）

工 法： □埋込み工法
□セメントミルク工法
□プレボーリング拡大根固め工法（国土交通大臣認定工法）
□中堀拡大根固め工法（国土交通大臣認定工法）
□打撃工法 プレボーリング： □行わない □行う（GL- m）

継 手： □無溶接継手（認定品） □アーク溶接

3.6 ■鋼管杭

杭 種： ■鋼管杭（JIS A5525） □H鋼杭（JIS A5526）

工 法： ■回転貫入工法 EAZET工法又は同等品以上（認定番号：TACP-0621 先端地盤=砂質地盤）
□打撃工法 プレボーリング： □行わない □行う（GL- m）

3.7 砂利、捨てコンクリート地業

| 適用 | 施 工 場 所 | 厚（mm） | | 備 考 |
|----|---------|-------|------|-----|
| | | 砕石 | 捨てコン | |
| ■ | 基礎下 | 60 | 50 | |
| ■ | 基礎梁 | 60 | 50 | |
| ■ | 1階土間スラブ | 60 | 50 | |

4 鉄筋工事

4.1 種別

■異形鉄筋（JIS G3112）

| 適用 | 種 別 | 径（mm） | 継 手 | 備 考 |
|----|--------|---------|--------------|-----|
| ■ | SD295A | D10～D16 | ■重ね □圧接 □機械式 | |
| ■ | SD345 | D19～D25 | □重ね ■圧接 □機械式 | |
| ■ | SD390 | D29～D35 | □重ね ■圧接 □機械式 | |
| □ | SD490 | D38～ | □重ね □圧接 □機械式 | |

□溶接金網（JIS 規格品）

4.2 ガス圧接部完了後の検査

□超音波探傷試験 （1検査ロットに対して30箇所以上）
■引張試験 （1検査ロットに対して 5箇所以上）

5 コンクリート工事

5.1 共通事項

コンクリートは J I S 認定工場の製品とし施工に関しては JASS5 による。
調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査打設、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

5.2 レディーミクストコンクリートの種別

■I種 □II種

5.3 セメントの種別

□普通ポルトランドセメント（JIS R5210）
■高炉セメントの A種、B種（JIS R5211）
□フライアッシュセメントの A種、B種（JIS R5213）

5.4 砕砂及び砕石の種別

■コンクリート用砕砂及び砕石（JIS A5005）
□高炉スラグ粗骨材 B種（JIS A5011）

5.5 コンクリート

| 適用 | 使用箇所 | 種類 | 設計基準強度 F _c N/mm ² | スラン cm | 細骨 材径 mm | 粗骨 材径 mm | 水セメント比 % | 単位 セメント量 kg/m ³ | 空気量 % |
|----|----------|----------------|--|-----------|----------------|----------------|-------------|----------------------------------|---------------|
| ■ | 捨てコンクリート | 普通 | 18 | | | | | | |
| ■ | 外構土間スラブ | 普通 | 21 | | | | | | |
| ■ | 建築前躯体 | 基礎 | 普通 | 30 | 15 | 2.5 | 20 | 55以下 | 300以上 4.5±1.5 |
| | | 地中梁、1階スラブ、1階護壁 | 普通 | 30 | 15 | 2.5 | 20 | 55以下 | 300以上 4.5±1.5 |
| | | 上階スラブ | 普通 | 24 | 15 | 2.5 | 20 | 55以下 | 300以上 4.5±1.5 |
| | | | | | | | | | |
| ■ | 外構躯体 | 基礎他（水防衛生倉庫以外） | 普通 | 24 | 15 | 2.5 | 20 | 55以下 | 300以上 4.5±1.5 |
| | | 基礎他（水防衛生倉庫） | 普通 | 30 | 15 | 2.5 | 20 | 55以下 | 300以上 4.5±1.5 |

* F_c：構造設計基準強度

5.6 強度試験

構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔を置いた3台の運搬車からその必要本数を採取する。
（試験機関は未定）

6 鉄骨工事

6.1 鋼材

■SS400 JIS G3101 の規格品
□SM490A □B □C JIS G3106 の規格品
■SN490B ■C JIS G3136 の規格品
□STK400 □STK490 JIS G3444 の規格品
□STKN400B □W ■STKN490B JIS G3475 の規格品
□STKR400 □STKR490 JIS G3466 の規格品
□BCP235 □BCP325
□BCR295 (MSTL-0188)
□SNR400A □B JIS G3138 の規格品
□SCW490
□TMCP325B

6.2 ボルト（図面中特記なきボルトは高力ボルトとする）

■高力ボルト
■特殊高力ボルト（トルシア形） S10T JSS II 09 の規格品（MBLT-0125）（MBLT-0100）
□溶融亜鉛メッキ高力ボルト F8T
■アンカーボルト
■SS400
□ABM490
■普通ボルト・スタッドボルト JIS の規格品

6.3 デッキプレート

□SDP2 ：デッキプレート
■SDP2G ：合成床用デッキプレート
□SDP2G ：セルラデッキプレート
□SPHC ：捨て型枠用デッキプレート
JIS G3352 の規格品
JIS G3131 の1種に
亜鉛めっきを施したものと

6.4 鉄骨加工業者

国土交通大臣認定工場とし、Mグレード以上とする

7 積 載 荷 重

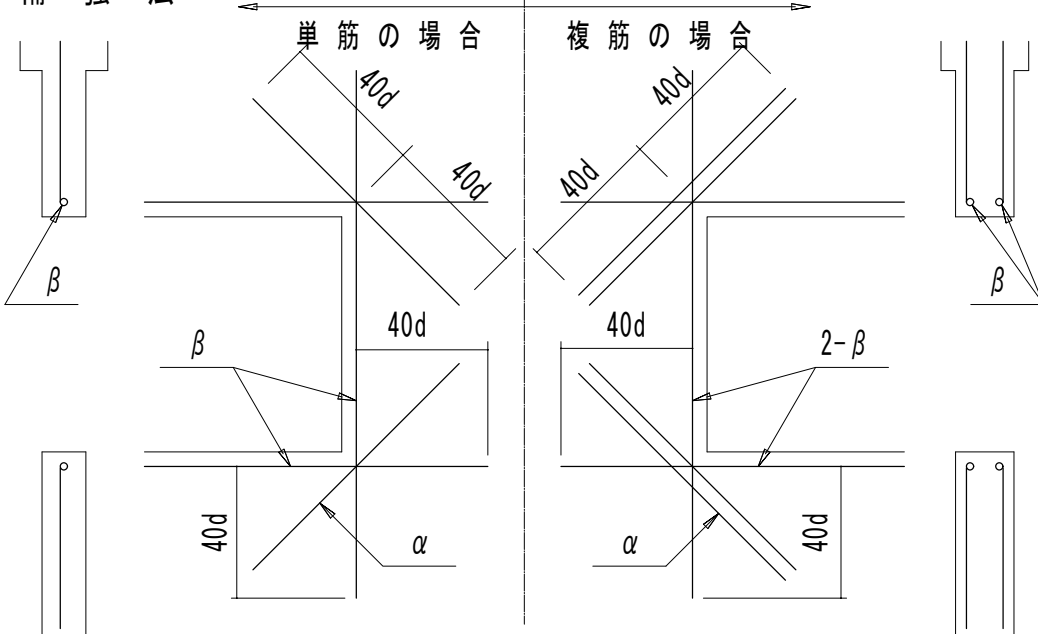
| 積 載 荷 重 | | N/m ² | | | |
|-----------|--|------------------|-------|-------|-------|
| | | 床 用 | 小 梁 用 | 架 構 用 | 地 震 力 |
| 屋上（非歩行） | | 1,000 | 1,000 | 600 | 400 |
| 屋上（歩行） | | 1,800 | 1,800 | 1,300 | 600 |
| 事務室 | | 2,900 | 2,900 | 1,800 | 800 |
| 書架（NA～NC） | | 8,450 | 8,450 | 8,450 | 8,450 |
| 書架（SA～SC） | | 7,770 | 7,770 | 7,770 | 7,770 |

| | | | | | |
|--|---|---|--------------------|--|---------|
| | yAt構造設計事務所合同会社 一級建築士事務所 一級建築士 第 341807 号 構造一級建築士 第 9582 号 中島 敦広 | みのだ・ブランドー設計共同企業体 代表事務所 株式会社 みのだ設計 一級建築士事務所 知事登録 第 1-3-140 号 一級建築士 第 148365 号 養田 満康 | 谷山支所庁舎大規模改修その他本体工事 | | |
| | | | 構造特記仕様書 | | No. |
| | | | 鹿児島市建設局建築部建築課 | | S - O 1 |
| | | | | | |

7 特記なき場合の開口部の補強は下記による

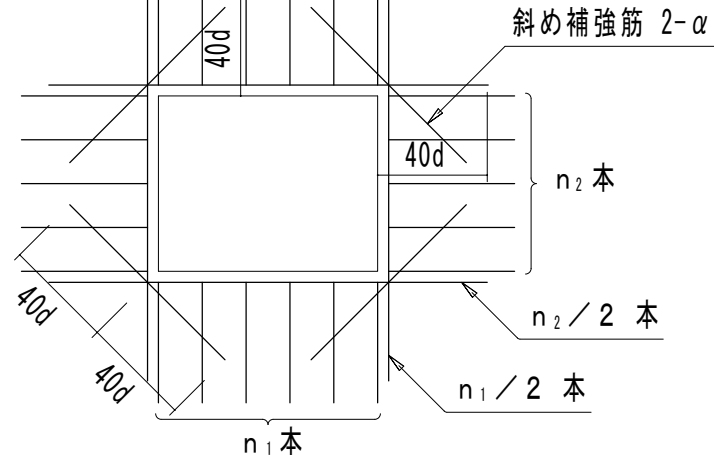
7. 1 壁の開口部補強

A. 補強法



7. 2 床版の開口部補強(通常)

A. 補強法



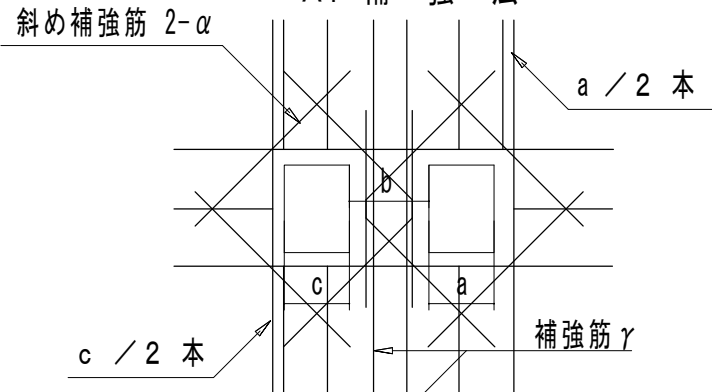
α：当該床に使用されている最大径の鉄筋

B. 床版開口の最大径が両方向配筋間隔以下で、鉄筋をゆるやかに湾曲させて、開口を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。

C. 開口径が 600 以上の場合、伏図中に設備大開口と定義している場合は、監督員の指示による。

7. 3 床版の開口部補強(開口が近接する場合)

A. 補強法



B. b>100かつb>a/2+c/2とする

b>150の場合は7.2に従う

| 配筋種類 | 主筋 | 補強筋 |
|---------|------------|-------|
| スラブ厚150 | 主筋D10@200 | 1-D13 |
| スラブ厚150 | 主筋D13@200 | 2-D13 |
| スラブ厚150 | 配力筋D10@200 | 1-D13 |
| スラブ厚200 | 主筋D10@200 | 1-D13 |
| スラブ厚200 | 主筋D10@150 | 2-D13 |
| スラブ厚200 | 主筋D10@100 | 2-D13 |
| スラブ厚200 | 主筋D13@200 | 2-D13 |
| スラブ厚200 | 主筋D13@150 | 2-D13 |
| スラブ厚200 | 配力筋D10@200 | 1-D13 |
| スラブ厚200 | 配力筋D10@150 | 2-D13 |
| スラブ厚200 | 配力筋D10@100 | 2-D13 |
| スラブ厚200 | 配力筋D13@200 | 2-D16 |
| スラブ厚200 | 配力筋D13@150 | 2-D16 |

8 梁の貫通孔の補強は下記による

8. 1 原則

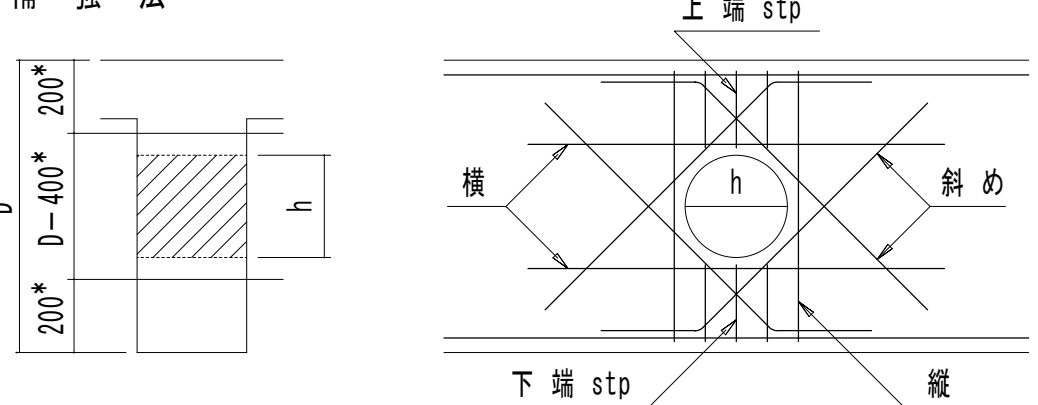
A. 梁のスパン中央部で、かつ梁丈中央部を貫通する。

B. 片持ち梁は先端近くで、かつ梁丈中央部を貫通する。

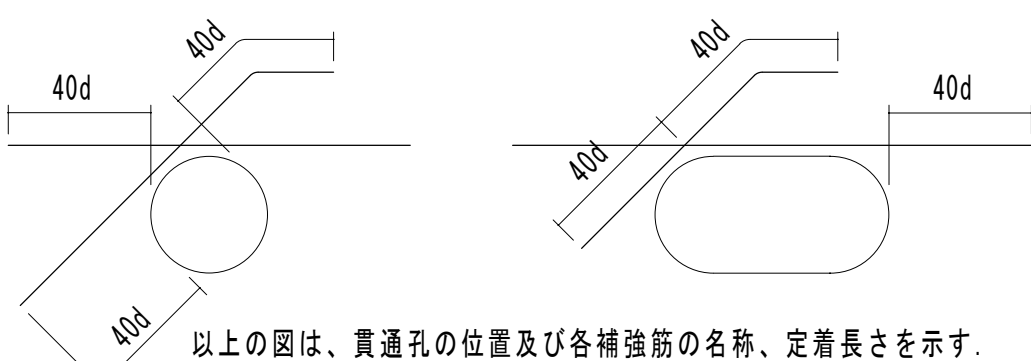
C. 梁丈中央部とは、梁の上下端より各々 200 離れた部分を指し、スパン中央部とは、内のリスパンの 1/2 の中央範囲を指す。

D. 同一の梁を2箇所以上貫通する場合の間隔は、その中心距離を孔の径の平均値の3倍以上離す。

8. 2 補強法



* 主筋の貫通孔に対する被り厚さを少なくとも 50mm は確保する。

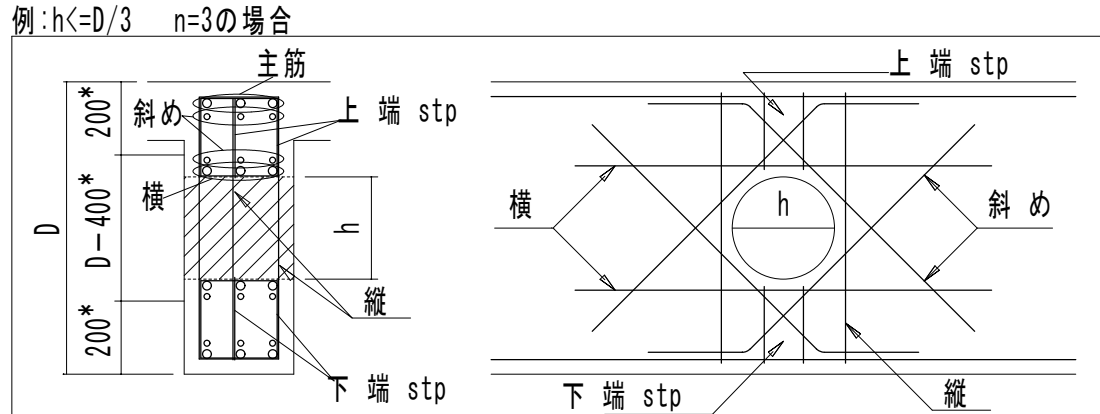


以上の図は、貫通孔の位置及び各補強筋の名称、定着長さを示す。

- A. $h \leq D/10$ かつ $h < 150$ の場合は、補強なしでよい。
B. $h > D/3$ 及び $h > D-400$ 及び $h > 400$ のいずれかに該当する場合は監督員の指示による。
C. $D/10 < h \leq D/3$ ないし $D-400$ の場合については下記の標準補強による。

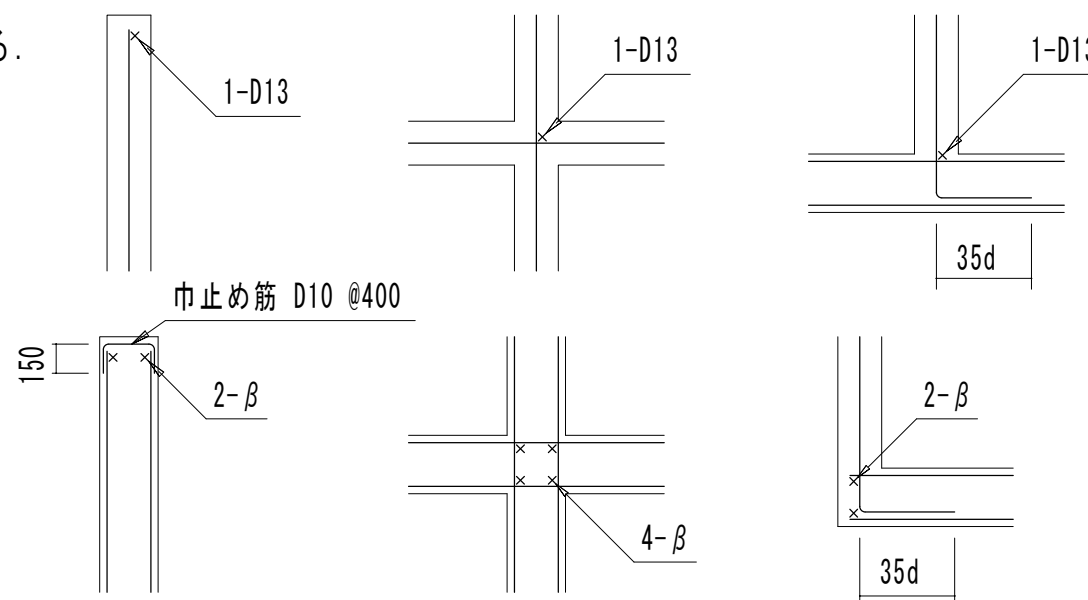
| 適用範囲 | | 鉄筋補強 | |
|--------------------|--------------------|------|---------------------|
| $h \leq D/3$ | $h \leq D/4$ | 斜め | $n \times (4-D13)$ |
| $h \leq 100$ | $h \leq 150$ | 縦横上 | $n \times (2-D13)$ |
| $100 < h \leq 200$ | $150 < h \leq 250$ | 斜め | $n \times (4-D13)$ |
| $200 < h \leq 300$ | $250 < h \leq 350$ | 縦横上 | $n \times (2-D13)$ |
| $300 < h \leq 600$ | $350 < h \leq 600$ | 斜め | $n \times (4-D16)$ |
| | | 縦横上 | $n \times (2-D16)$ |
| | | 斜め | $2n \times (2-D13)$ |
| | | 縦横上 | $2n \times (2-D16)$ |
| | | 斜め | $2n \times (2-D16)$ |
| | | 縦横上 | $2n \times (2-D13)$ |

注) nは梁巾方向の列数を表し、梁巾 B に対し、それぞれ下記のように定める。
B ≤ 350 の時 n=2, B ≤ 500 の時 n=3, B ≤ 650 の時 n=4



9 特記なき場合の各部の補強は下記による

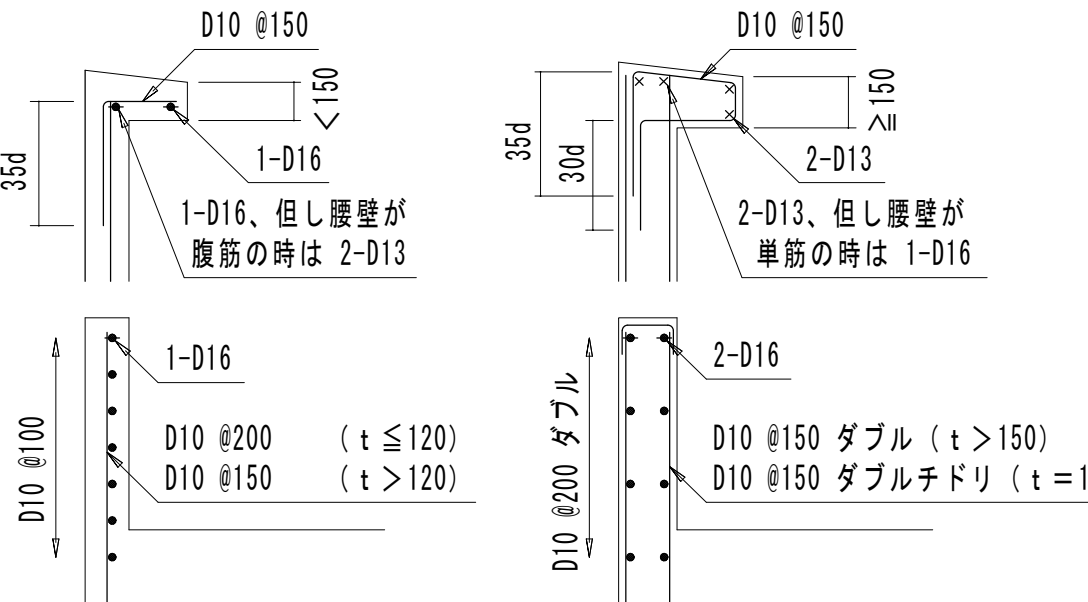
9. 1 壁交差部及び端部の標準配筋 (一部 5.5.B 参照)



β：当該壁に使用されている最大径の鉄筋よりひと回り太い鉄筋

9. 2 パラペット及び腰壁、下り壁の先端の補強

注) 下り壁は腰壁に準ずる。



9. 3 片持ち床版の先端部の補強

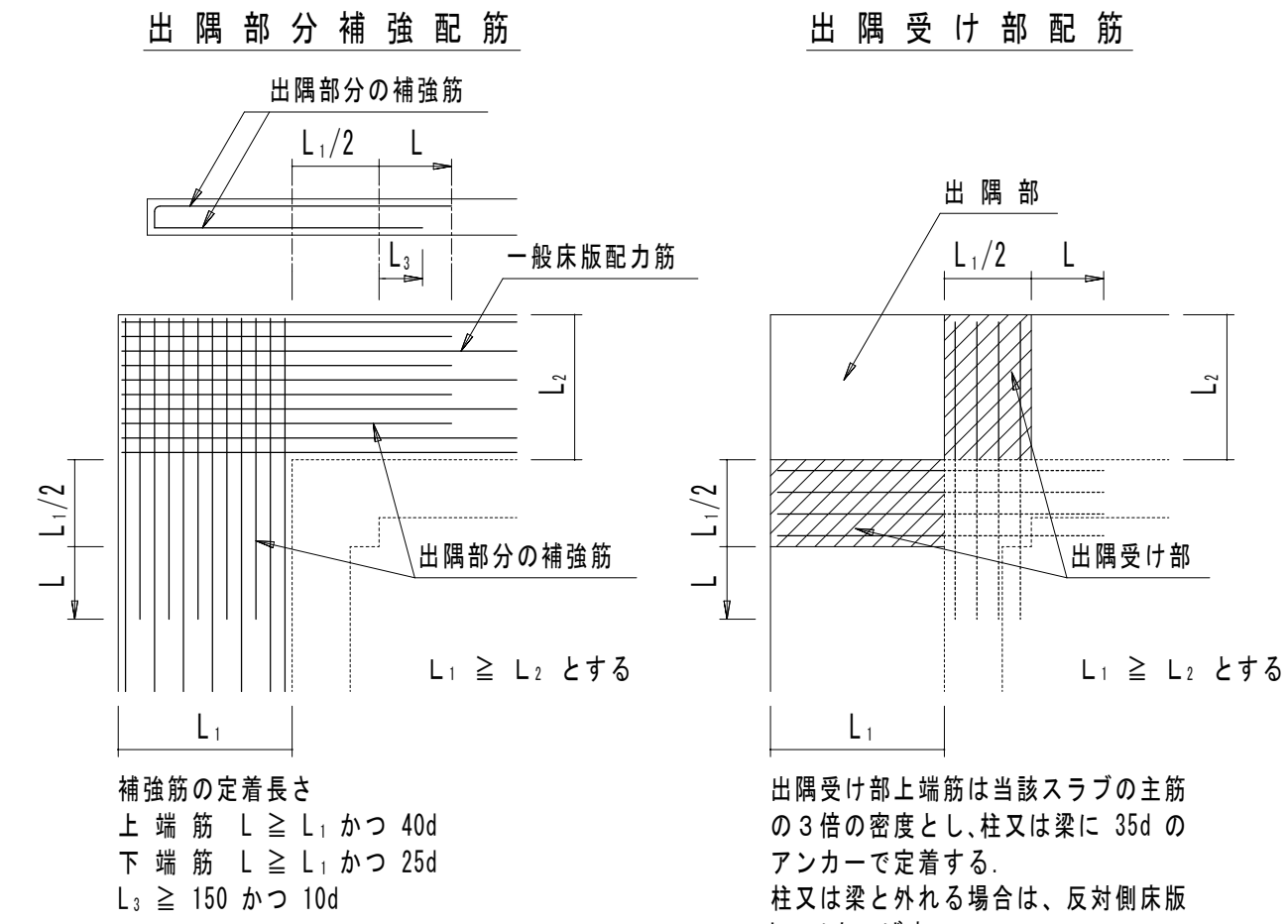
| L ≤ 600 で長さ 10m 以下 | 600 < L ≤ 1000 で長さ 10m 以下 |
|---|---------------------------|
| 1-D13 | 1-D13 |
| 2-D13 | 2-D13 |
| L ≤ 1000 で長さ 10m 以上 又は L > 1000 で長さ 10m 以下 | L > 1000 で長さ 10m 以上 |
| 1-D13 | 1-D13 |
| 3-D13 | 4-D13 |
| 1-D13 | 1-D13 |

注1) 三辺固定床版の自由端も上図に準ずる。

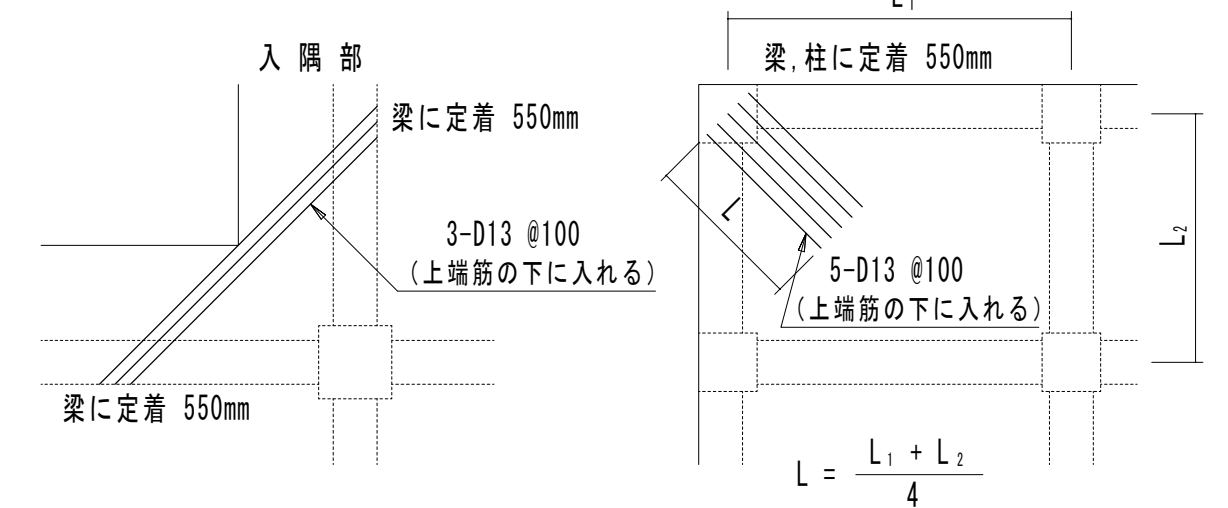
注2) 定着長さは引張筋 40d 以上、圧縮筋 25d 以上とする。

9. 4 片持ち床版の出隅の補強

出隅部の配筋は当該スラブと同密度の配筋となる様に下図の補強を行う。

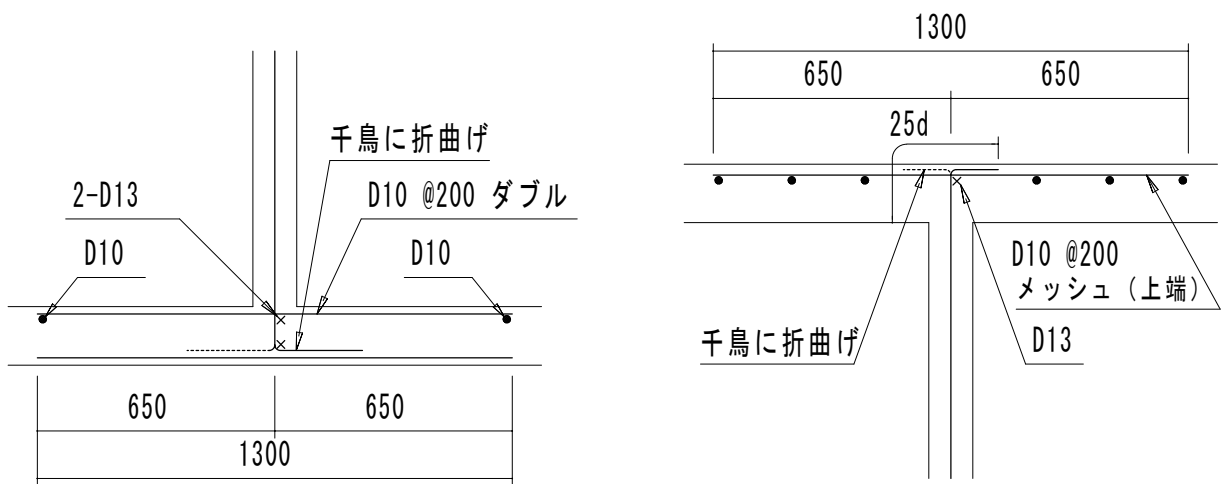


9. 5 最上階床版の補強

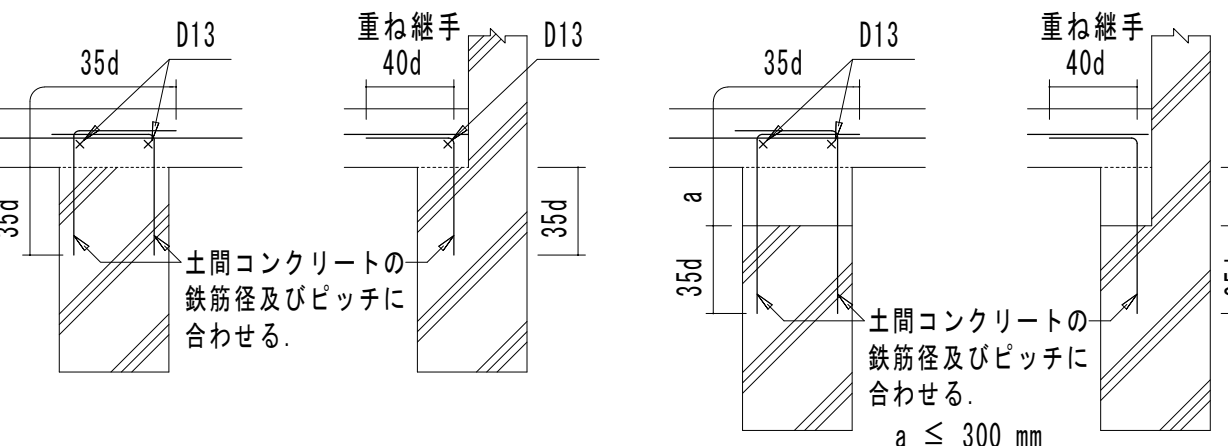


9. 6 壁つき床版の補強

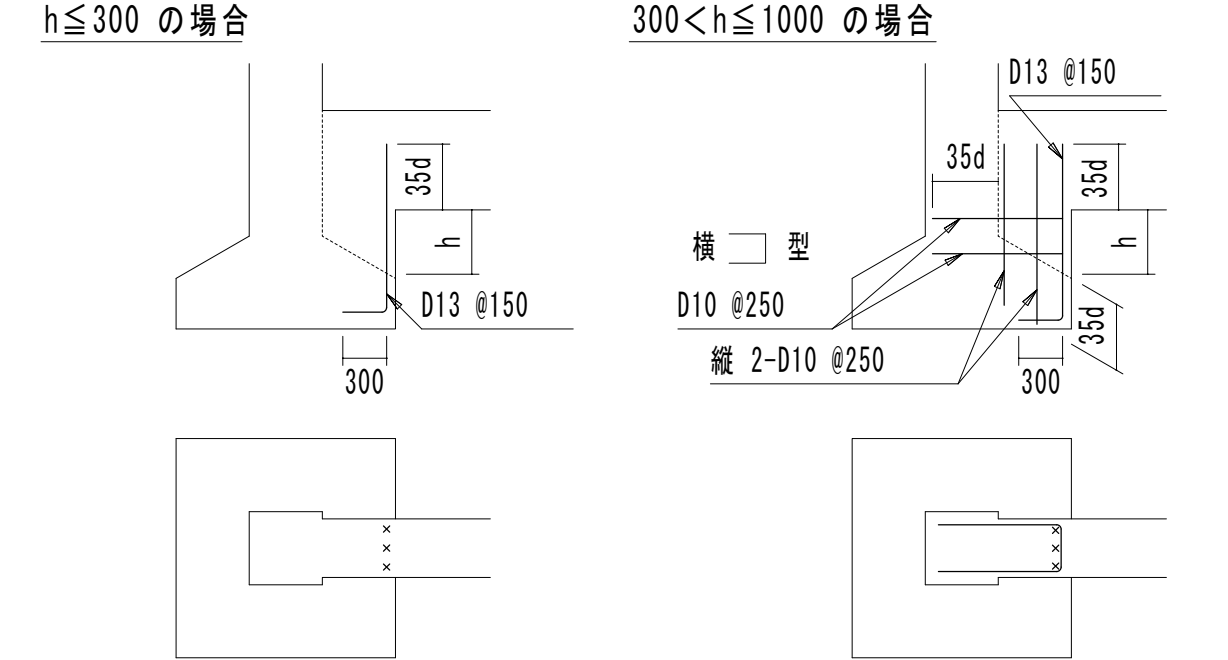
・間仕切壁がスラブから立ち上がる場合



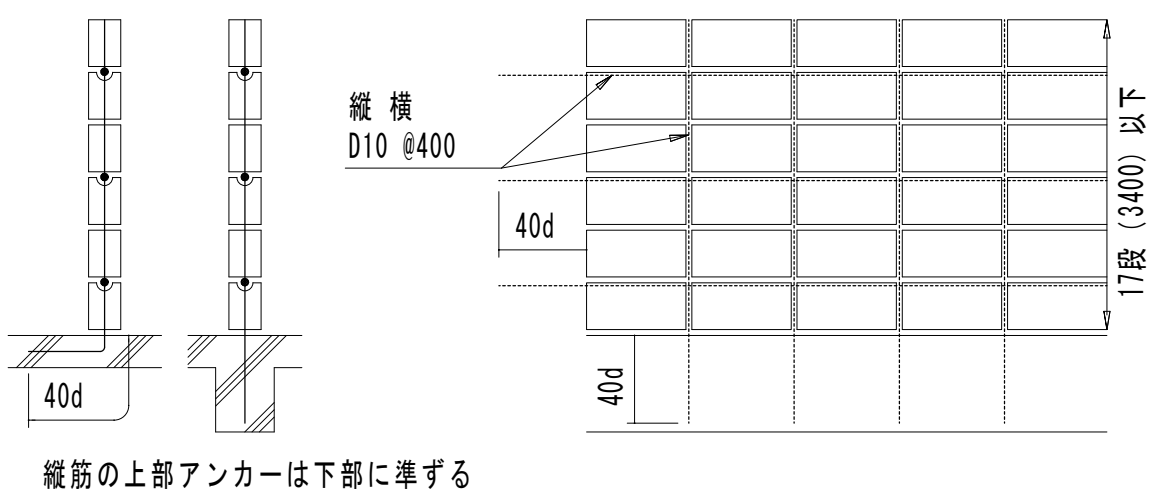
9. 7 土間コンクリート（地中梁にのせる場合）の補強



9. 8 地中梁接合部の補強

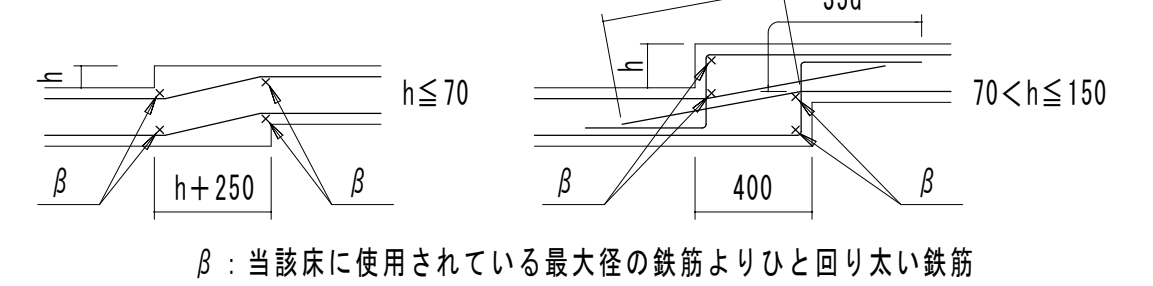


9. 9 間仕切用ブロックの補強



縦筋の上部アンカーは下部に準ずる

9. 10 床版段違い部



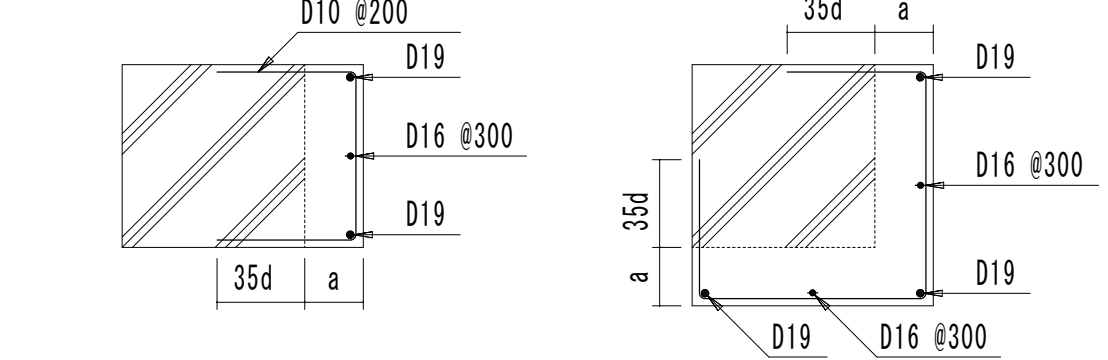
β：当該床に使用されている最大径の鉄筋よりひと回り太い鉄筋

9. 11 増し打ち部分の補強

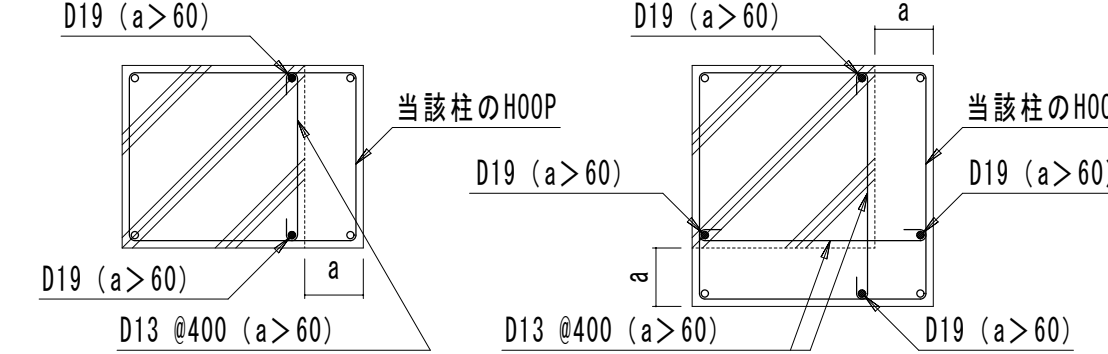
A. 柱

(1) 増し打ち厚さ a ≤ 60 の場合は補強不要とする。

(2) 60 < a ≤ 200 の場合は下図による。



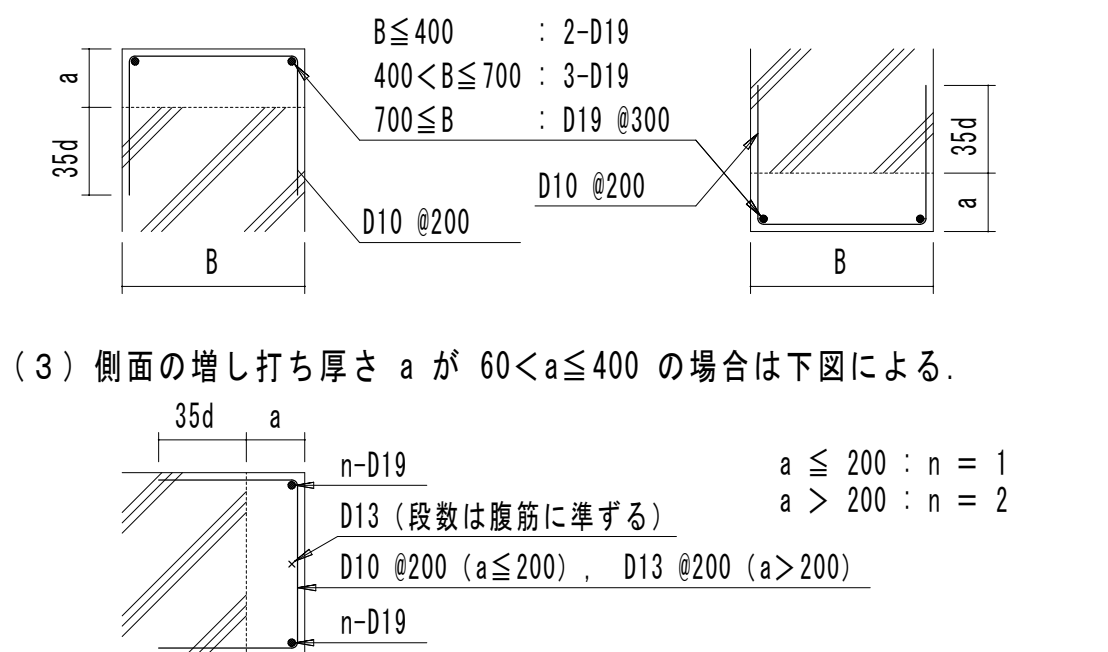
(3) 以上 (1) (2) の場合でも柱頭から柱脚にわたって連続して増し打ちとなる場合は、柱サイズが増し打ち部を含めた寸法になったものとして、下図のような配筋を行う。



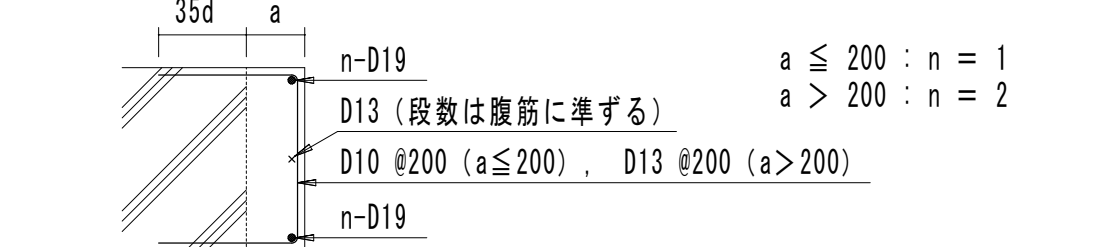
B. 大梁・小梁・地中梁

(1) 増し打ち厚さ a が a ≤ 60 の場合は補強不要とする。

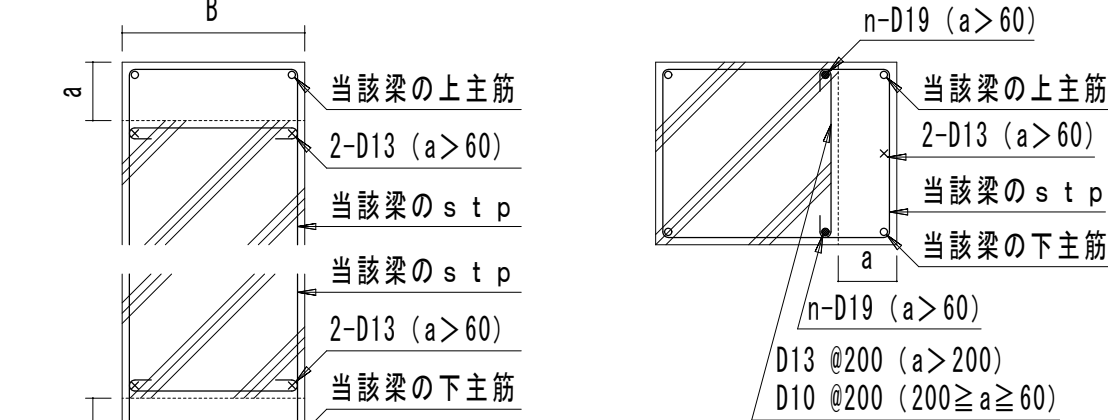
(2) 上下の増し打ち厚さ a が 60 < a ≤ 200 の場合は下図による。



(3) 側面の増し打ち厚さ a が 60 < a ≤ 400 の場合は下図による。



(4) 以上 (1) ~ (3) の場合でも梁の全長にわたって増し打ちとなる場合は、梁のサイズが増し打ち部を含めた寸法になったものとして下図の様な配筋を行う。



鉄骨工事標準図

1. 一般事項

1. 1 適用範囲

この標準図は、構造上主要な部材に鋼材を用いる工事に適用する。

1. 2 社内検査

製作工場による社内検査の基準は、あらかじめ監督員の承諾を受ける。
製品は製作工場による社内検査を行い合格したものとし、検査成績表を監督員に提出して承諾を受ける。

2. 提出書類

- A. 材料試験報告書（規格品の場合は、規格証明）
- B. 工作図
- C. 工場製作要領書
- D. 現場施工計画書

3. 材料

特記仕様表、構造標準仕様図による。

4. 工作一般

4. 1 切断及び加工

- A. 切断に先立ち、鋼材表面から浮きさびや油脂分の除去を行う。
- B. ガス切断は原則として自動ガス切断とする。
止むを得ず手動ガス切断とする場合は、形状及び寸法を正しく丁寧に行い、グラインダーなどで整形する。
- C. 鋼材のせん断切断は、板厚 13mm 以下のものに適用する。
但し、主要部材の自由端及び溶接接合部には、原則としてせん断縁を用いてはならない。
- D. 切断面に有害な凹凸、まくれ、切欠きなどが生じた場合、修正又は取り除く。
- E. 曲げ加工は、常温又は 900℃ ～ 1100℃ の加熱状態で行い、200℃ ～ 400℃ の範囲での曲げは行わない。
- F. 穴あけ加工は、原則としてドリルあけとし、穴の周囲のまくれ、たれ、あるいは切粉の挿入によって接合面の密着度が損なわれないよう、表面の突起物を完全に除去する。
高力ボルト、リベットボルト、アンカーボルトの公称軸径に対する穴径は、

(単位：mm)

| | 穴径 (D) | 適用範囲 |
|---------|--------|-----------------------------------|
| 高力ボルト | d+2.0 | d ≤ 16 |
| | d+2.0 | 20 ≤ d ≤ 30 但し、高力ボルトは 20 ≤ d ≤ 24 |
| ボルト | d+0.5 | |
| アンカーボルト | d+5.0 | (ワッシャー穴径は高力ボルトに準ずる) |

注) d：公称軸径

4. 2 組み立て

- A. 工場組み立て製品の寸法精度のばらつきが最少となるように、ジグ組み立てなどを採用する。
- B. 不良が発見された場合、その処置法は必ず監督員の承認を受ける。

4. 3 ひずみの矯正

素材あるいは組み立てられた部材のひずみは、各工程において材料を損なわないように矯正する。

4. 4 鉄筋の貫通孔

鉄筋の貫通孔は鉄筋の差込みに支障のない限りなるべく小さいものとし、鉄筋の外径に6mm程度を加えた大きさとする。

5. 溶接接合

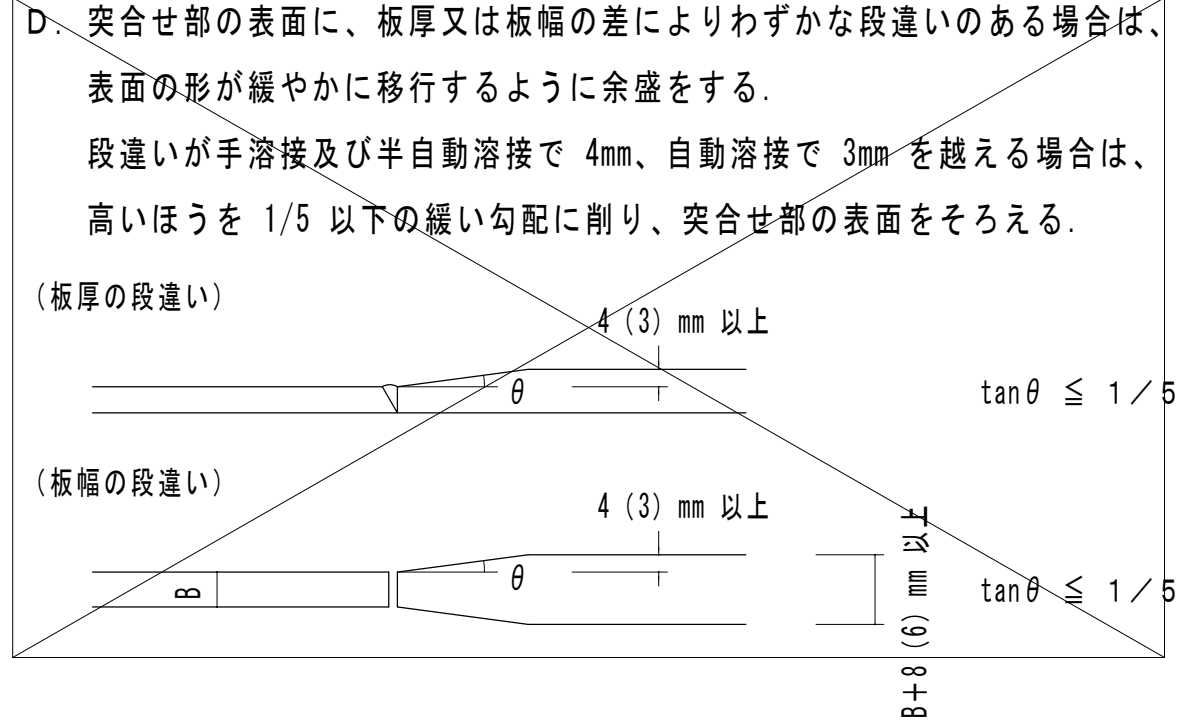
5. 1 溶接一般

- A. 溶接は、回転ジグ・ポジショナーなど適当なジグを使用して、なるべく下向きで行う。
- B. 継手の形状や溶接順序の選定にあたっては、残留応力や溶接ひずみが少なくなるように選び、過度の拘束や極端な応力集中を与えないようにする。
- C. 溶接による変形を少なくするために適当な逆ひずみや拘束を与え、又、溶接による収縮量を見込んで、出来上がりの寸法・形状を正確に保つようにする。
- D. 溶接の表面はできるだけ平滑で規則正しい波形とし、溶接のサイズ及び長さは設計寸法を下まわらないようにしなければならない。
- E. 裏当て金を使用するときは、母材と同材質のものを使用すること。

5. 2 突合せ溶接

5. 2. 1 突合せ溶接一般

- A. 突合せ溶接ののど厚は、母材の厚さ（母材の厚さが異なる場合においては薄いほうの母材の厚さとし、T継手及び角継手の場合には、突合せのほうの母材の厚さとする）未満としてはならない。
- B. 突合せ溶接は、いずれの継手形式についても全断面にわたり完全な溶け込みを有しなければならない。
- C. T継手の場合は、母材の割裂に注意しなければならない。
- D. 突合せ部の表面に、板厚又は板幅の差によりわずかな段違いのある場合は、表面の形が緩やかに移行するように余盛をする。
段違いが手溶接及び半自動溶接で 4mm、自動溶接で 3mm を越える場合は、高いほうを 1/5 以下の緩い勾配に削り、突合せ部の表面をそろえる。

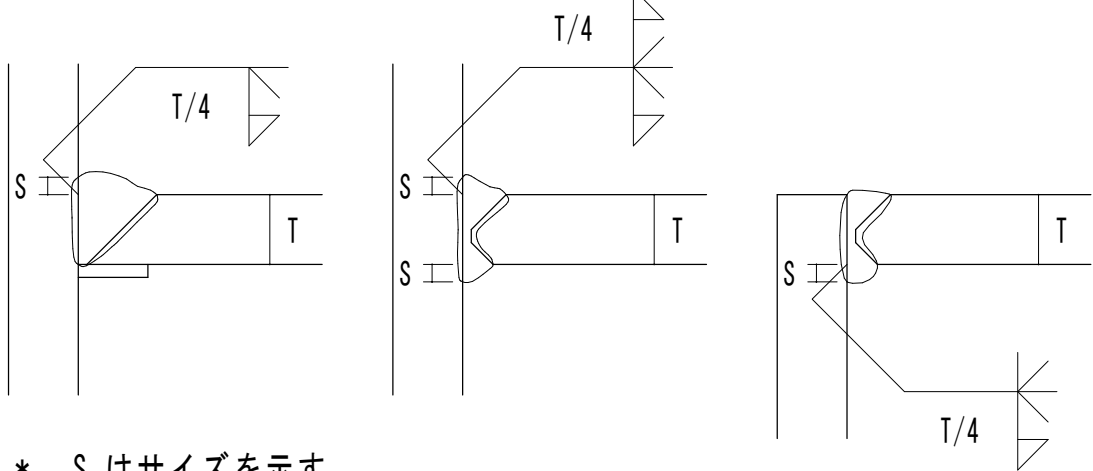


5. 2. 2 余盛

突合せ溶接は、特に指定のある場合を除き最少の余盛とし、余盛の高さは 3mm を越えてはならない。

5. 2. 3 補強すみ肉溶接

T継手・角継手の場合は、母材の厚さの 1/4 以上の補強すみ肉溶接を付加する。
但し、そのサイズが 10mm を越えるときは、10mm としてよい。



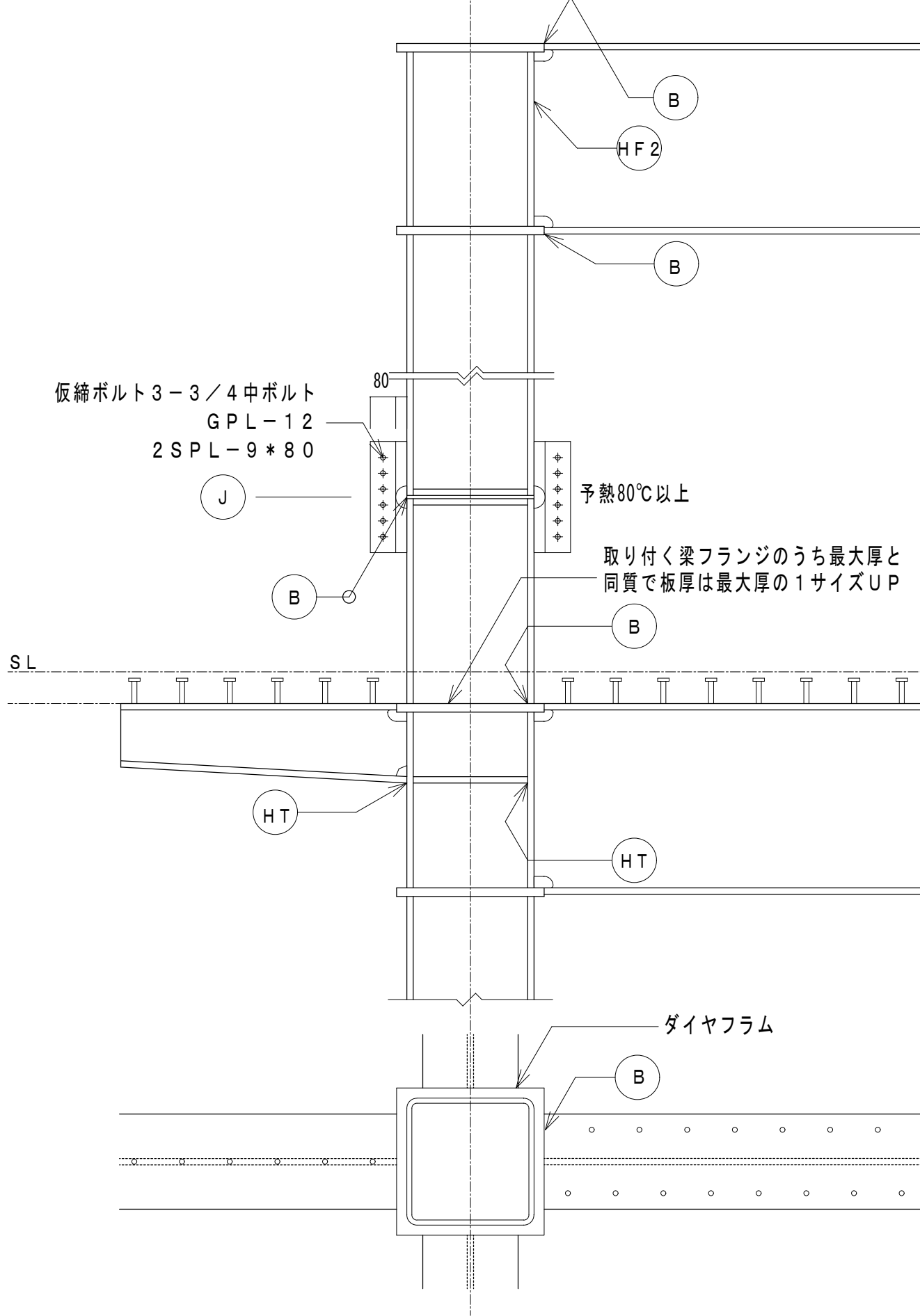
* S はサイズを示す

5. 2. 4 溶接方法

- A. 突合せ溶接で両面から溶接できる場合には、一面から溶接した後、健全な溶着部分が現れるまで（深さ 3mm を標準とする）裏はつりを行って、裏溶接する。
- B. 両面より溶接を行えない場合は、裏面に裏当て金を用い、ルート部分に溶け込み不良が残らないように注意して溶接を行う。溶接終了後に裏当て金を除去しない場合は、裏当て金の材質は母材と同じとする。除去する場合で裏当て金の材質にフラックスまたはセラミックス系など母材と異なるものを用いる場合は監督員の承諾を受ける。

- C. 突合せ部分においては、溶接ビードの継目は十分な溶け込みが得難いので、溶接の中断を避け、止むを得ず継目をつくる場合は欠陥の少なくなるよう処置し、かつ溶接後欠陥を完全に除去して補修するものとする。

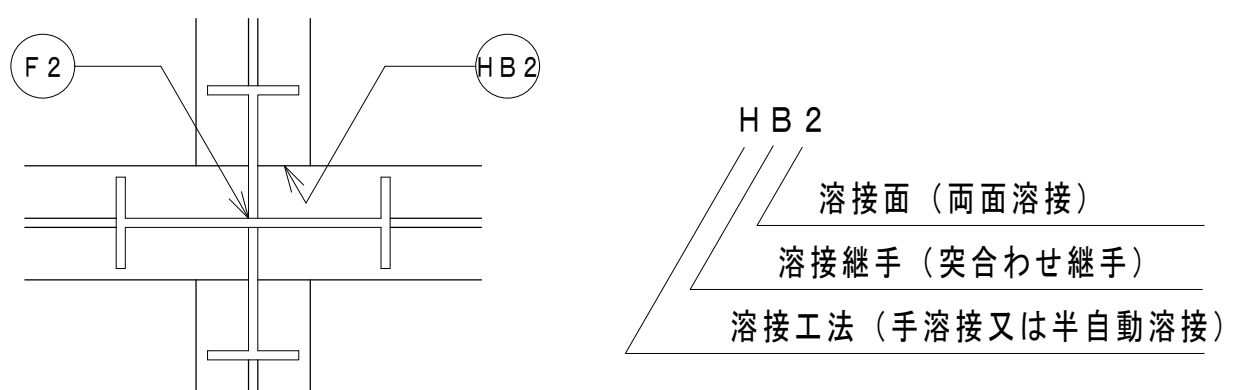
5. 2. 5 溶接継手標準



5. 2. 6 溶接継手の表示記号

| 分 類 | | | | 記 号 |
|----------------|-----------------------|--------|------------|-----|
| 溶 接 工 法 | アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接 | | | H |
| | ノンガスシールドアーク半自動溶接 | | | |
| | サブマージアーク自動溶接 | | | A |
| 溶 接 継 手 種 類 | 突合せ溶接 | 形 状 | 突合わせ継手 | B |
| | | | T型継手 | T |
| | | | かど継手 | L |
| | | | BOX柱ダイヤフラム | B X |
| | すみ肉溶接 | | | F |
| | 部分溶込み溶接 | | | P |
| | フレア溶接 | | | F L |
| 溶 接 面 | 片面溶接 | | | 1 |
| | 両面溶接 | | | 2 |

5. 2. 7 溶接継手の記載方法



5. 2. 8 突合せ溶接の開先形状

A. I 形グループ突合せ溶接

| | 裏はつりをする | 裏当て金使用 |
|-------|---------|--------|
| 突合せ継手 | | |
| 角継手 | | |

B. V 形グループ突合せ溶接

| | 裏はつりをする | 裏当て金使用 |
|-------|---------|--------|
| 突合せ継手 | | |
| 角継手 | | |

C. L 形グループ突合せ溶接

| | 裏はつりをする | 裏当て金使用 |
|-------|---------|--------|
| 突合せ継手 | | |
| 角継手 | | |
| T 継手 | | |

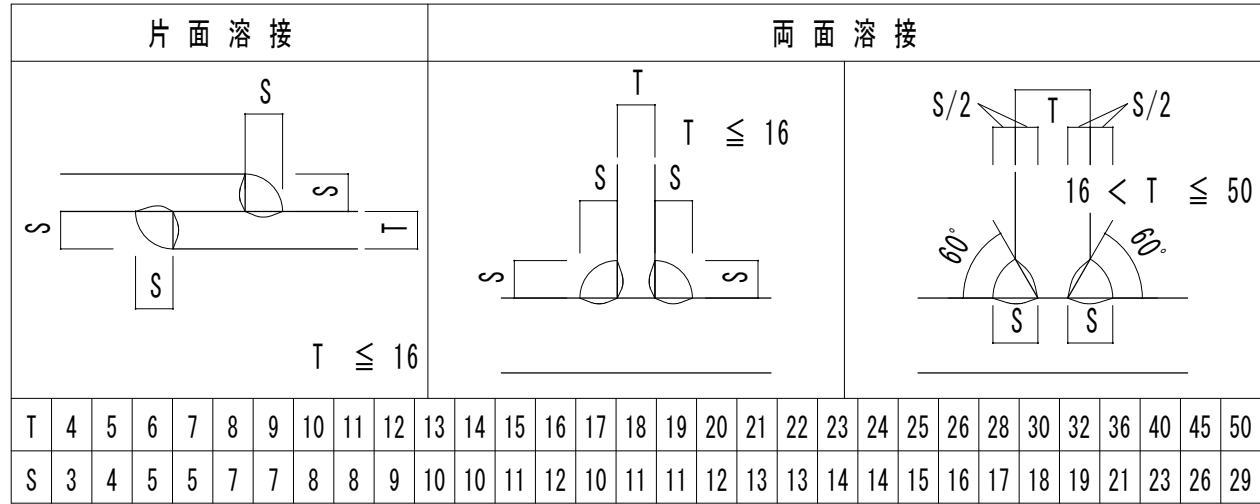
D. X 形グループ突合せ溶接

| | 裏はつりをする |
|-------|---------|
| 突合せ継手 | |

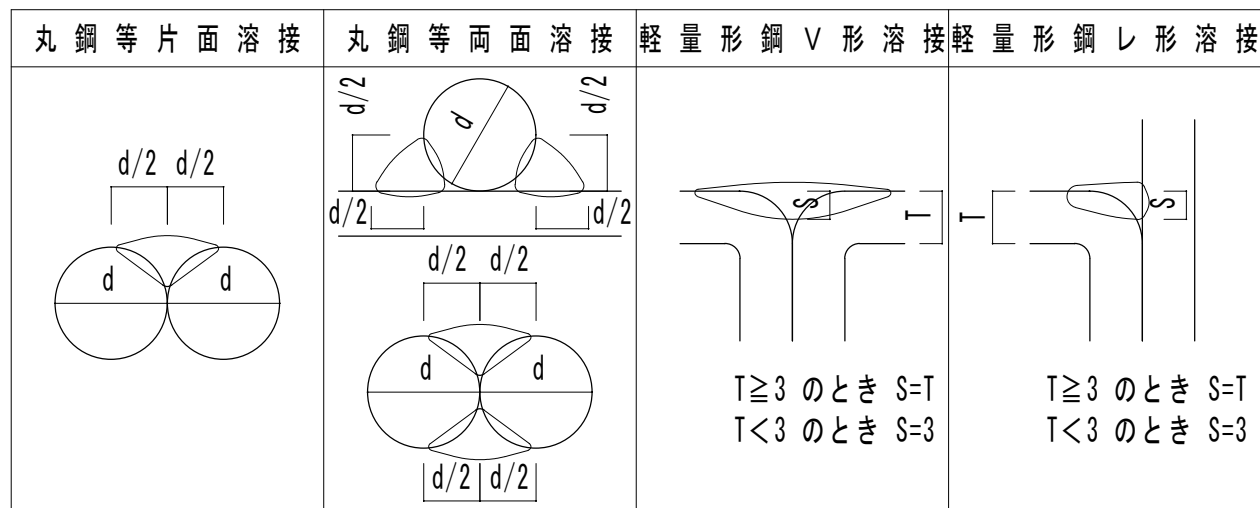
E. K 形グループ突合せ溶接

| | 裏はつりをする |
|-------|---------|
| 突合せ継手 | |
| 角継手 | |
| T 継手 | |

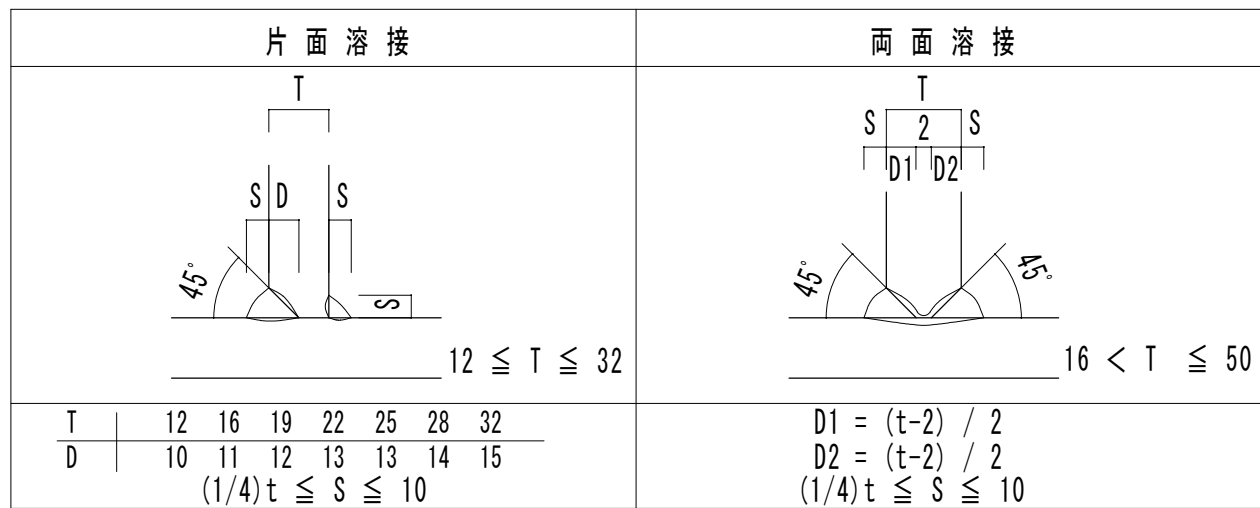
F. 隅肉溶接



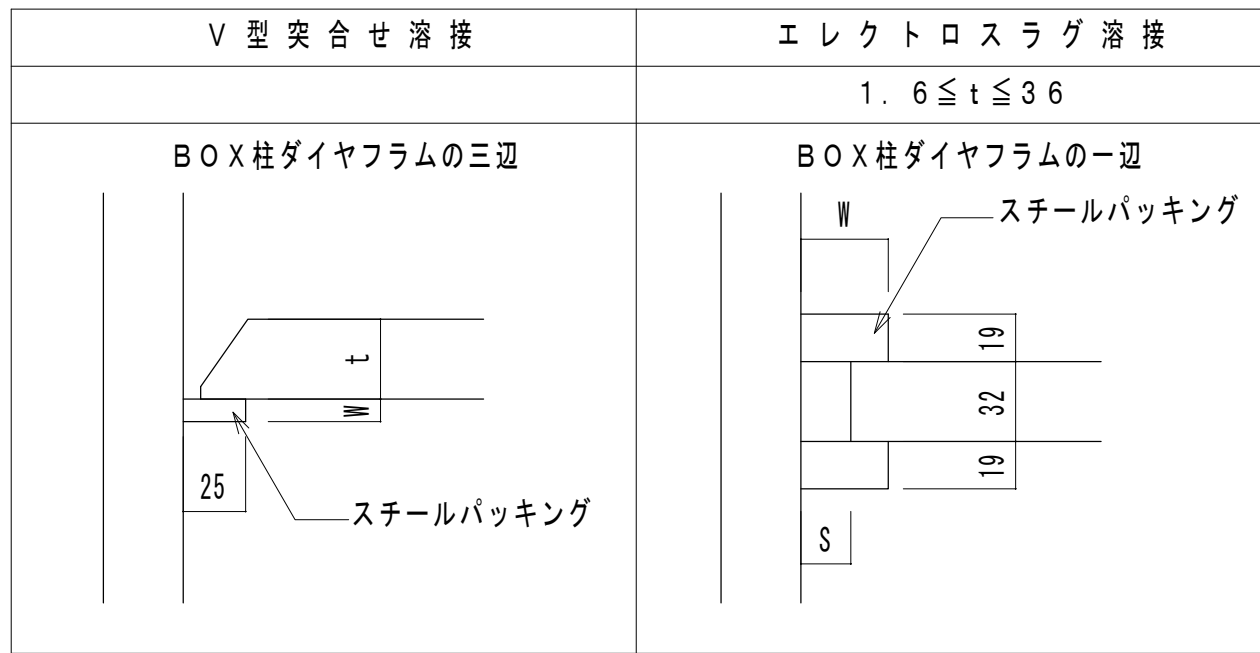
G. フレア溶接（FL）



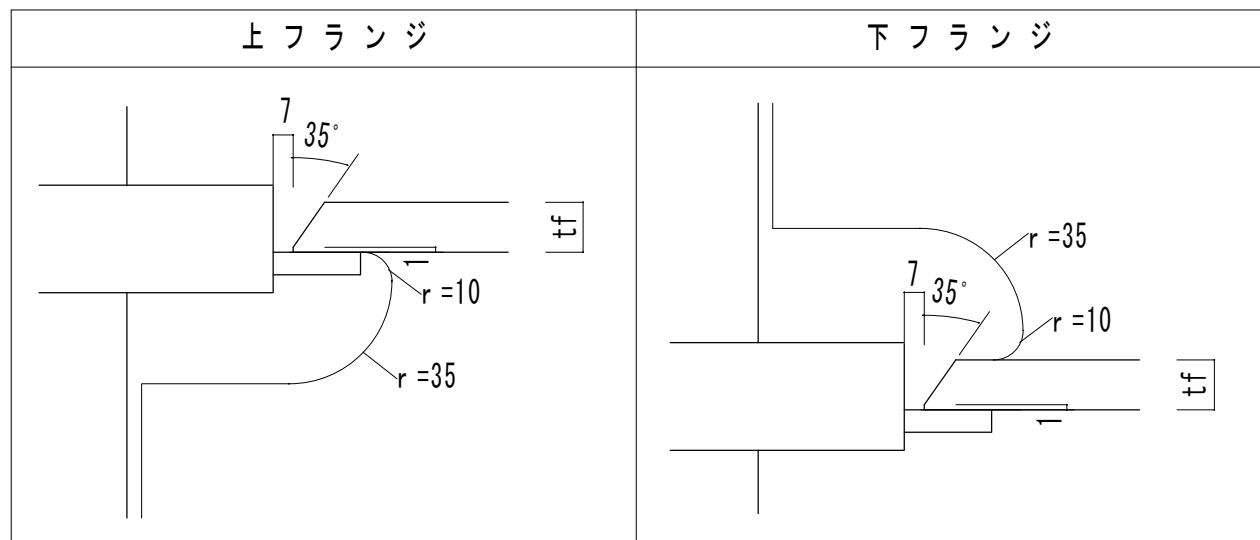
H. 部分溶け込み溶接（P）



I. BOX柱内ダイヤフラム



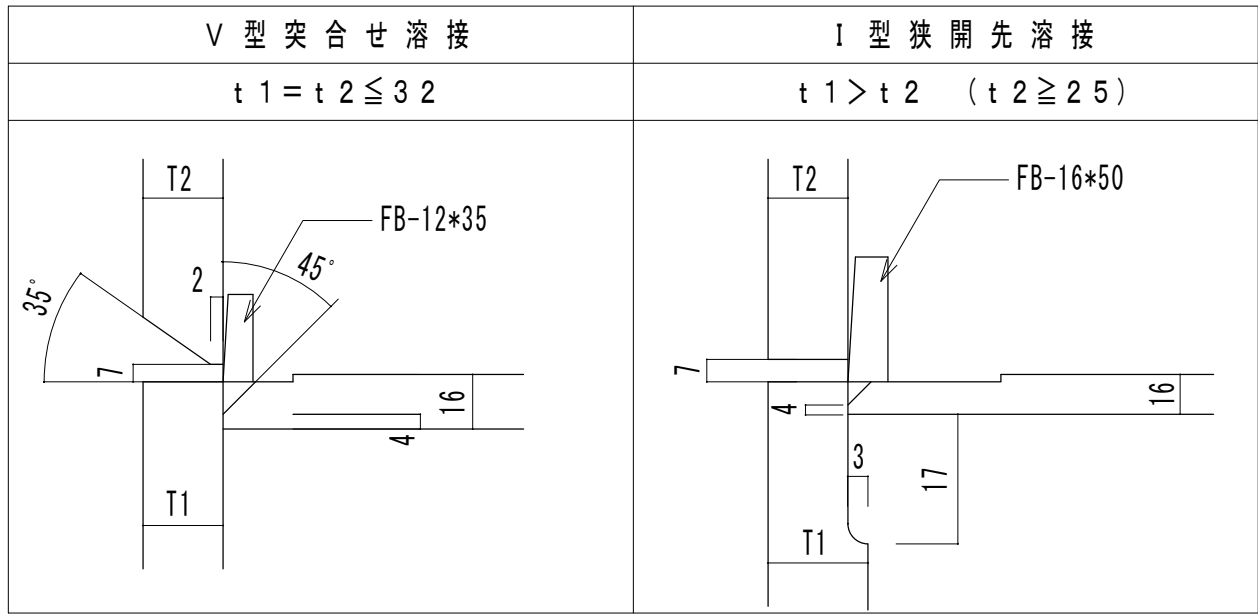
J. 梁・柱接合部



- 注） 1. 初層（I形グループの場合は全層）の溶接は、4mm以下の溶接棒で行う
2. 多層溶接又は溶接棒を交換する場合は、先に発生したスラグを十分除去した後、次の作業に進む。
溶接終了後も、必ずスラグを除去する。
3. X形及びK形グループにおいて裏はつりをする側を $T/3$ とする。
4. 厚さ $t > 50\text{mm}$ の突合せ溶接部の開先形状は、鉄骨加工業者と協議の上決定する。
* 継手の開先は、図面の形状に自動ガス切断、はつり、グラインダー等により正確に削り加工する。
止むを得ず手動ガス切断によるものは、グラインダー等により平滑に仕上げをする。

5. 2. 9 現場溶接の開先形状

A. BOX柱



5. 3 部分溶け込み溶接

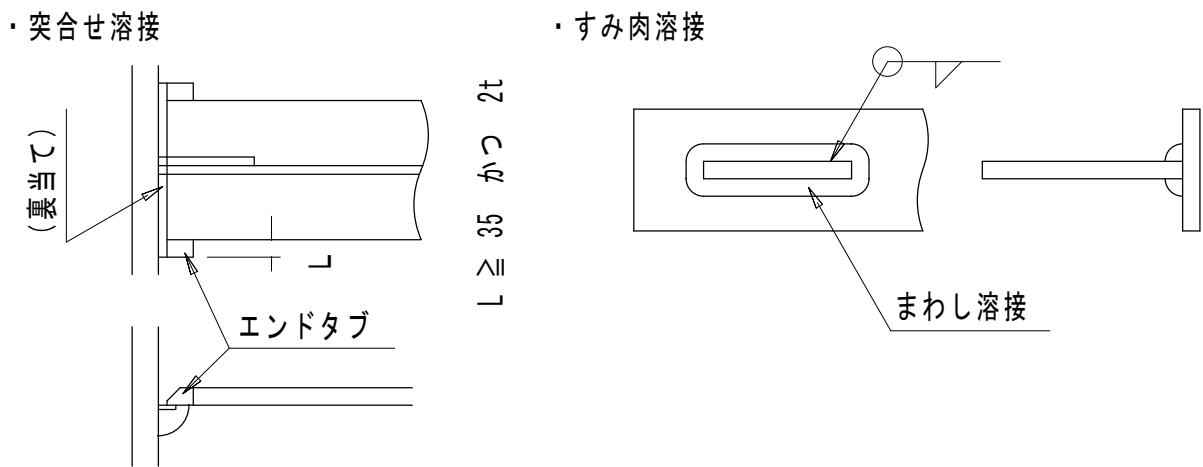
原則として部分溶け込み溶接は行ってはならない。
但し、設計図書に指示のある場合、又は設計者の承認を得た場合はこの限りではない。

5. 4 すみ肉溶接

- A. 溶接部には最少の余盛を行う。
その高さは $0.4S$ かつ 4mm （ S はすみ肉のサイズ）以下とする。
B. すみ肉溶接においては、肌合せを十分に行う。

5. 5 エンドタブ

突合せ及び部分溶け込み溶接の両端には継手と同じ形状のエンドタブを取り付け、一方のエンドタブの端部より溶接を行い他方のエンドタブの端部で終了するようにし、溶接終了後エンドタブは原則として除去し、溶接端部を仕上げる。
又、すみ肉溶接の場合も、突合せ溶接に準じてエンドタブを使用するか、ぐう角部をまわって連続してまわし溶接をする。
なおエンドタブの長さは 35mm 以上かつ薄いほうの材の厚さの2倍以上とする。



5. 6 検 査

- A. 溶接部は（1）溶接施工前、（2）溶接施工中、（3）溶接終了後の各工程において、それぞれの検査を行う。
（1）肌つき、開先の形状・寸法、ルート間隔、溶接面清掃の良否、仮付け溶接等
（2）溶接順序・棒径・電流・運棒法、アークの長さ、溶け込み、各層間のスラグの清掃、裏はつり、予熱の確認等
（3）ビード表面の整否、割れ、融合不良、溶け込み不足、スラグの巻き込み、ビット、ブローホール、アンダーカット、オーバーラップ、クレータの状態、スラグ、スパッタの除去の良否、すみ肉の大きさ、余盛の寸法、エンドタブの処理等
B. 溶接部の内部欠陥に対しては、超音波探傷試験（第三者検査）を行う。
工場溶接部：30%以上
現場突合せ部：100%
注）社内自主検査は工場溶接部100%、現場突合せ部100%
なお、超音波探傷試験を行う業者はCIW認定、種別Cランク以上とする。

5. 7 不良溶接の補正

- A. 溶接継手に融合不良、溶け込み不足、スラグ巻き込み、ビット、ブローホールなどの有害な欠陥のある場合は、削り取り再溶接する。
B. 溶接継手に割れが入った場合は、原則として、溶着金属を全長にわたり削り取り再溶接する。
適切な検査により、割れの限界を明らかにした場合でも、割れの端から 50mm 以上を削り取り再溶接する。
C. アンダーカット、クレータの充填不足、溶着金属の大きさ不足、溶接の長さ不足などは補正する。
D. オーバーラップ、余盛の過大などは削り取る。
E. 著しく外観の不良な場合は、修正する。
F. 超音波探傷試験又は放射線試験の結果が不合格の部分は、削り取って再溶接を行い、更に検査を行う。
G. 溶接により母材に割れが入った場合は、原則として母材を取り替える。
H. 不良溶接の補正用溶接棒の径は、 4mm 以下とする。

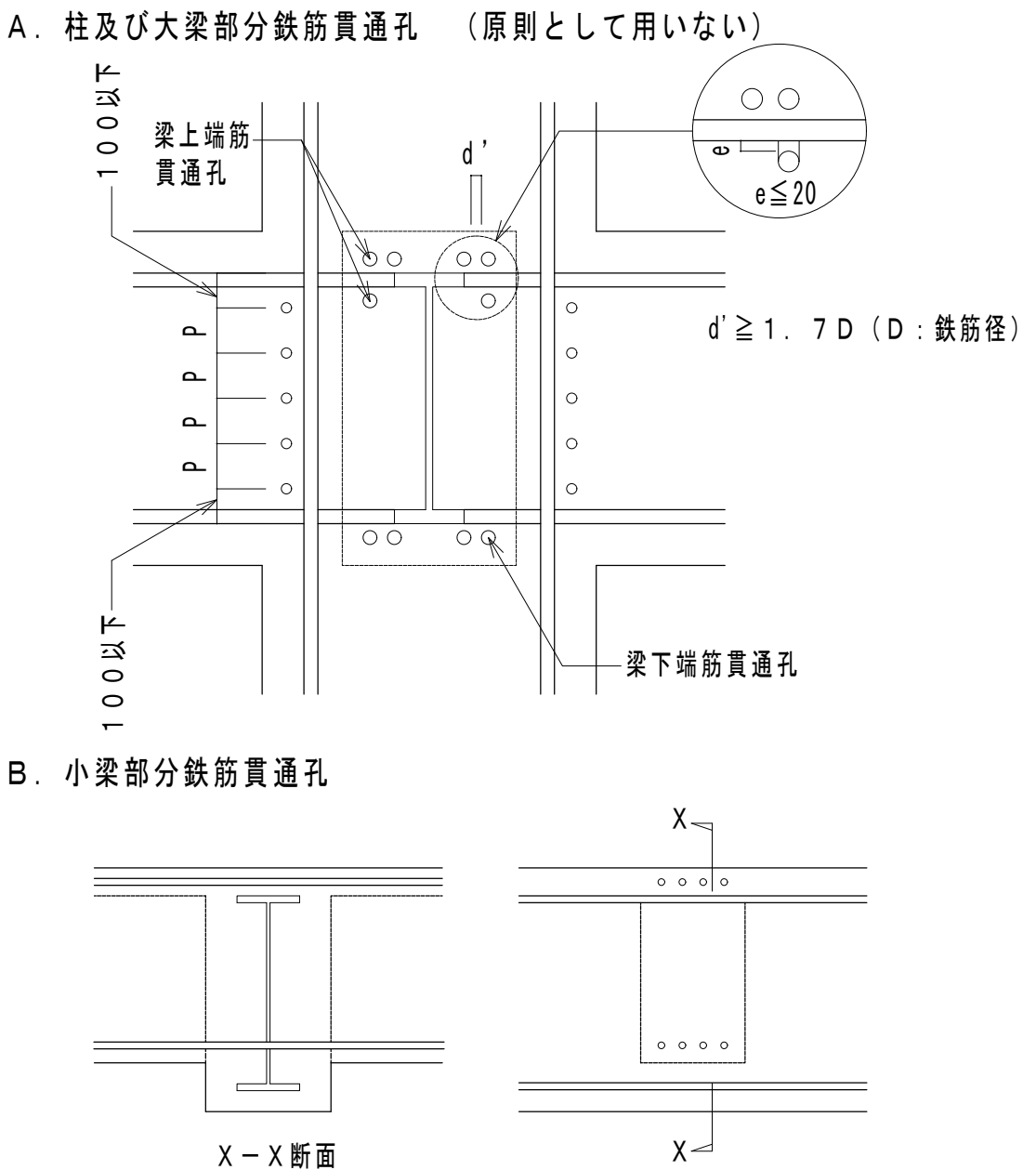
5. 8 梁貫通孔の補強

梁貫通孔補強は既成品を使用する
メーカーの検討書を監理者へ提出し、承認を得ること

5. 9 鉄筋貫通孔の径

| 鉄筋 | 丸鋼 | 9 | 13 | D16 | D19 | D22 | D25 | D29 | D32 |
|-----------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 異径 | D10 | D13 | | | | | | |
| 貫通孔径 (mm) | | 21 | 24 | 28 | 31 | 35 | 38 | 43 | 46 |

注） 9ϕ 、 13ϕ （D10、D13）は、フープ筋とし、主筋にはD16以上を用いるものとする。



6 高力ボルト接合

6. 1 高力ボルトの長さ（トルシア型高力ボルトの場合）
高力ボルトの長さは首下寸法とし、締め付け長さに下表の値を加えたものを標準長さとする。

| （単位：mm） | |
|---------|--------------|
| ボルトの呼び径 | 締め付け長さに加える長さ |
| M16 | 25 |
| M20 | 30 |
| M22 | 35 |
| M24 | 40 |

6. 2 摩擦面の処理

- A. 摩擦面は、黒皮などをショットブラスト・サンドブラスト・グリットブラスト・グラインダーなどを用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態を標準とする。
B. 摩擦力を低下させる浮きさび・じんあい・油・塗料などは、適切な時期に取り除く。

6. 3 組み立て

- A. 部材接合面の密着性保持に注意し、接合部材のひずみ・そり・曲がりなどのきょう正は、摩擦面を損傷させないように適切な方法で行う。
B. 部材接合面に 1mm 以上の肌つきが生じた場合は、フィラー板を入れて補う。
C. ボルト頭部、又はナットと接合部材の面が $1/20$ 以上傾斜している場合は、勾配座金を使用する。
列ボルトのような場合は、勾配付き板（通し板）を使用したうえに平座金を用いる。

6. 4 検査及び補正 (トルシア型 高力ボルトの場合)

- A. 締め付け終了後、全数のボルトについて目視検査を行う。
- B. すべてのボルトについてピンテールが破断されていることを確認すると共に、一次締め付け後に付したマークのずれによって共回り・軸回りの有無、ナット回転量などを検査する。
- C. 締め忘れが認められたボルトは、異常のないことを確認したうえで締め付ける。
- D. ナットとボルト・座金などが共回り・軸回りを生じた場合や、ナット回転量に異常が認められた場合には新しいセットに取り換える。

6. 5 その他

- A. トルシア型 高力ボルトで締め付け不能の箇所が生じたときは、監督員と協議のうえ、同径の J I S 規格高力ボルトに置き換える。
- B. 以上に明記されていない事項については、日本建築学会制定「高力ボルト接合設計施工指針」に従う。
- C. 高力ボルト施工において、J A S S 6 に従うことで導入軸力試験は省略できるものとする。

7 塗 装

7. 1 素地調整

- A. 素地調整は、塗膜の耐久性を確保するために、ていねいに施工しなければならない。
- B. 腐食しやすい高力ボルト・リベットボルト・溶接部は、入念に二種の素地調整（完全に付着した黒皮は残すが、その他の不安定な黒皮・さびは除去する）を行う。

7. 2 工場で塗装しない部分

- A. コンクリートに密着、又は埋め込まれる部分
 - B. 組み立てによって肌合せとなる部分
 - C. 密着又は回転のための削り仕上げをした部分
 - D. 閉鎖形断面をもつ部分の密閉される内面
 - E. 現場溶接を施す部分
- (幅は、溶接部より両側それぞれ 100mm 以上)
- F. 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
 - G. 現場で超音波探傷を行う部分

7. 3 現場における未塗装部分 及び 損傷部分の塗装

- A. 高力ボルト・リベットボルト・溶接部は、上の素地調整を行った後、工場塗装と同じさび止めペイントを使用して塗装を行う。
- B. 塗膜の損傷した部分は活膜を残して除去し、さびを生じた部分は手工具を用いて旧塗装を除去した後、さび止めペイントで補修する。

7. 4 鉄骨の錆止め塗料

建築特記仕様書による

8 製品検査

8.1 製品精度

| 名 称 | 図 | 許 容 値 |
|--------------------------|---|---|
| 長 さ (L) | | $\pm 3 \text{ mm}$ |
| 曲 が り (e) | | はり $e \leq \frac{L}{1000}$ かつ $e \leq 10 \text{ mm}$ 柱 $e \leq \frac{L}{1500}$ かつ $e \leq 5 \text{ mm}$ |
| せ い (H) | | $H < 800$ $\pm 2 \text{ mm}$ $H \geq 800$ $\pm 3 \text{ mm}$ |
| 幅 (B) | | $\pm 2 \text{ mm}$ |
| 接合部の フランジの傾斜 (e) | | $e \leq \frac{B}{100}$ かつ $e \leq 2 \text{ mm}$ |
| 接合部の フランジの折れ (e) | | $e \leq \frac{b}{100}$ かつ $e \leq 1.0 \text{ mm}$ |
| ウェブの芯ずれ (e) | | $e \leq 2 \text{ mm}$ |
| 仕口部の角度 (e) | | $e_1, e_2 \leq L / 300$ かつ $e_1, e_2 \leq 3 \text{ mm}$ |
| ウェブの曲がり (e) | | $e_1 \leq H / 150$ かつ $e_1 \leq 4 \text{ mm}$ $e_2 \leq B / 150$ かつ $e_2 \leq 4 \text{ mm}$ (但し $t > 6$) |
| ね じ れ (e) | | $e_1, e_2 / L < 6 / 1000$ かつ $e_1, e_2 \leq 5 \text{ mm}$ 但し、仕口部分は $e_1, e_2 / b < 1 / 200$ かつ $e_1, e_2 \leq 3 \text{ mm}$ |
| ガス切断面のあらさ | | 開先内 200 S 自由縁端 100 S |
| ガス切断面のノッチ深さ | | 開先内 1.0 mm 自由縁端 0.5 mm |

8. 2 高力ボルト接合の精度

| 名 称 | 図 | 許 容 値 |
|---------------------------|---|--|
| 穴 間 隔 (p) | | $P_1 \pm 1 \text{ mm}$ (穴 うち) $P_2 \pm 2 \text{ mm}$ (全 体) |
| 穴の食い違い (e) | | 1 mm |
| 穴のはしき へりあき | | $\Delta a_1, \Delta a_2: \geq -2 \text{ mm}$ かつ「高力ボルト接合設計施工指針」 のはしき・へりあきの最小値以下 |
| 穴の芯ずれ | | 1 mm |
| 高力ボルト 接合部の肌すき (e) | | 1 mm (締め付け前) |

9 現場施工

9. 1 搬 入

- A. 部材の曲がり・ねじれ・ひずみ・寸法誤差等の製品誤差を生じた場合は、全て工場において修正し、現場に搬入される製品は完全なものでなければならぬ。

- B. 搬入に当たっては、製品を損傷しないように必要な養生をする。

9.2 建方

高力ボルト本締め又は溶接作業は、建入れひずみを完全に調整した後に行い、主要部分の柱などについて事前に監督員の建入れ検査を受ける。

9. 3 現場接合

9. 3. 1 高力ボルト接合

- A. 柱と梁の接合部において、高力ボルト引張形接合とせん断形接合を併用するときは、引張形高力ボルトを先に締め付け、ついでせん断形高力ボルトの締め付けを行う。
- B. その他については 6 の高力ボルト接合の項に準ずる。

9. 3. 2 現場溶接

- A. 現場溶接の際に、収縮による拘束力が過大にならないように溶接施工順序を計画する。
- B. 柱・梁の工事場溶接部は、一箇所について約 2mm 程度の溶接による収縮量を見込んで建入れを行う。
- C. 降雨時及び強風時には、作業を行ってはならない。
- D. B O X 断面材の現場溶接部には、必ず適当なエレクションピースを用いる。
- E. その他については 5 の溶接接合の項に準ずる。

9. 3. 3 併用継手

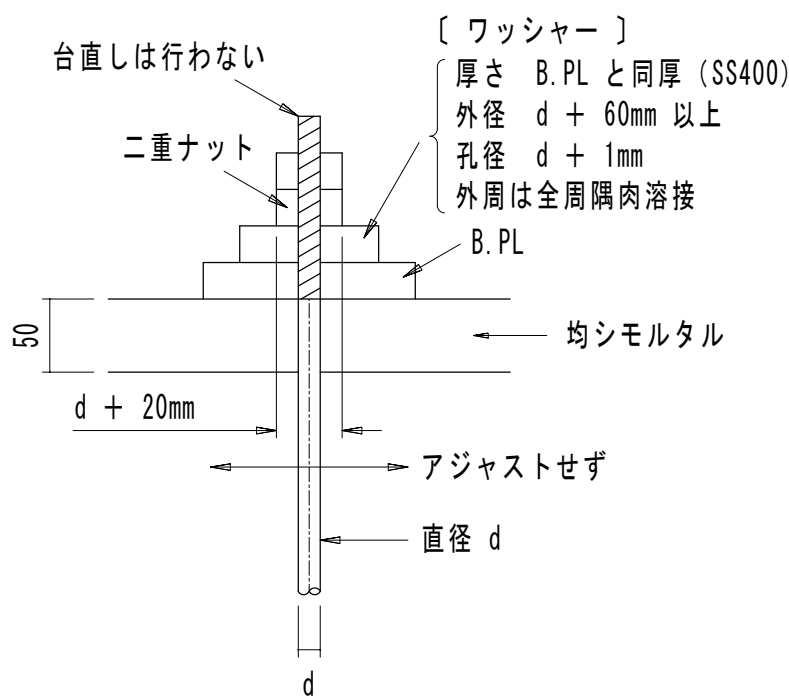
高力ボルトと溶接の併用継手の場合、その順序については設計者の承認を受ける

9. 4 工事場施工の精度

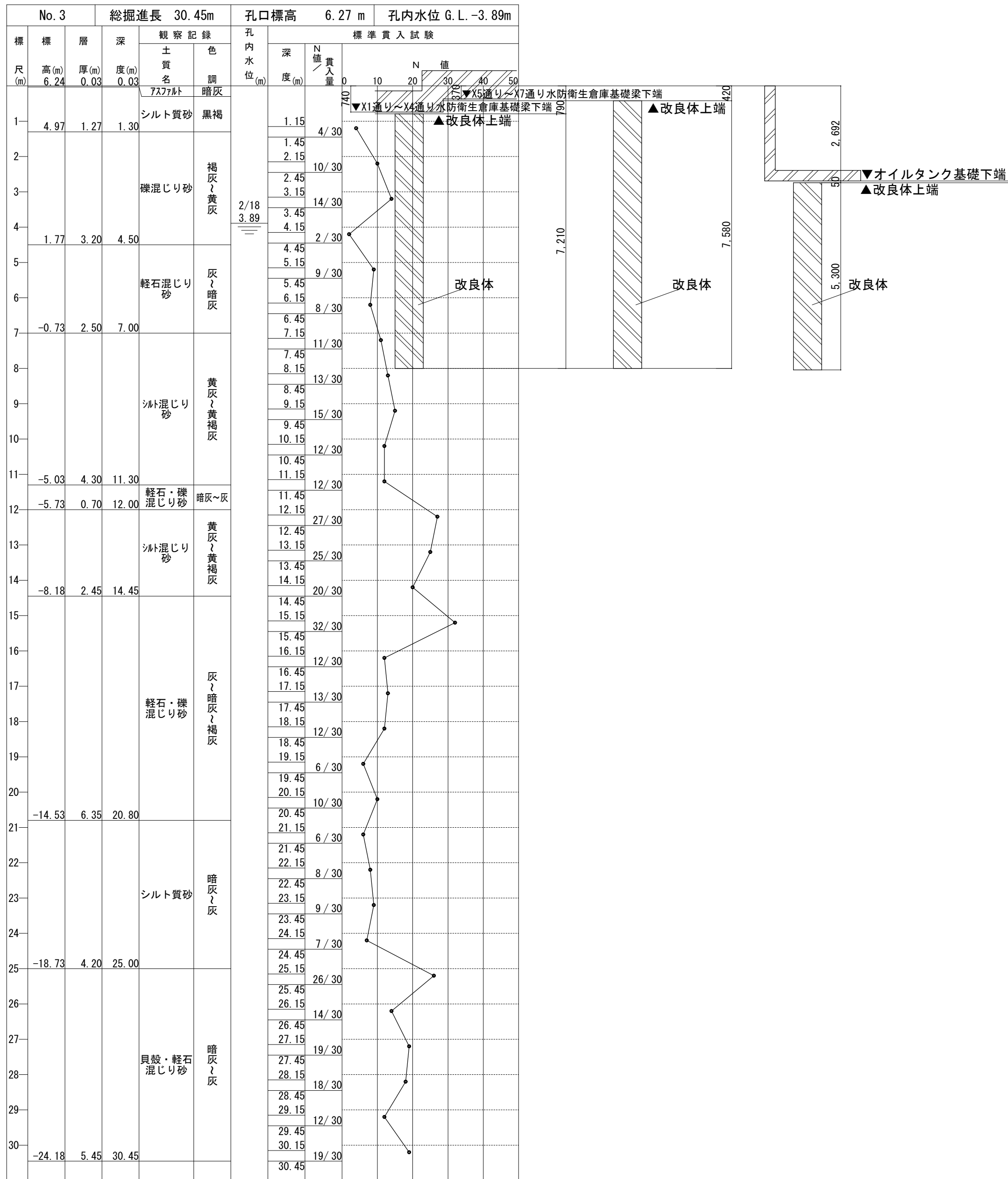
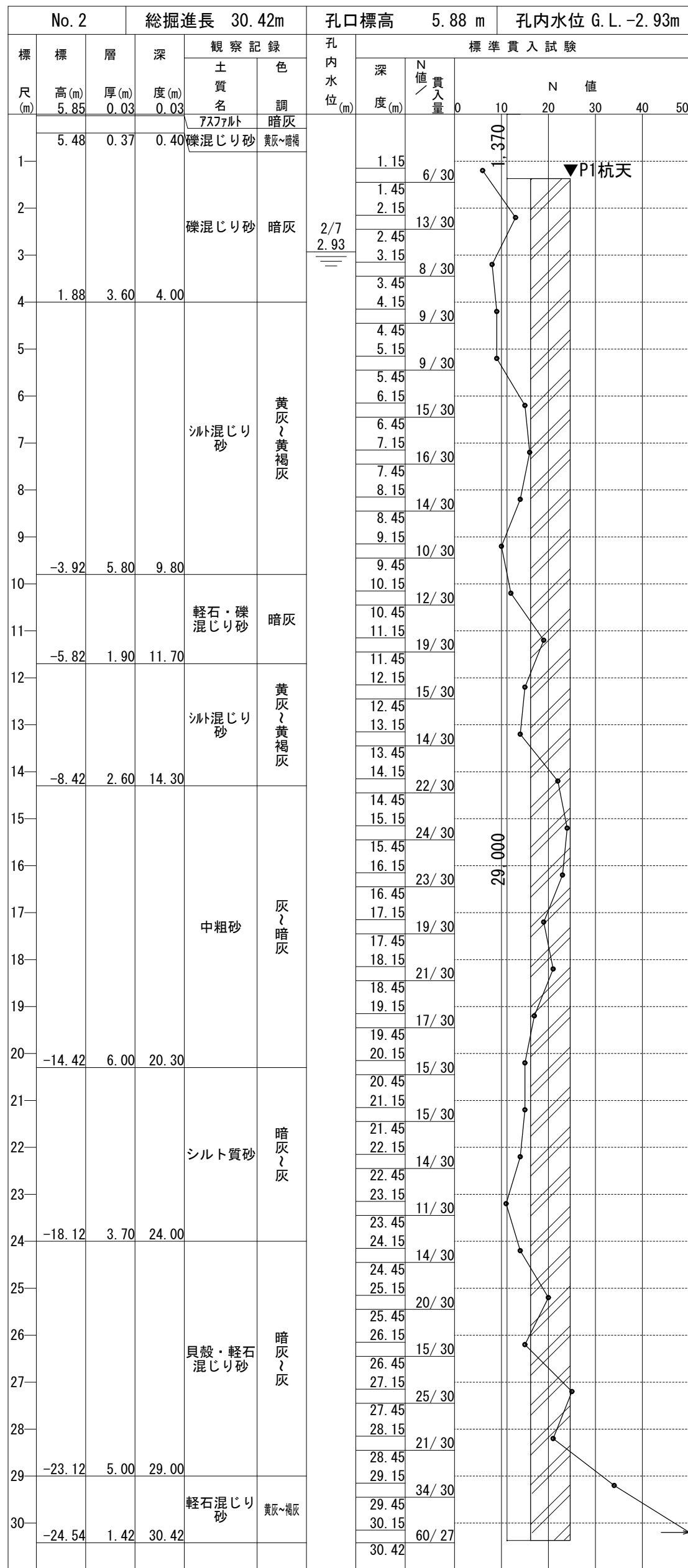
| | | |
|---|----------|--|
| <p>名 称</p> | <p>図</p> | <p>許 容 値</p> |
| <p>建物の倒れ (e)</p> | | $e \leq \frac{H}{4000} + 7 \text{ mm}$ <p>かつ</p> $e \leq 30 \text{ mm}$ |
| <p>建物の湾曲 (e)</p> | | $e \leq L / 4000$ <p>かつ</p> $e \leq 20 \text{ mm}$ |
| <p>柱すえ付け面の高さ および アンカーボルトの位置</p> | | <p>隣接柱すえ付け面の基準高さからの誤差は 3 mm 以下</p> <p>隣接柱間中央距離の誤差 e_1 は $\pm 1 \text{ mm}$ 以下</p> <p>通り心からの誤差 e_2 は 3 mm 以下</p> |
| <p>柱の出入り (e)</p> | | <p>通り心からの誤差</p> 5 mm 以下 |
| <p>工事場継手階の階高 (H)</p> | | $\pm 3 \text{ mm}$ |
| <p>柱の倒れ (e)</p> | | $e \leq \frac{H}{1000}$ <p>かつ</p> $e \leq 10 \text{ mm}$ |
| <p>梁の水平度 (e)</p> | | $e \leq L / 1000 + 3 \text{ mm}$ <p>かつ</p> $e \leq 10 \text{ mm}$ |
| <p>梁の曲がり (e)</p> | | $e \leq L / 1000$ |

9. 5 アンカーボルトの埋込み工法

アンカーボルトの埋込み工法は下図による.

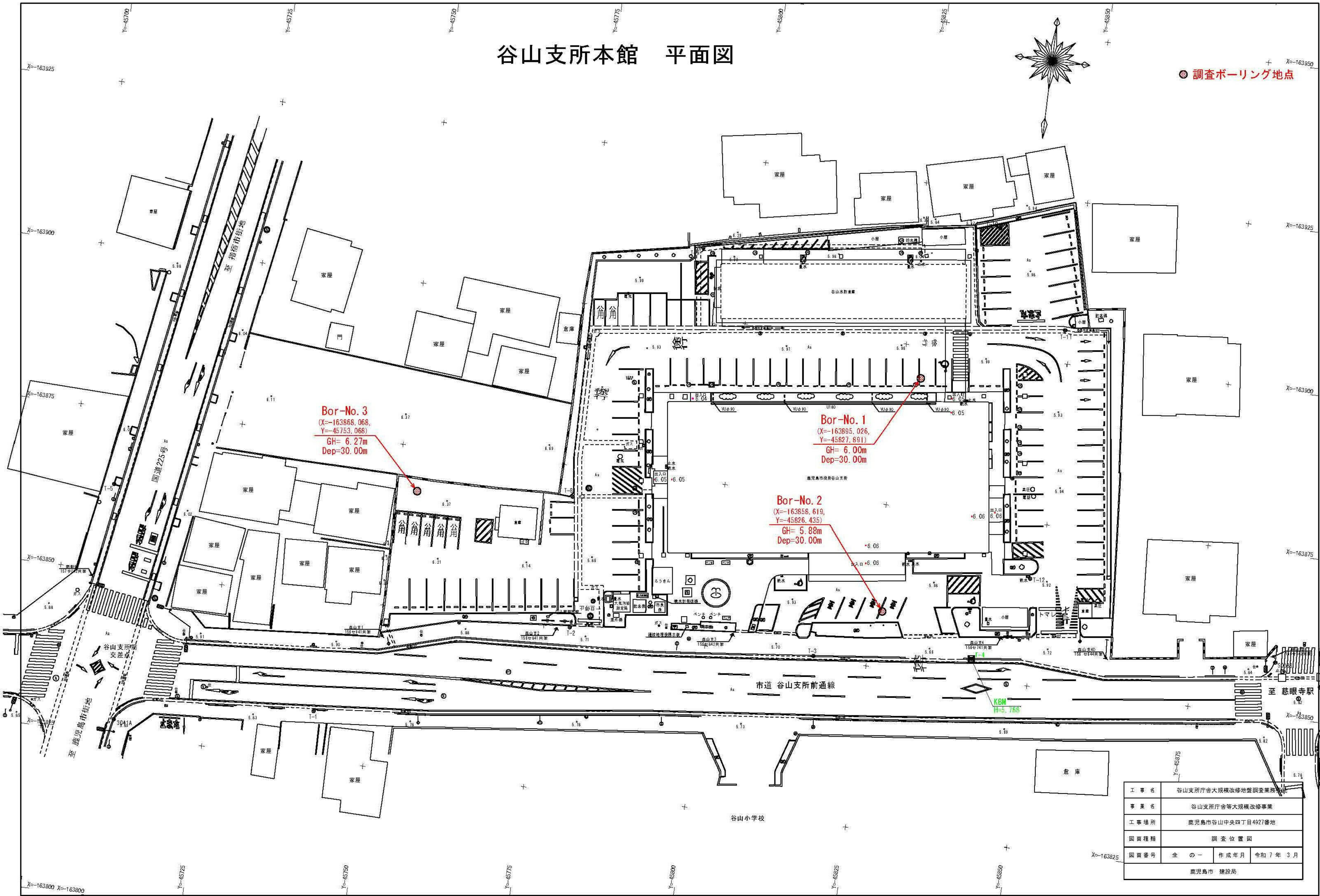


| No. 1 | | | | 総掘進長 30.30m | | 孔口標高 6.00 m | | 孔内水位 G.L. -2.81m | |
|-------|--------|------|-------|-------------|---------|------------------|------------------------|------------------|-----------|
| 標 | 標 | 層 | 深 | 観 察 記 録 | | 孔内 水 位 (m) | N 値 ／ 貫入 量 | 標準貫入試験 | |
| 尺(m) | 高(m) | 厚(m) | 度(m) | 土 質 を | 色 | | | 深 度(m) | N |
| | 5.97 | 0.03 | 0.03 | 7.57 | 砕石 | | | 0 | |
| 1 | | 0.17 | 0.20 | | 礫混じり砂 | | 5/30 | 10 | ▼P2, P3杭天 |
| 2 | 4.20 | 1.60 | 1.80 | | 砂礫 | 1/28 2.81 | 50/21 | 20 | |
| | 3.50 | 0.70 | 2.50 | | | | 13/30 | 30 | |
| 3 | | | | | 礫混じり砂 | | 3.45 4.15 | 18/30 | |
| 4 | 1.60 | 1.90 | 4.40 | | | | 4.45 5.15 | 23/30 | |
| 5 | | | | | | | 5.45 6.15 | 22/30 | |
| 6 | | | | | | | 6.45 7.15 | 22/30 | |
| 7 | | | | | シルト混じり砂 | | 7.45 8.15 | 18/30 | |
| 8 | | | | | | | 8.45 9.15 | 15/30 | |
| 9 | -3.70 | 5.30 | 9.70 | | | | 9.45 10.15 | 20/30 | |
| 10 | | | | | 軽石混じり砂 | | 10.45 11.15 | 16/30 | |
| 11 | -5.50 | 1.80 | 11.50 | | | | 11.45 12.15 | 27/30 | |
| 12 | | | | | シルト混じり砂 | | 12.45 13.15 | 29/30 | |
| 13 | | | | | | | 13.45 14.15 | 21/30 | |
| 14 | -8.60 | 3.10 | 14.60 | | | | 14.45 15.15 | 25/30 | |
| 15 | | | | | 中砂 | | 15.45 16.15 | 32/30 | |
| 16 | | | | | | | 16.45 17.15 | 27/30 | |
| 17 | -12.00 | 3.40 | 18.00 | | | | 17.45 18.15 | 25/30 | |
| 18 | | | | | 礫混じり砂 | | 18.45 19.15 | 12/30 | |
| 19 | -14.00 | 2.00 | 20.00 | | | | 19.45 20.15 | 13/30 | |
| 20 | | | | | | | 20.45 21.15 | 12/30 | |
| 21 | | | | | | | 21.45 22.15 | 20/30 | |
| 22 | | | | | シルト質砂 | | 22.45 23.15 | 13/30 | |
| 23 | | | | | | | 23.45 24.15 | 19/30 | |
| 24 | -19.00 | 5.00 | 25.00 | | | | 24.45 25.15 | 16/30 | |
| 25 | | | | | | | 25.45 26.15 | 26/30 | |
| 26 | | | | | | | 26.45 27.15 | 24/30 | |
| 27 | | | | | 貝殻混じり砂 | | 27.45 28.15 | 33/30 | |
| 28 | | | | | | | 28.45 29.15 | 26/30 | |
| 29 | -23.70 | 4.70 | 29.70 | | | | 29.45 30.15 | 60/15 | |
| 30 | -24.30 | 0.60 | 30.30 | | 軽石混じり砂 | | | | |



谷山支所本館 平面図

調査ボーリング地点



| | | | |
|---------|-------------------|------|--------|
| 工事名 | 谷山支所庁舎大規模改修地盤調査業務 | | |
| 事業名 | 谷山支所庁舎等大規模改修事業 | | |
| 工事場所 | 鹿児島市谷山中央四丁目4927番地 | | |
| 図面種類 | 調査位置図 | | |
| 図面番号 | 全の一 | 作成年月 | 令和7年3月 |
| 鹿児島市建設局 | | | |

yAt構造設計事務所合同会社 一級建築士事務所
一級建築士 第 341807 号
構造一級建築士 第 9582 号 中島 敦広

みのだ・プランディー設計共同企業体
代表事務所 株式会社みのだ設計
一級建築士事務所 知事登録 第 1-3-140 号
一級建築士 第 148365 号 養田 満康

谷山支所庁舎大規模改修その他本体工事

地盤調査図(2)
鹿児島市建設局建築部建築課

No.

S - 09

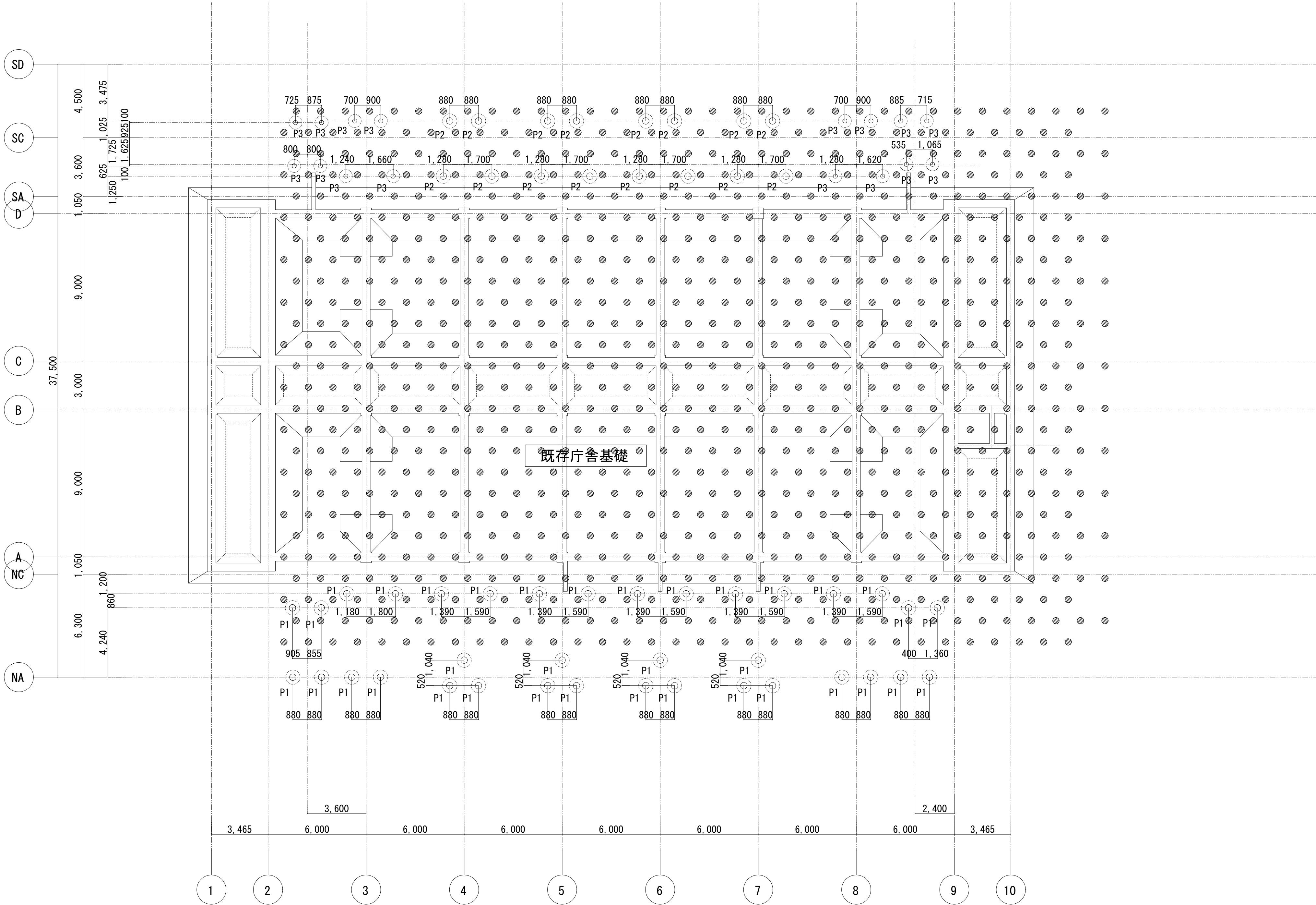
杭リスト

| | | | |
|---------|------------------------|--------|--------|
| 杭 種 | スクリューパイルEAZET工法又は同等品以上 | | |
| 名 称 | P1 | P2 | P3 |
| 鋼管径 D | 406.4 | 406.4 | 267.4 |
| 上杭 | 鋼材種 | STK490 | STK490 |
| | 板厚 | 12.7mm | 12.7mm |
| | 杭長 | 6.0m | 6.0m |
| 下中杭 | 鋼材種 | STK490 | STK490 |
| | 板厚 | 7.9mm | 7.9mm |
| | 杭長 | 23.0m | 20.0m |
| 羽根 | 鋼材種 | SM490A | SM490A |
| | 板厚 | 32.0mm | 32.0mm |
| | 羽根径 | 880mm | 880mm |
| 本 数 | 36本 | 16本 | 16本 |
| 長期許容支持力 | 760kN | 720kN | 600kN |
| 短期許容支持力 | 1520kN | 1440kN | 1200kN |
| 短期許容引拔力 | 240kN | 180kN | 120kN |

杭伏図


特記事項

1. GL=標高5.91m
2. 1FL=GL+130, 1FL=既存1FL-20
3. 杭天=GL-1400
4. ●は既存杭位置を表す
- パイプフローテーション工法
- 杭径400φ、杭長8.0m
5. 杭打設前にNC通り、SA通り付近の既存基礎の捨てコン位置を確認し
- 杭打設に支障がある箇所は事前に撤去すること

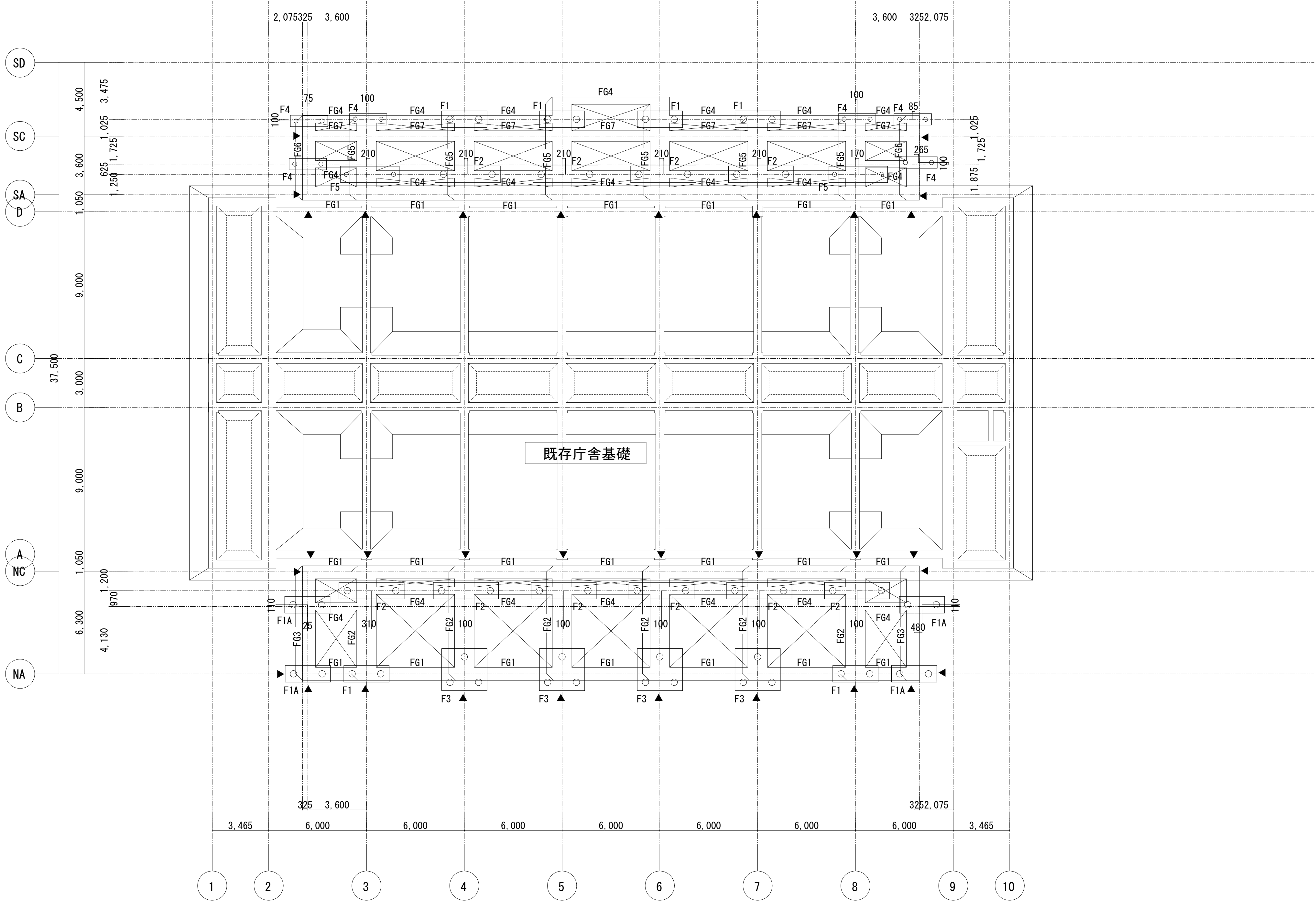


基礎伏図

特記事項


1. GL=標高5.91m
2. 1FL=GL+130, 1FL=既存1FL-20
3.  はスラブ主筋方向を表す
4. 特記なき梁天=1FL-130
NC通りFG1, SA通りFG1, FG2, FG5のみ梁天=1FL-30
5. 特記なき基礎天=1FL-130
F1Aのみ基礎天=1FL-380
6. ▲部は埋め込み柱脚U字補強筋設置箇所を表す
7. 基礎寸法は以下の通りとする

F1:2780×1020×1600
F1A:2780×1020×1350
F2:4000×1020×1600
F3:2780×2580×1600
F4:2300×700×1600
F5:3600×1000×1600

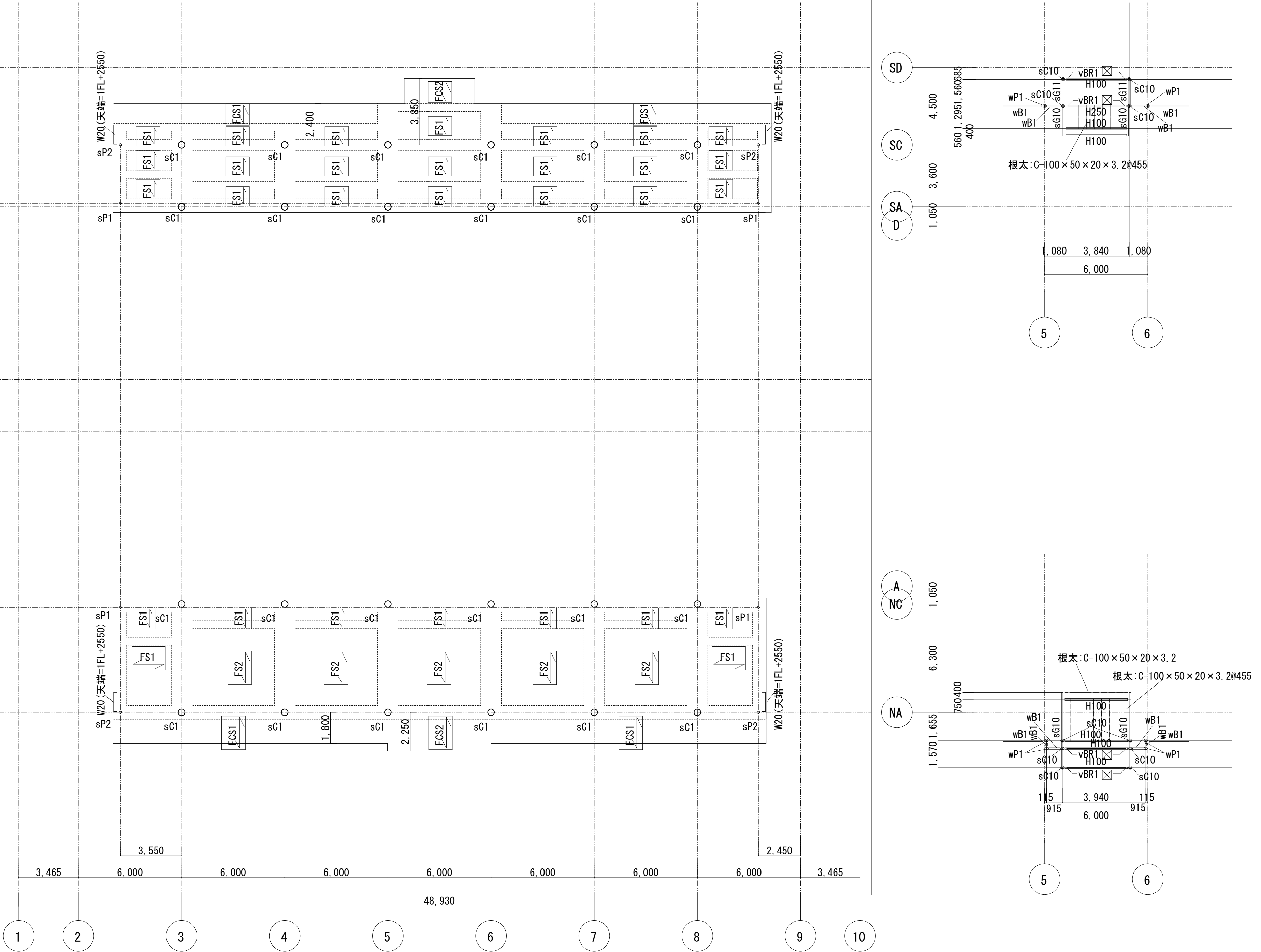


1 階伏図

特記事項

1. 1FL=GL+130, 1FL=既存1FL-20
2.  はスラブ主筋方向を表す
3. 特記なきスラブ天=1FL-30
4. W20の配筋は縦筋, 横筋共にD13@200ダブルとする

風除室上部伏図



みのだ・プランディー設計共同企業体
代表事務所 株式会社みのだ設計
一級建築士事務所 知事登録 第 1-3-140 号

一級建築士 第 148365 号 養田 満康

谷山支所庁舎大規模改修その他本体工事

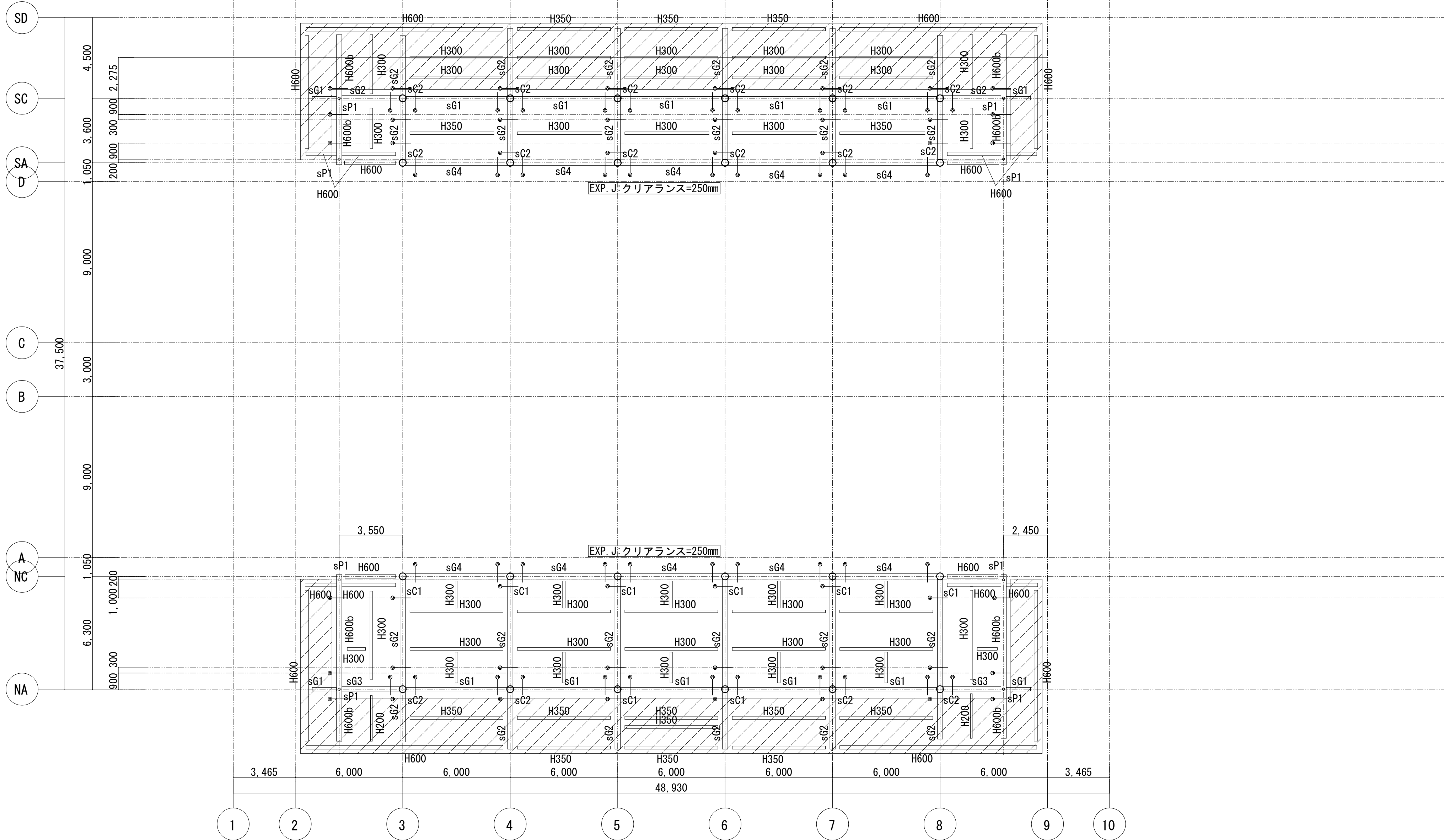
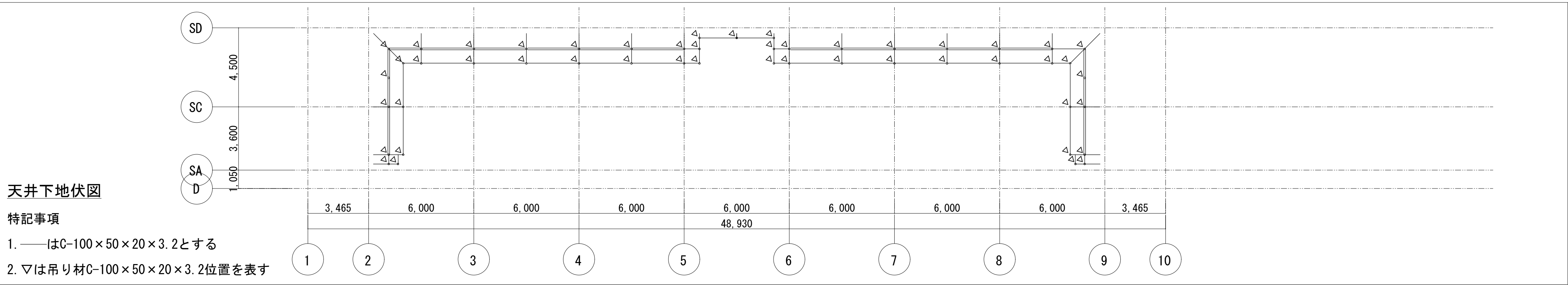
1 階伏図

A1 1/150
A3 1/300

No.

鹿児島市建設局建築部建築課

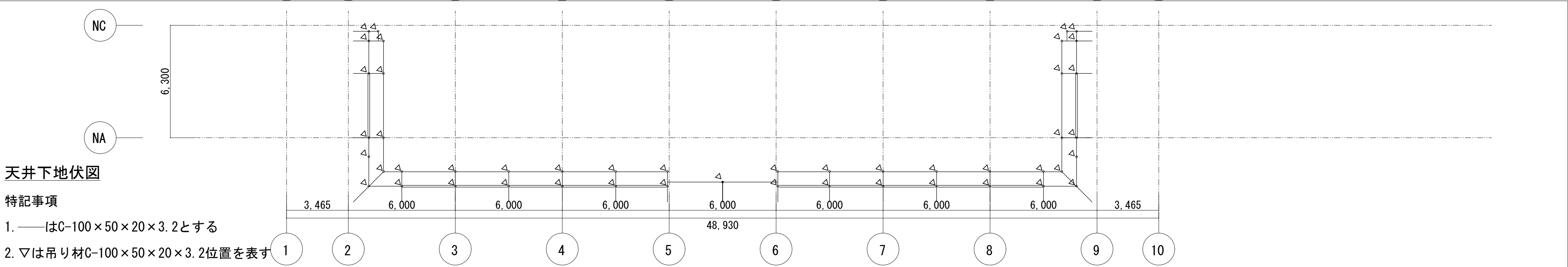
S - 12

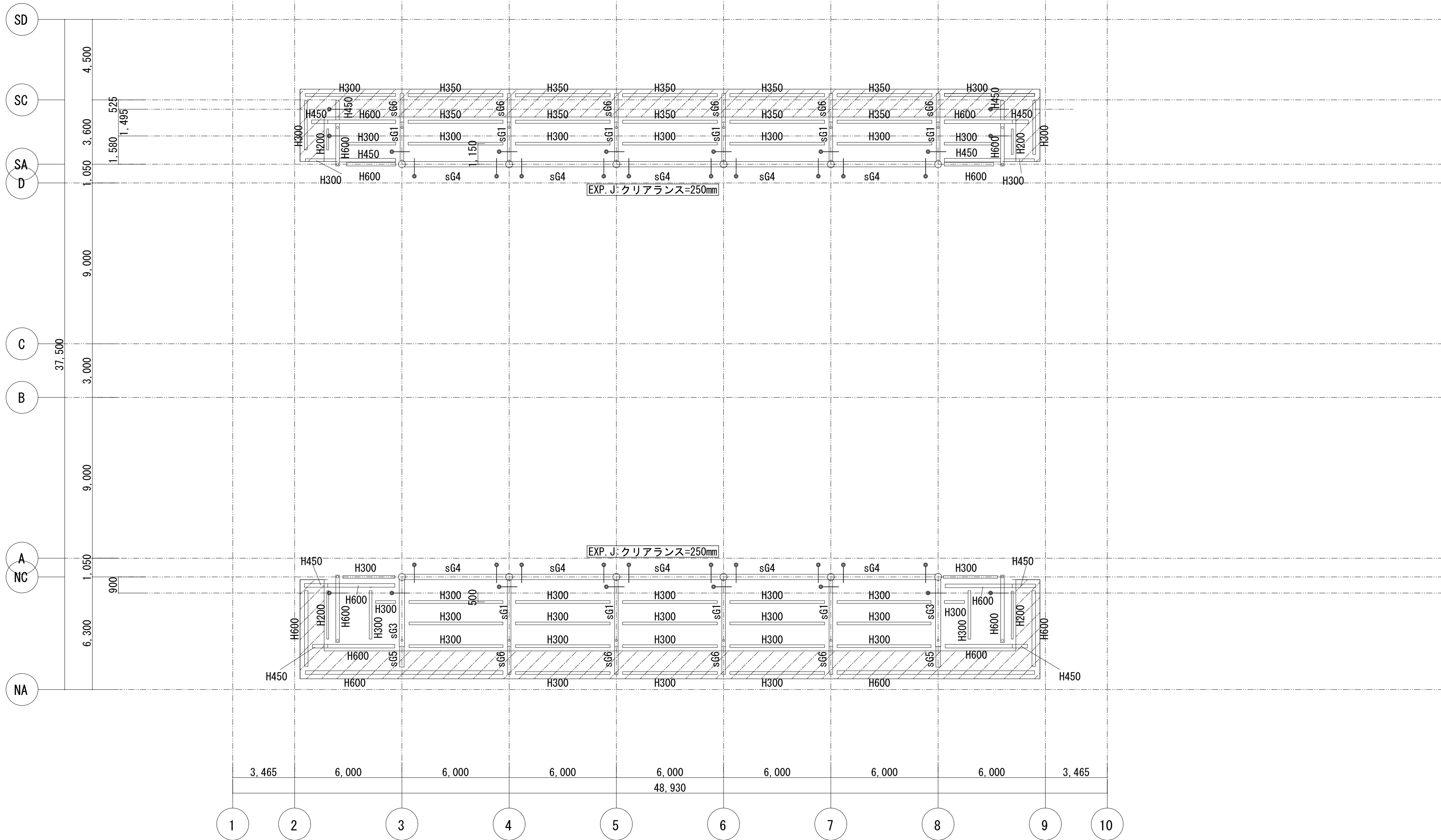
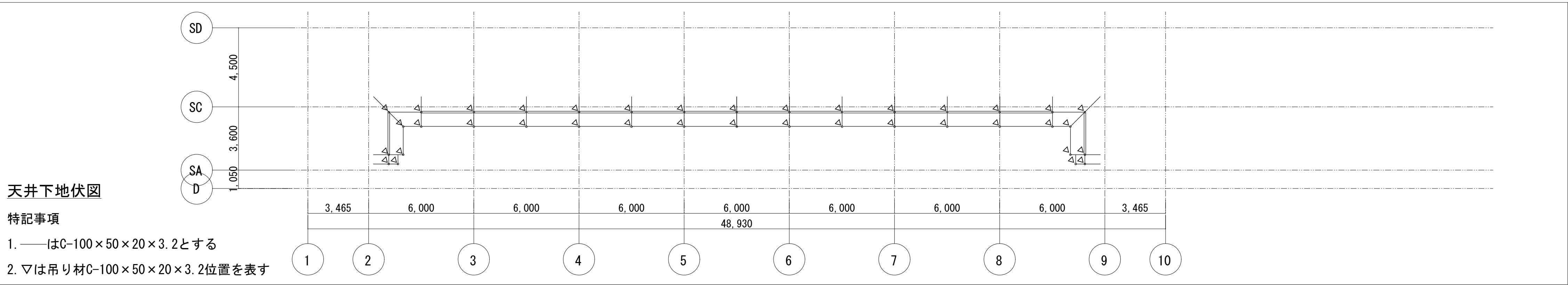


2階伏図

特記事項

1. 2FL=1FL+4400
2. ●—は現場継手位置を表す
特記なき場合柱芯、梁交差部芯から700mm
3. 特記なきスラブ天=2FL-10
部スラブ天=2FL-330
4. 特記なき梁天=2FL-160
部梁天=2FL-480
5. 特記なきスラブ記号はDS1とし、部スラブ記号はDS2とする
デッキ溝方向はスラブ短辺方向とする

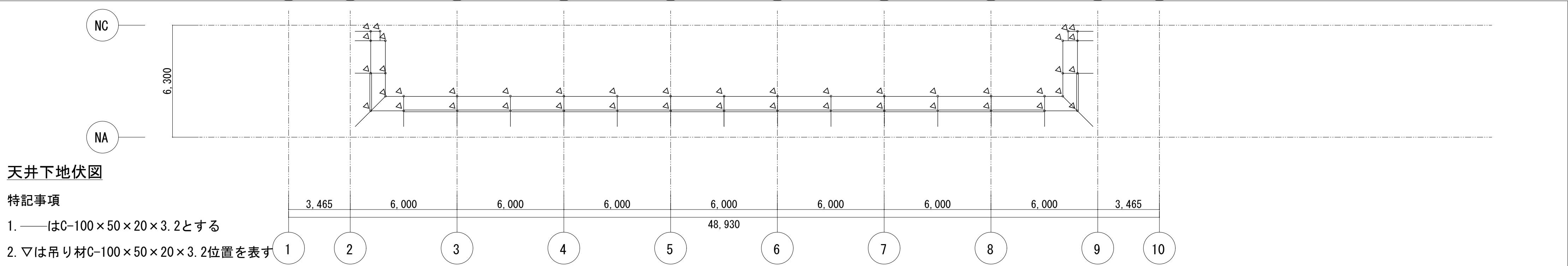




4階伏図

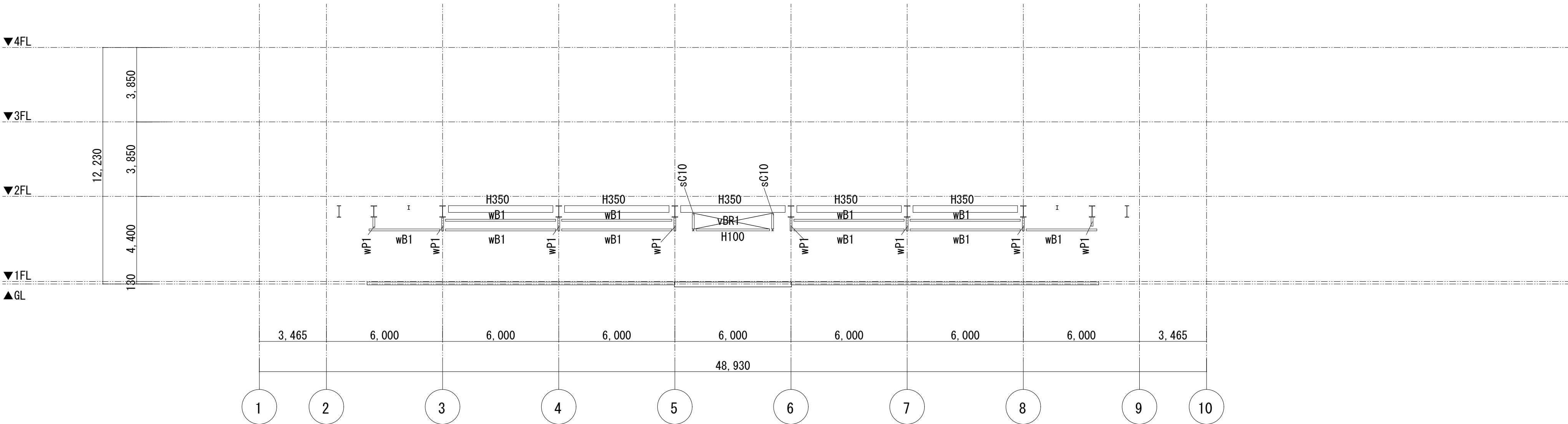
特記事項

1. 4FL=3FL+3850
2. ●—は現場継手位置を表す
- 特記なき場合柱芯、梁交差部芯から700mm
3. 特記なきスラブ天=4FL-0
- 部スラブ天=4FL-150
4. 特記なき梁天=4FL-150
- 部梁天=4FL-300
5. 特記なきスラブ記号はDS1とし、部スラブ記号はDS2とする
- デッキ溝方向はスラブ短辺方向とする



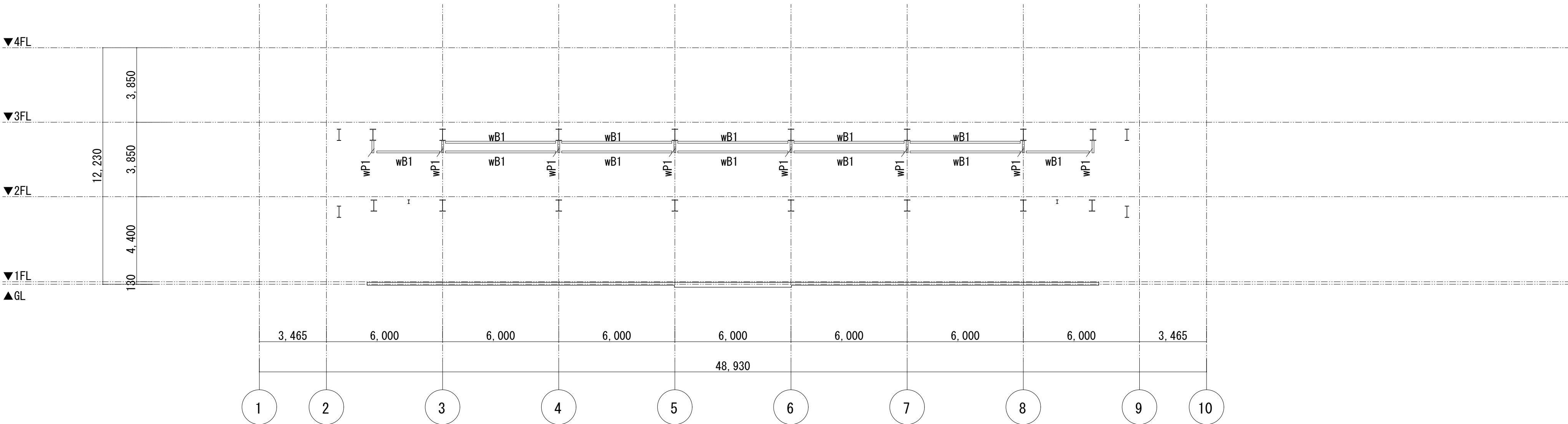
NA通り-1655軸組図

特記事項



NA通り-400軸組図

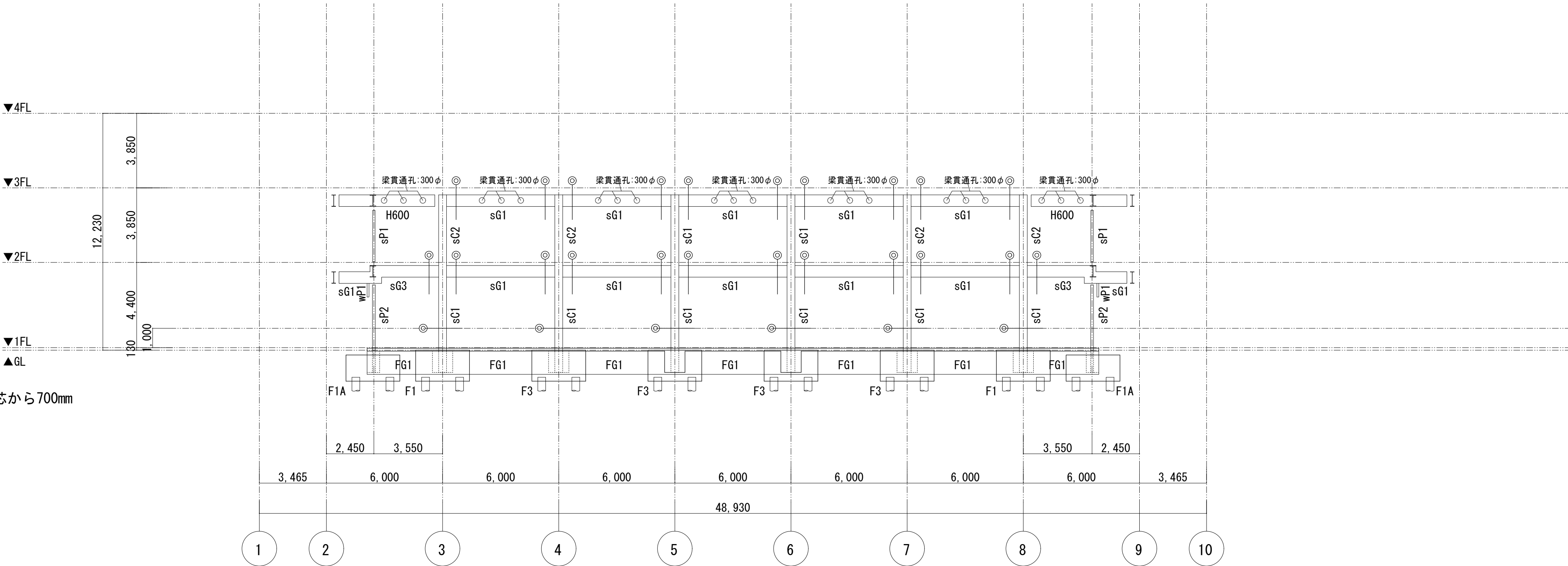
特記事項



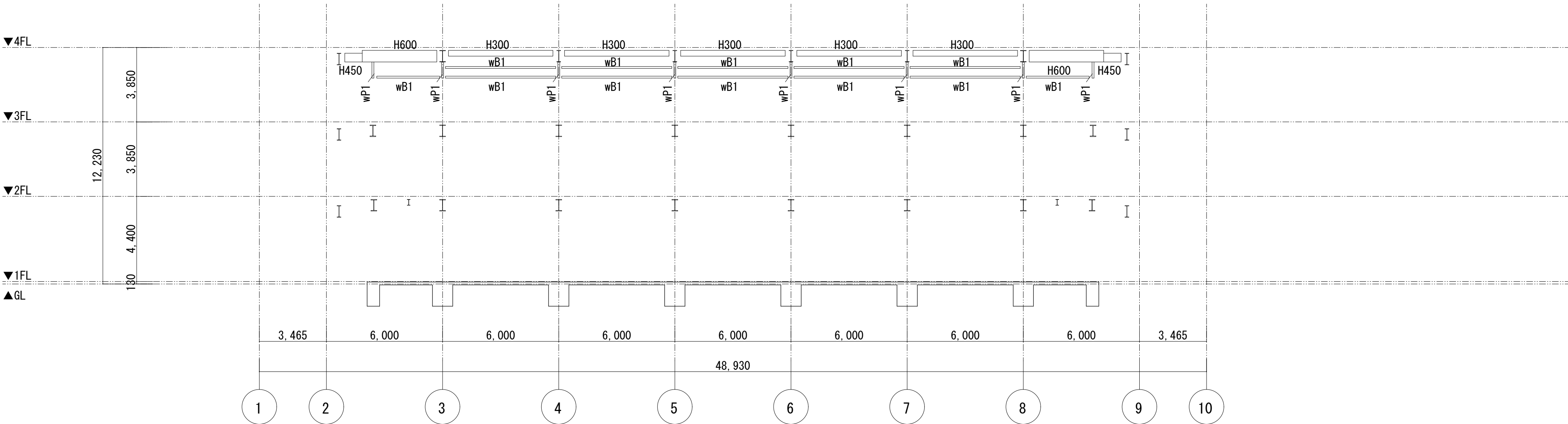
NA通り軸組図

特記事項

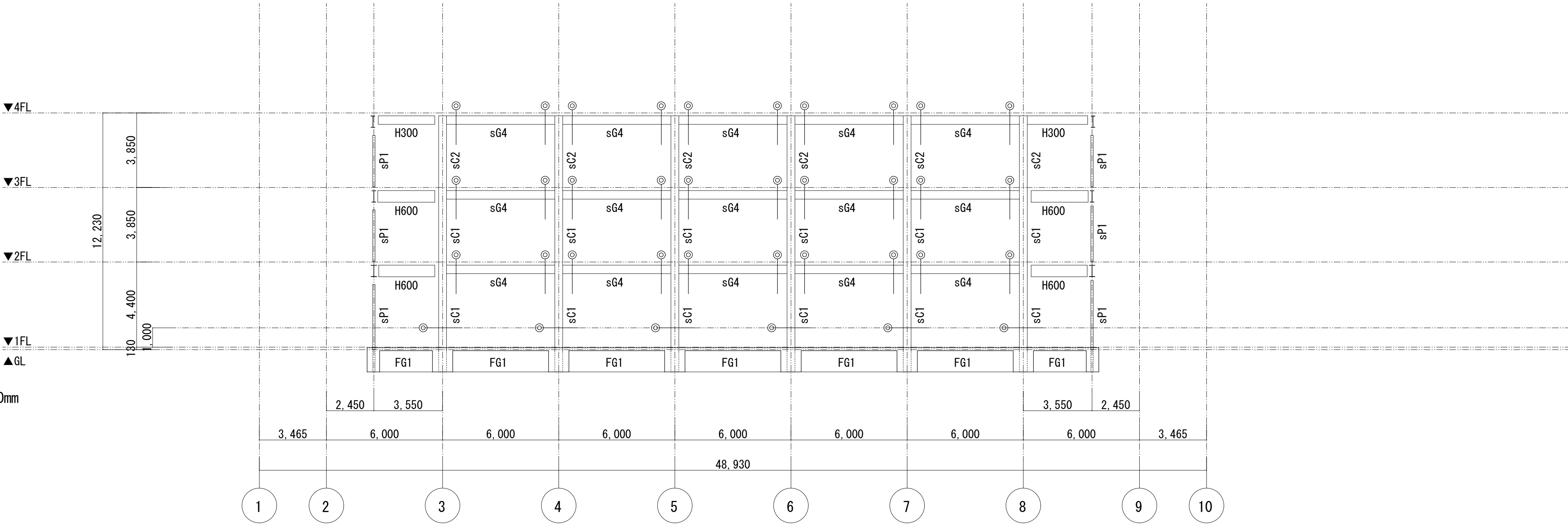
1. ◎ は現場継手位置を表す, 特記なき場合柱芯から700mm



NA通り+2510軸組図
特記事項



NC通り軸組図
特記事項

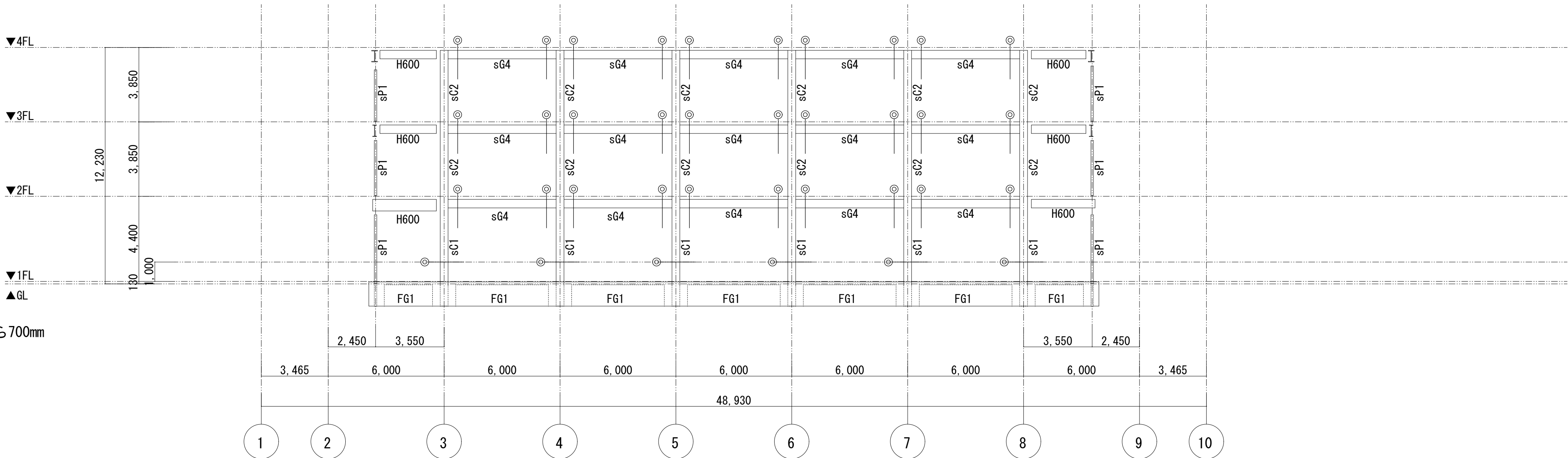


1. ◎ は現場継手位置を表す, 特記なき場合柱芯から700mm

SA通り軸組図

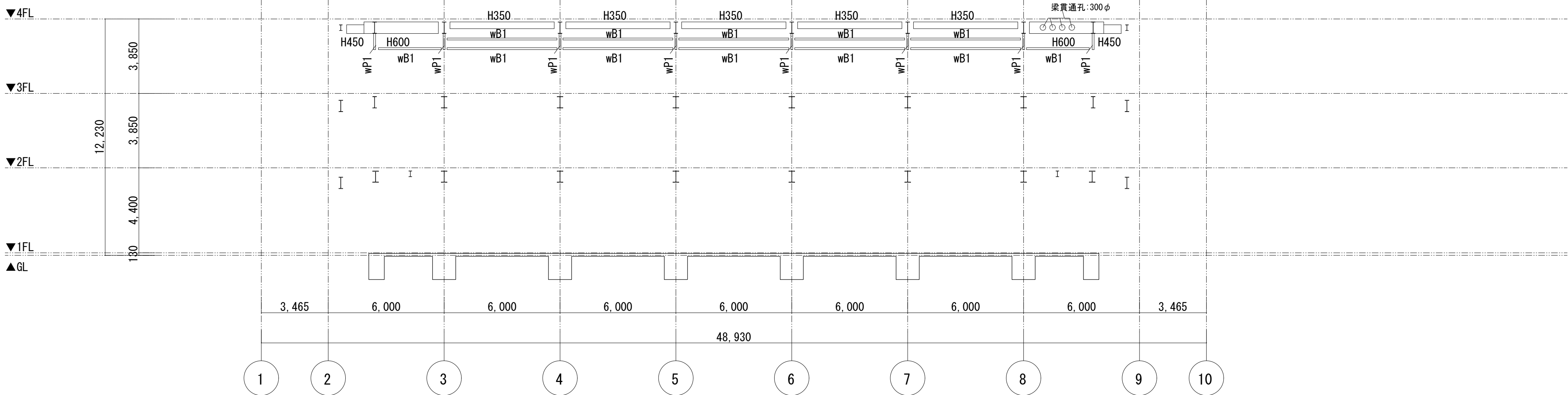
特記事項

- 1.⊙—は現場継手位置を表す, 特記なき場合柱芯から700mm



SA通り+2290軸組図

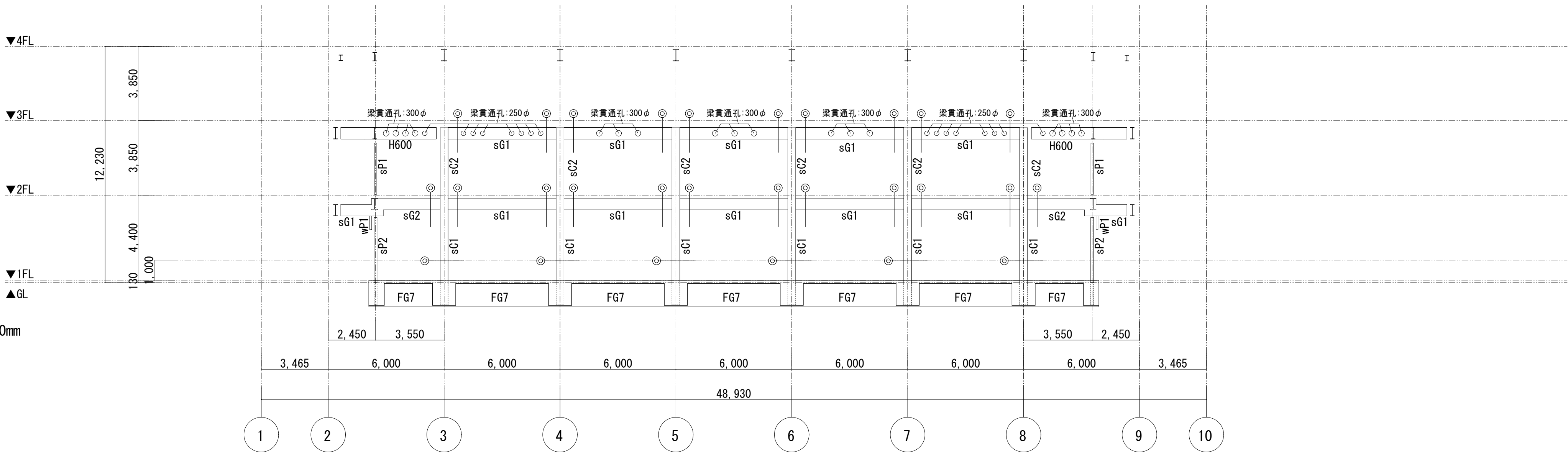
特記事項



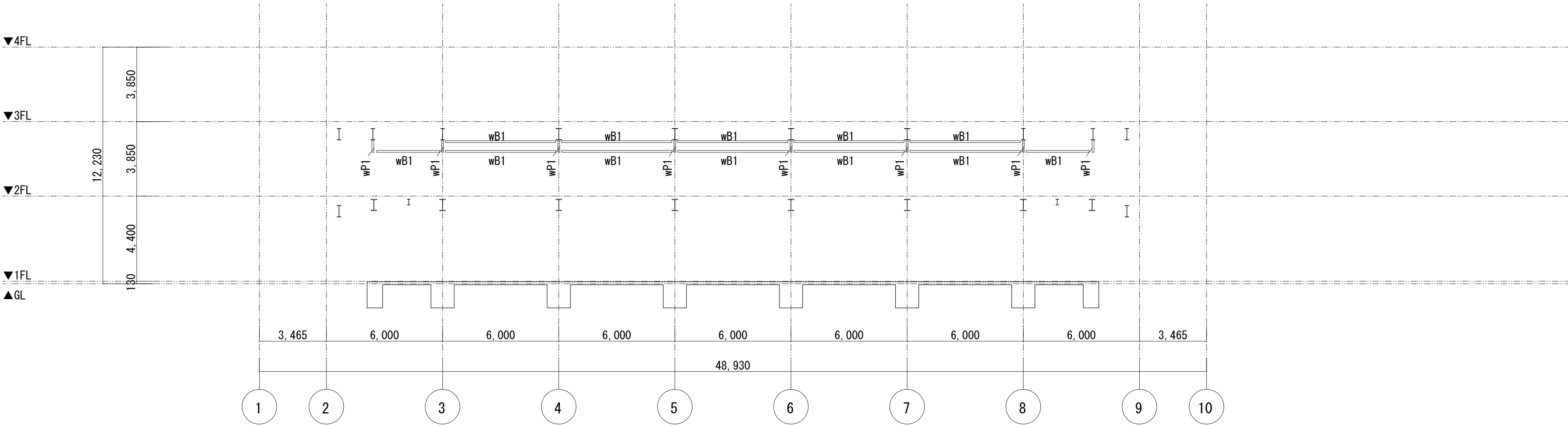
SC通り軸組図

特記事項

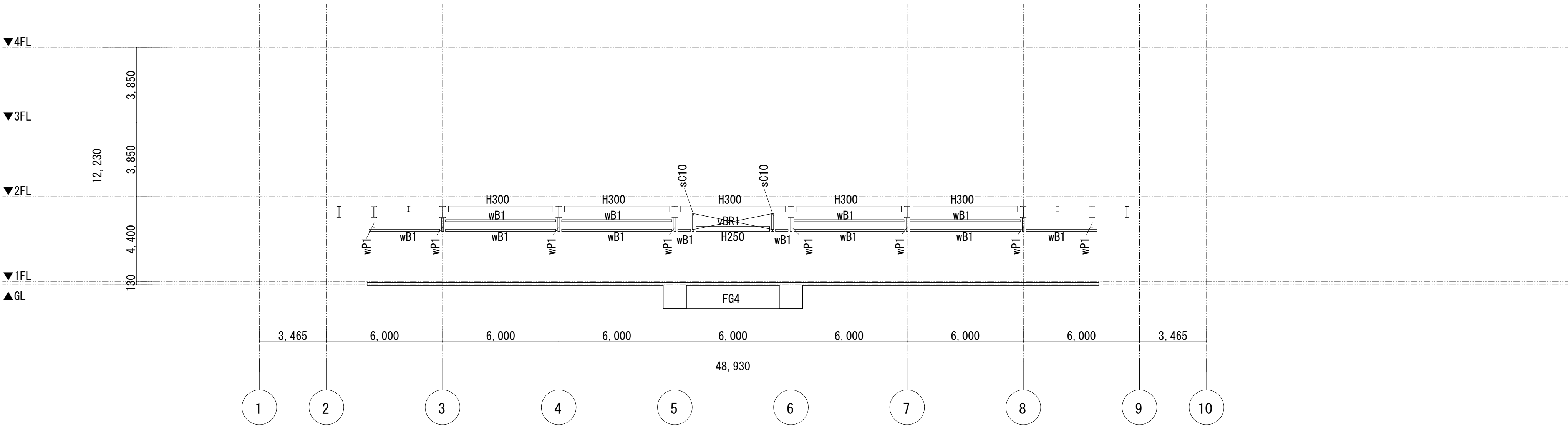
- 1.⊙—は現場継手位置を表す, 特記なき場合柱芯から700mm

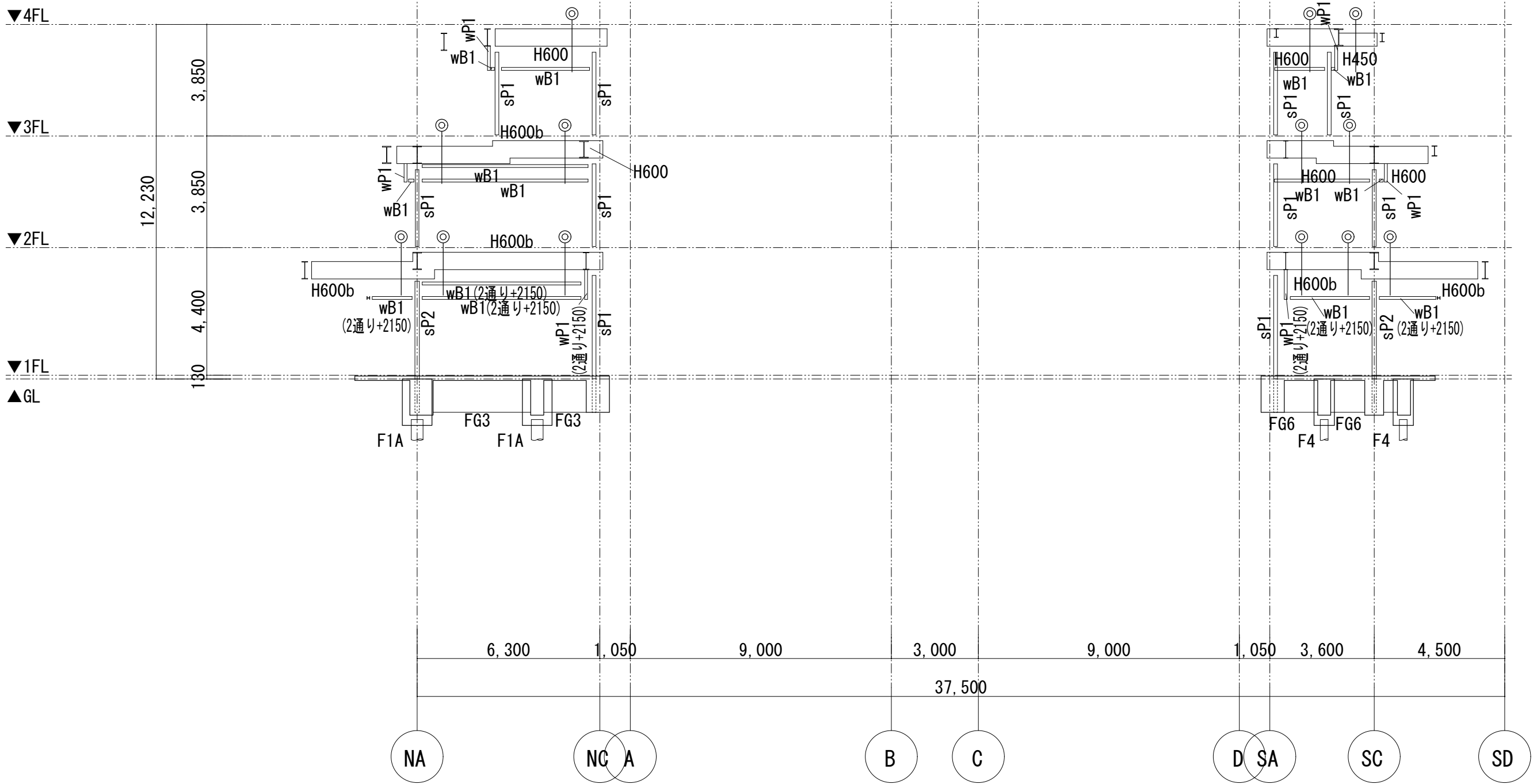


SC通り+400軸組図
特記事項



SC通り+2255軸組図
特記事項

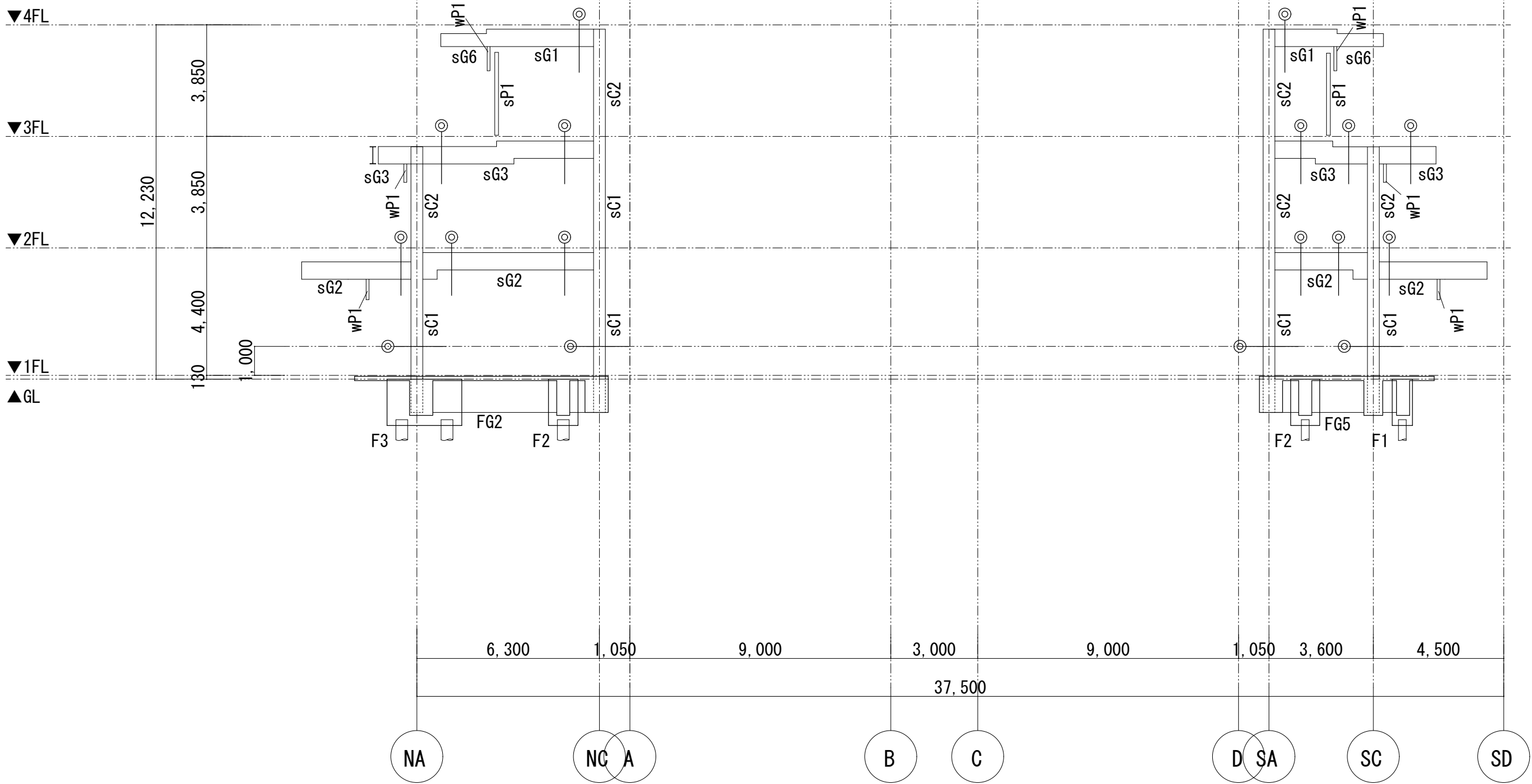




2通り+2450軸組図

特記事項

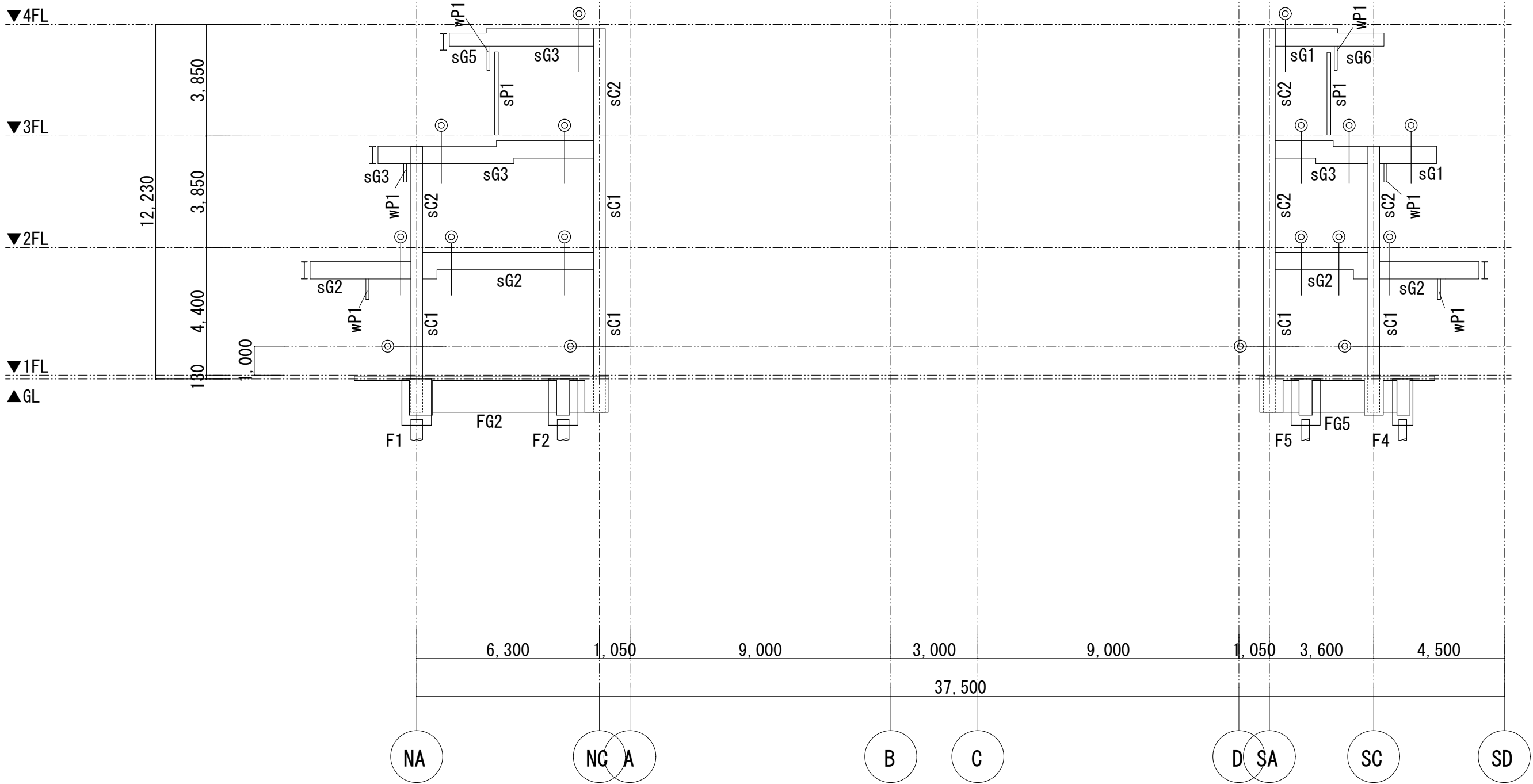
1. 〇— は現場継手位置を表す



4通り軸組図

特記事項

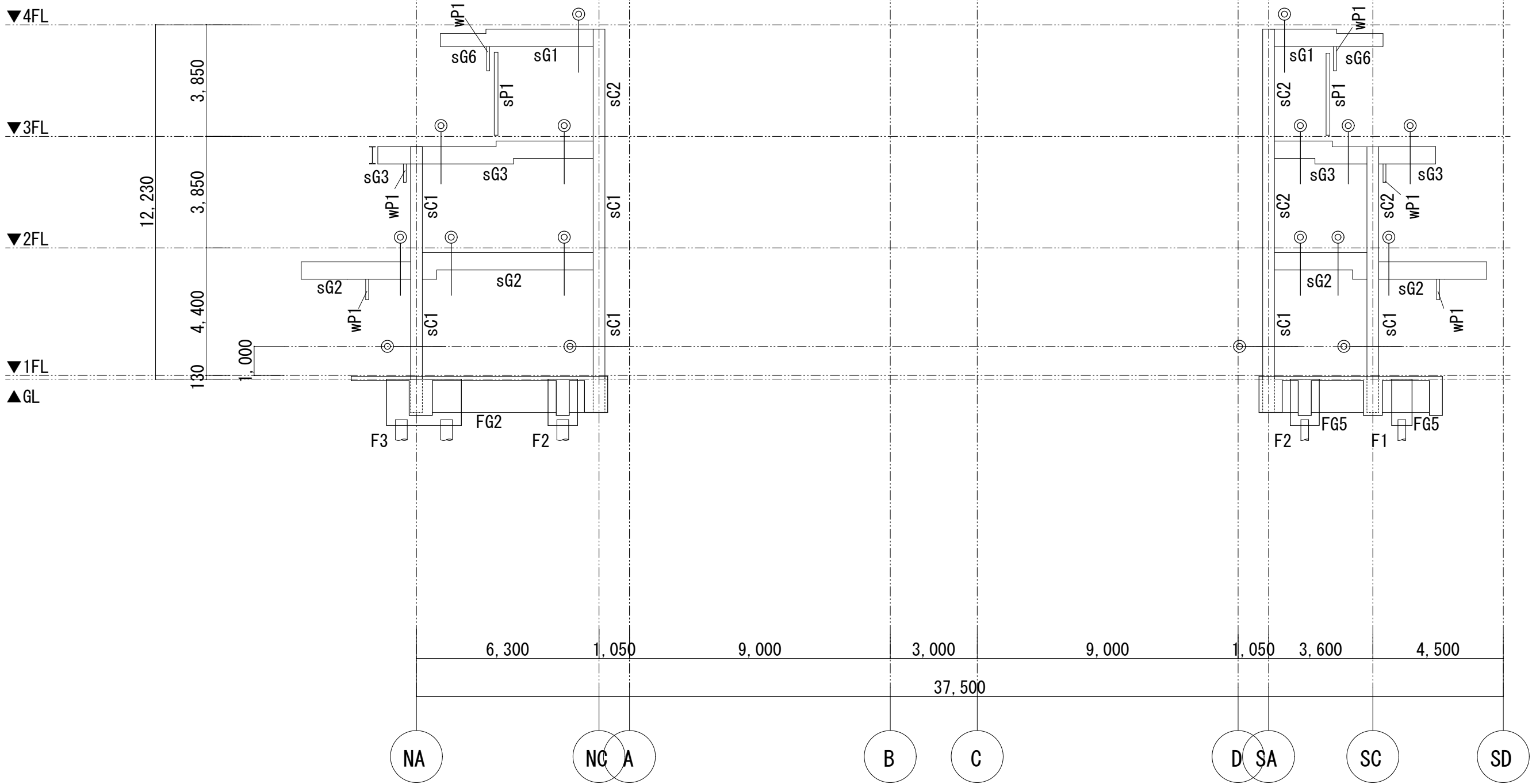
1. 〇— は現場継手位置を表す



3通り軸組図

特記事項

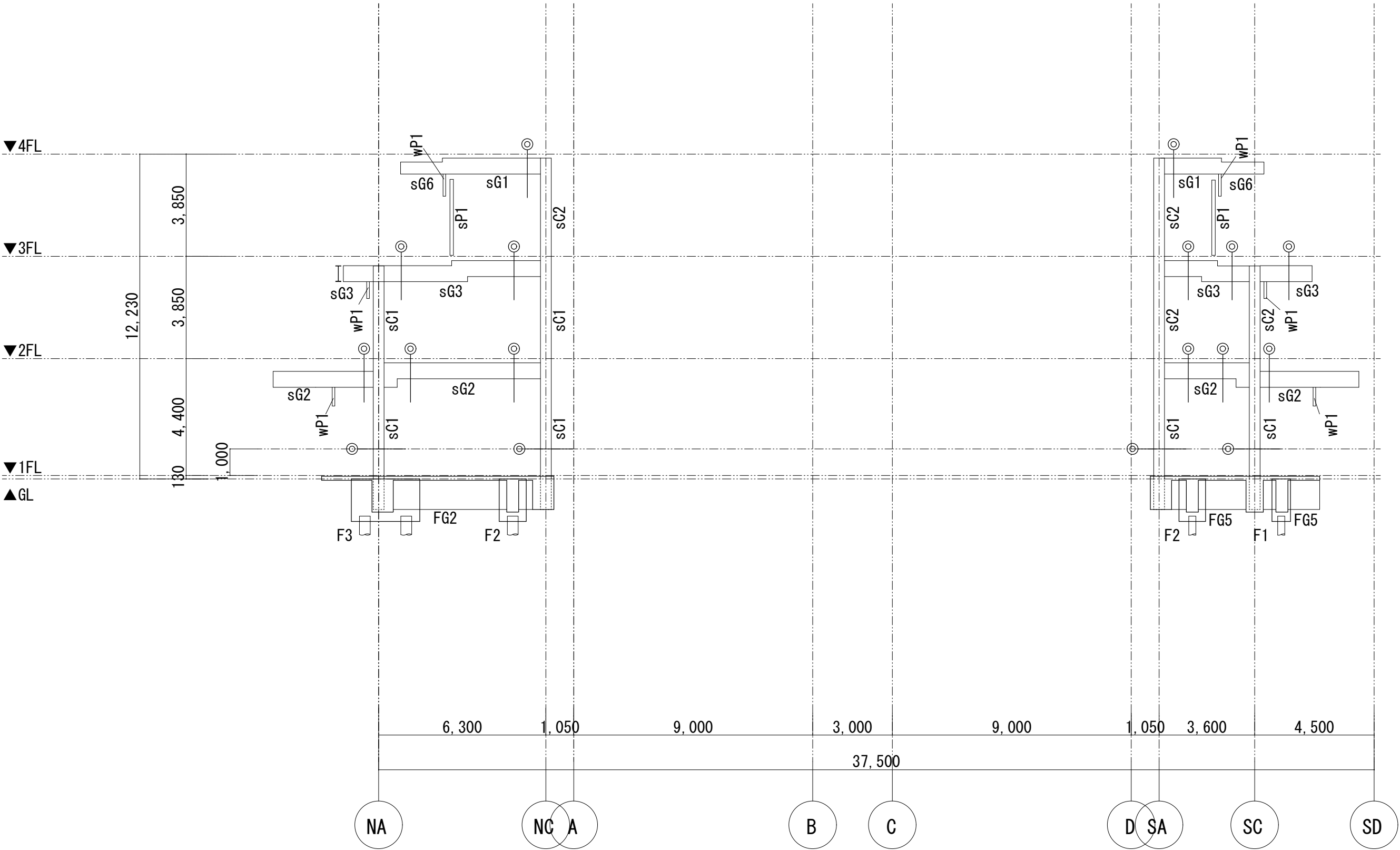
1. 〇— は現場継手位置を表す



5通り軸組図

特記事項

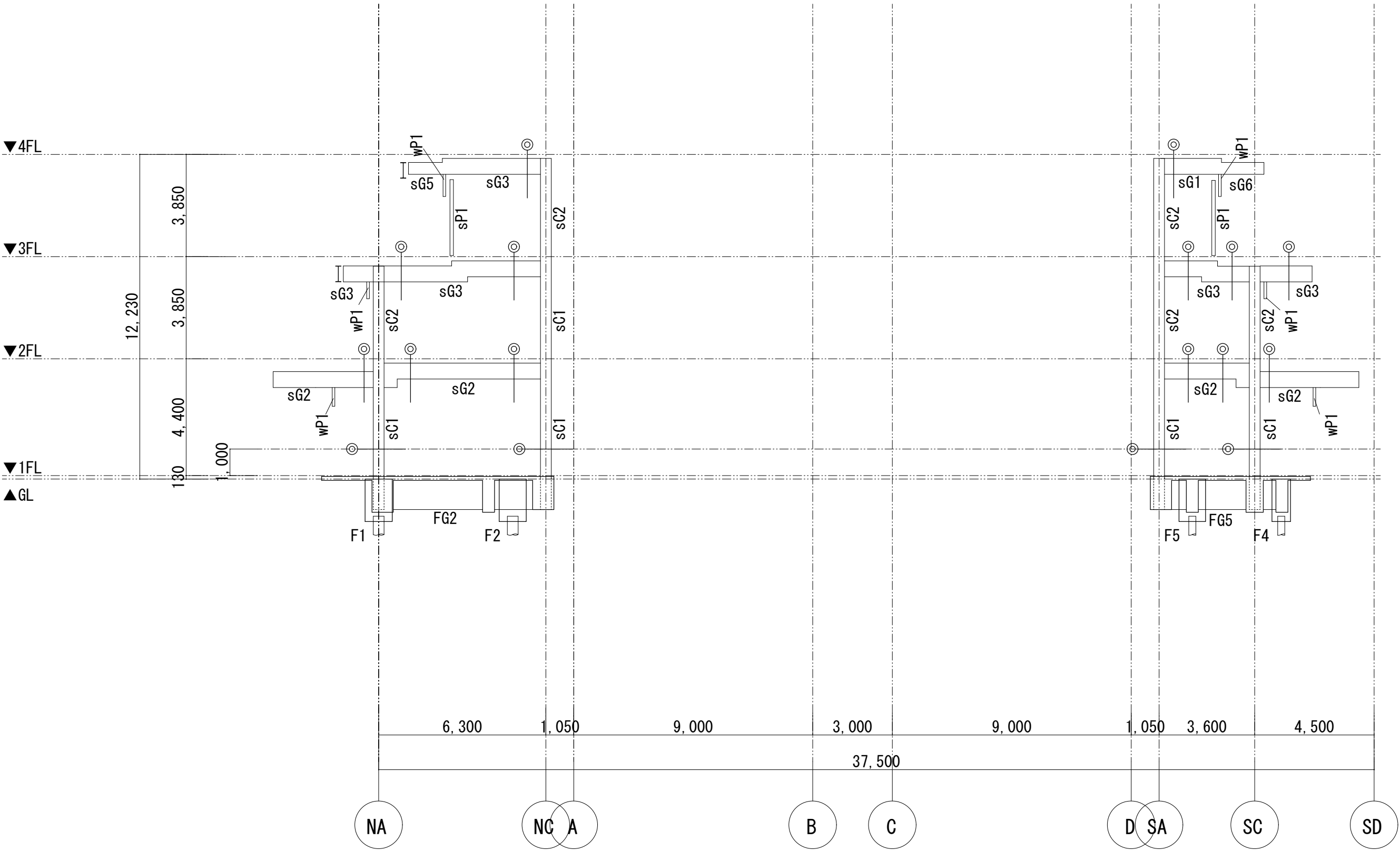
1. 〇— は現場継手位置を表す



6通り軸組図

特記事項

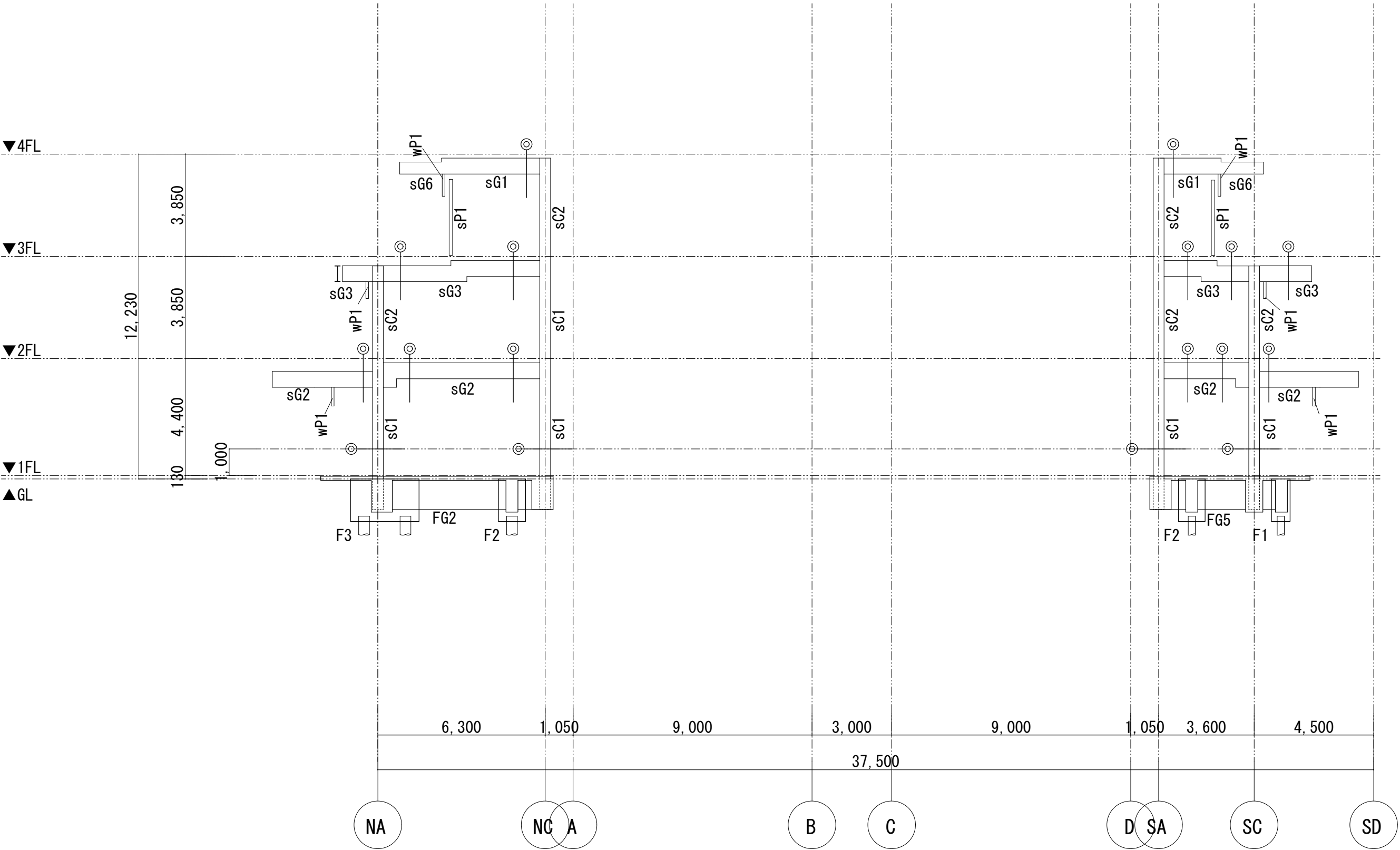
1. ●— は現場継手位置を表す



8通り軸組図

特記事項

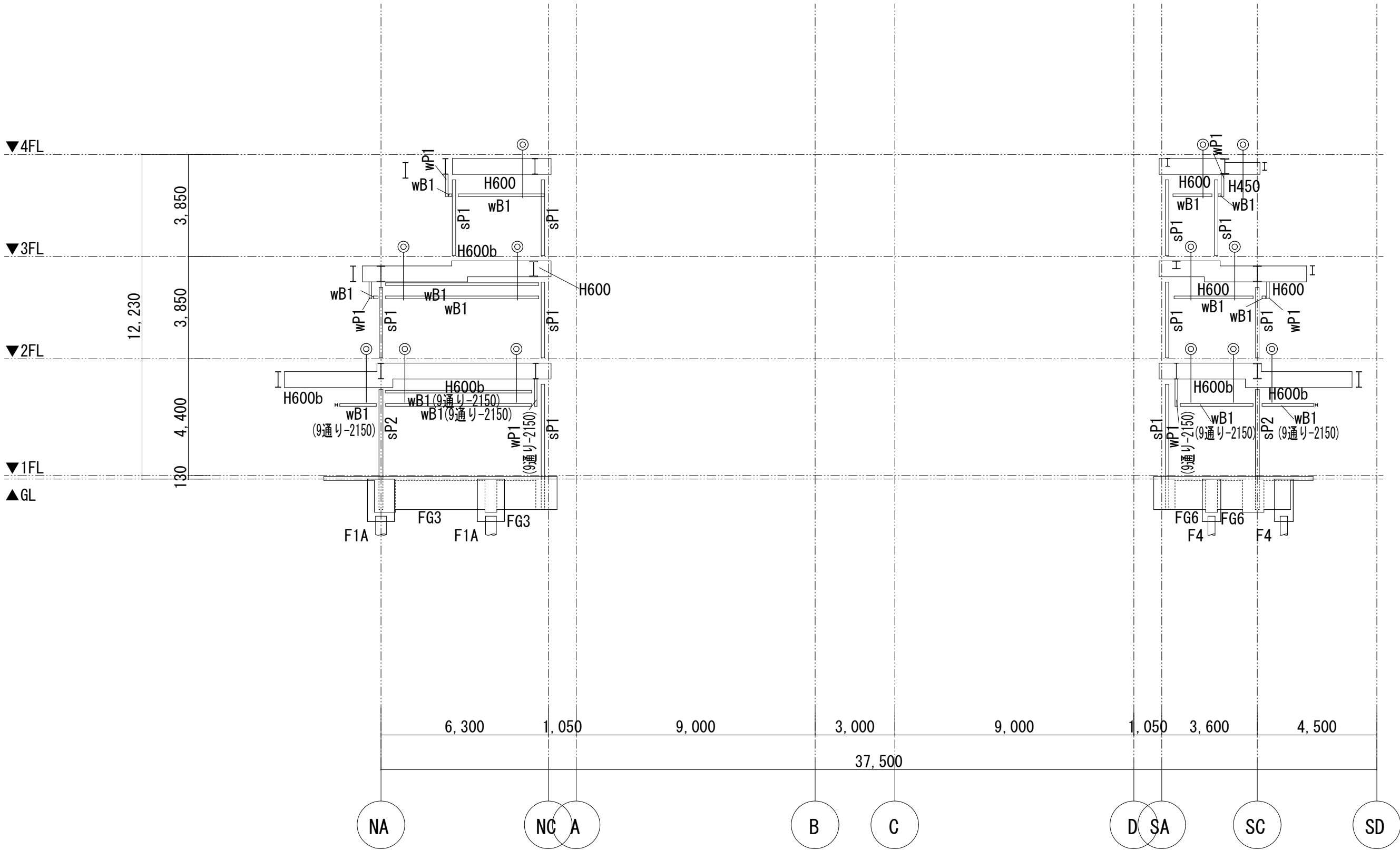
1. ●— は現場継手位置を表す



7通り軸組図

特記事項

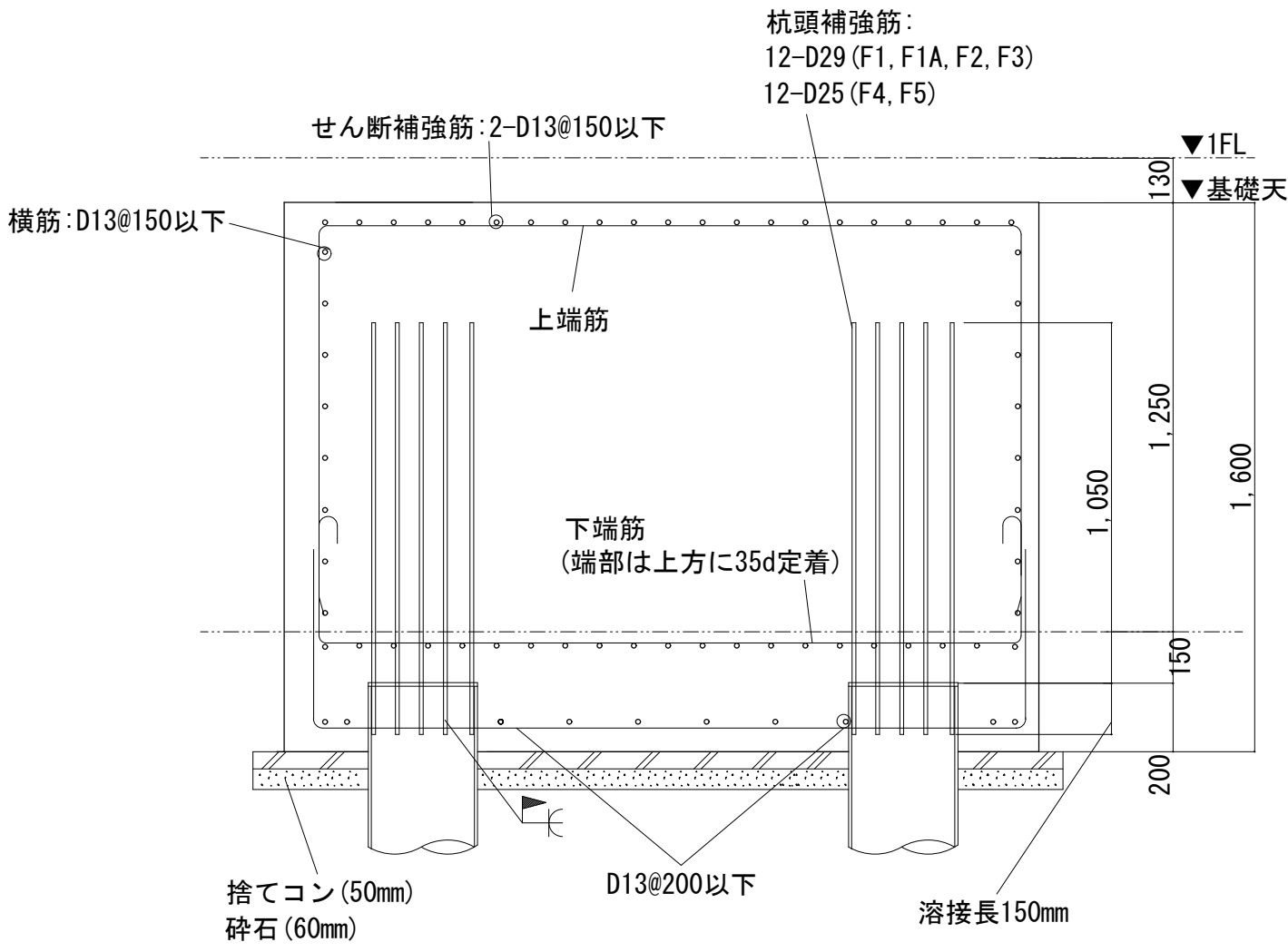
1. ●— は現場継手位置を表す



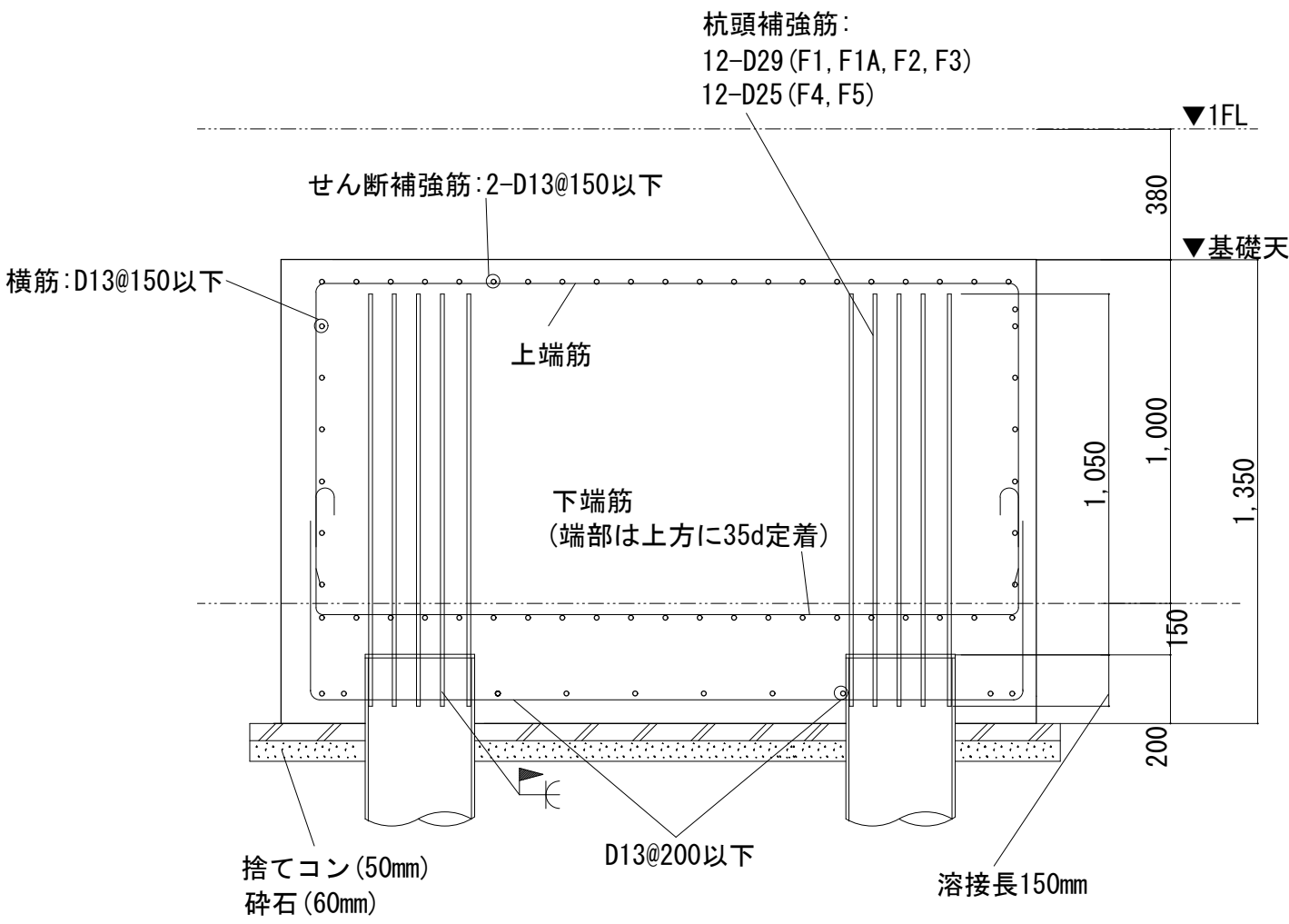
9通り-2450軸組図

特記事項

1. ●— は現場継手位置を表す

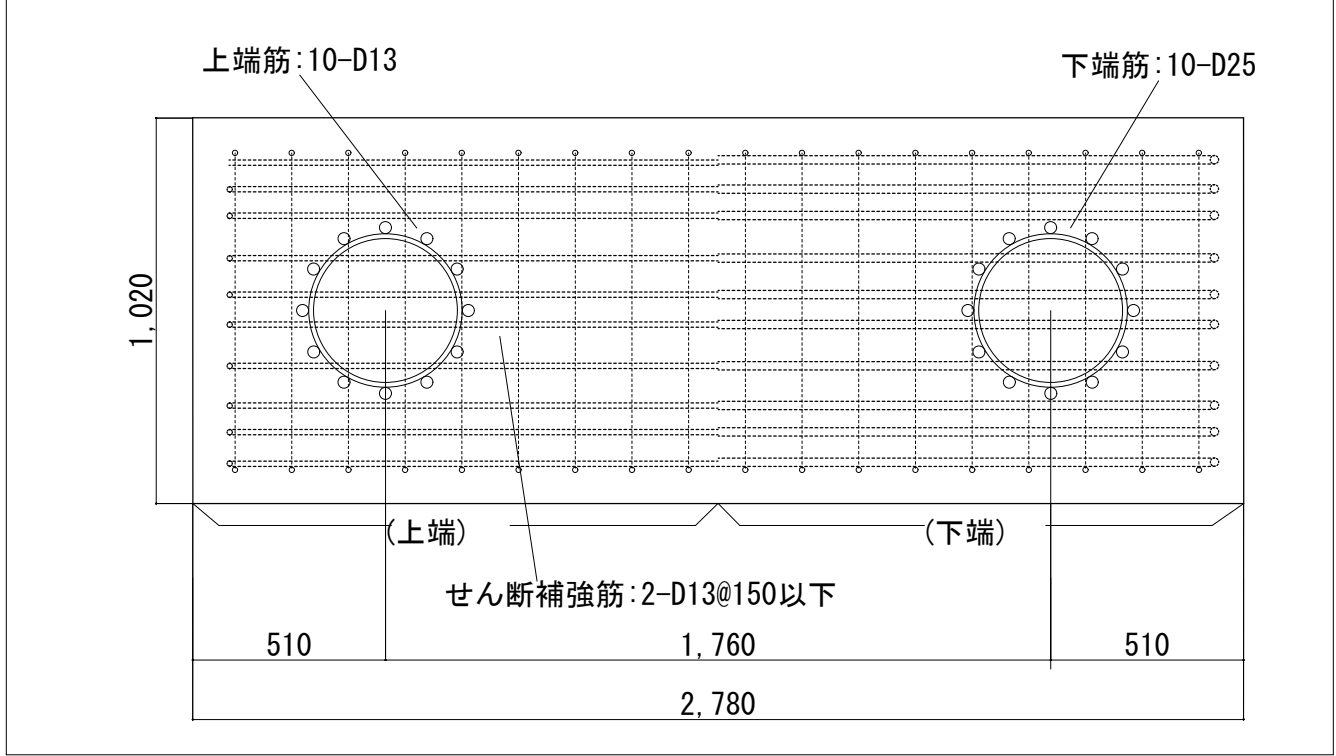


F1, F2, F3, F4, F5基礎断面図

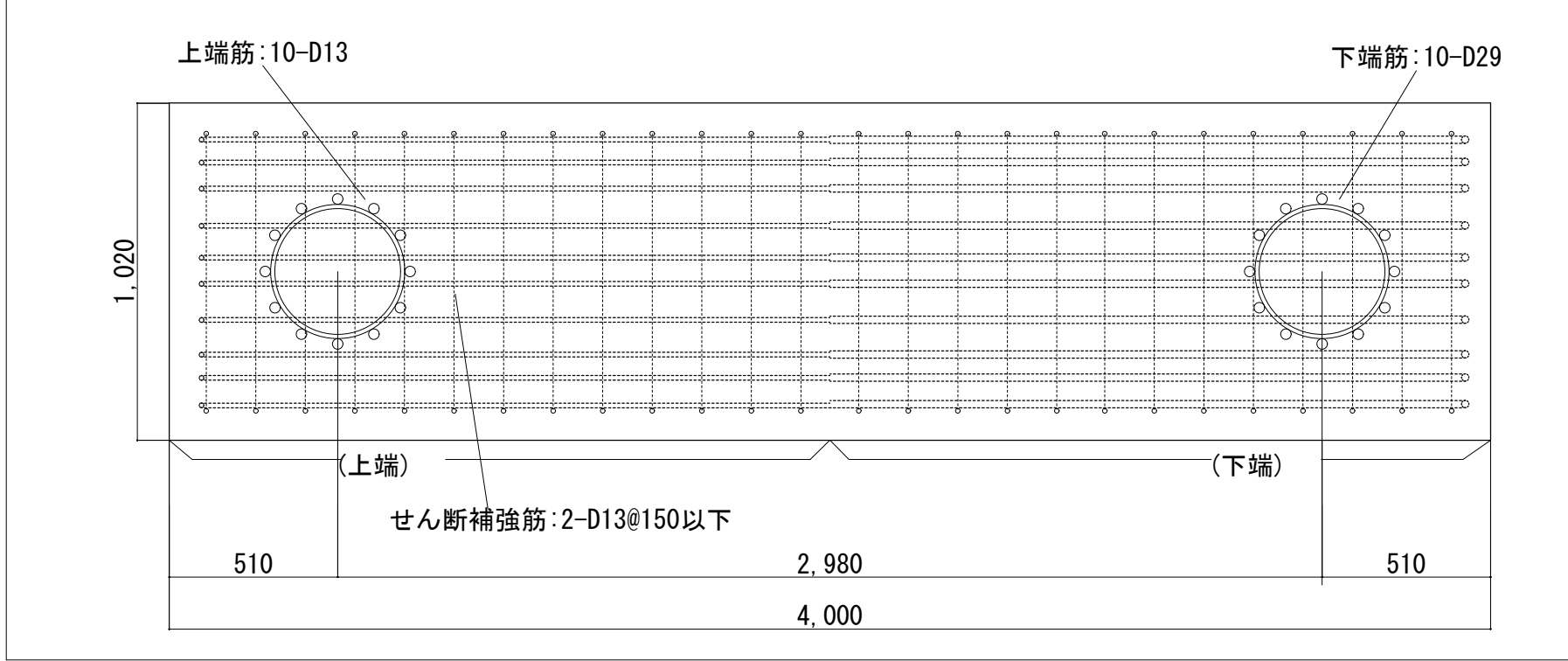


F1A基礎断面図

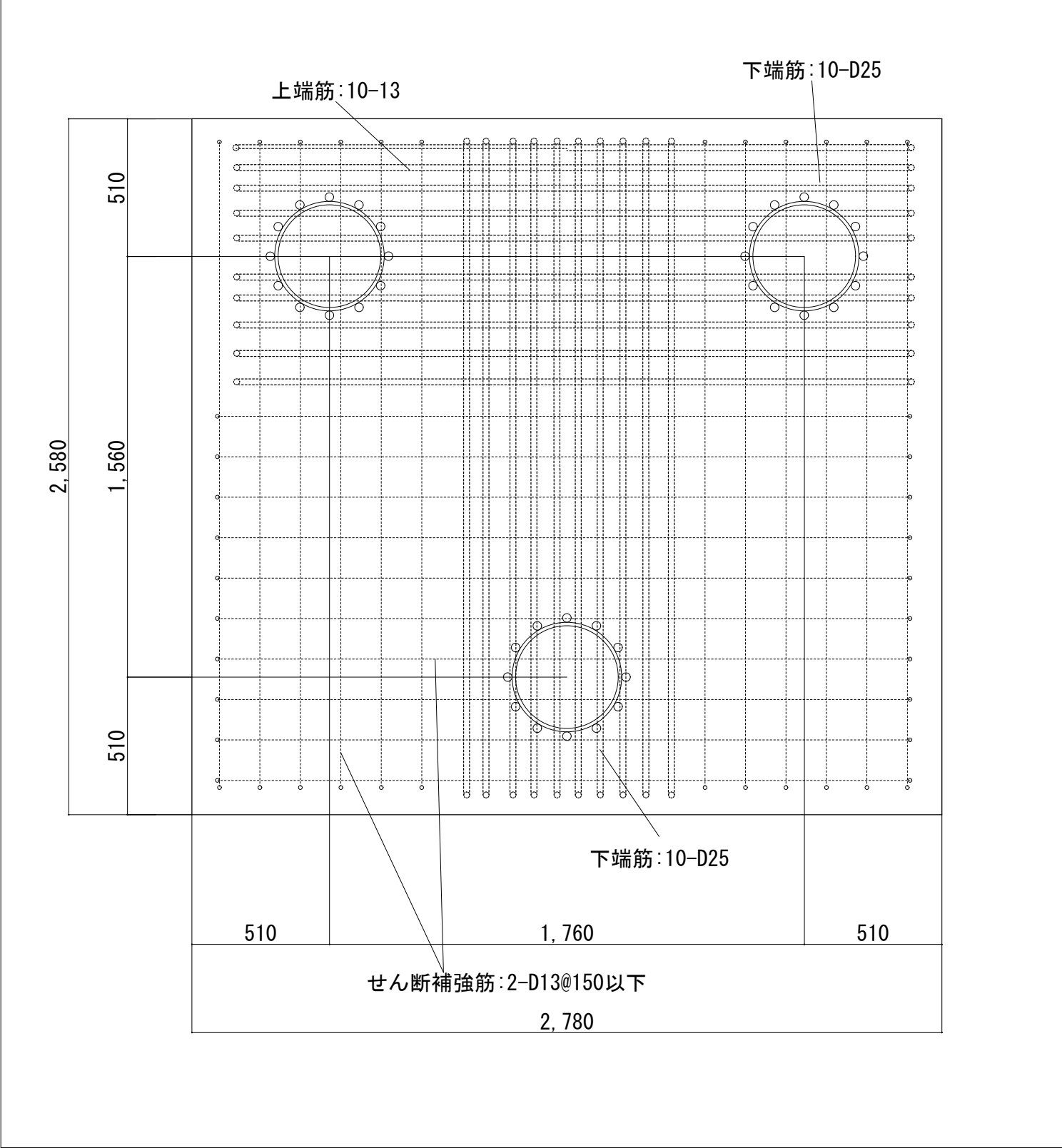
F1, F1A平面配筋図



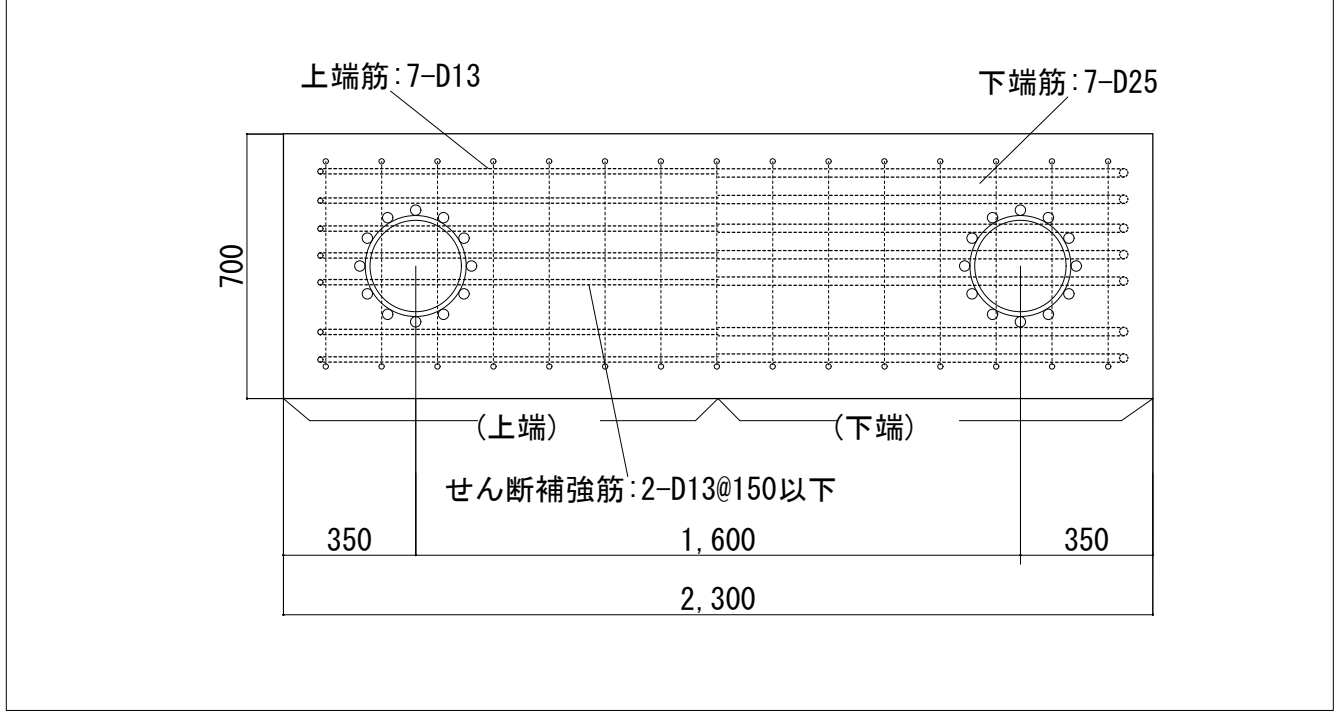
F2平面配筋図



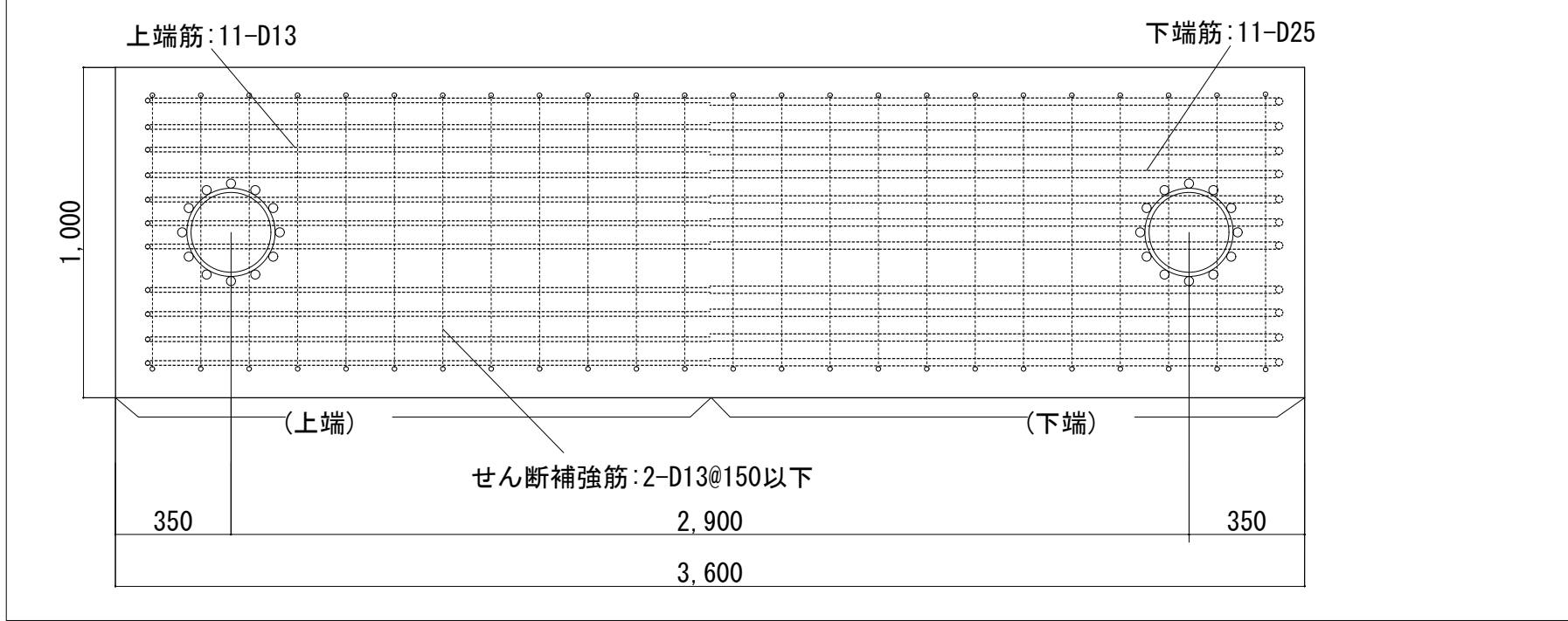
F3平面配筋図



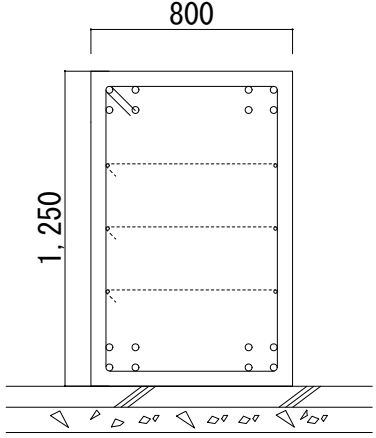
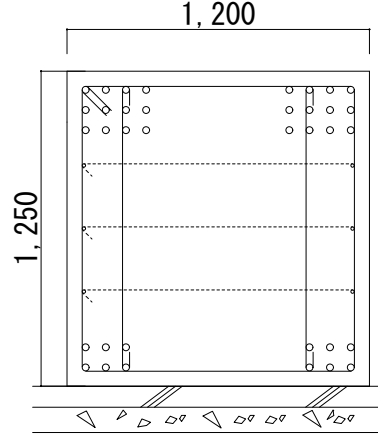
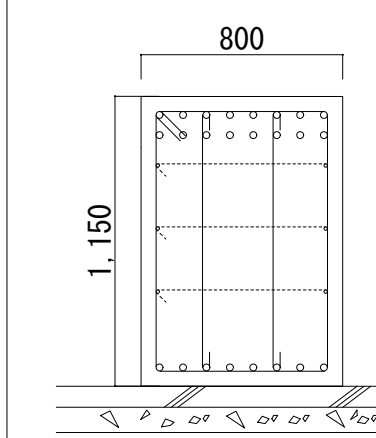
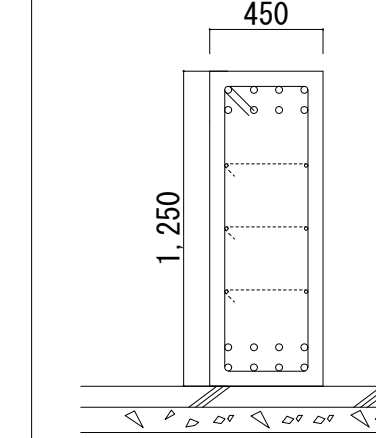
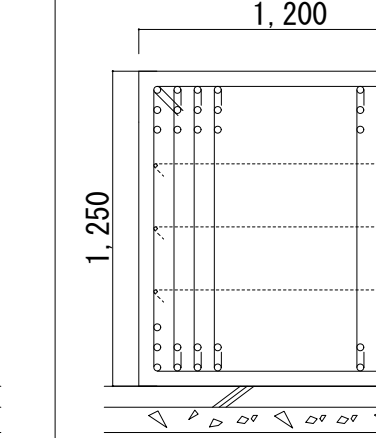
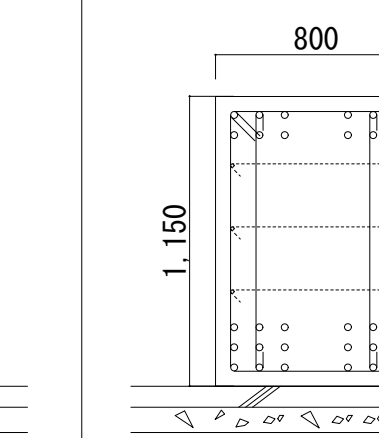
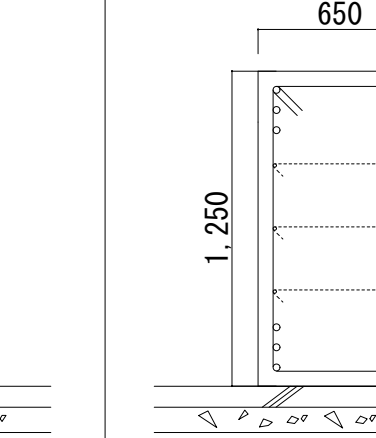
F4平面配筋図



F5平面配筋図



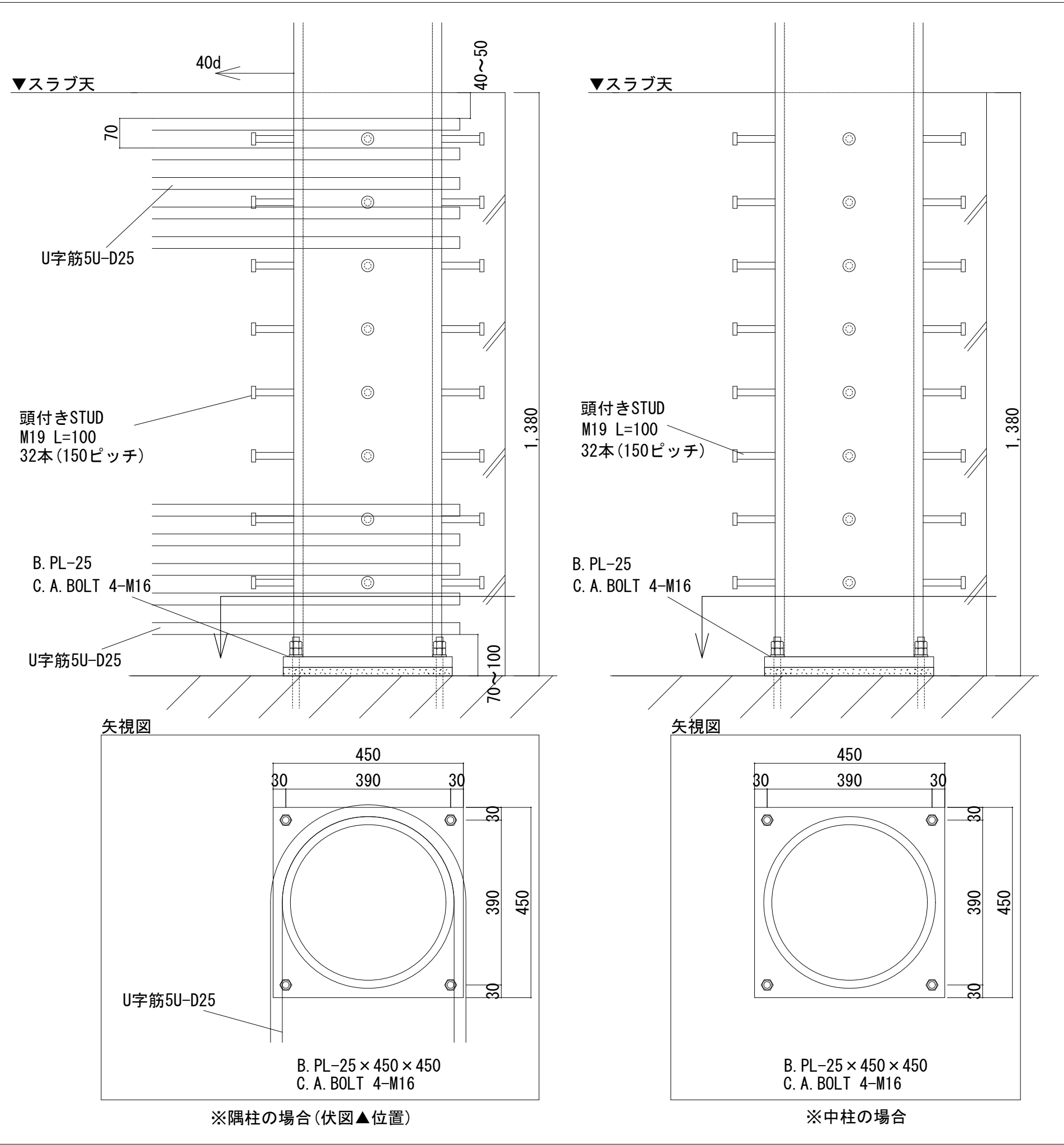
基礎梁リスト S=1/30

| 記 号 | FG1 | FG2 | FG3 | FG4 | FG5 | FG6 | FG7 |
|-------|---|---|---|--|---|---|---|
| 位 置 | 全断面 | 全断面 | 全断面 | 全断面 | 全断面 | 全断面 | 全断面 |
| 断 面 |  |  |  |  |  |  |  |
| B X D | 800x1250 | 1200x1250 | 800x1150 | 450x1250 | 1200x1250 | 800x1150 | 650x1250 |
| 上 端 筋 | 4/4-D25 | 8/8-8-D25 | 8/8-D25 | 4/4-D25 | 8/8/8-D25 | 6/6-D25 | 2/2/2-D25 |
| 下 端 筋 | 4/4-D25 | 6/6-D25 | 8-D25 | 4/4-D25 | 8/8/2-D25 | 6/6/6-D25 | 2/2/2-D25 |
| S T P | 2-D13@150 | 4-D13@100 | 4-D13@100 | 2-D13@150 | 8-D13@100 | 4-D13@100 | 2-D13@150 |
| 腹 筋 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 |
| 備 考 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 |

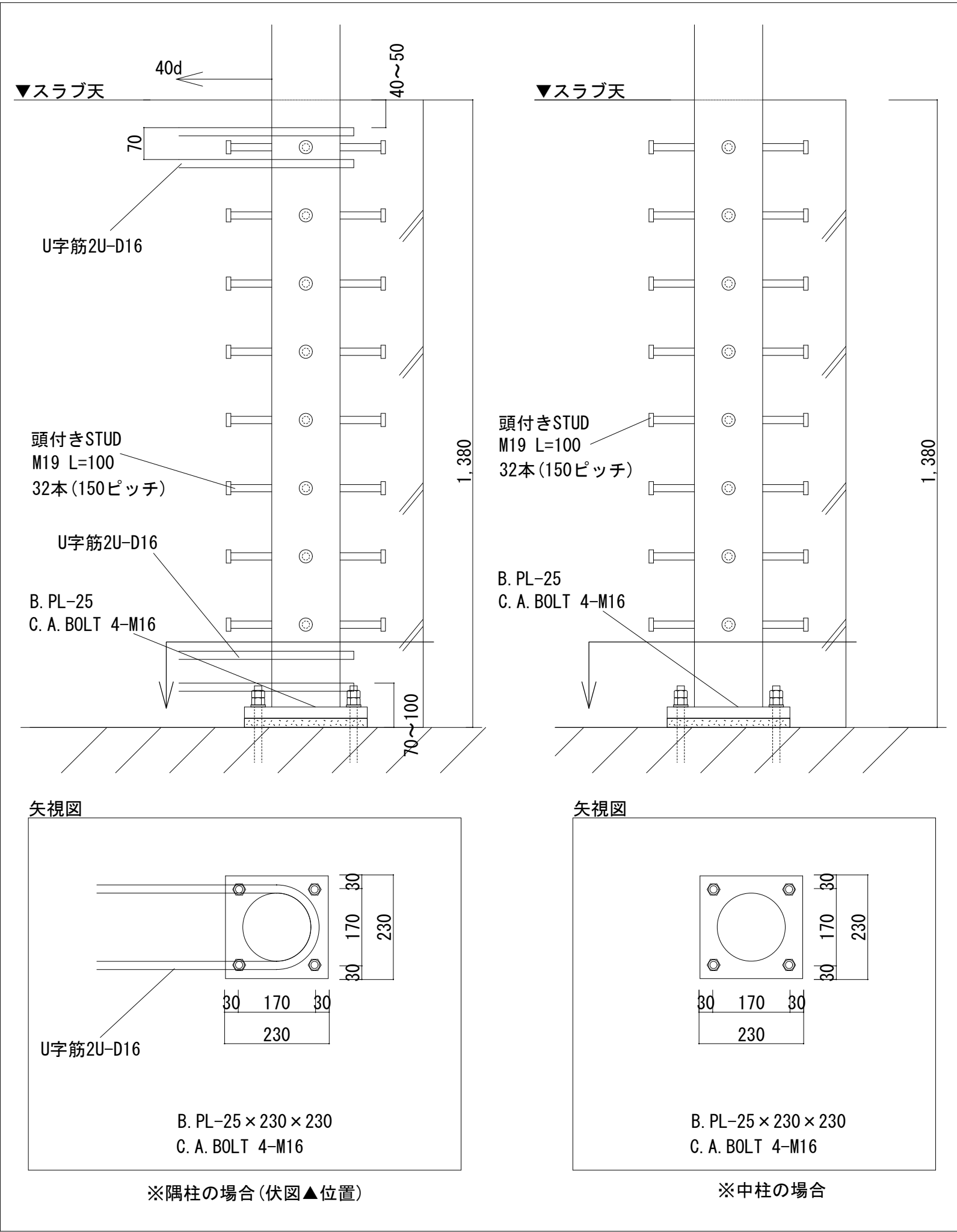
基礎スラブリスト

| 記号 | スラブ厚 | 位置 | 主筋方向 | 配力筋方向 | 備 考 |
|------|------|-----|---------|---------|------------------|
| FS1 | 150 | 上端筋 | D13@200 | D10@200 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 |
| | | 下端筋 | D10@200 | D10@200 | |
| FS2 | 150 | 上端筋 | D13@150 | D13@200 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 |
| | | 下端筋 | D10@150 | D10@200 | |
| FCS1 | 200 | 上端筋 | D13@150 | D10@200 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 |
| | | 下端筋 | D10@200 | D10@200 | |
| FCS2 | 200 | 上端筋 | D16@100 | D13@200 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 |
| | | 下端筋 | D16@100 | D10@200 | |

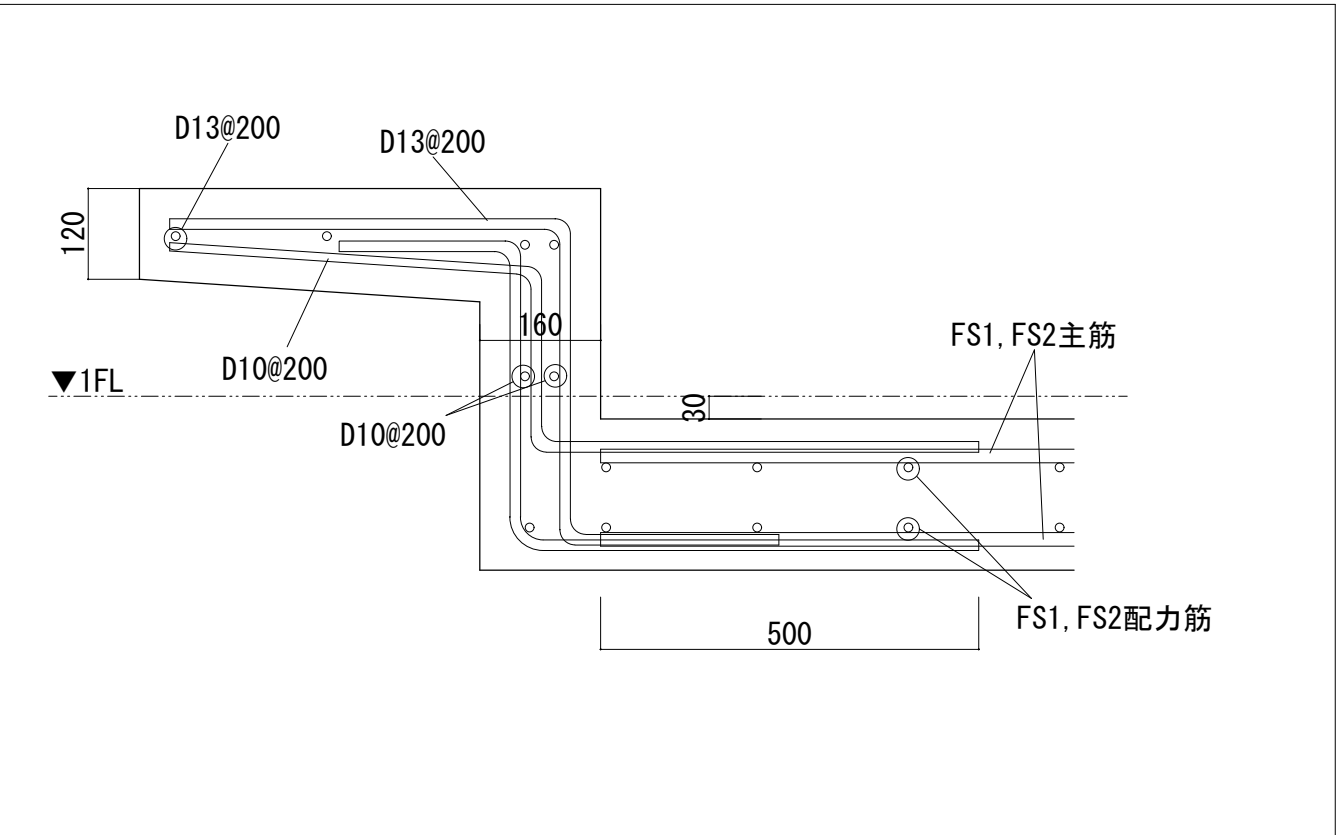
sC1柱脚詳細図 S=1/10



sP1, sP2柱脚詳細図 S=1/10



1階腰壁配筋詳細図 S=1/10



鉄骨部材リスト

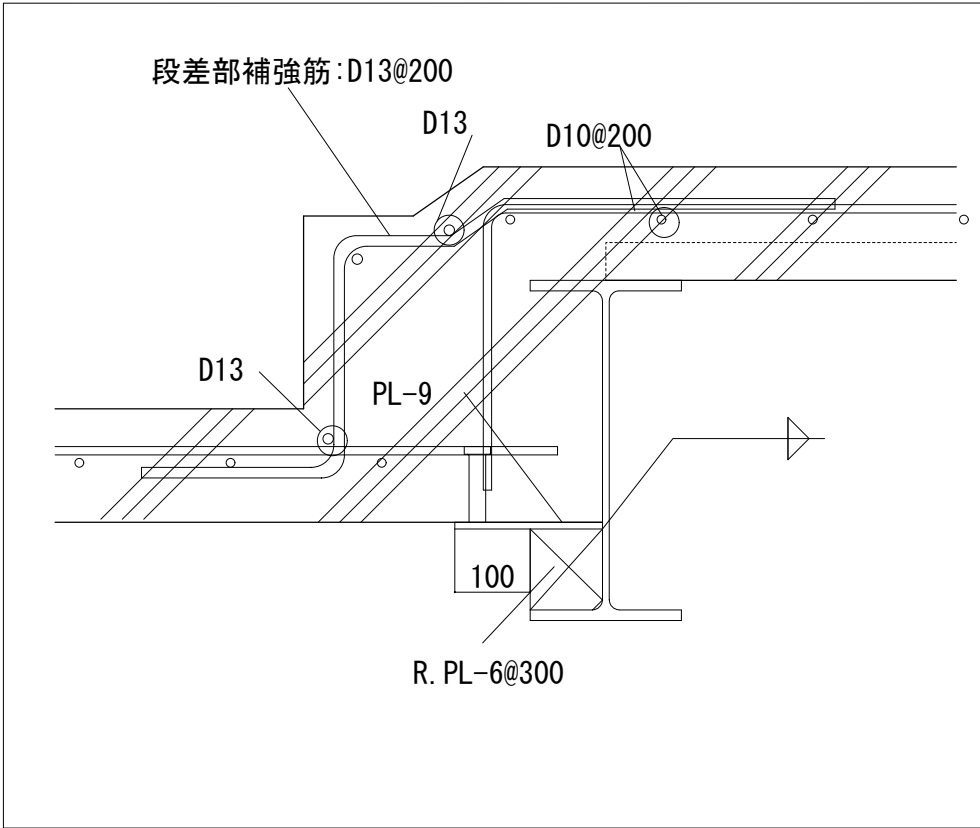
| 種別 | 記号 | 部材 | 材質 | 頭付きスタッド |
|------|-------|------------------------------|----------|------------------|
| 柱 | sC1 | ㊦-406.4×19 | STKM490B | |
| | sC2 | ㊦-406.4×16 | STKM490B | |
| | sC10 | H-100x100x6x8 | SS400 | |
| | sP1 | ○-130φ(ムク) | SS400 | |
| | sP2 | ○-150φ(ムク) | SS400 | |
| | wP1 | H-100x100x6x8 | SS400 | |
| 梁 | sG1 | H-600x200x11x17 | SN400B | 1列 22Φ@165 L=100 |
| | sG2 | H-600x300x12x28(ハイパーハイスレンドH) | SN490B | 2列 22Φ@165 L=100 |
| | sG3 | H-600x300x12x22(ハイパーハイスレンドH) | SN490B | 2列 22Φ@165 L=100 |
| | sG4 | H-440x300x11x18 | SN400B | 2列 22Φ@165 L=100 |
| | sG5 | H-450x250x12x22(ハイパーハイスレンドH) | SN400B | 2列 22Φ@165 L=100 |
| | sG6 | H-450x200x9x22(ハイパーハイスレンドH) | SN400B | 1列 22Φ@165 L=100 |
| | sG10 | H-100x100x6x8 | SS400 | |
| | sG11 | H-250x125x6x9 | SS400 | |
| | H100 | H-100x100x6x8 | SS400 | |
| | H200 | H-200x100x5.5x8 | SS400 | 1列 16Φ@300 L=100 |
| | H250 | H-250x125x6x9 | SS400 | 1列 16Φ@300 L=100 |
| | H300 | H-300x150x6.5x9 | SS400 | 1列 16Φ@300 L=100 |
| | H300b | H-300x300x10x15 | SS400 | 1列 16Φ@300 L=100 |
| | H350 | H-350x175x7x11 | SS400 | 1列 16Φ@300 L=100 |
| | H450 | H-450x200x9x14 | SS400 | 1列 16Φ@300 L=100 |
| | H600 | H-600x200x11x17 | SS400 | 1列 16Φ@300 L=100 |
| | H600b | H-600x300x16x32(ハイパーハイスレンドH) | SS400 | 1列 16Φ@300 L=100 |
| | wB1 | H-100x100x6x8(横使い) | SS400 | |
| ブレース | vBR1 | M16(ターンバックル付き) | SS400 | |

※特記事項
ダイアフラムの材質はSN490Cとし、厚さはとりつく梁フランジの2サイズ上とする

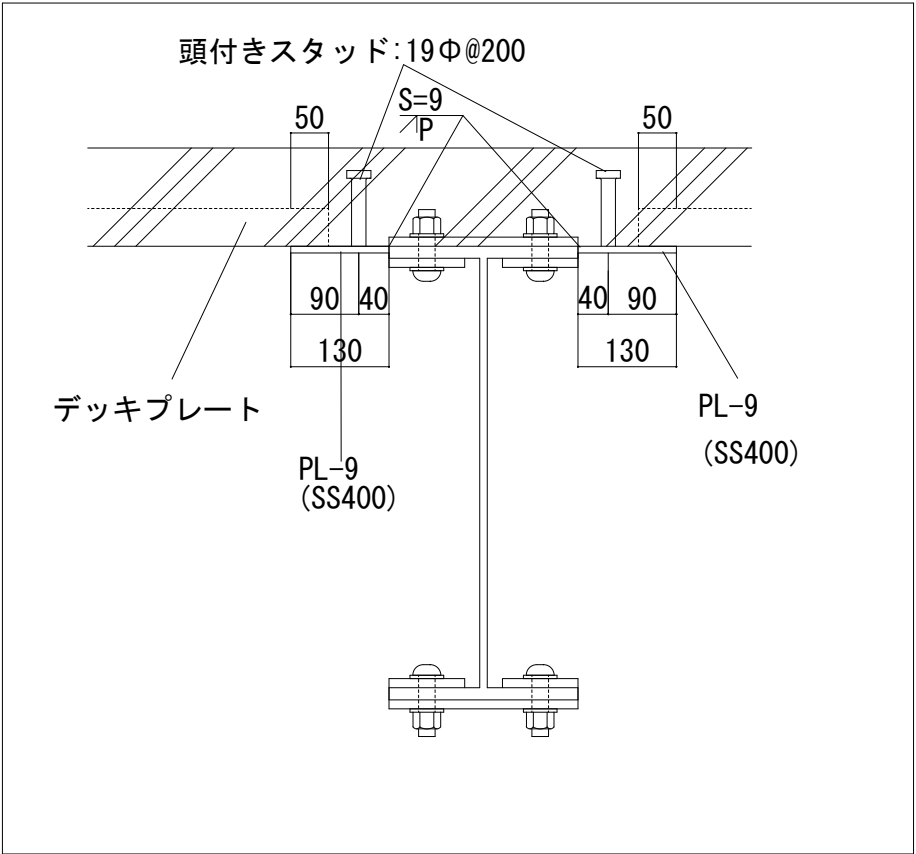
上階スラブリスト

| 記号 | スラブ厚 | 位置 | 配筋 | 備 考 |
|-----|---------------------|-----|-------------|------------------|
| DS1 | 150 (山上100+山下50) | 山上筋 | D10-200x200 | QL 99-50 (t=1.2) |
| | | 溝内筋 | 1-D13 | |
| DS2 | 150 (山上100+山下50) | 山上筋 | D13-200x200 | QL 99-50 (t=1.2) |
| | | 溝内筋 | 1-D13 | |

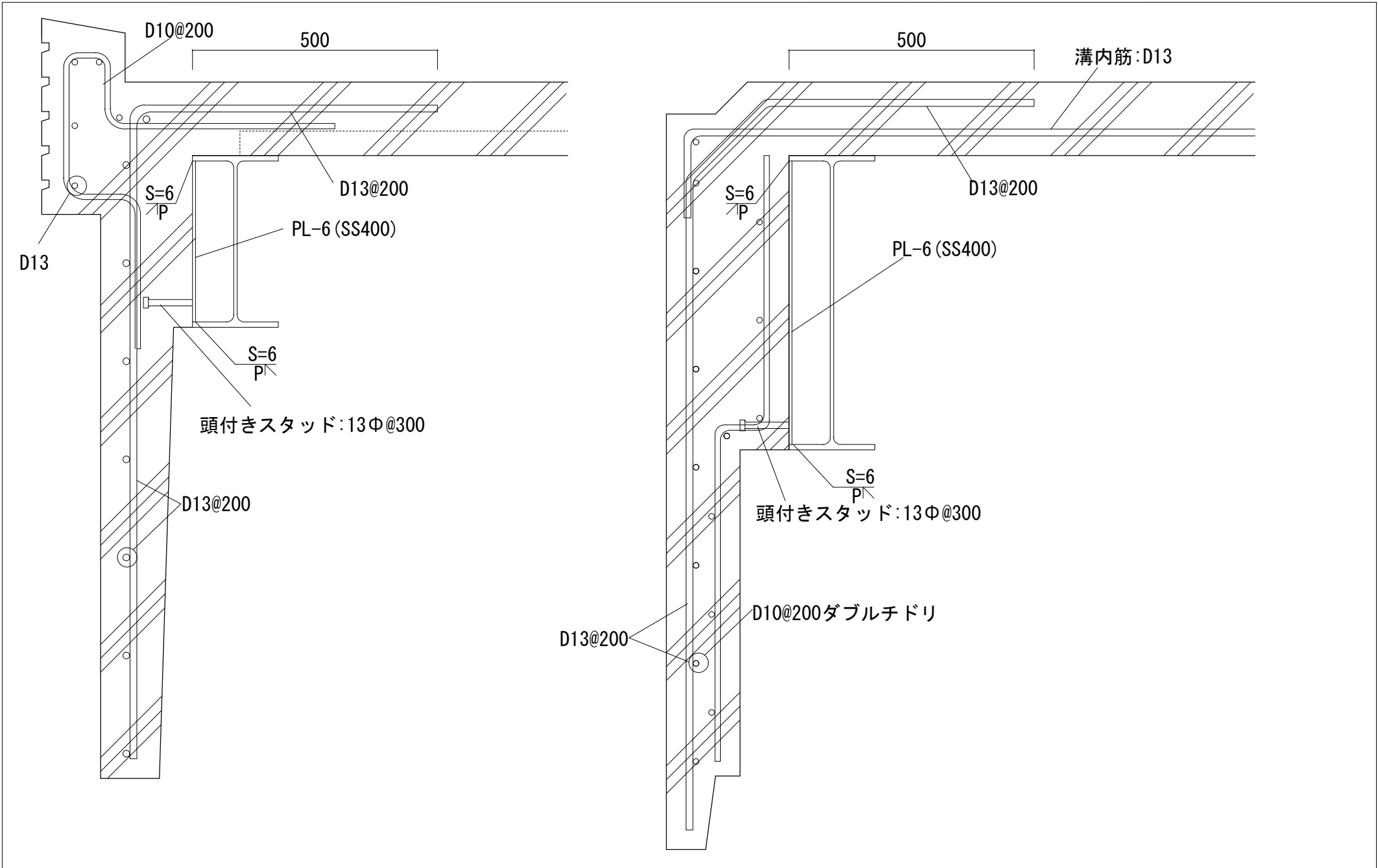
スラブ段差部詳細図 S=1/10



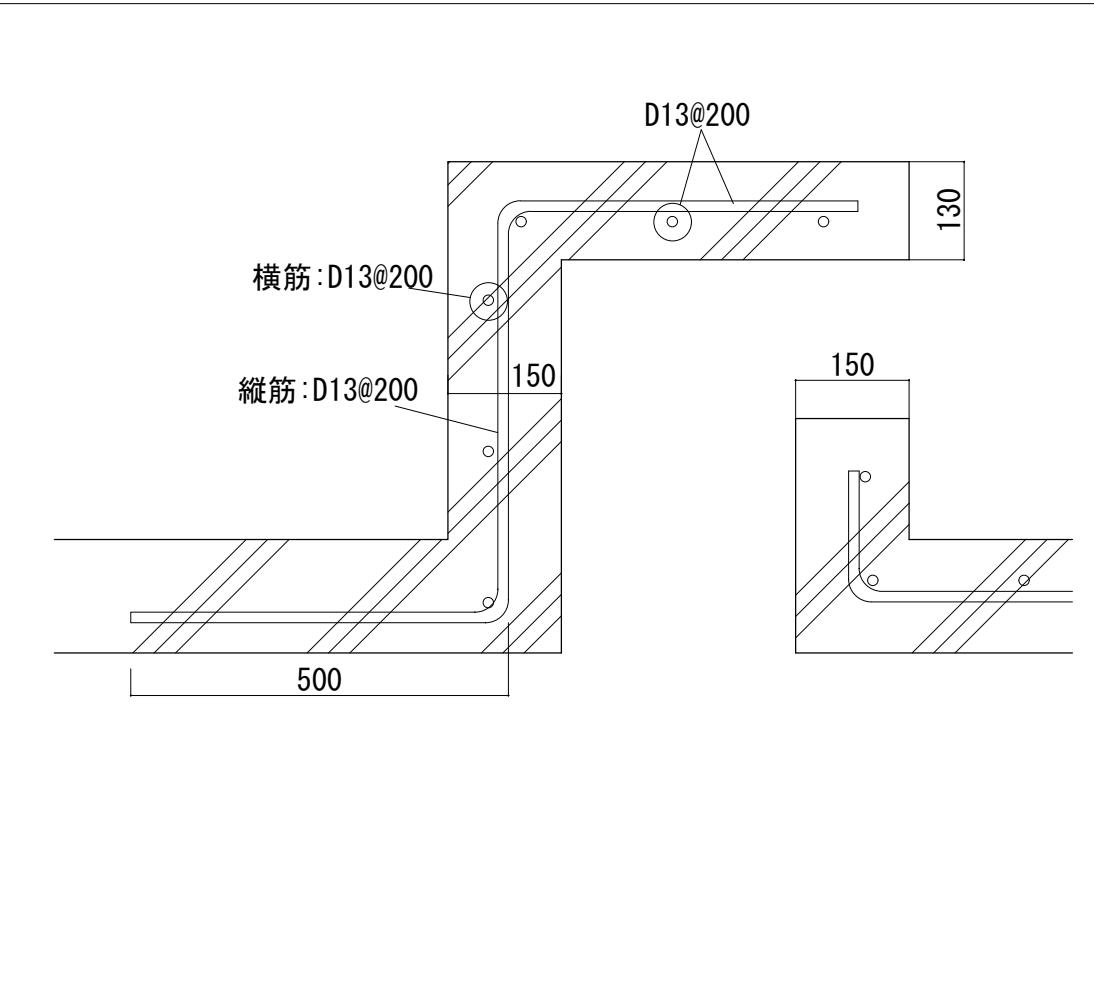
継手部デッキ受け詳細図 S=1/10



上階RC垂壁詳細図 S=1/10



ハト小屋配筋詳細図 S=1/10



鉄骨梁剛継手リスト S=1/20

※SCSS-H97による
※特記なき場合HTBはF10T又はS10Tとする

| | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|--------|-----------------------------------|--------|--------------------------|--------|--------------------------|--------|--------------------------|--------|--------------------------|-------|
| H-600x300x12x22 | SN490B | H-600x300x12x28 | SN490B | H-600x200x11x17 | SN400B | H-440x300x11x18 | SN400B | H-600x300x16x32 | SS400 | H-450x200x9x14 | SS400 |
| | | | | | | | | | | | |
| F. SPL 外 1SPL-16x300x800 (SN490B) | HTB | F. SPL 外 1SPL-19x300x890 (SN490B) | HTB | F. SPL 外 1SPL-12x200x410 | HTB | F. SPL 外 1SPL-12x300x440 | HTB | F. SPL 外 1SPL-22x300x710 | HTB | F. SPL 外 1SPL-12x200x410 | HTB |
| 内 2SPL-19x110x800 (SN490B) | 16-M20 | 内 2SPL-22x110x890 (SN490B) | 18-M20 | 内 2SPL-12x80x410 | 6-M20 | 内 2SPL-12x110x440 | 8-M20 | 内 2SPL-22x110x710 | 14-M20 | 内 2SPL-12x80x410 | 6-M20 |
| W. SPL 2SPL-12x380x290 (SN490B) | 12-M20 | W. SPL 2SPL-12x380x290 (SN490B) | 12-M20 | W. SPL 2SPL-9x440x290 | 8-M20 | W. SPL 2SPL-9x320x170 | 5-M20 | W. SPL 2SPL-12x440x290 | 10-M20 | W. SPL 2SPL-9x320x170 | 5-M20 |

鉄骨梁ピン継手リスト S=1/20

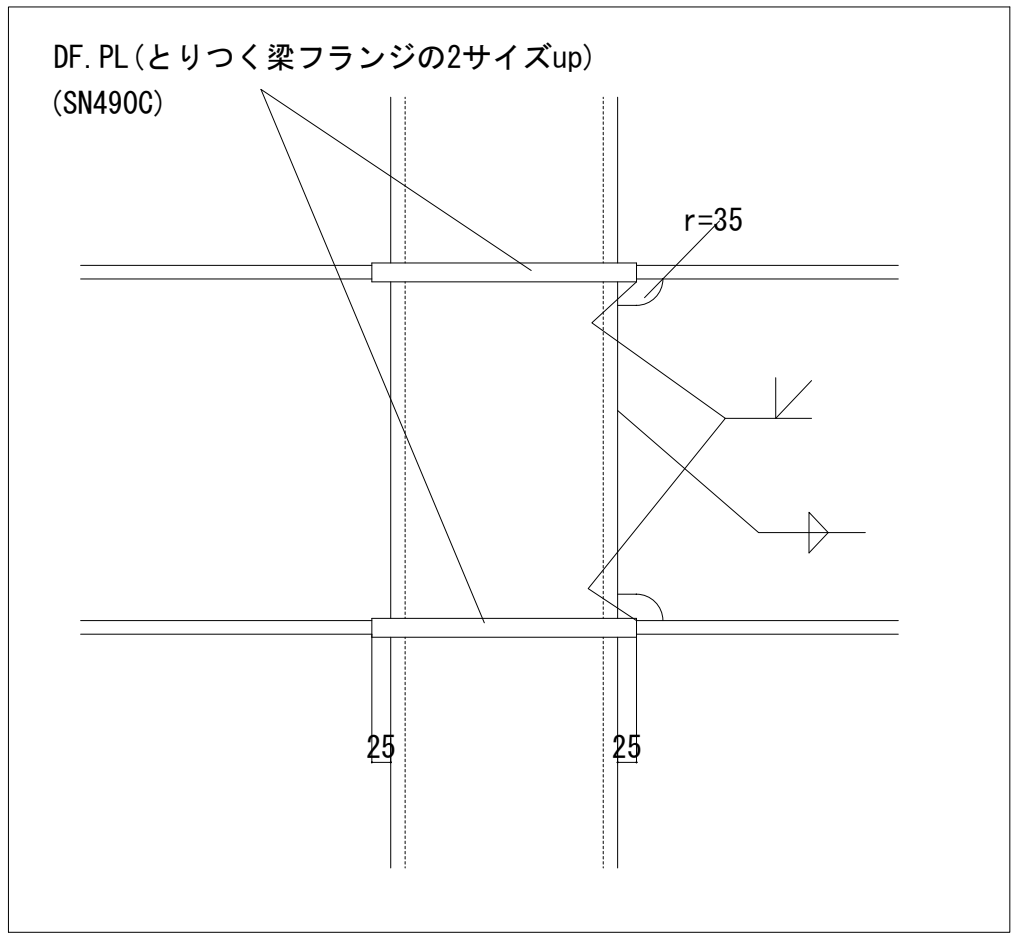
※特記なき場合HTBはF10T又はS10Tとする
※G. PLの対面にはR. PLを設けること。厚さ、材質はG. PLと同等とする

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-----------|-----------------|-----------|-----------------|-----------|-----------------|-----------|-----------------|-----------|----------------|-----------|----------------|------------|-----------------|------------|
| H-100x100x6x8 | SS400 | H-200x100x5.5x8 | SS400 | H-250x125x6x9 | SS400 | H-300x150x6.5x9 | SS400 | H-300x300x10x15 | SS400 | H-350x175x7x11 | SS400 | H-450x200x9x14 | SS400 | H-450x250x12x22 | SS400 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| G. PL-9 | HTB 2-M16 | G. PL-9 | HTB 2-M20 | G. PL-9 | HTB 2-M20 | G. PL-12 | HTB 6-M20 | G. PL-12 | HTB 6-M22 | G. PL-12 | HTB 8-M22 | G. PL-12 | HTB 10-M22 | G. PL-12 | HTB 10-M22 |
| H-600x200x11x17 | SS400 | H-600x300x16x32 | SS400 | H-600x300x12x22 | SN490B | H-600x300x12x28 | SN490B | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| G. PL-12 | HTB 8-M22 | G. PL-12 | HTB 8-M22 | G. PL-12 | HTB 8-M22 | G. PL-12 | HTB 8-M22 | | | | | | | | |

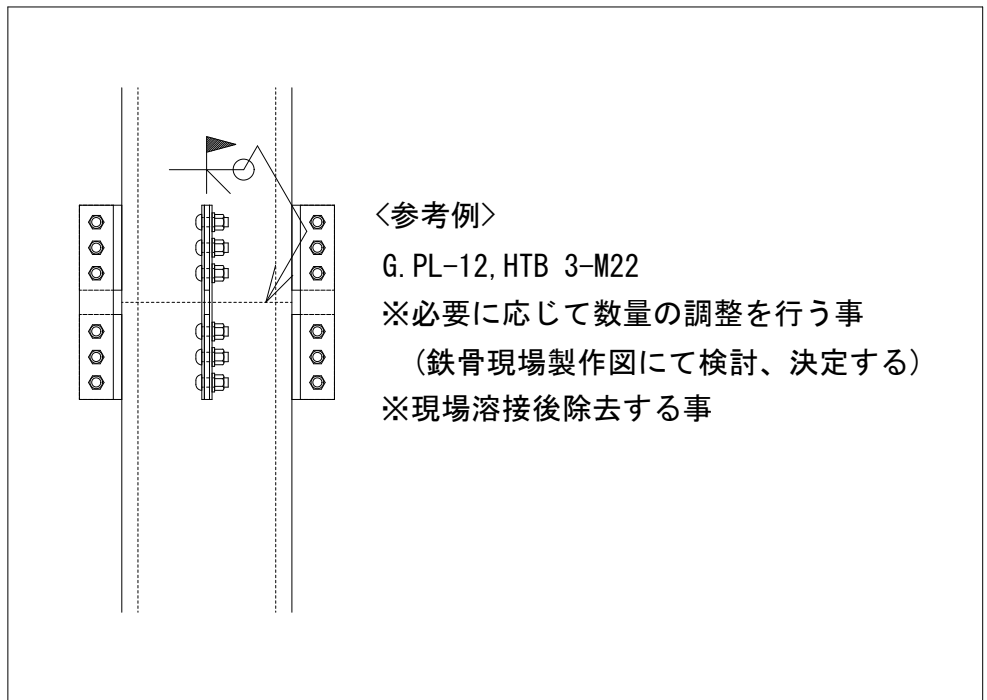
ブレース継手リスト S=1/20

| | |
|----------|-----------|
| M16 (TB) | SS400 |
| | |
| G. PL-9 | HTB 1-M16 |

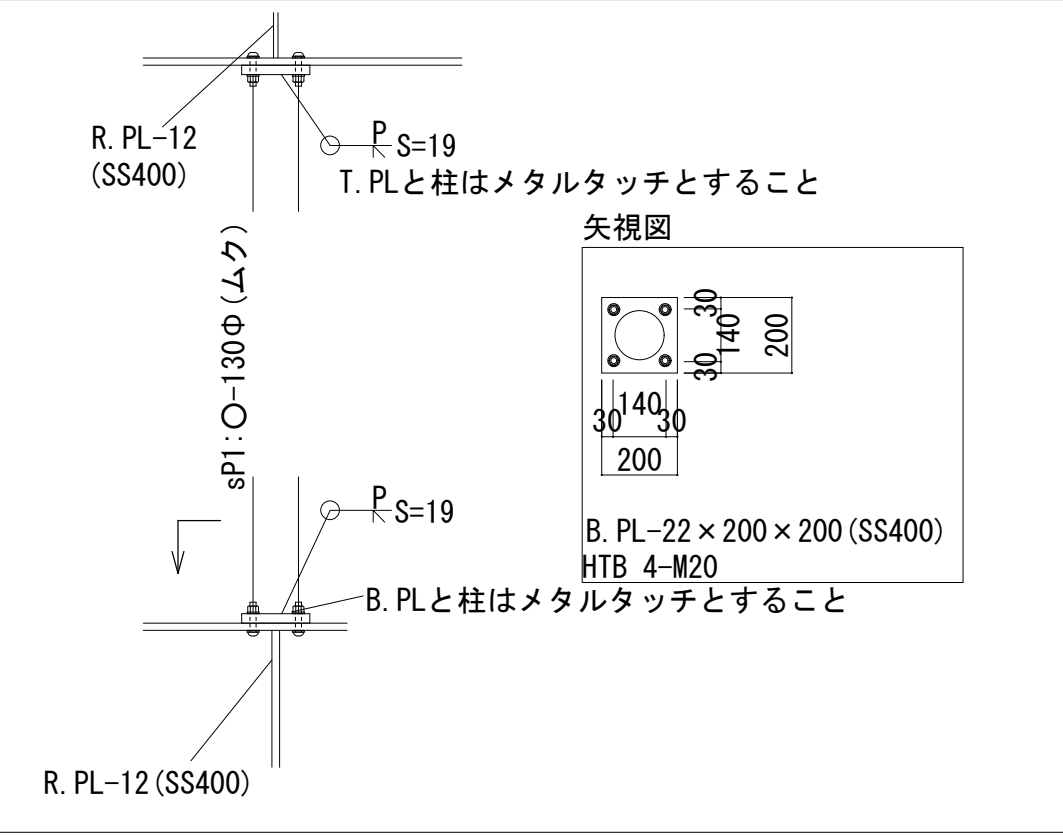
鋼管柱仕口詳細図



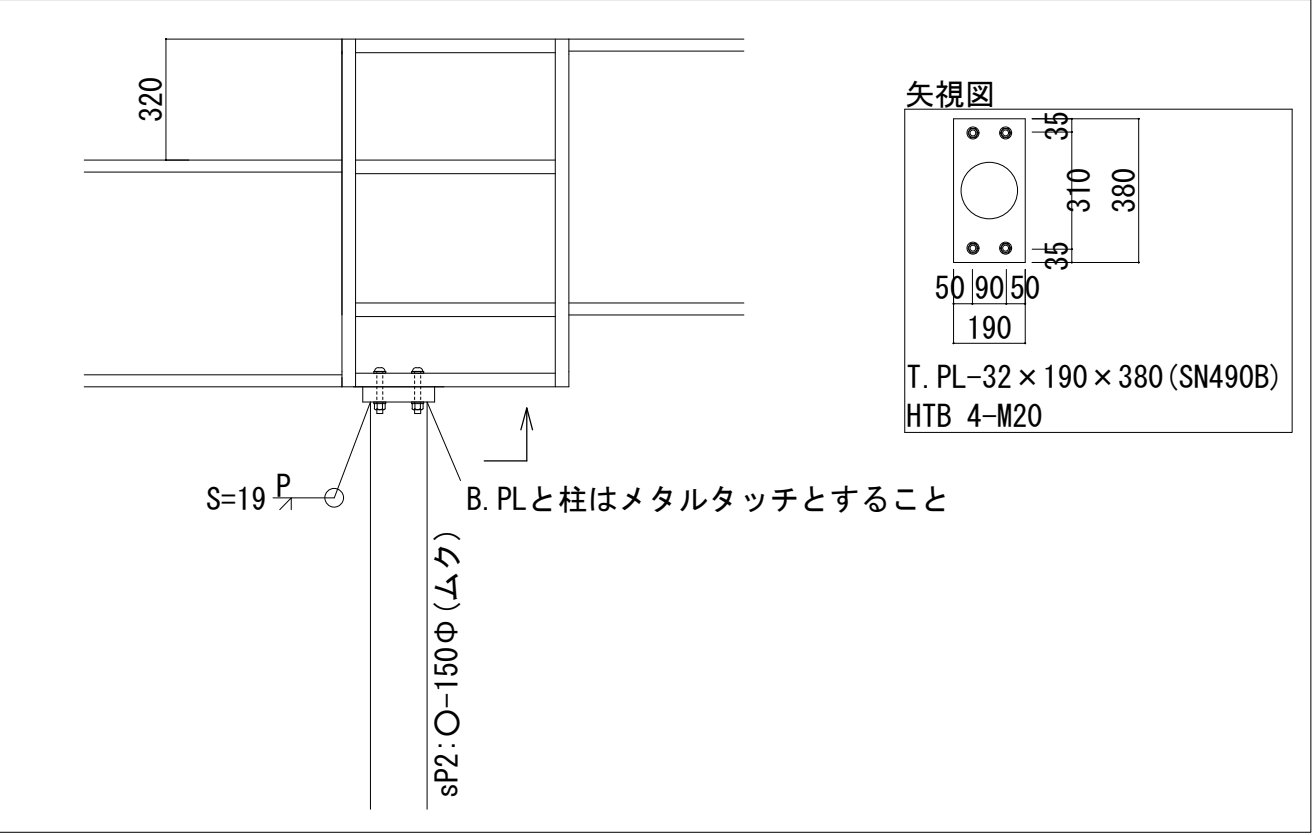
鋼管柱現場溶接継手詳細図



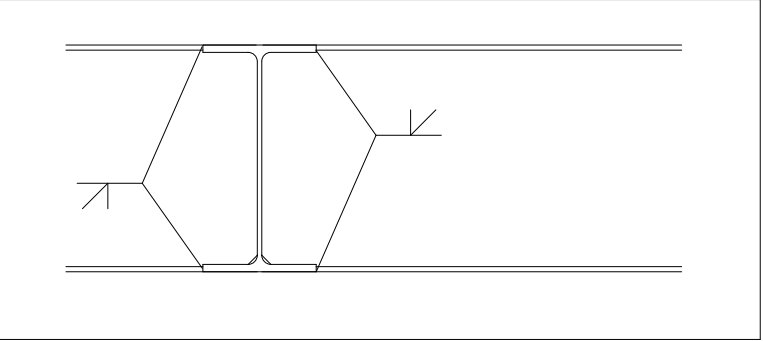
sP1柱頭柱脚詳細図 S=1/20



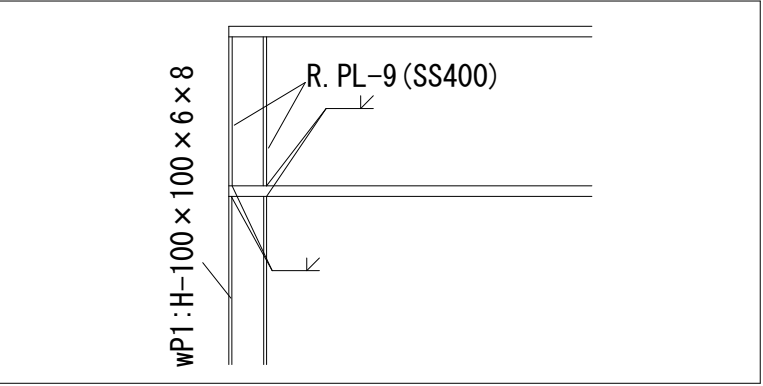
sP2柱頭詳細図 S=1/20



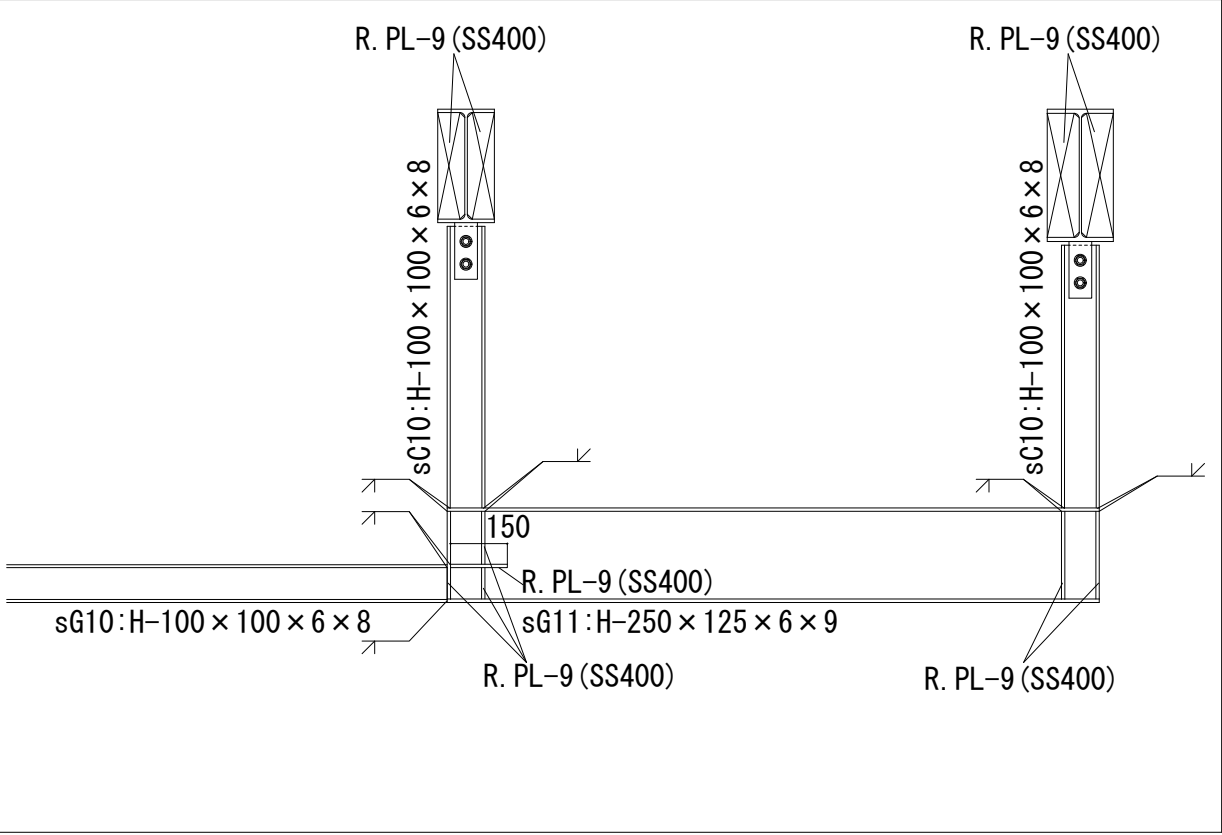
梁交差部詳細図 S=1/20



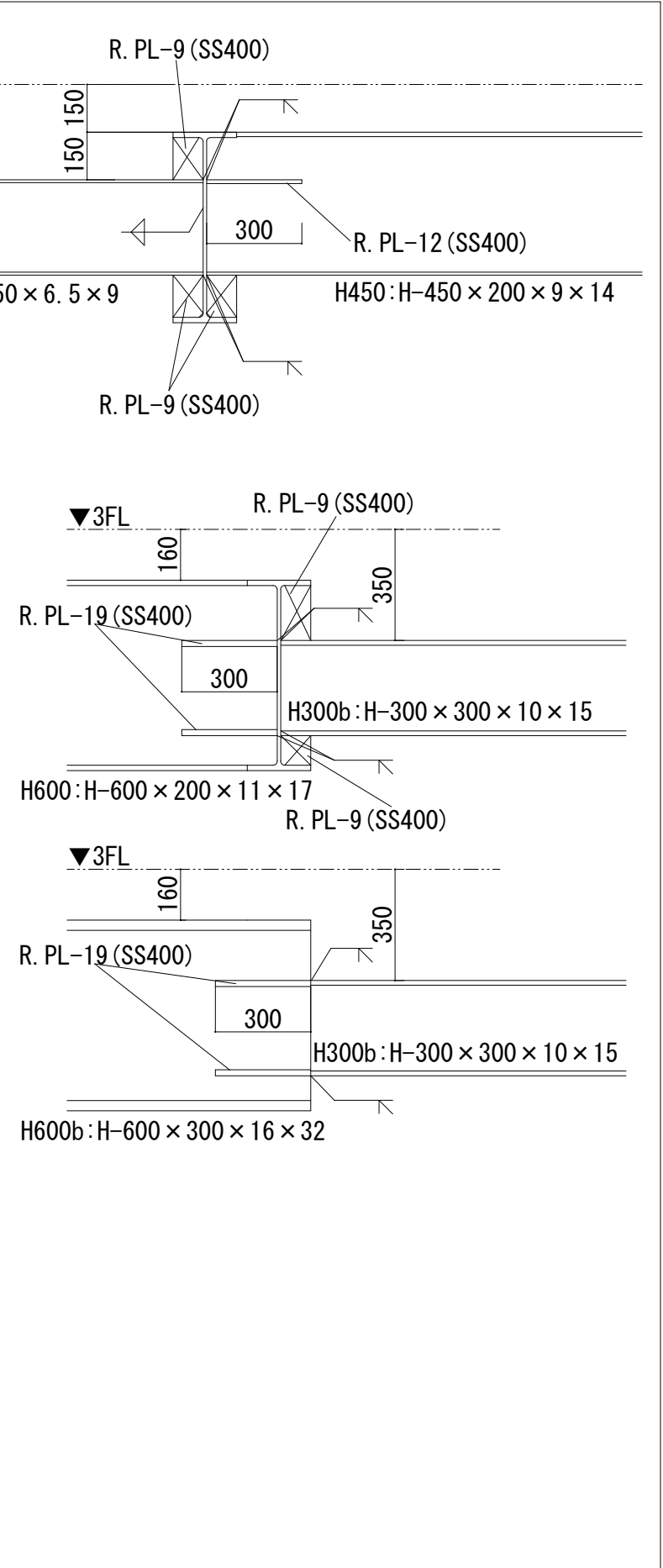
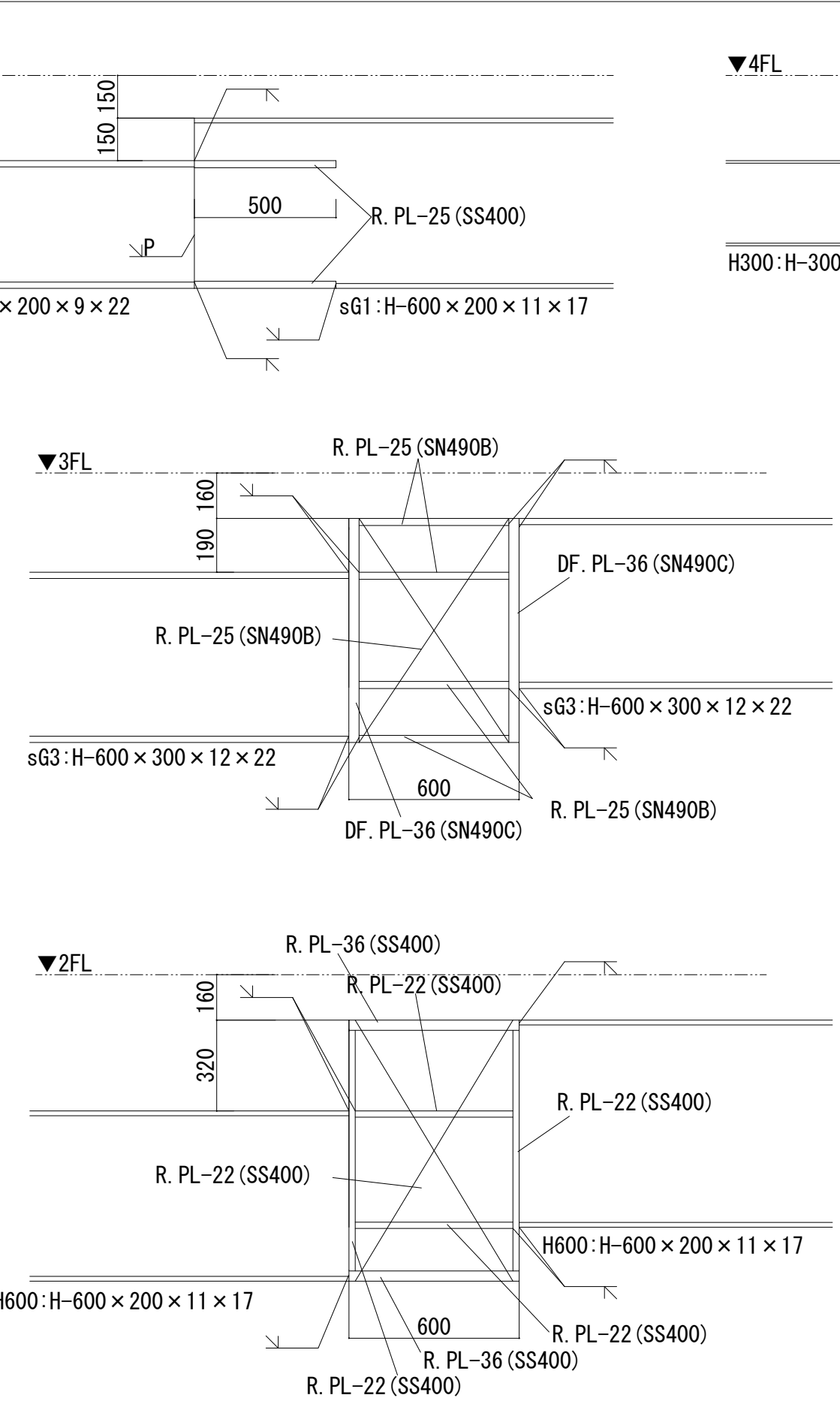
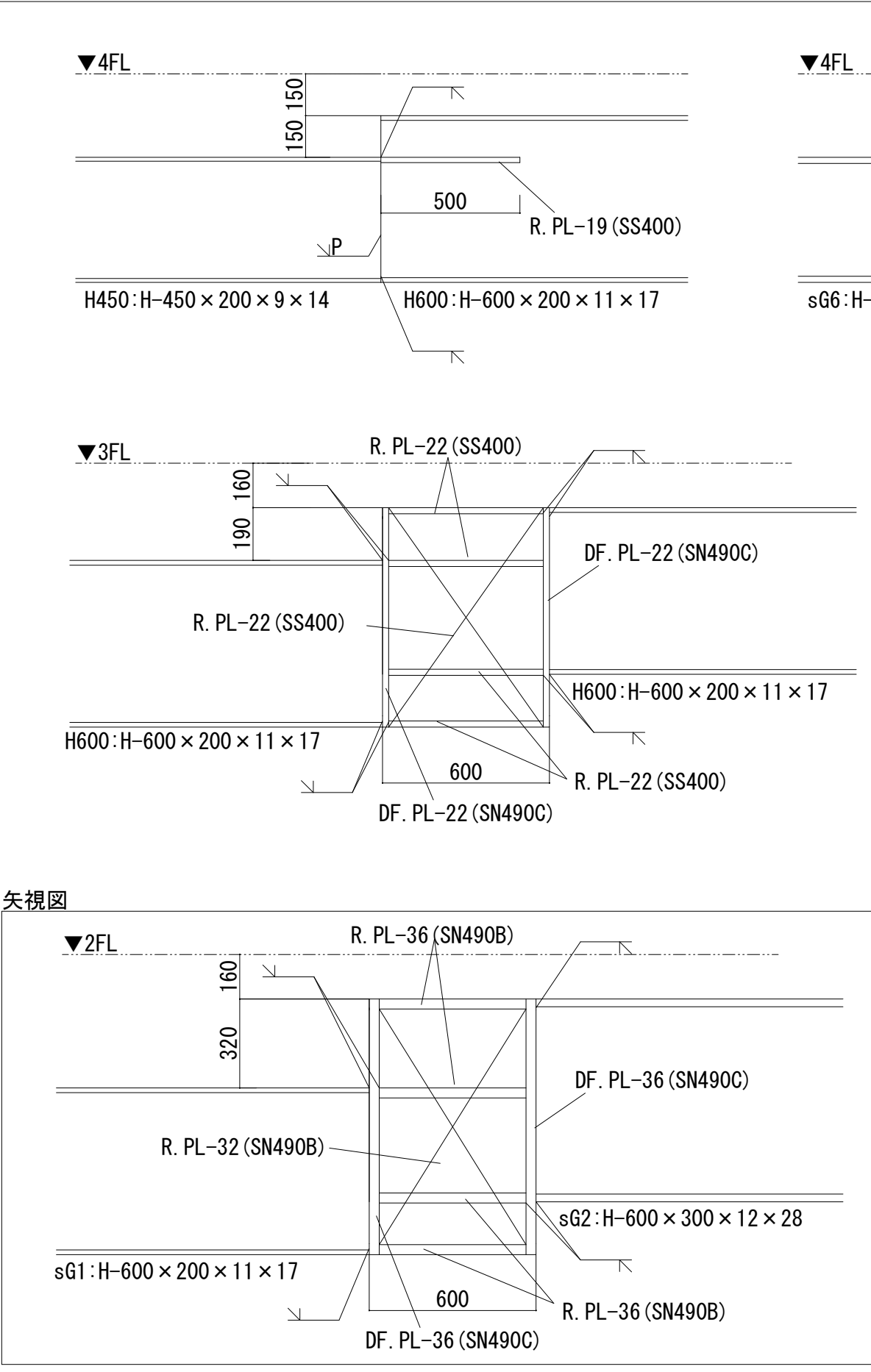
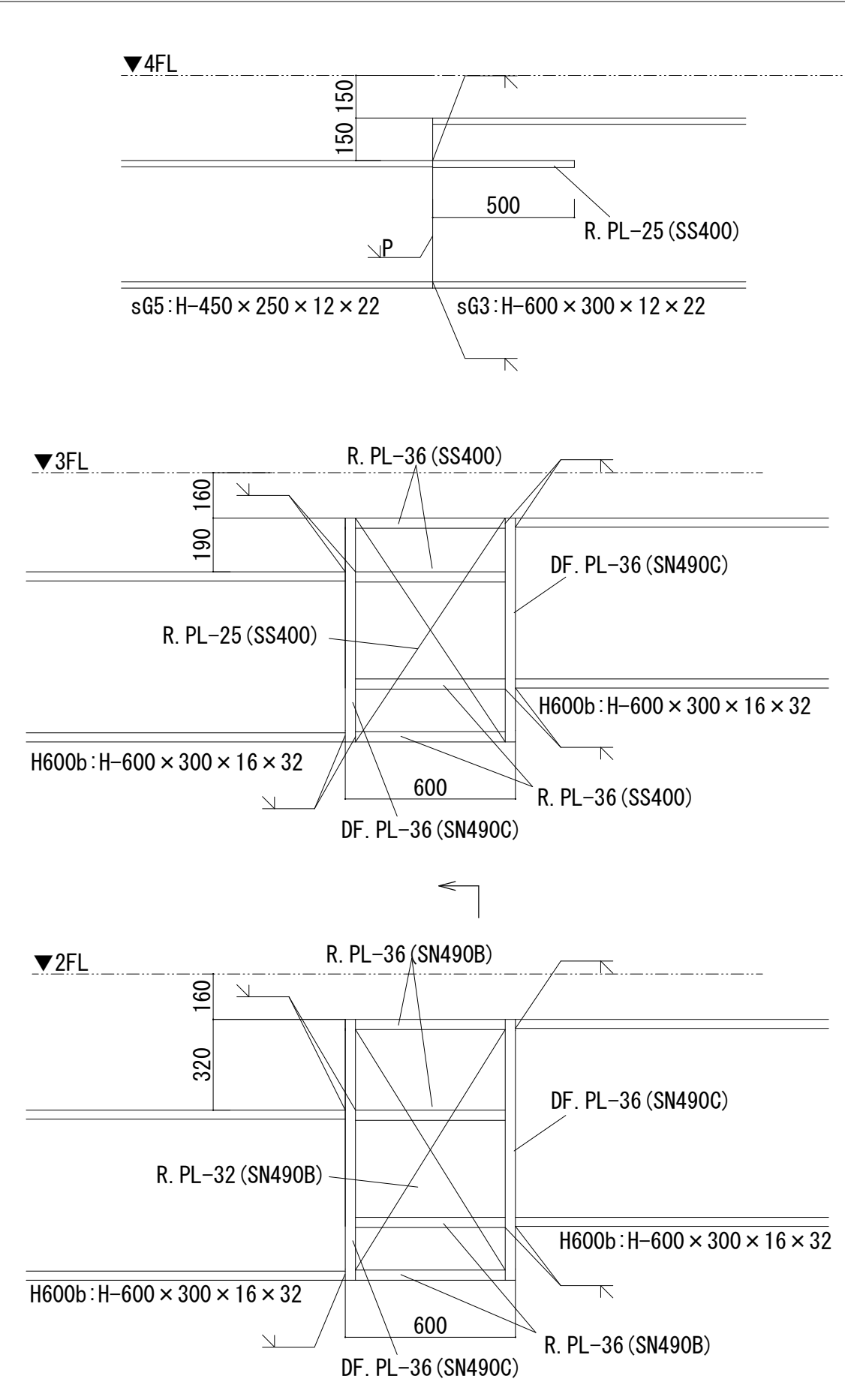
wP1溶接詳細図 S=1/20



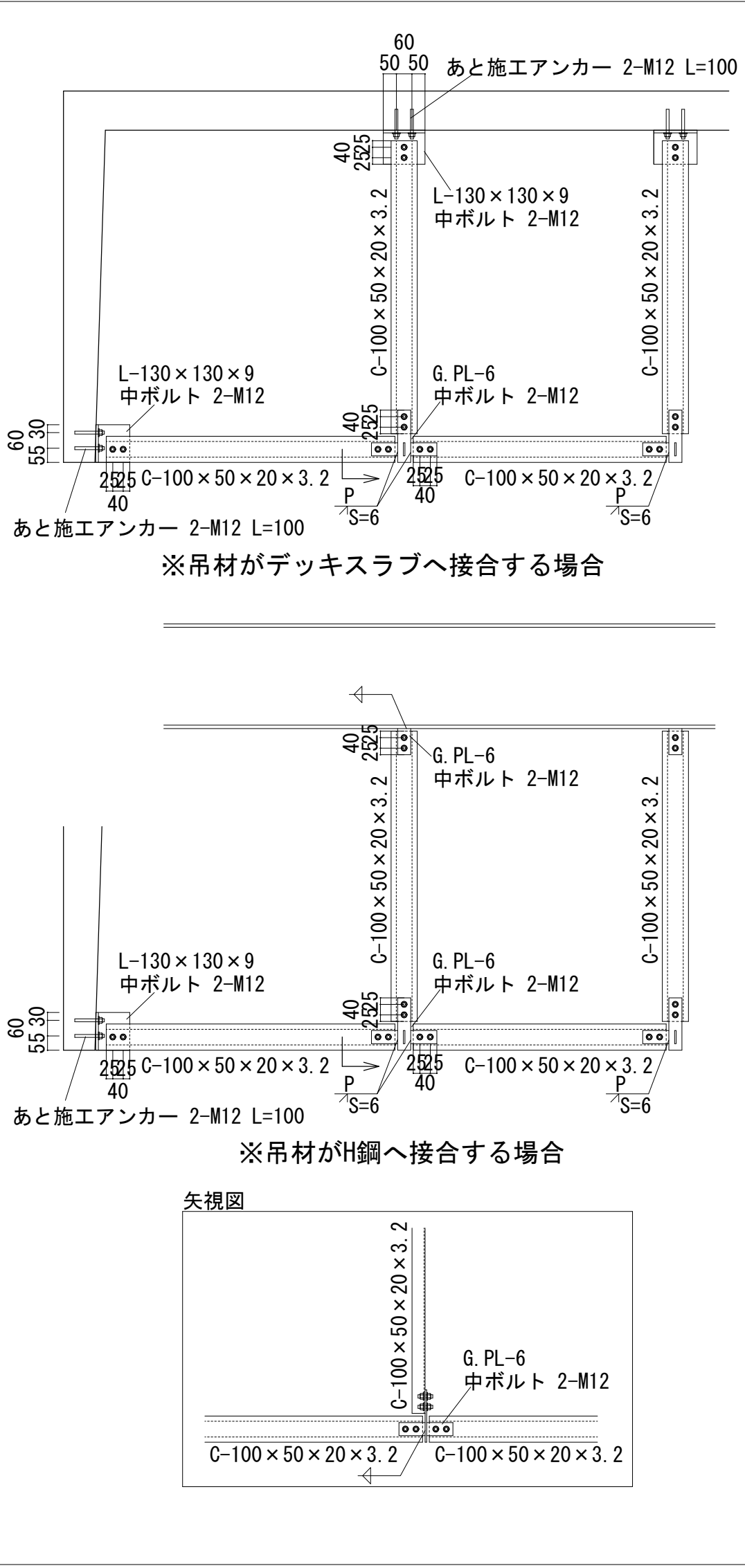
sG10, sG11-sC10接合詳細図 S=1/20

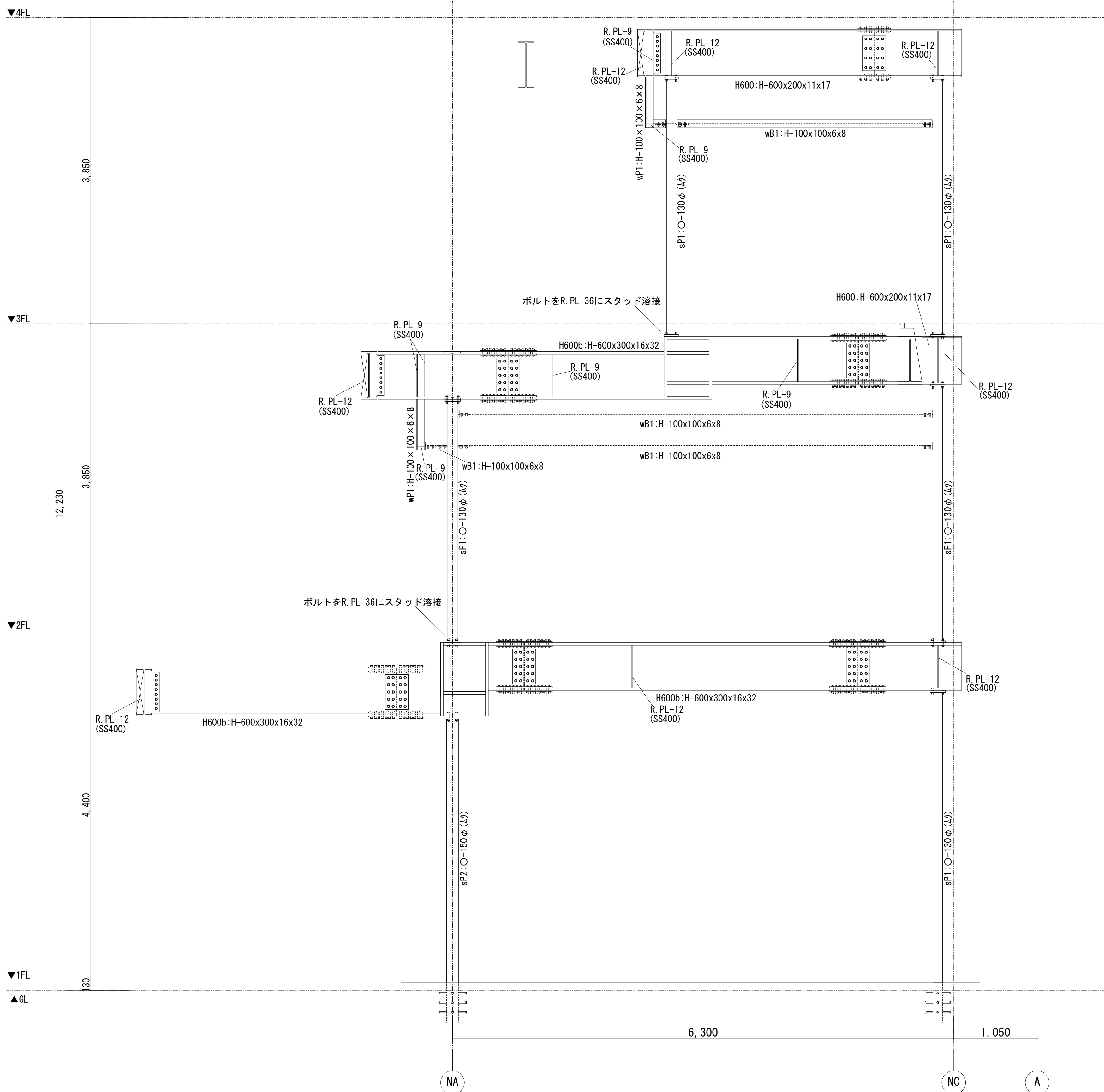


梁段差部詳細図 S=1/20

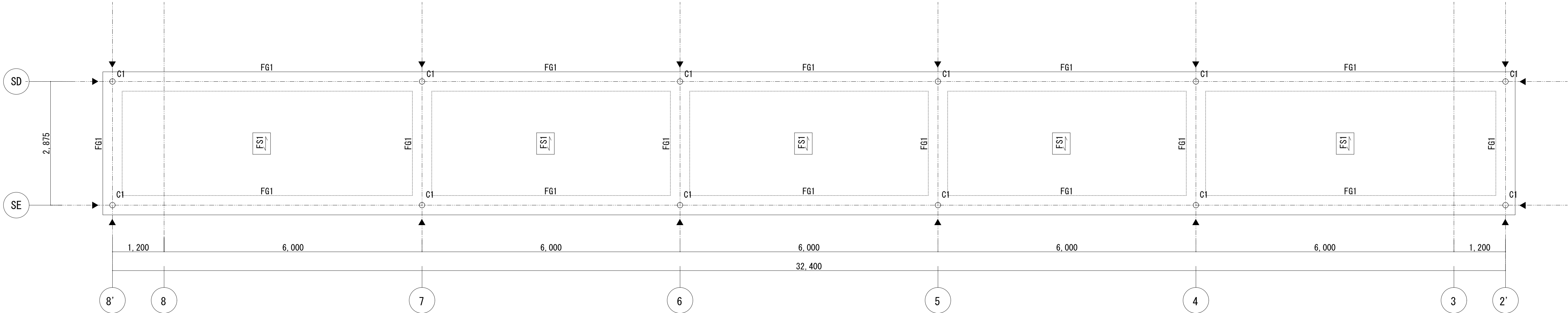


天井下地接合部詳細図 S=1/20





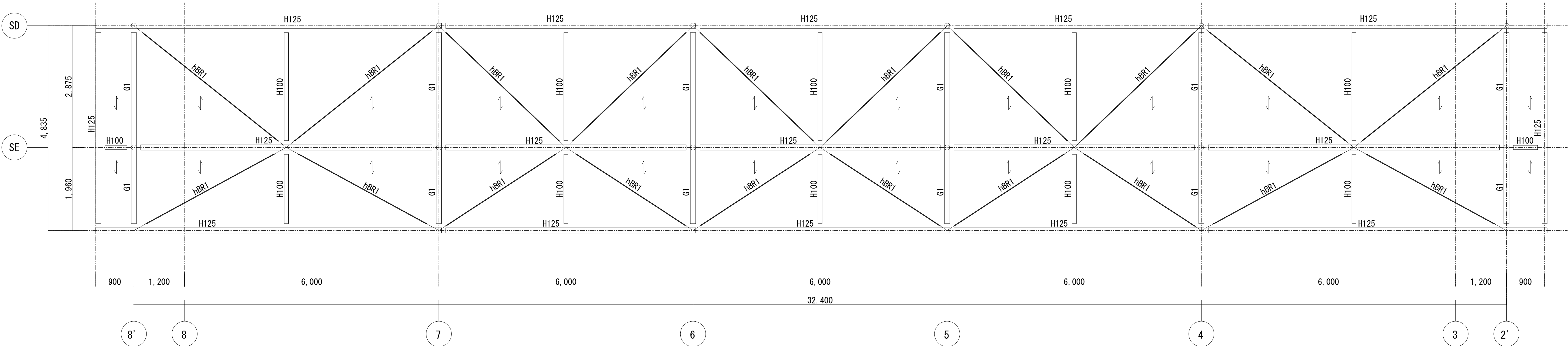
2通り+2450架構詳細図 S=1/30
※特記なきR. PLの材質はSS400とする
※特記なきDF. PLの材質はSN490Cとする



車寄せ 1階伏図 S=1/50

特記事項

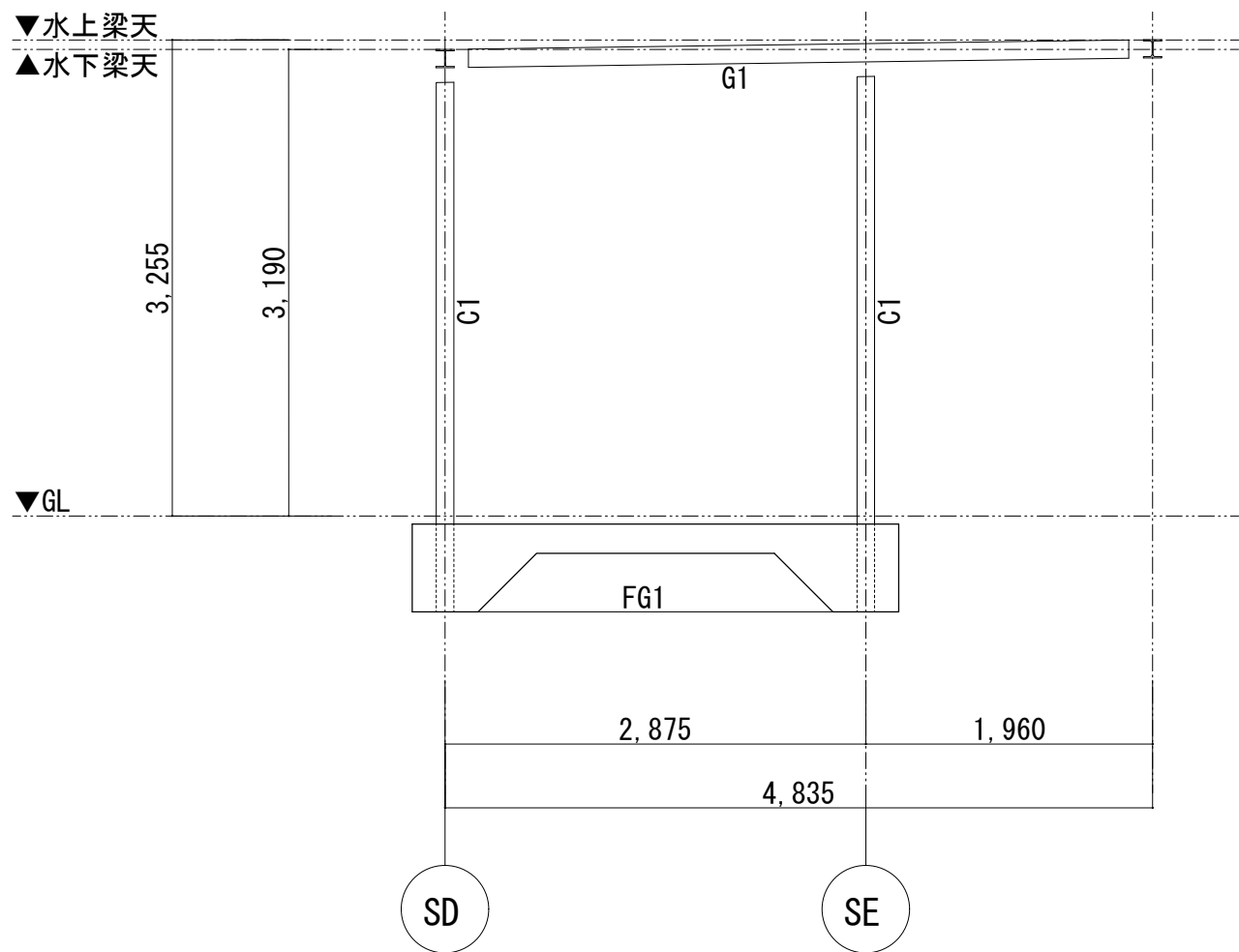
- ↖ は主筋方向を表す
- 基礎梁天, スラブ天=GL-55
- ▲部は埋め込み柱脚U字補強筋設置箇所を表す



車寄せ 屋根伏図 S=1/50

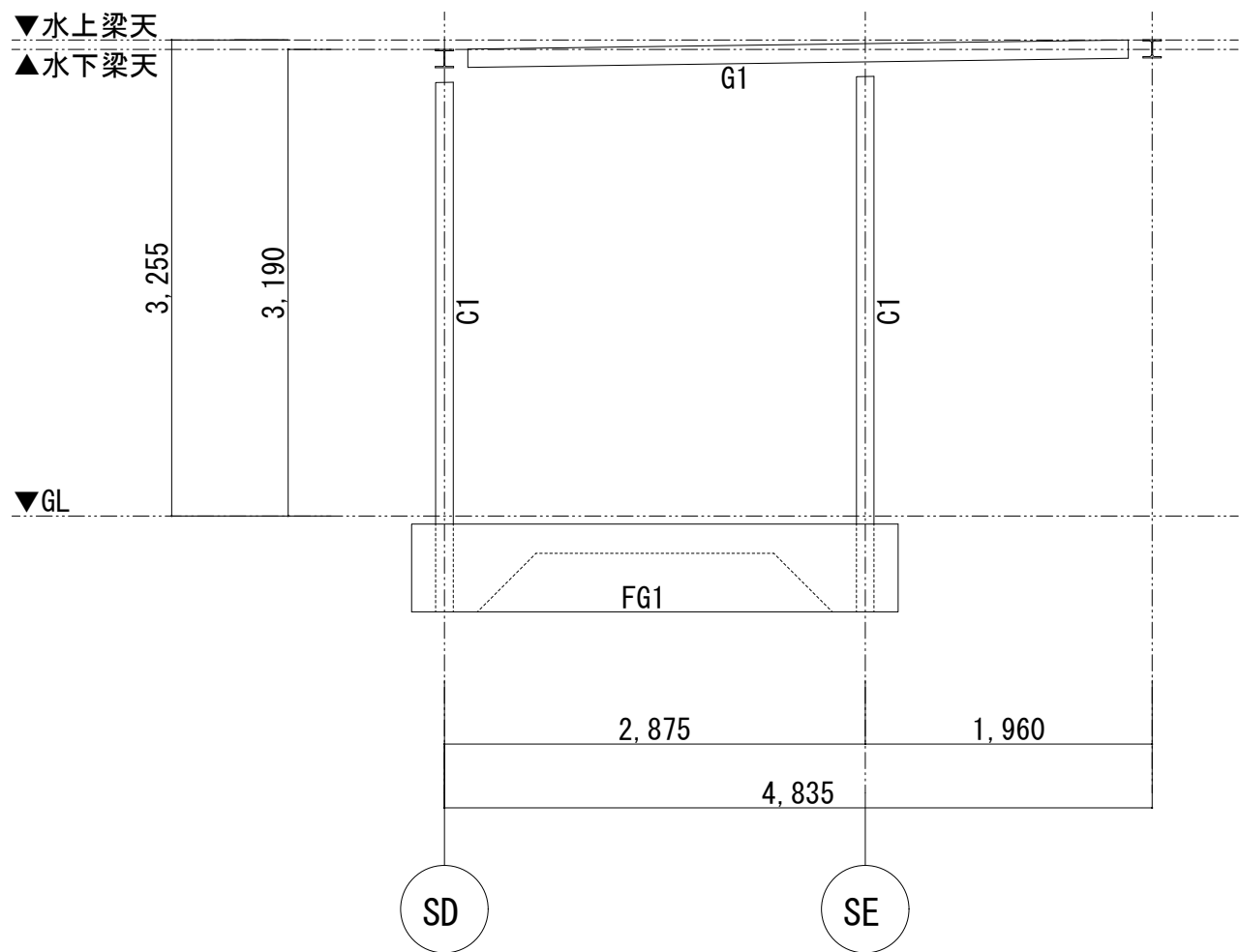
特記事項

- は現場継手位置を表す。特記無き限り柱芯から700mmとする。
- 水上梁天 (SE+1960通り)=GL+3255
水下梁天 (SD通り)=GL+3190
- 屋根下地はVデッキ「V50 (t=1.2)」とする
↖ はデッキ溝方向を表す



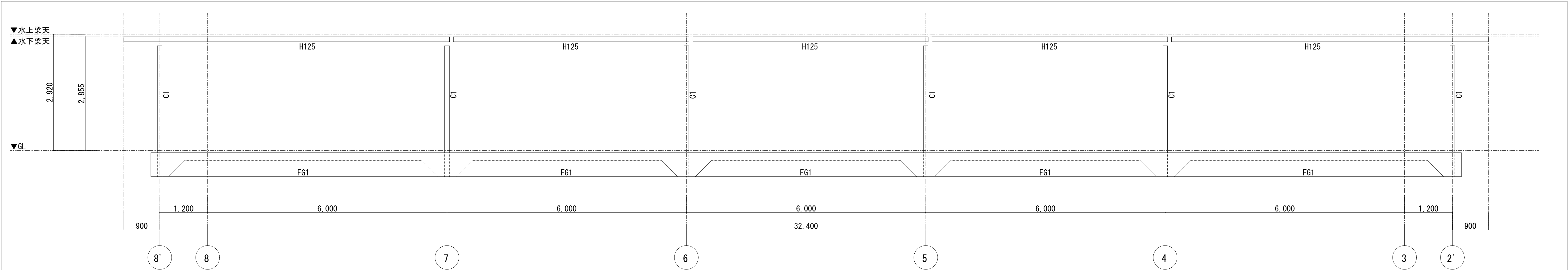
車寄せ 8' 通り軸組図 S=1/50

特記事項



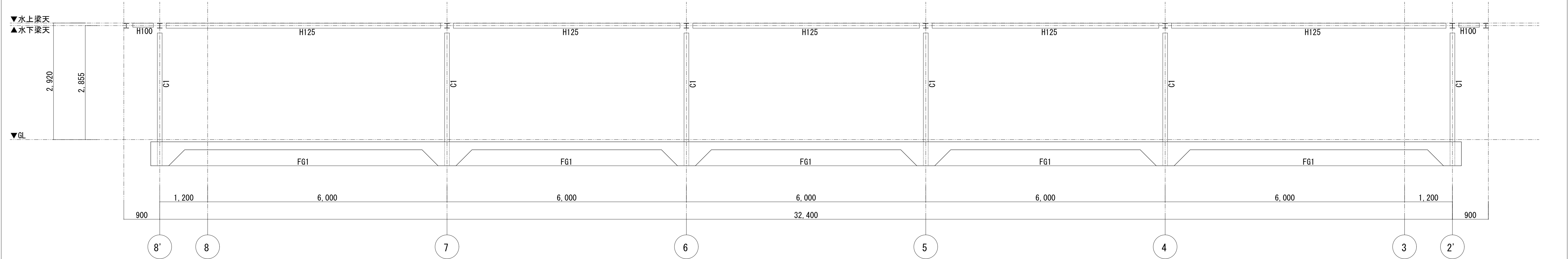
車寄せ 2' 通り軸組図 S=1/50

特記事項



車寄せ SD通り軸組図 S=1/50

特記事項



車寄せ SE通り軸組図 S=1/50

特記事項

車寄せ 基礎梁リスト S=1/30

| 記 号 | FG1 |
|-------|------------------|
| 位 置 | 全断面 |
| 断 面 | |
| B X D | 450x600 |
| 上 端 筋 | 2/2-D16 |
| 下 端 筋 | 2/2-D16 |
| S T P | 2-D13@200 |
| 腹 筋 | 2-D13 |
| 備 考 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 |

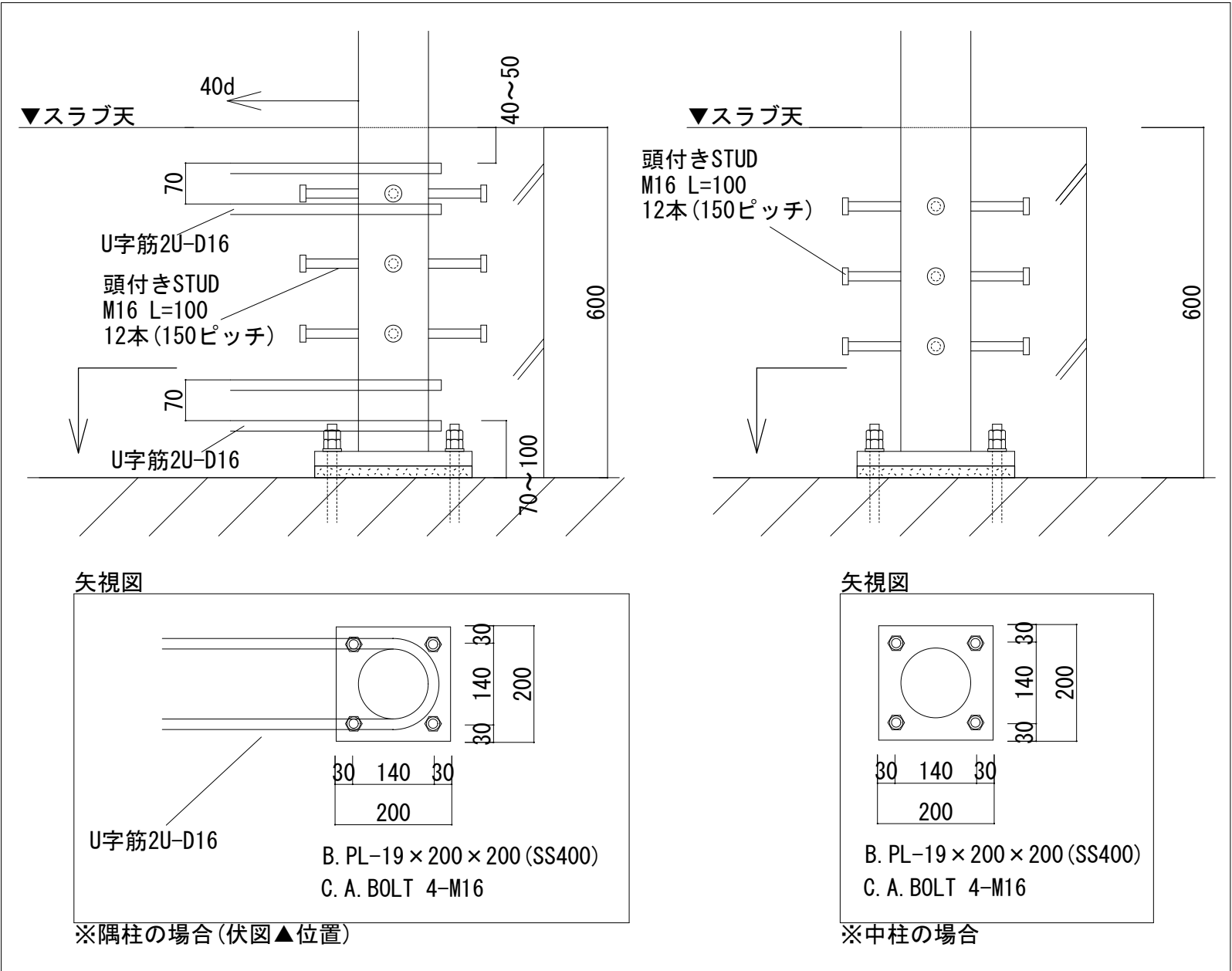
車寄せ スラブリスト

| 記号 | スラブ厚 | 位置 | 主筋方向 | 配力筋方向 | 備 考 |
|-----|------|----|---------|---------|----------|
| FS1 | 200 | 上端 | D13@200 | D10@200 | 捨てコンt=50 |
| | | 下端 | D13@200 | D10@200 | 砕石t=60 |

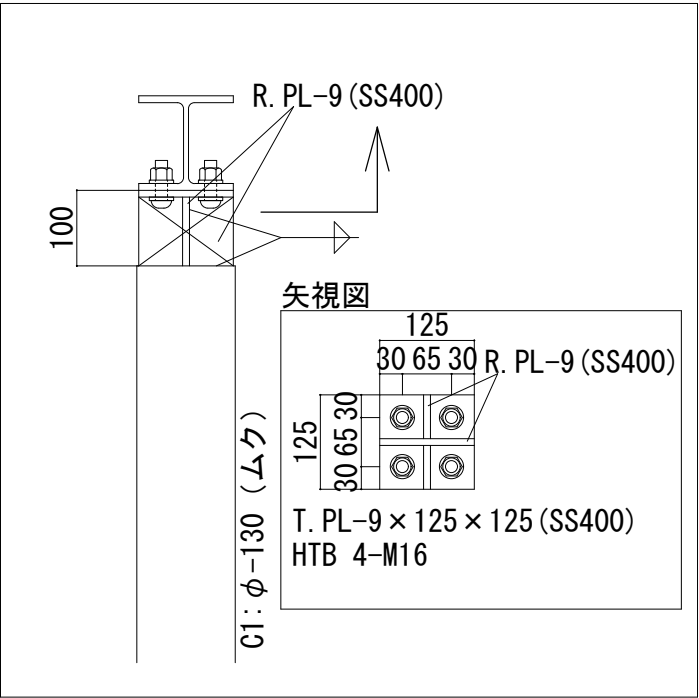
車寄せ 鉄骨部材リスト

| 種別 | 記号 | 部材 | 材質 |
|------|------|------------------|-------|
| 柱 | C1 | φ-130 (ムク) | SS400 |
| 梁 | G1 | H-125x125x6. 5x9 | SS400 |
| | H100 | H-100x100x6x8 | SS400 |
| | H125 | H-125x125x6. 5x9 | SS400 |
| ブレース | hBR1 | M16 (ターンバックル付き) | SS400 |

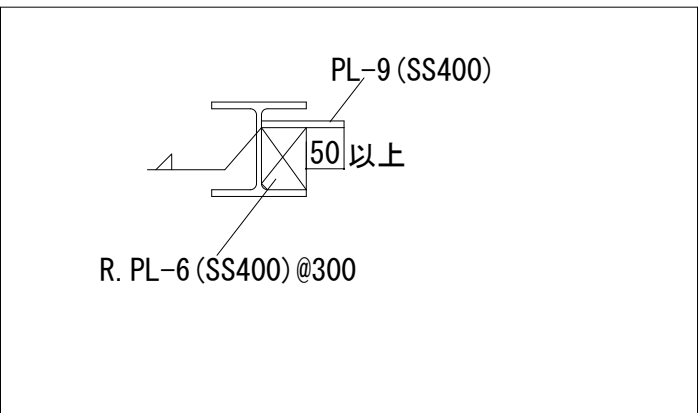
車寄せ 柱脚詳細図 S=1/10



車寄せ C1柱頭詳細図 S=1/10



車寄せ 屋根デッキ受け詳細図 S=1/10



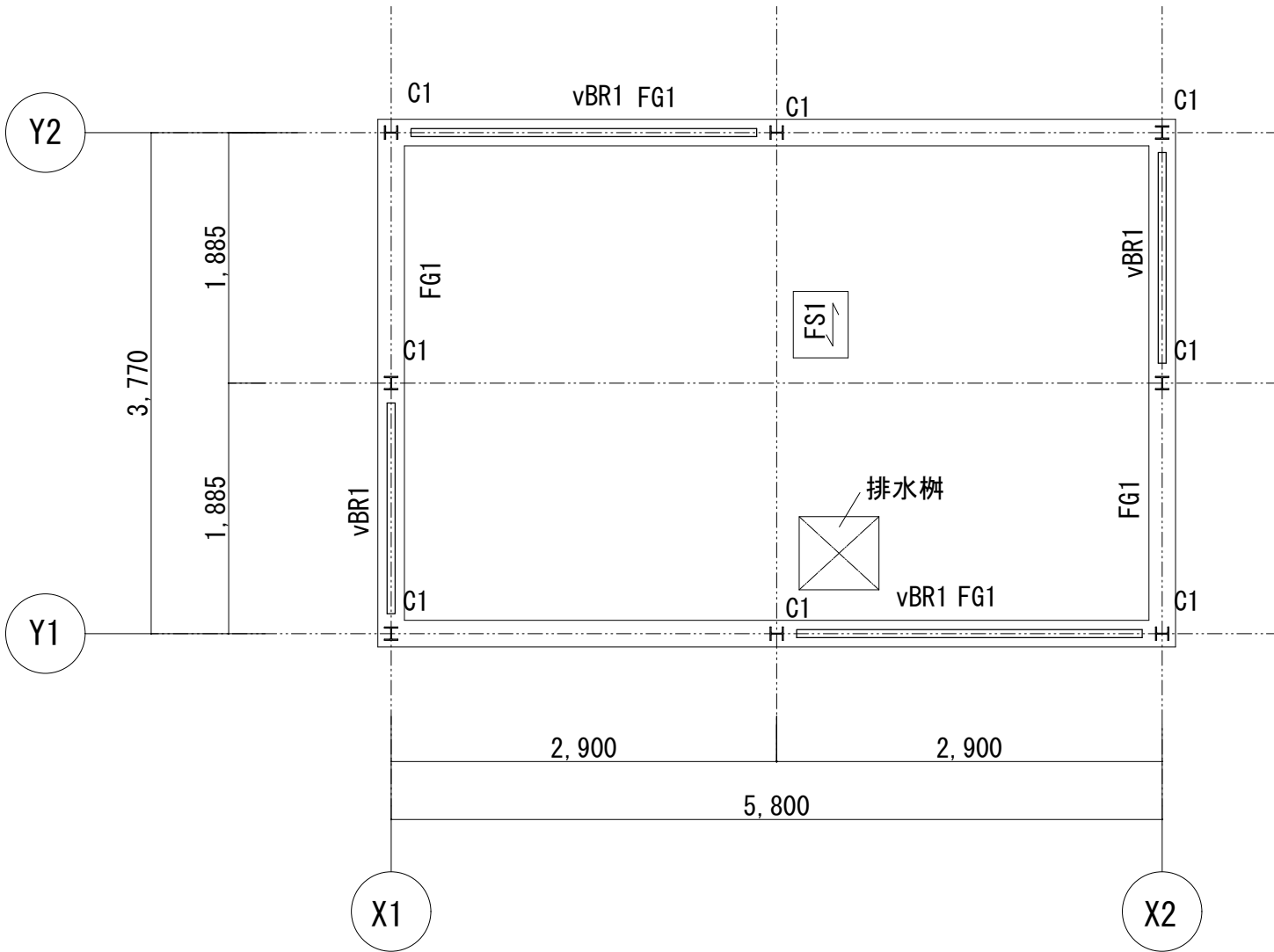
車寄せ 鉄骨梁ピン継手リスト S=1/20

| H-100x100x6x8 | SS400 | H-125x125x6. 5x9 | SS400 |
|---------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | |
| G. PL-9 | HTB 2-M16 (F8T) | G. PL-9 | HTB 2-M16 (F8T) |

※G. PLの対面にはR. PLを設けること
厚さ, 材質はG. PLと同等とする

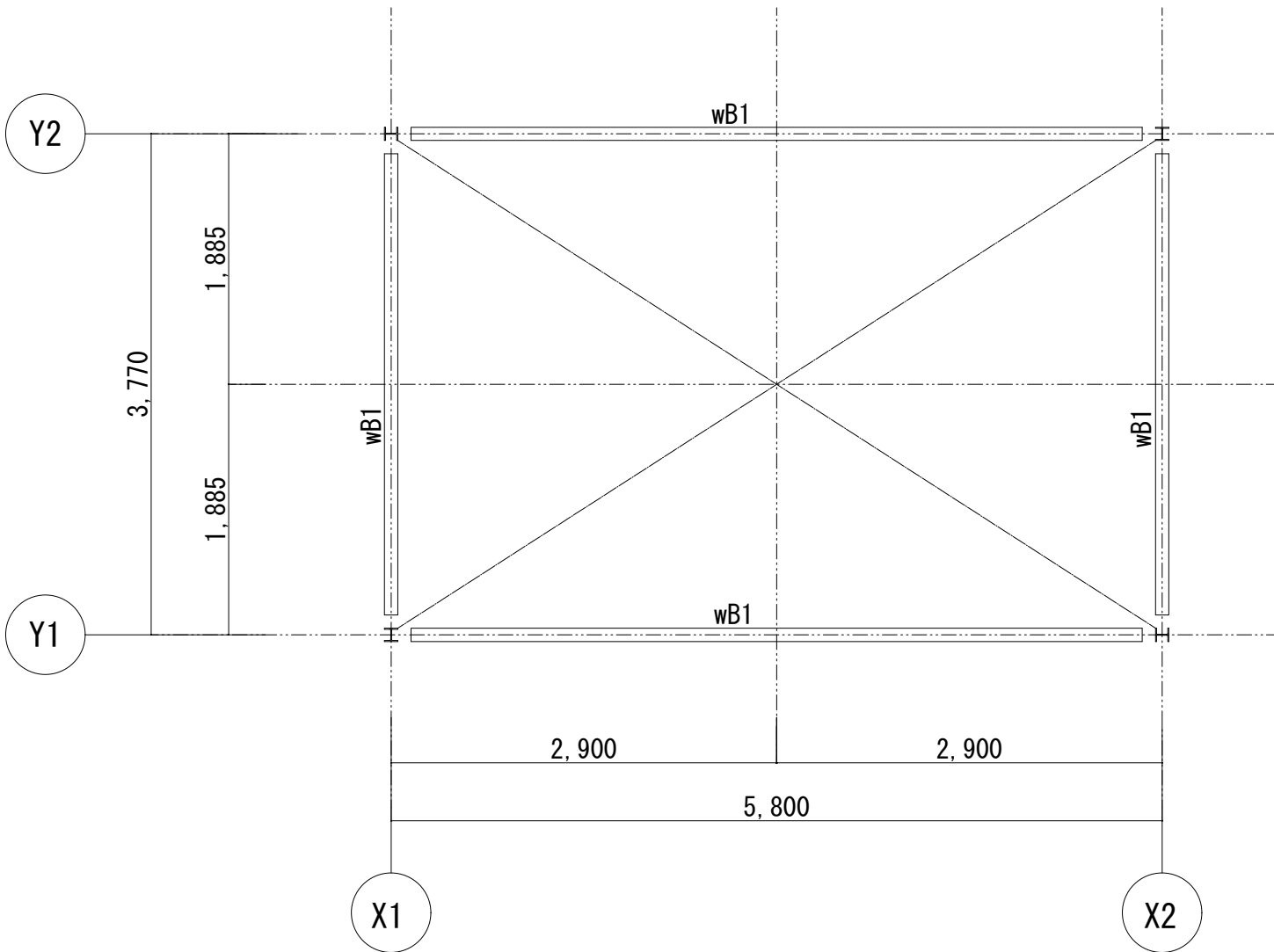
車寄せ ブレース継手リスト S=1/20

| M16 (TB) | SS400 |
|----------|-----------------|
| | |
| G. PL-9 | HTB 1-M16 (F8T) |



受水槽置場 1階伏図 S=1/50

- 特記事項
- ← は主筋方向を表す
 - 基礎梁天=GL+300
 - スラブ天=GL+100

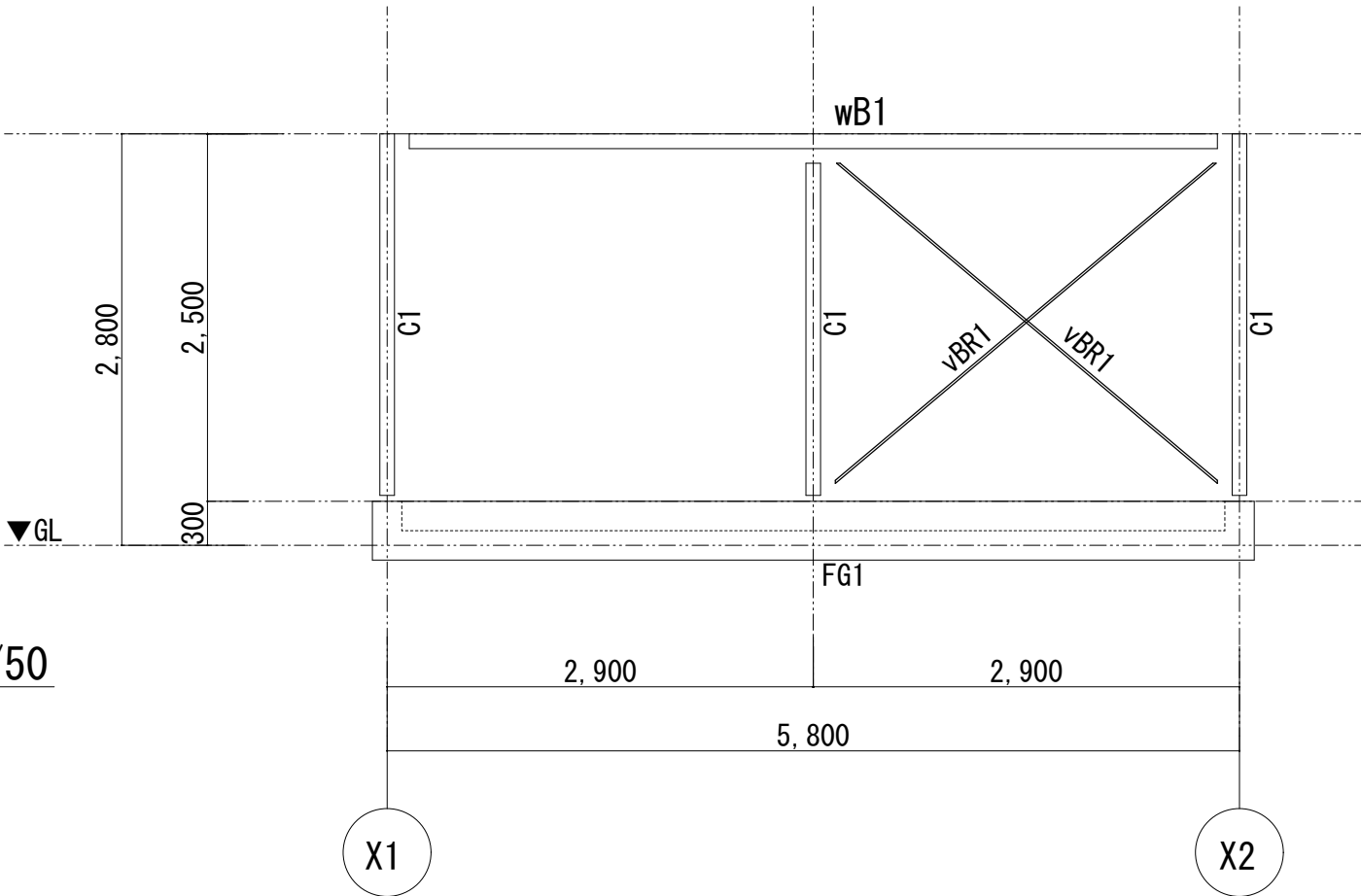


受水槽置場 屋根伏図 S=1/50

- 特記事項
- 梁天=GL+2800

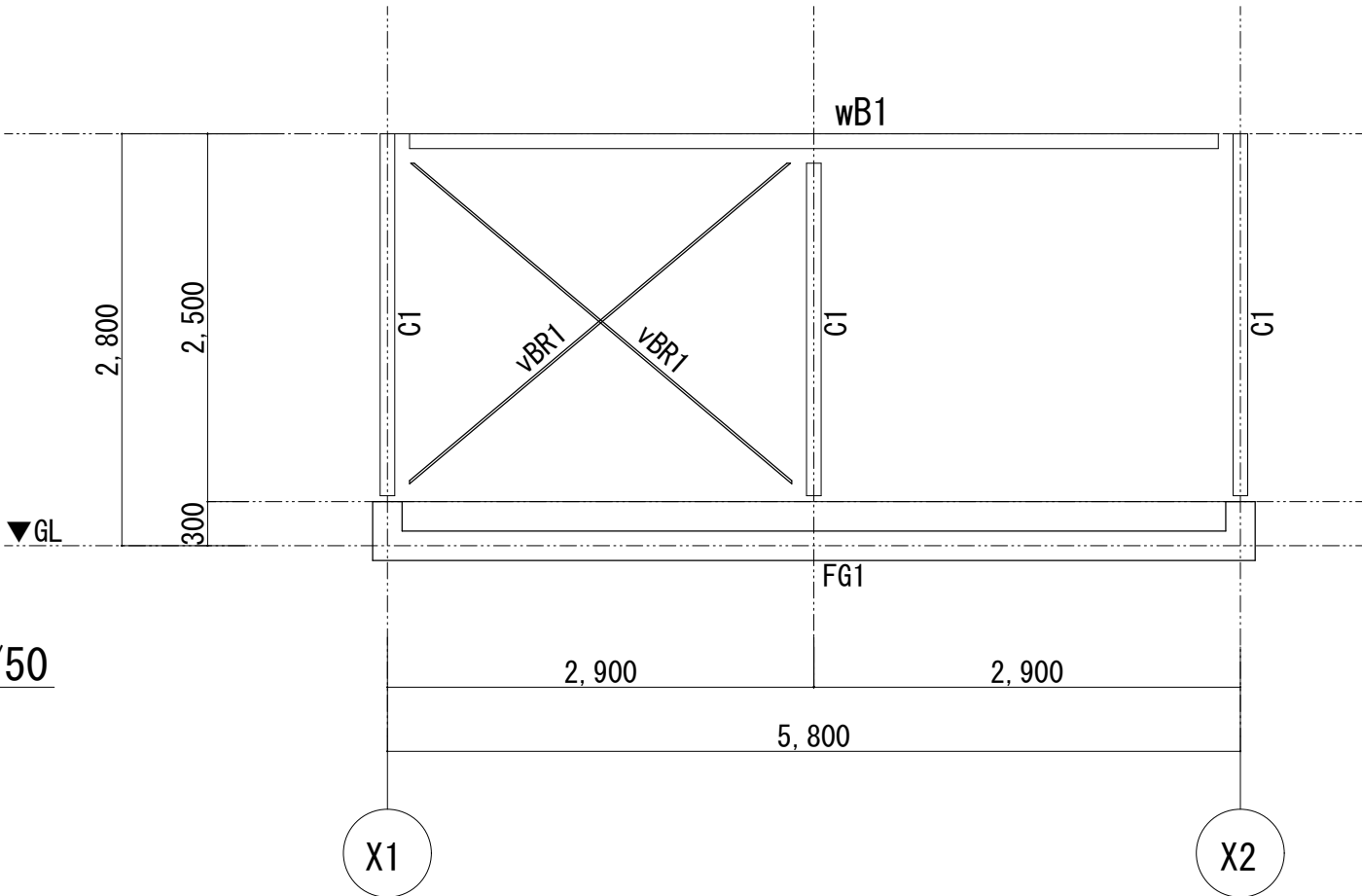
受水槽置場 Y1通り軸組図 S=1/50

特記事項



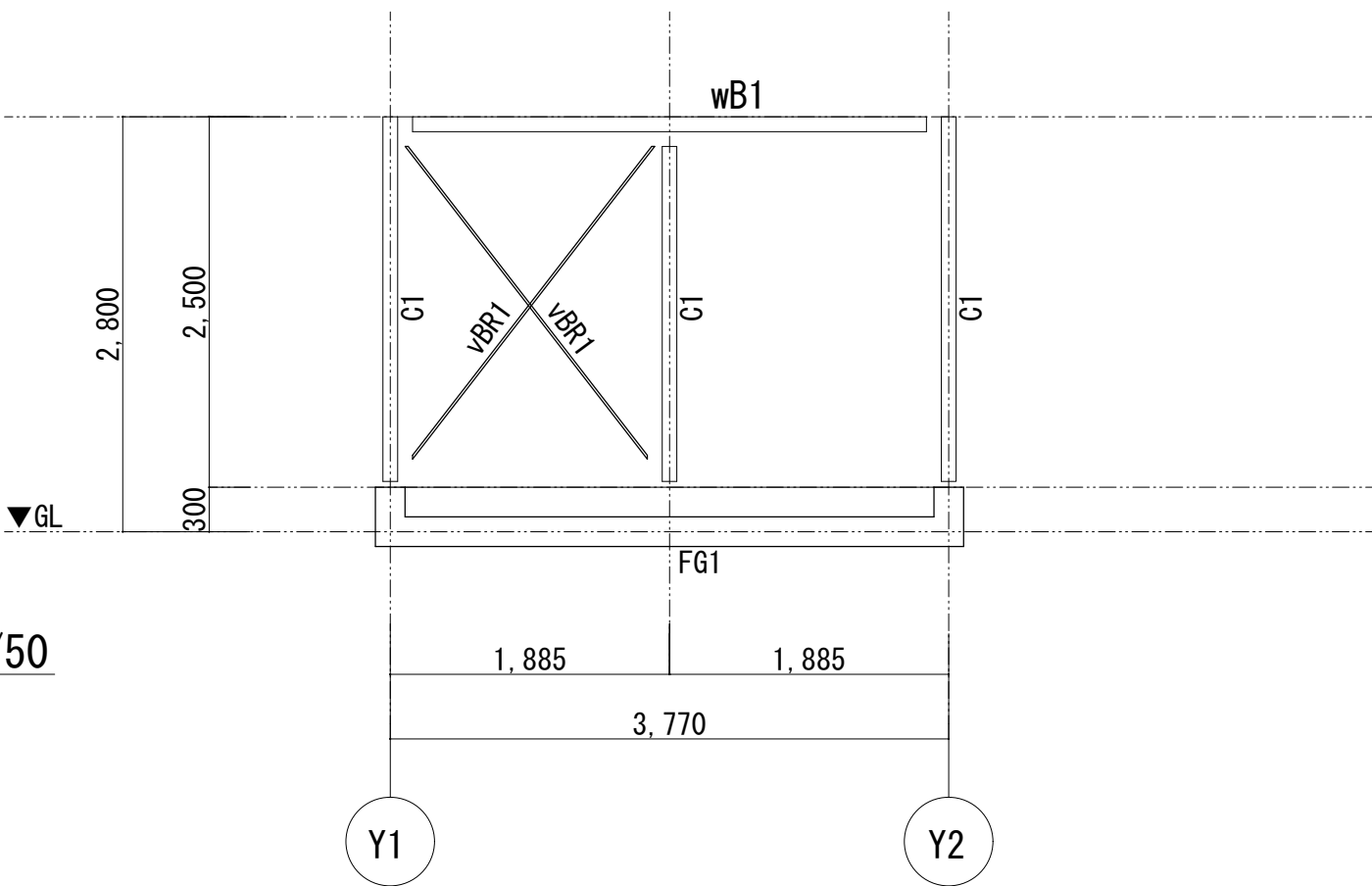
受水槽置場 Y2通り軸組図 S=1/50

特記事項



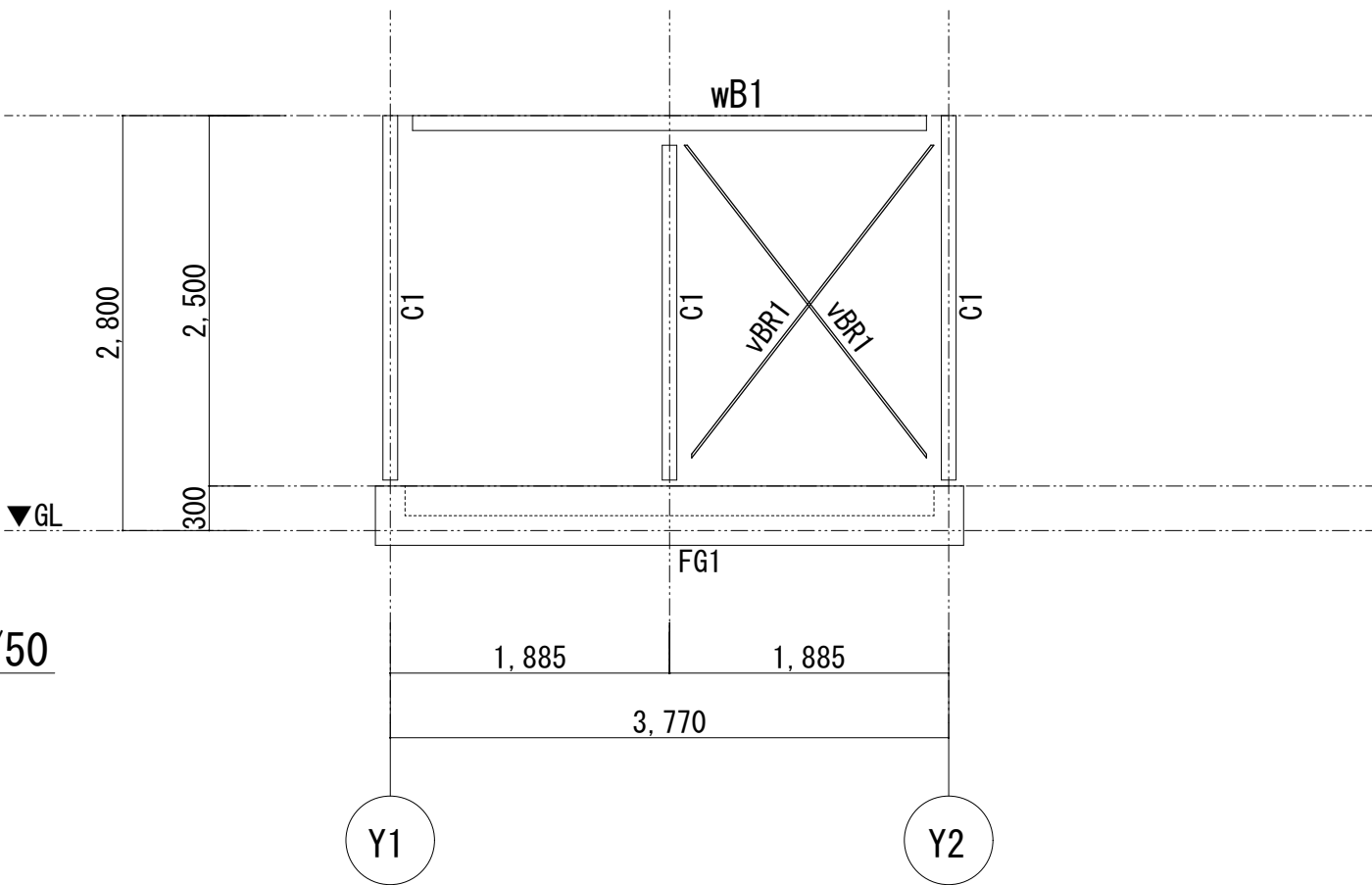
受水槽置場 X1通り軸組図 S=1/50

特記事項



受水槽置場 X2通り軸組図 S=1/50

特記事項



受水槽置場 基礎梁リスト S=1/30

| 記 号 | FG1 |
|-------|------------------|
| 位 置 | 全断面 |
| 断 面 | |
| B X D | 200x400 |
| 上 端 筋 | 2/2-D16 |
| 下 端 筋 | 2/2-D16 |
| S T P | 2-D10@200 |
| 備 考 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 |

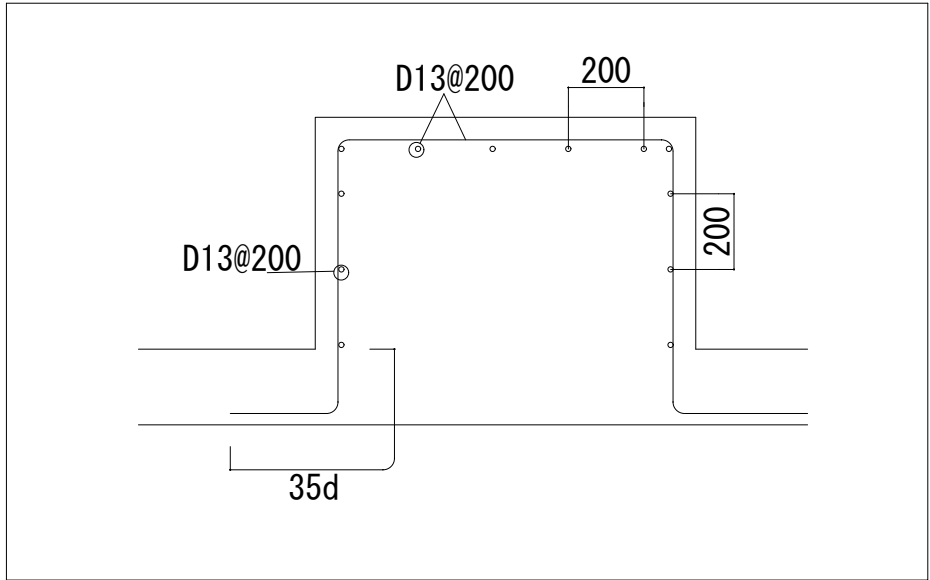
受水槽置場鉄骨柱・梁ピン継手リスト S=1/20

| | |
|--|-----------------|
| H-100x100x6x8 | SS400 |
| | |
| G. PL-9 | HTB 2-M16 (F8T) |
| ※G. PLの対面にはR. PLを設けること 厚さ, 材質はG. PLと同等とする | |

受水槽置場鉄骨柱柱頭柱脚詳細図 S=1/20

| | |
|---|--|
| | |
| B. PL-16×150×150 (SS400) A. BOLT 2-M16 (SS400) L=320 | |

受水槽基礎配筋詳細図 S=1/20



受水槽置場 スラブリスト

| 記号 | スラブ厚 | 位置 | 主筋方向 | 配力筋方向 | 備 考 |
|-----|------|----|---------|---------|----------|
| FS1 | 200 | 上端 | D13@200 | D10@200 | 捨てコンt=50 |
| | | 下端 | D13@200 | D10@200 | 砕石t=60 |

受水槽置場 鉄骨部材リスト

| 種別 | 記号 | 部材 | 材質 |
|------|------|---------------------|-------|
| 柱 | C1 | H-100x100x6x8 | SS400 |
| 梁 | wB1 | H-100x100x6x8 (横使い) | SS400 |
| ブレース | vBR1 | M16 (ターンバックル付き) | SS400 |

受水槽置場ブレース継手リスト S=1/20

| | |
|----------|-----------------|
| M16 (TB) | SS400 |
| | |
| G. PL-9 | HTB 1-M16 (F8T) |

みのだ・プランディー設計共同企業体

代表事務所 株式会社みのだ設計
一級建築士事務所 知事登録 第 1-3-140 号

一級建築士 第 148365 号 養田 満康

谷山支所庁舎大規模改修その他本体工事

外構図③

鹿児島市建設局建築部建築課

A 1 1/20, 1/30, 1/50
A 3 1/40, 1/60, 1/100

No.

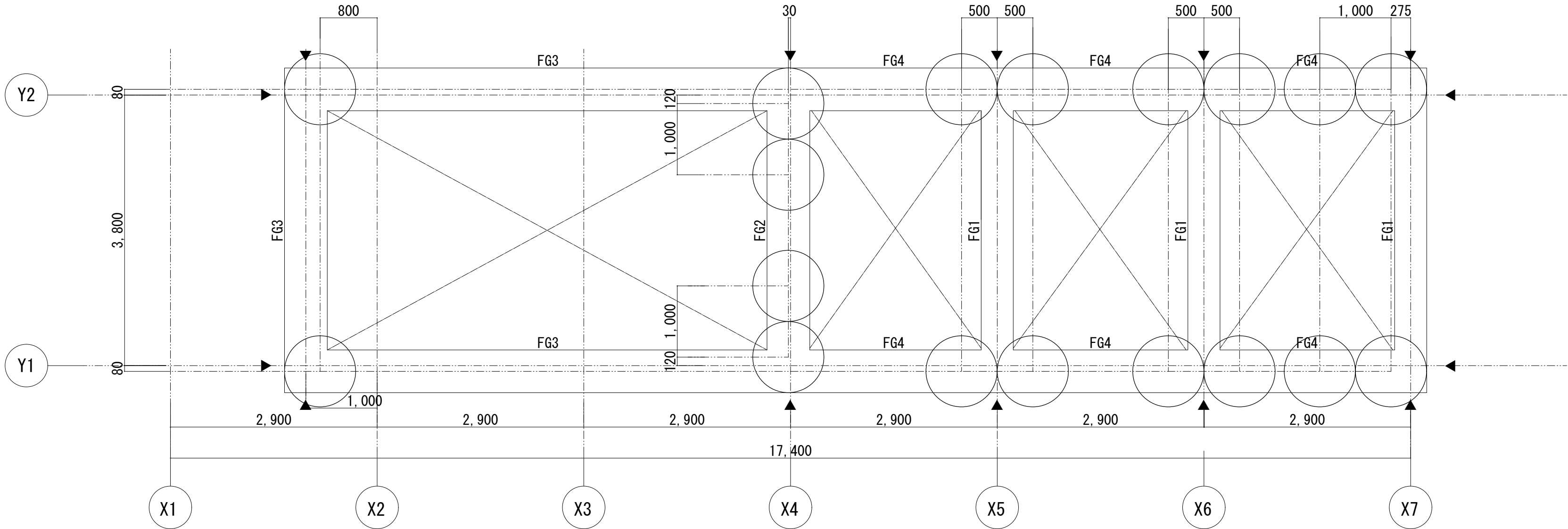
S - 3 1

水防衛生倉庫 基礎伏図 S=1/50

特記事項

- 1. 杭仕様は右図の通りとする
- 2. FG1, FG2, FG4梁天=GL+790、FG3梁天=GL+220
- 3. ▲部は埋め込み柱脚U字補強筋設置箇所を表す
- 4. 基礎梁直下は柱状改良を行う

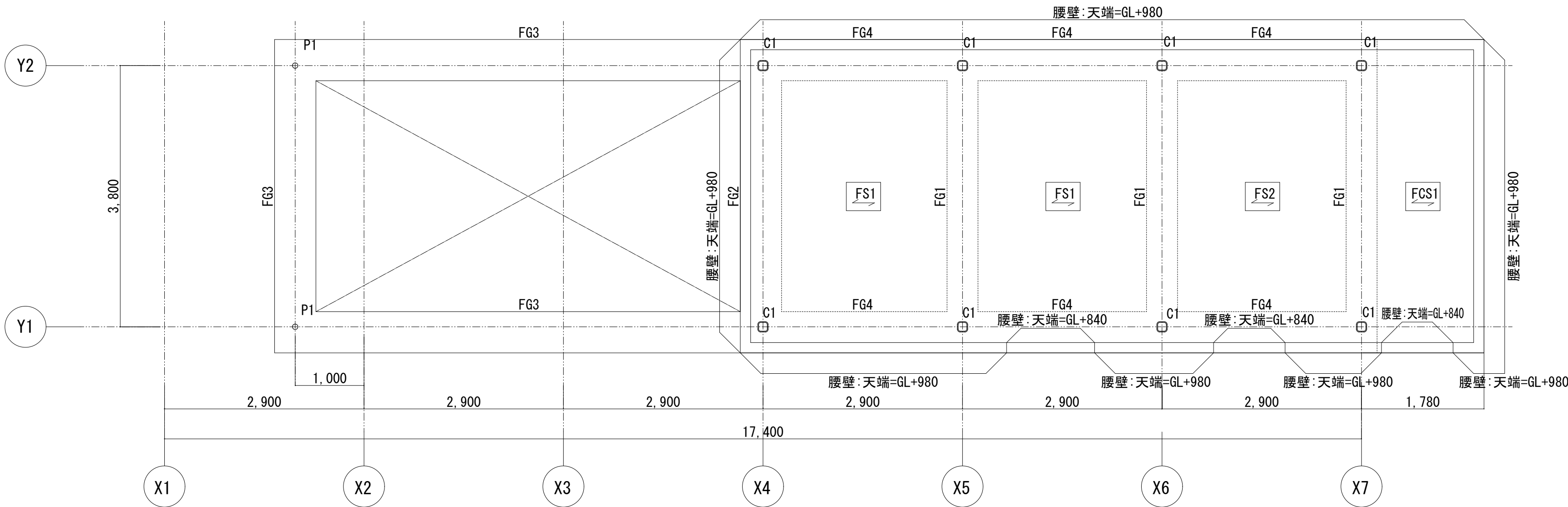
○は改良体位置を表す
改良体径1000φ 計18本
Fc=800kN/㎡
改良体上端=GL-430:X1通り～X4通り
改良体長=7210mm:X1通り～X4通り
改良体上端=GL-60:X5通り～X7通り
改良体長=7580mm:X5通り～X7通り



水防衛生倉庫 1階伏図 S=1/50

特記事項

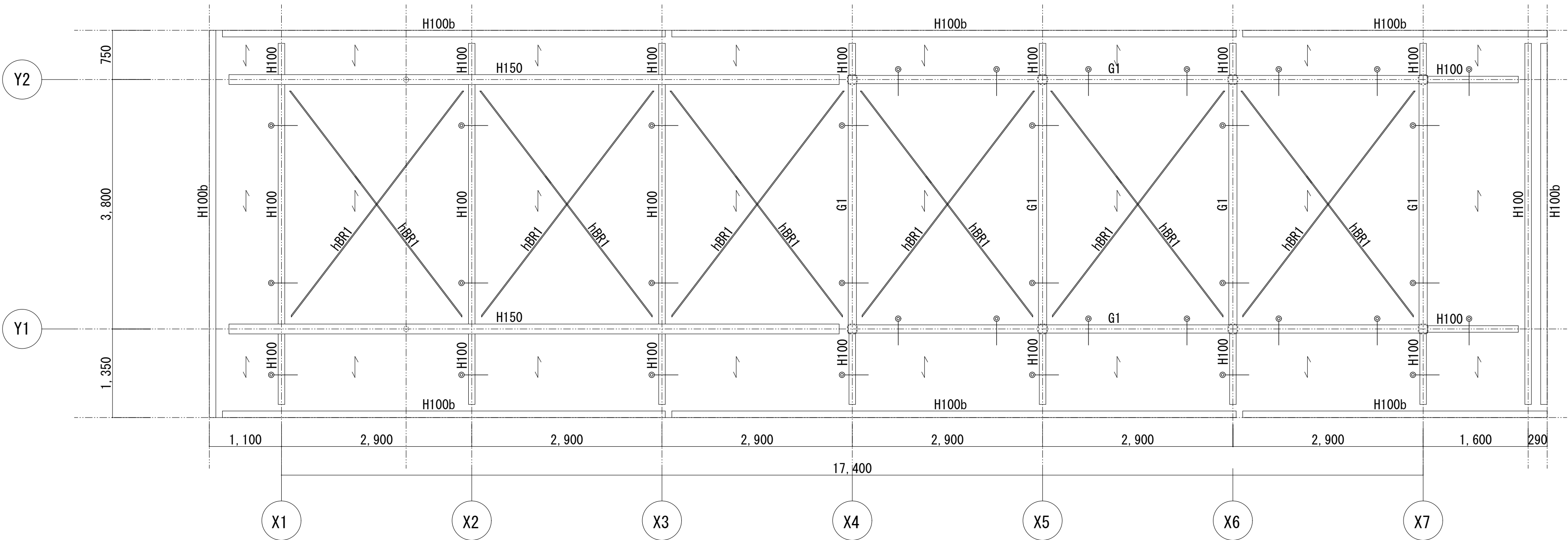
- 1. ⇐ は主筋方向を表す
- 2. 特記無きスラブ天=GL+790
- 3. 腰壁の厚さは150mm, 配筋はD13@200シングル縦横とする



水防衛生倉庫 屋根伏図 S=1/50

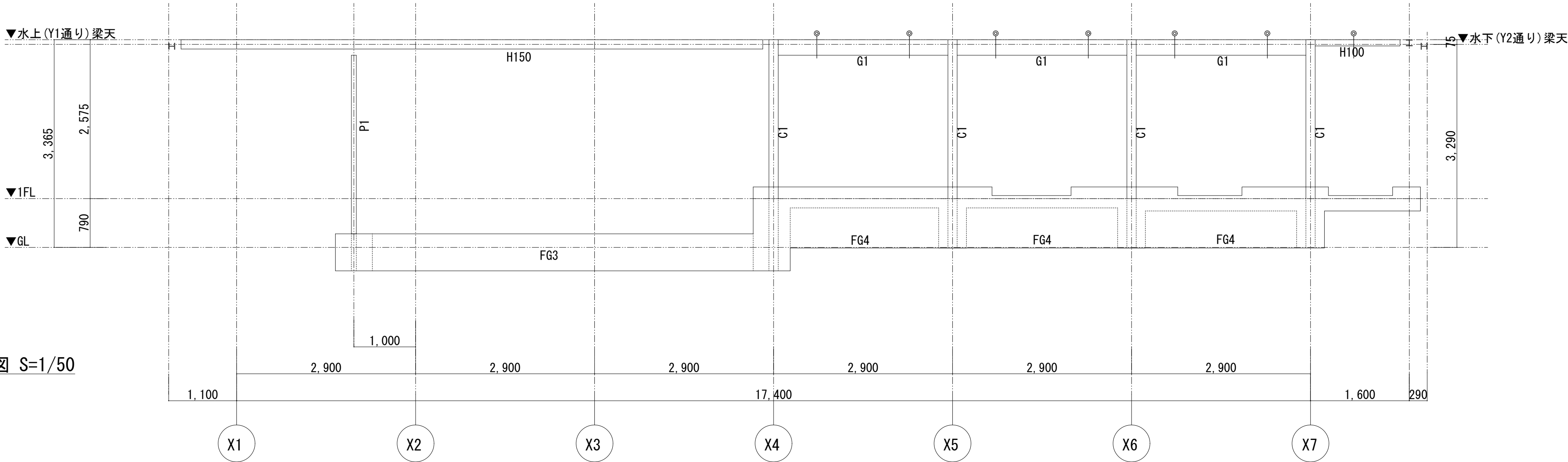
特記事項

- 1. ●は現場継手位置を表す。
特記無き限り柱芯から700mmとする。
- 2. 水上梁天(Y1通り)=GL+3365
水下梁天(Y2通り)=GL+3290
- 3. 屋根下地はVデッキ「V50(t=1.2)」とする
⇐ はデッキ溝方向を表す



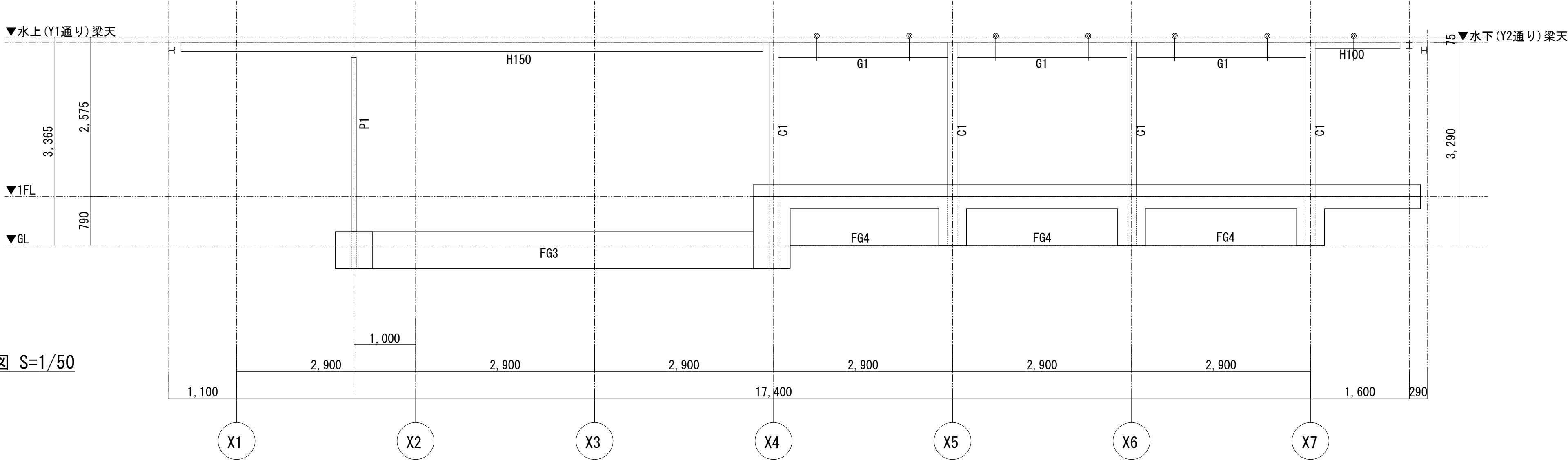
水防衛生倉庫 Y1通り軸組図 S=1/50

特記事項
1. 〰 は現場継手位置を表す



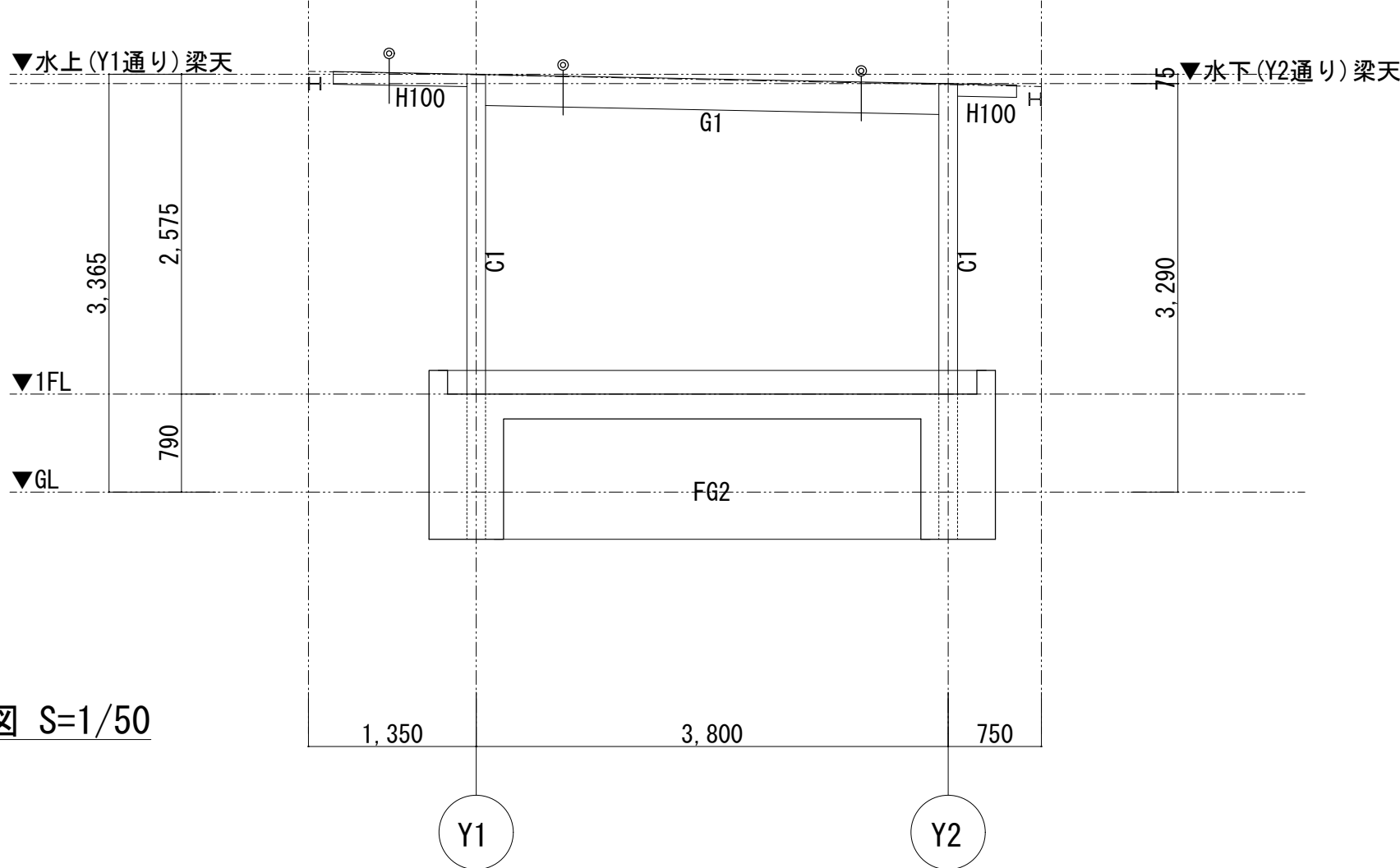
水防衛生倉庫 Y2通り軸組図 S=1/50

特記事項
1. 〰 は現場継手位置を表す



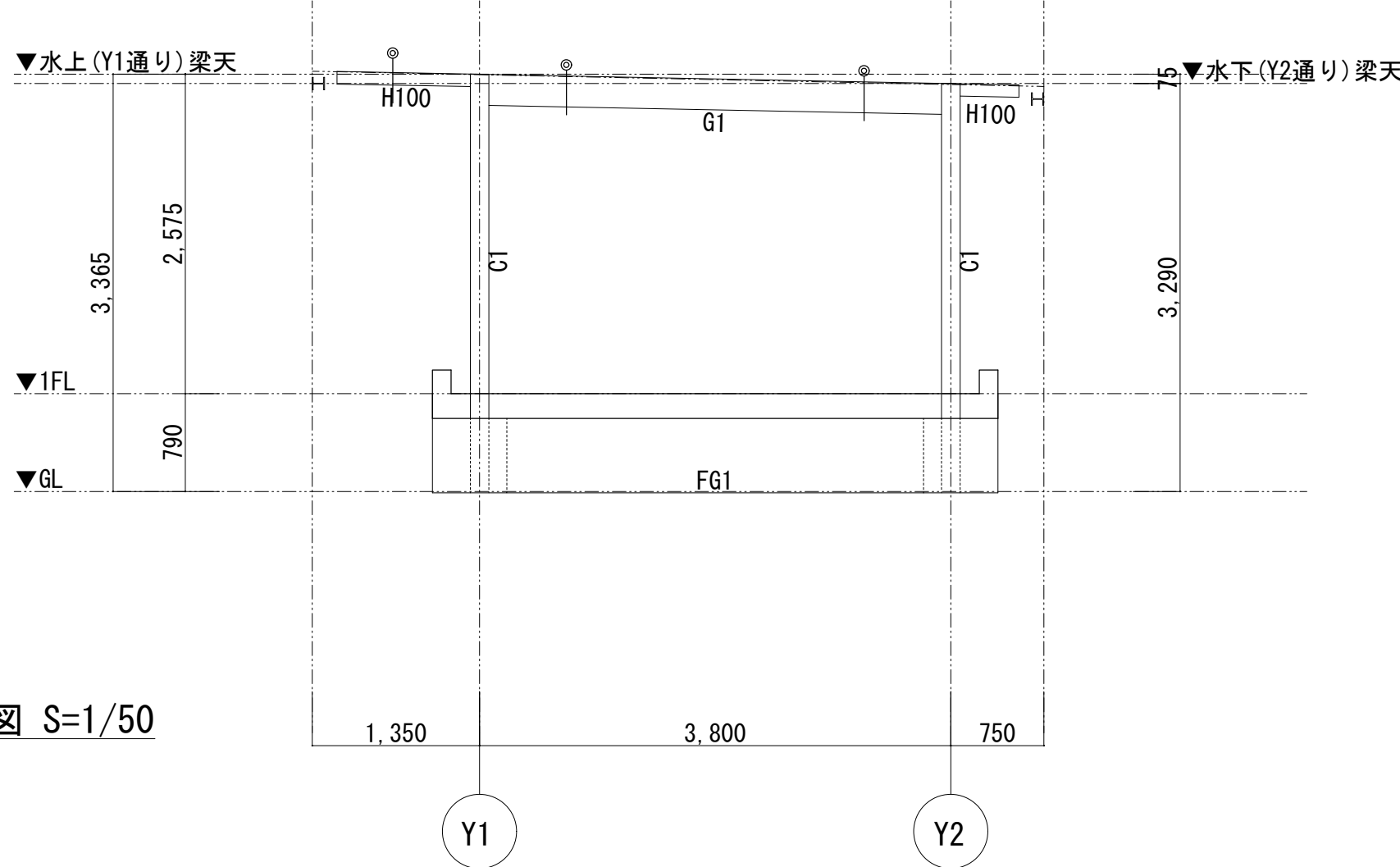
水防衛生倉庫 X4通り軸組図 S=1/50

特記事項
1. 〰 は現場継手位置を表す

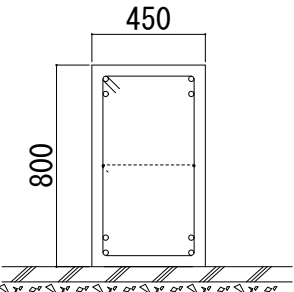
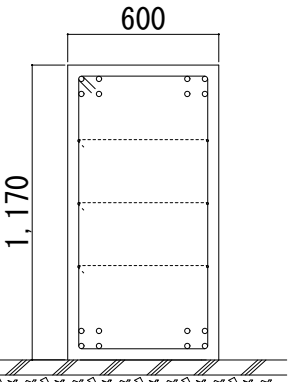
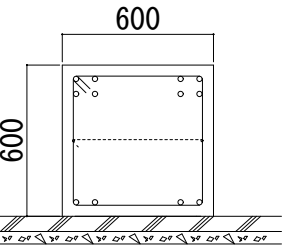
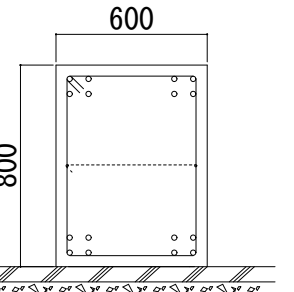


水防衛生倉庫 X7通り軸組図 S=1/50

特記事項
1. 〰 は現場継手位置を表す



水防衛生倉庫 基礎梁リスト S=1/30

| 記 号 | FG1 | FG2 | FG3 | FG4 |
|-------|---|---|---|---|
| 位 置 | 全断面 | 全断面 | 全断面 | 全断面 |
| 断 面 |  |  |  |  |
| B X D | 450x800 | 600x1170 | 600x600 | 600x800 |
| 上 端 筋 | 2/2-D22 | 4/4-D16 | 4/4-D22 | 4/4-D22 |
| 下 端 筋 | 2/2-D22 | 4/4-D16 | 4-D22 | 4/4-D22 |
| S T P | 2-D13@200 | 2-D13@200 | 2-D13@200 | 2-D13@200 |
| 腹 筋 | 2-D13 | 6-D13 | 2-D13 | 2-D13 |
| 備 考 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 |

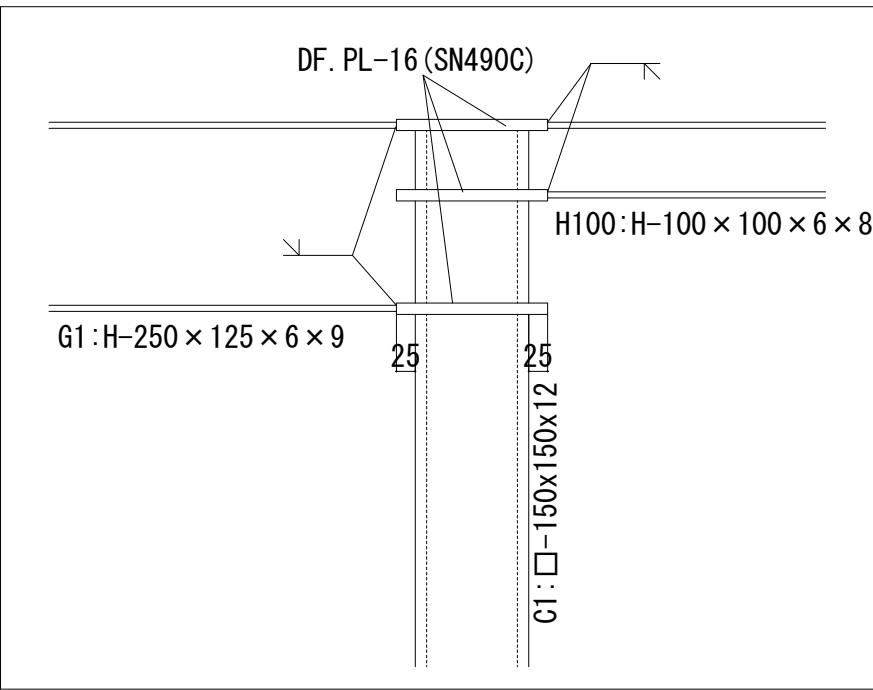
水防衛生倉庫 スラブリスト

| 記号 | スラブ厚 | 位置 | 主筋方向 | 配力筋方向 | 備 考 |
|------|------|----|---------|---------|----------|
| FS1 | 200 | 上端 | D13@200 | D13@200 | 捨てコンt=50 |
| | | 下端 | D13@200 | D10@200 | 砕石t=60 |
| FS2 | 200 | 上端 | D13@100 | D13@200 | 捨てコンt=50 |
| | | 下端 | D13@200 | D10@200 | 砕石t=60 |
| FCS1 | 200 | 上端 | D13@100 | D10@200 | 捨てコンt=50 |
| | | 下端 | D13@200 | D10@200 | 砕石t=60 |

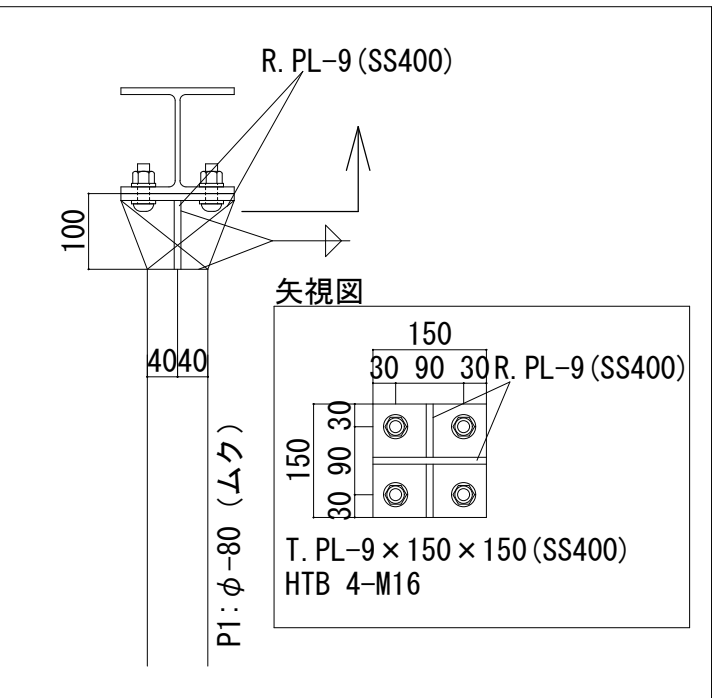
水防衛生倉庫 鉄骨部材リスト

| 種別 | 記号 | 部材 | 材質 |
|------|-------|---------------------|--------|
| 柱 | C1 | □-150x150x12 | BCR295 |
| | P1 | φ-80 (ムク) | SS400 |
| 梁 | G1 | H-250x125x6x9 | SN400B |
| | H150 | H-150x150x7x10 | SS400 |
| | H100 | H-100x100x6x8 | SS400 |
| | H100b | H-100x100x6x8 (横使い) | SS400 |
| ブレース | hBR1 | M16 (ターンバックル付き) | SS400 |

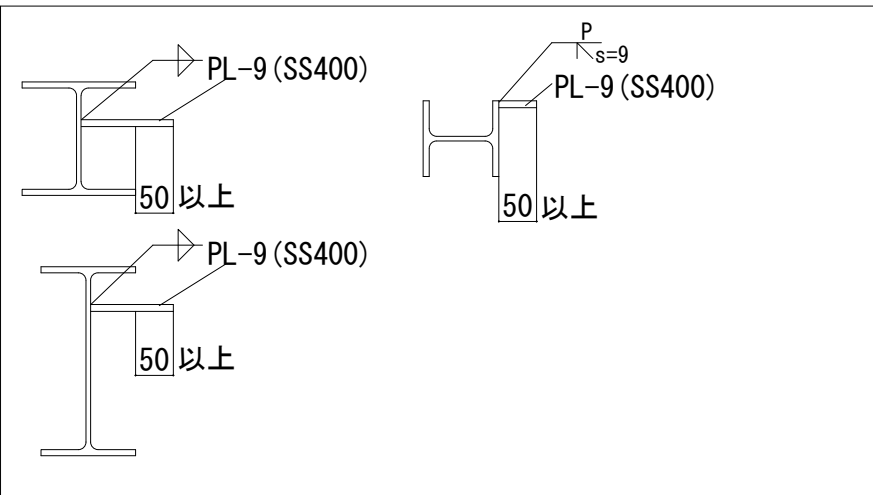
水防衛生倉庫 C1柱梁仕口詳細図 S=1/10



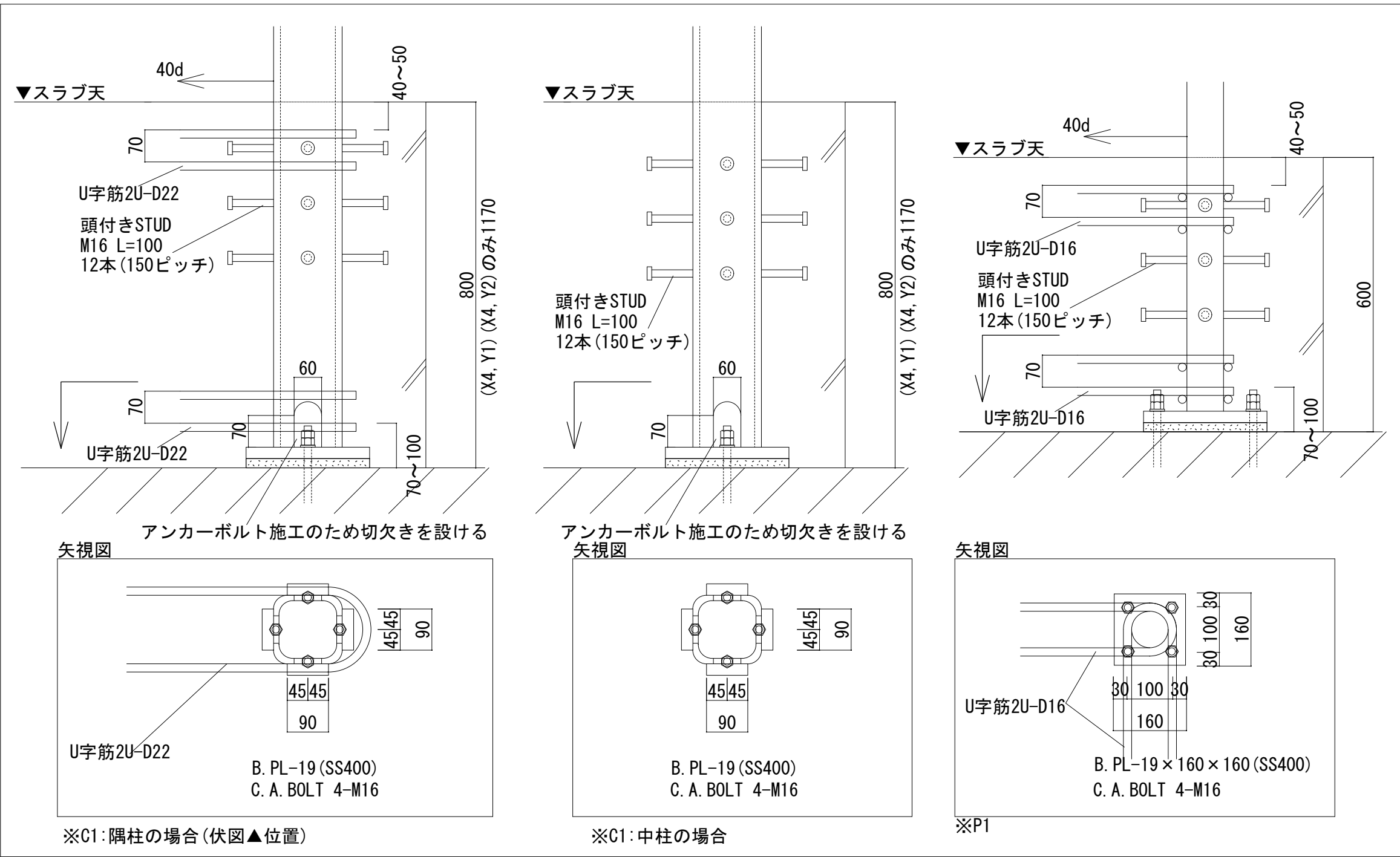
水防衛生倉庫 P1柱頭詳細図 S=1/10



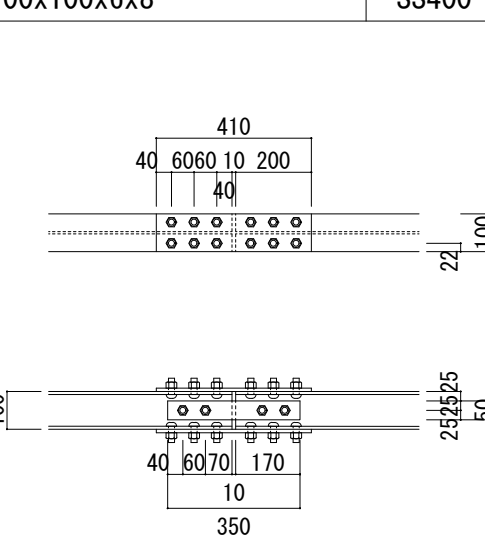
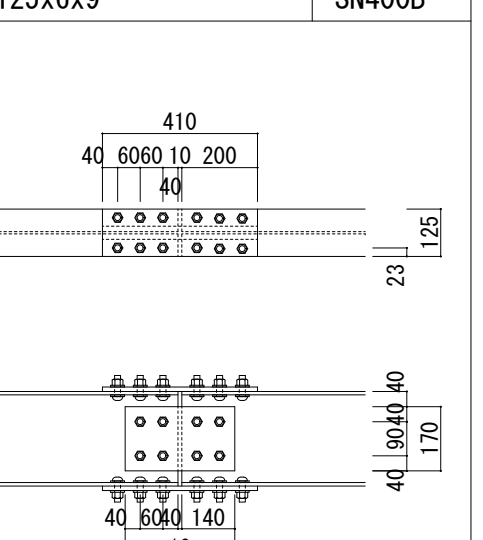
水防衛生倉庫 屋根デッキ受け詳細図 S=1/10



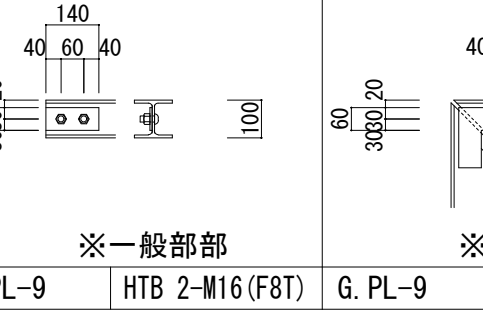
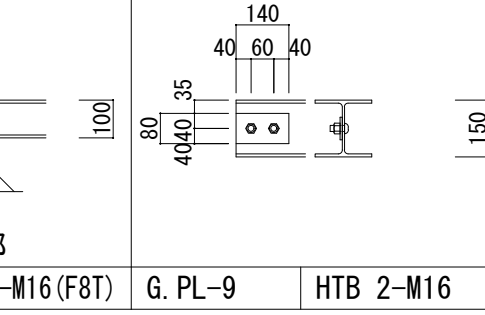

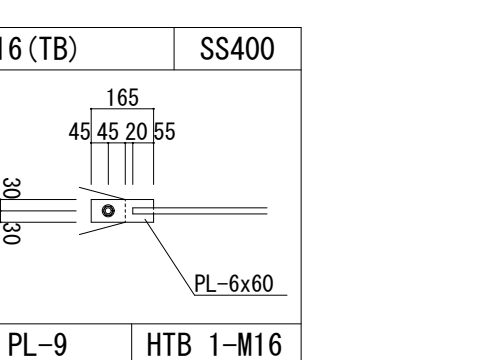
水防衛生倉庫 柱脚詳細図 S=1/10



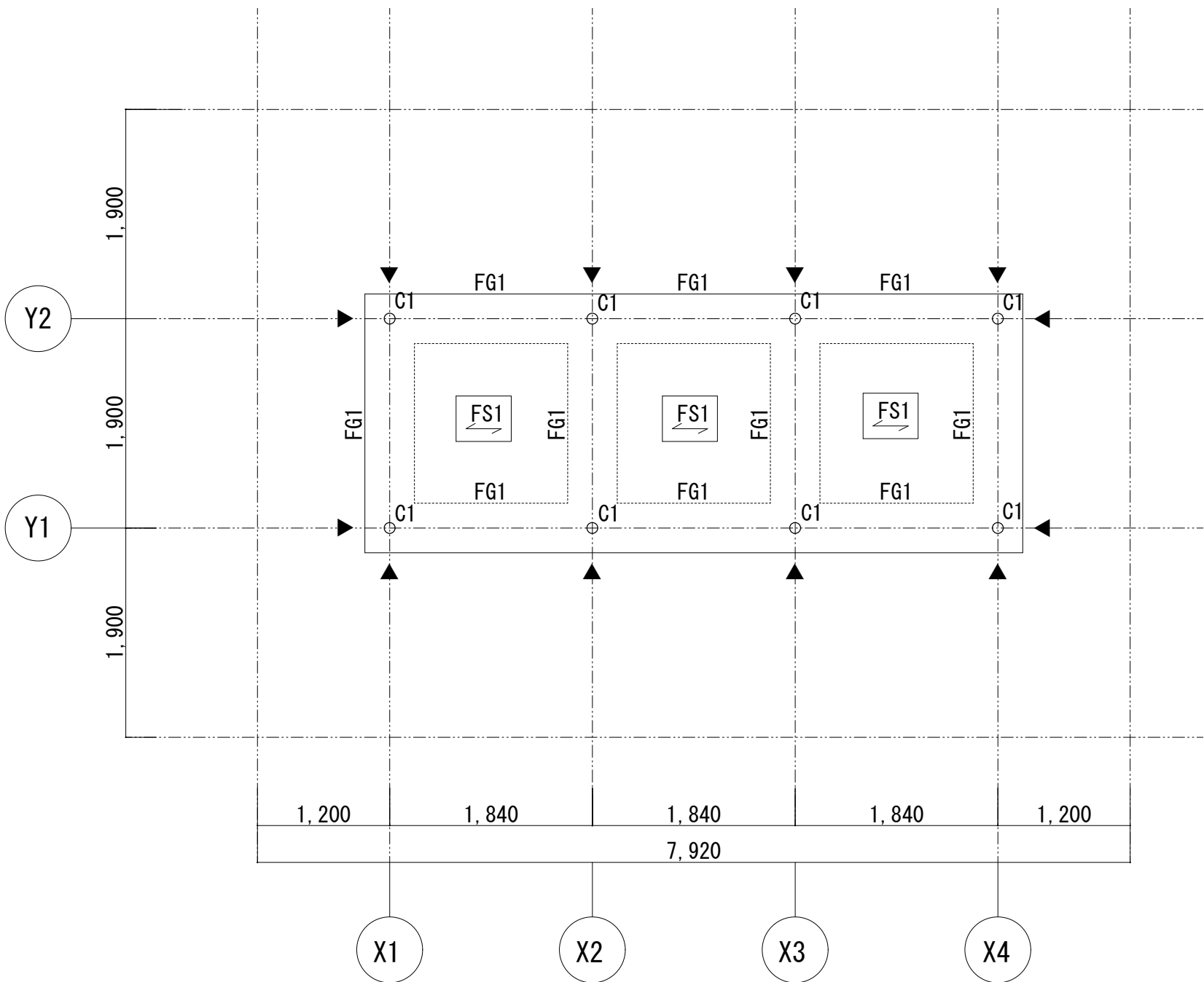
水防衛生倉庫 鉄骨梁剛継手リスト S=1/20

| H-100x100x6x8 | SS400 | H-250x125x6x9 | SN400B |
|---|-------------|---|--------|
|  | |  | |
| F. SPL 外 1SPL-16x100x410 | HTB | F. SPL 外 1SPL-12x125x410 | HTB |
| 内 2SPL-9x50x350 | 6-M16 (F8T) | 内 2SPL-6x170x290 | 4-M16 |

水防衛生倉庫 鉄骨梁ピン継手リスト S=1/20

| H-100x100x6x8 | SS400 | H-100x100x6x8 | SS400 | H-150x150x7x10 | SS400 |
|--|-------|---|-------|---|-------|
|  | |  | |  | |
| ※一般部部 | | ※出隅部 | | | |
| G. PL-9 HTB 2-M16 (F8T) | | G. PL-9 HTB 1-M16 (F8T) | | G. PL-9 HTB 2-M16 | |
| ※特記なき場合HTBはF10T又はS10Tとする | | | | | |
| ※G. PLの対面にはR. PLを設けること | | | | | |
| ※厚さ、材質はG. PLと同等とする | | | | | |
|  | | | | | |
| ※溶融亜鉛メッキ範囲のみHTBはF8Tとする | | | | | |

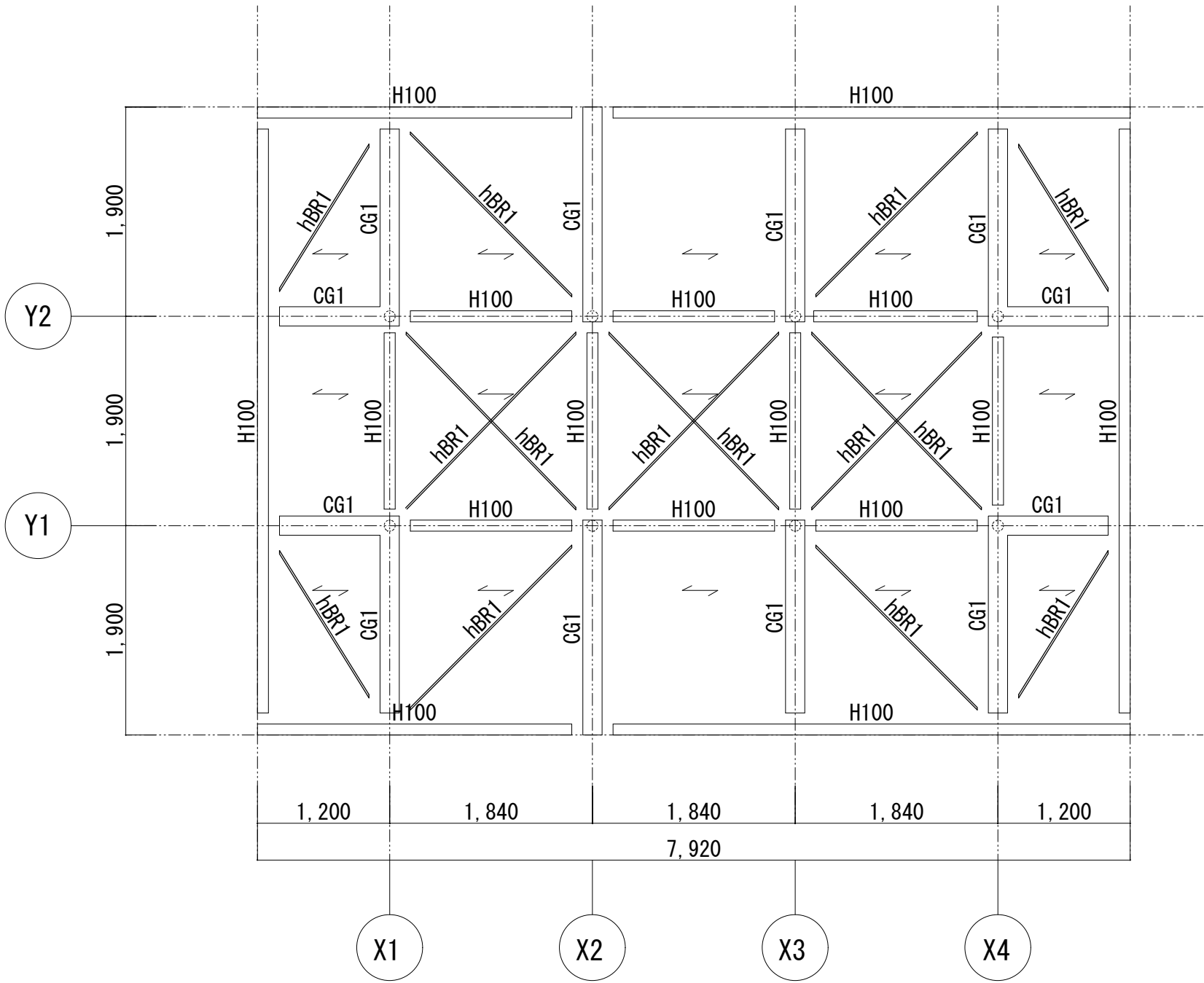
水防衛生倉庫 ブレース継手リスト S=1/20



西駐輪場 1階伏図 S=1/50

特記事項

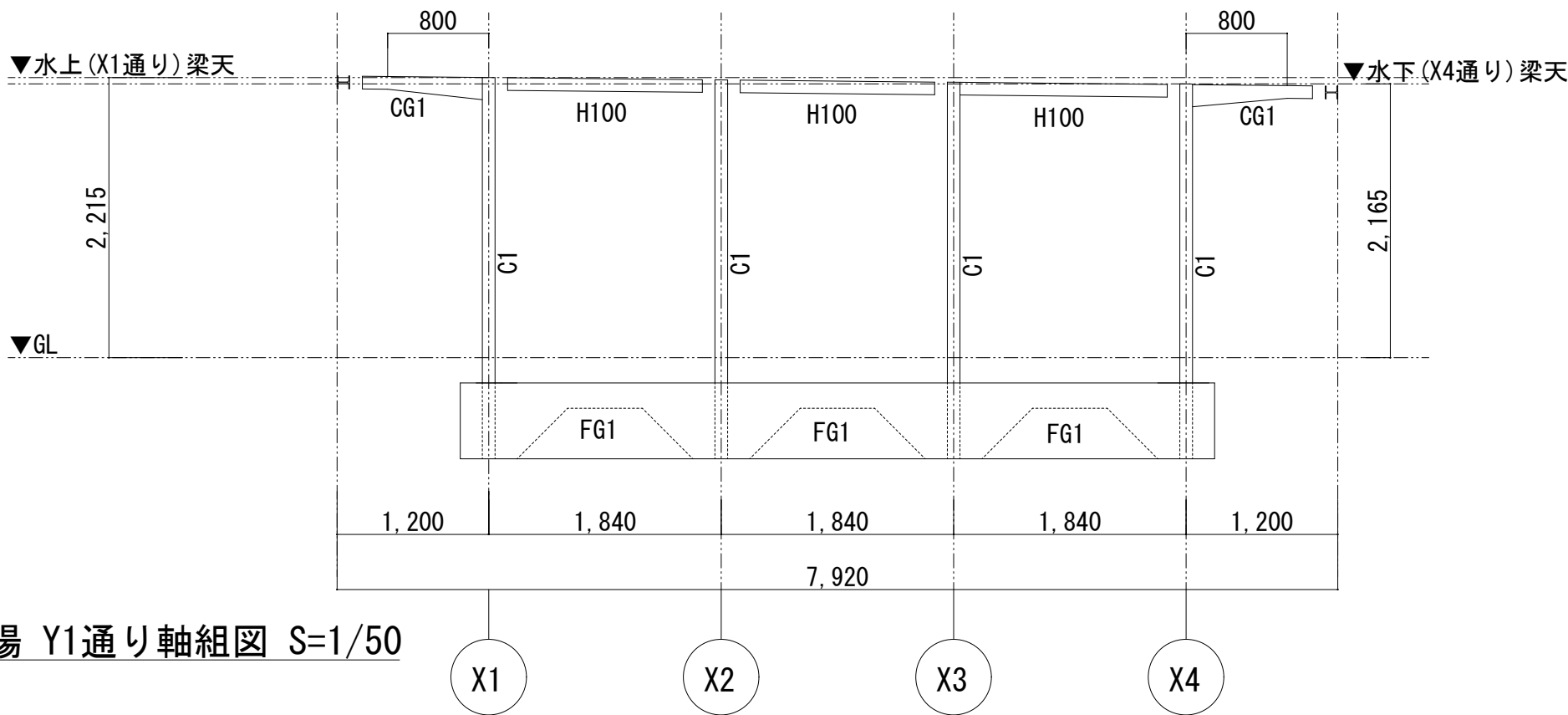
1. ⇐ は主筋方向を表す
2. 基礎梁天, スラブ天=GL-200
3. ▲部は埋め込み柱脚U字補強筋設置箇所を表す



西駐輪場 屋根伏図 S=1/50

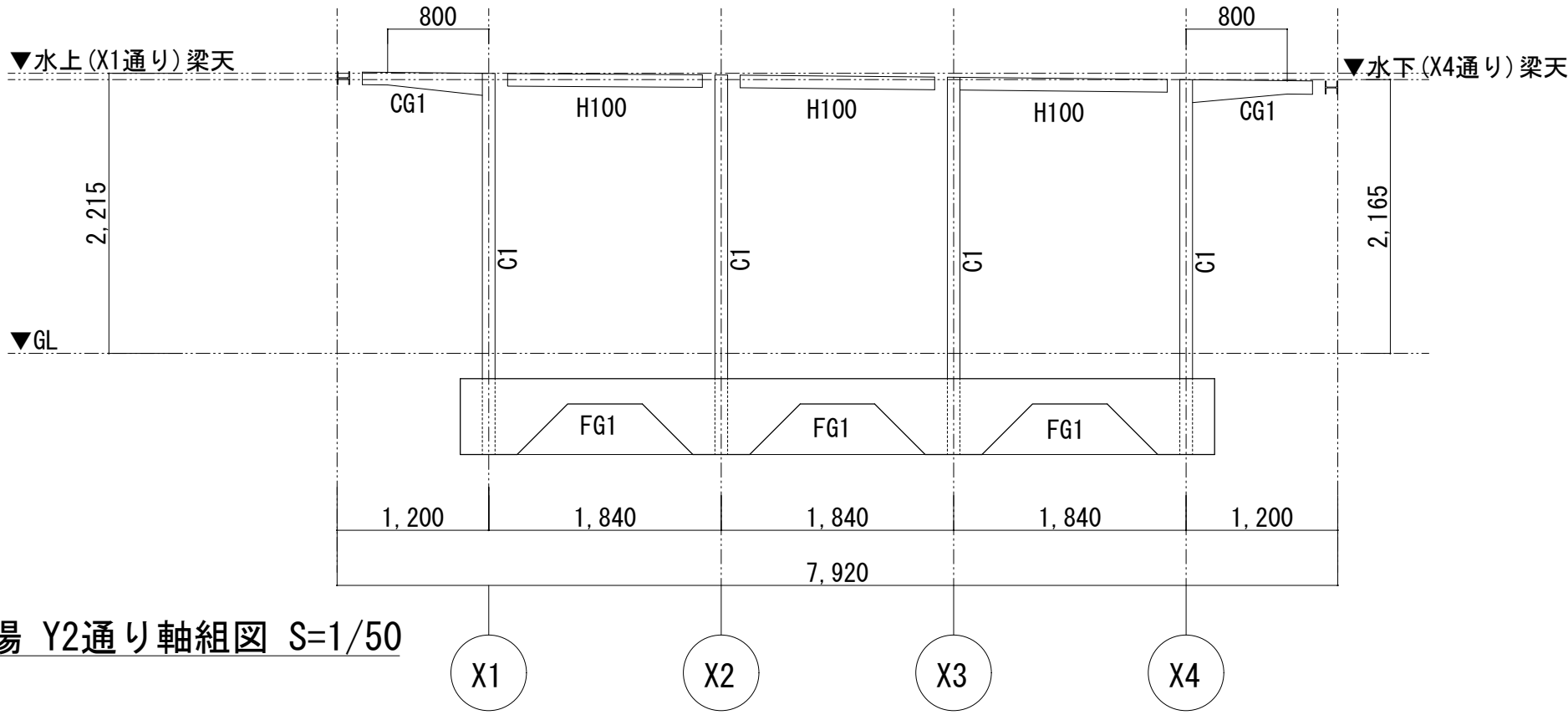
特記事項

1. 水上梁天 (X1通り)=GL+2215
水下梁天 (X4通り)=GL+2165
2. 屋根下地はVデッキ「V50 (t=1.2)」とする
⇐ はデッキ溝方向を表す



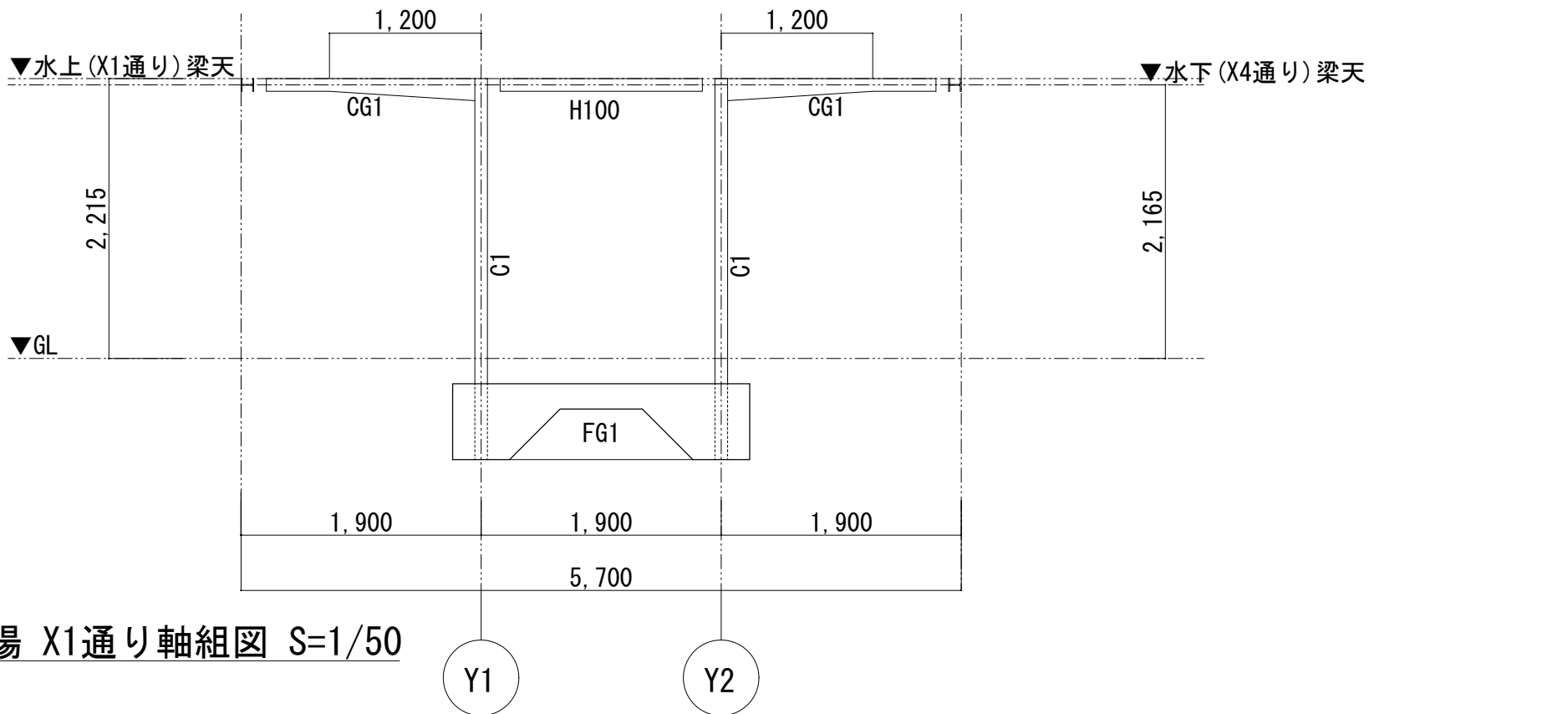
西駐輪場 Y1通り軸組図 S=1/50

特記事項



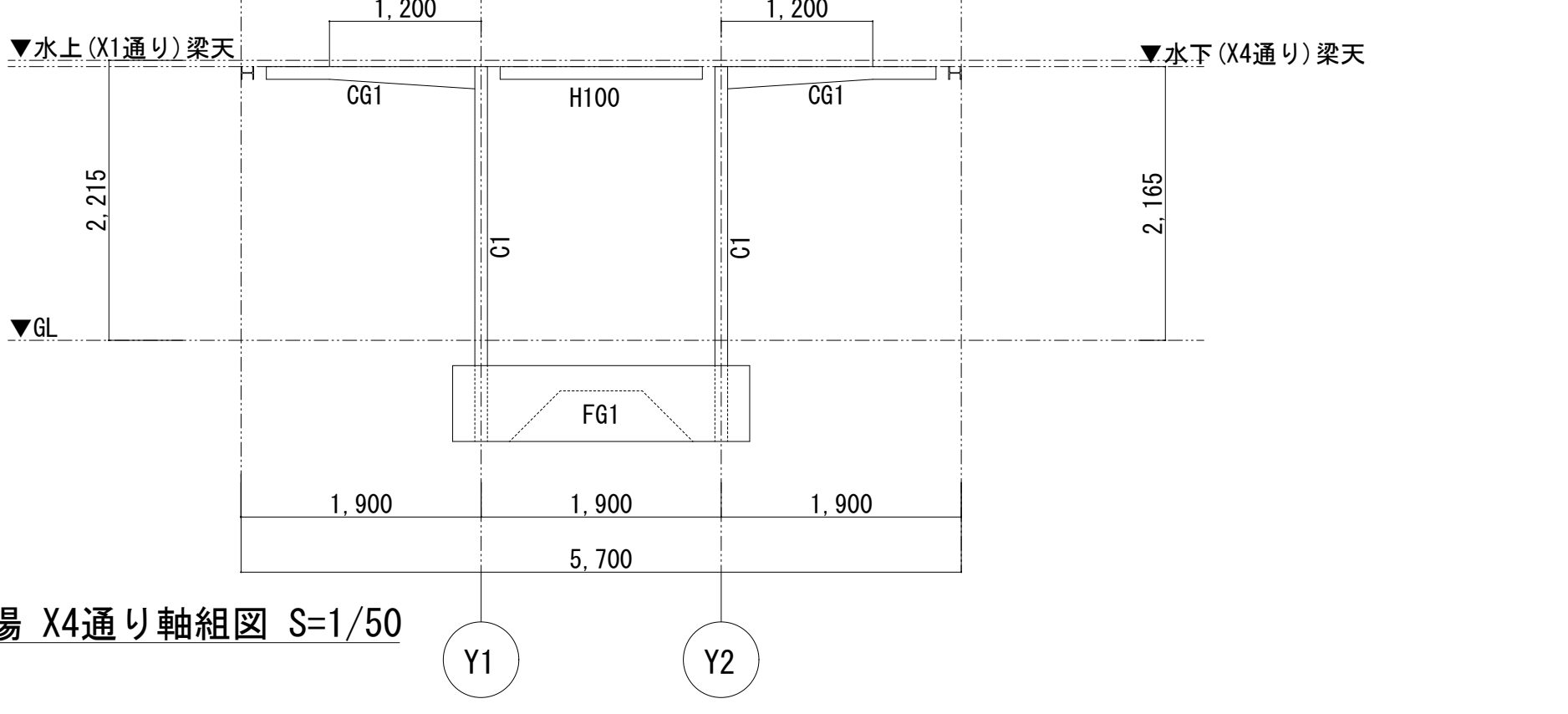
西駐輪場 Y2通り軸組図 S=1/50

特記事項



西駐輪場 X1通り軸組図 S=1/50

特記事項



西駐輪場 X4通り軸組図 S=1/50

特記事項

西駐輪場 基礎梁リスト S=1/30

| 記 号 | FG1 |
|-------|------------------|
| 位 置 | 全断面 |
| 断 面 | |
| B X D | 450x600 |
| 上 端 筋 | 2/2-D16 |
| 下 端 筋 | 2/2-D16 |
| S T P | 2-D13@200 |
| 腹 筋 | 2-D13 |
| 備 考 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 |

西駐輪場 スラブリスト

| 記号 | スラブ厚 | 位置 | 主筋方向 | 配力筋方向 | 備 考 |
|-----|------|----|---------|---------|----------|
| FS1 | 200 | 上端 | D13@200 | D10@200 | 捨てコンt=50 |
| | | 下端 | D13@200 | D10@200 | 砕石t=60 |

西駐輪場 鉄骨部材リスト

| 種別 | 記号 | 部材 | 材質 |
|------|------|--------------------------------|-------|
| 柱 | C1 | φ-100 (ムク) | SS400 |
| 梁 | CG1 | CT-175x175x7x11~CT-50x175x7x11 | SS400 |
| | H100 | H-100x100x6x8 | SS400 |
| ブレース | hBR1 | M16 (ターンバックル付き) | SS400 |

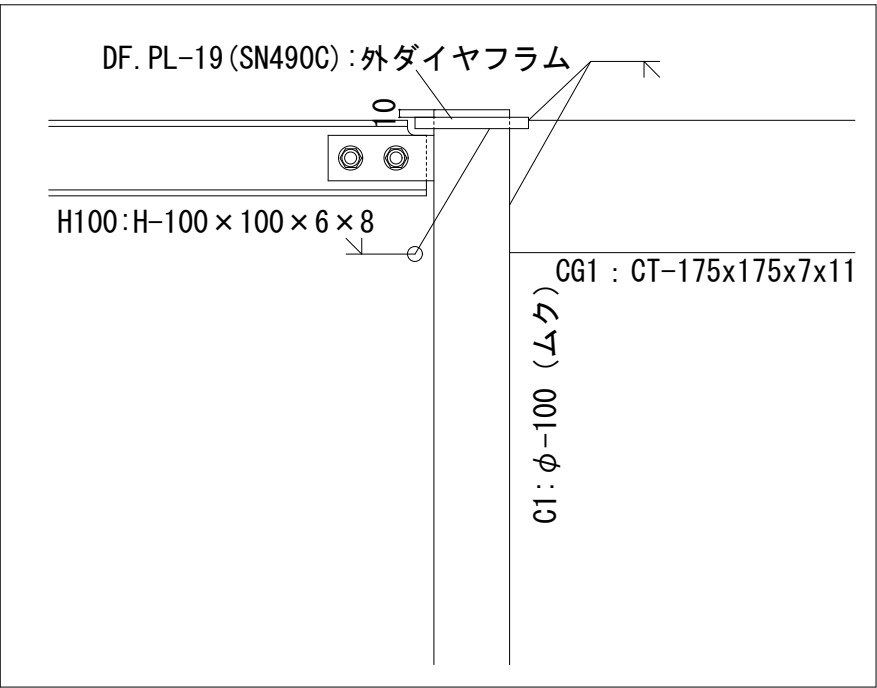
西駐輪場 鉄骨梁ピン継手リスト S=1/20

| H-100x100x6x8 | SS400 |
|---|-------|
| | |
| ※G. PLの対面にはR. PLを設けること 厚さ、材質はG. PLと同等とする | |

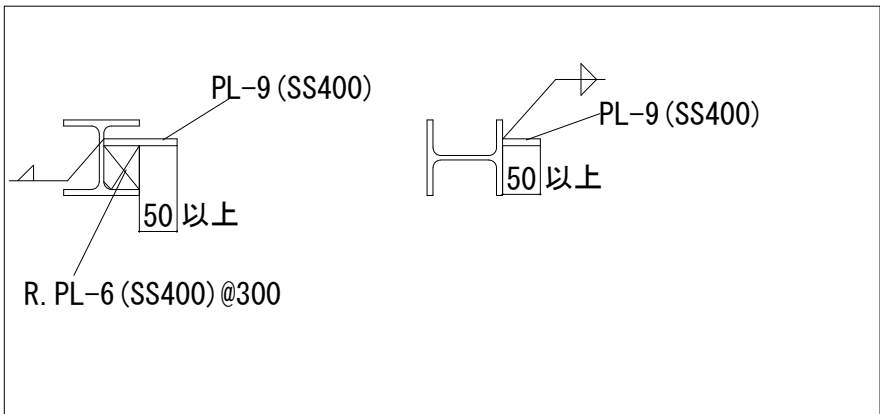
西駐輪場 ブレース継手リスト S=1/20

| M16 (TB) | SS400 |
|----------|-------|
| | |

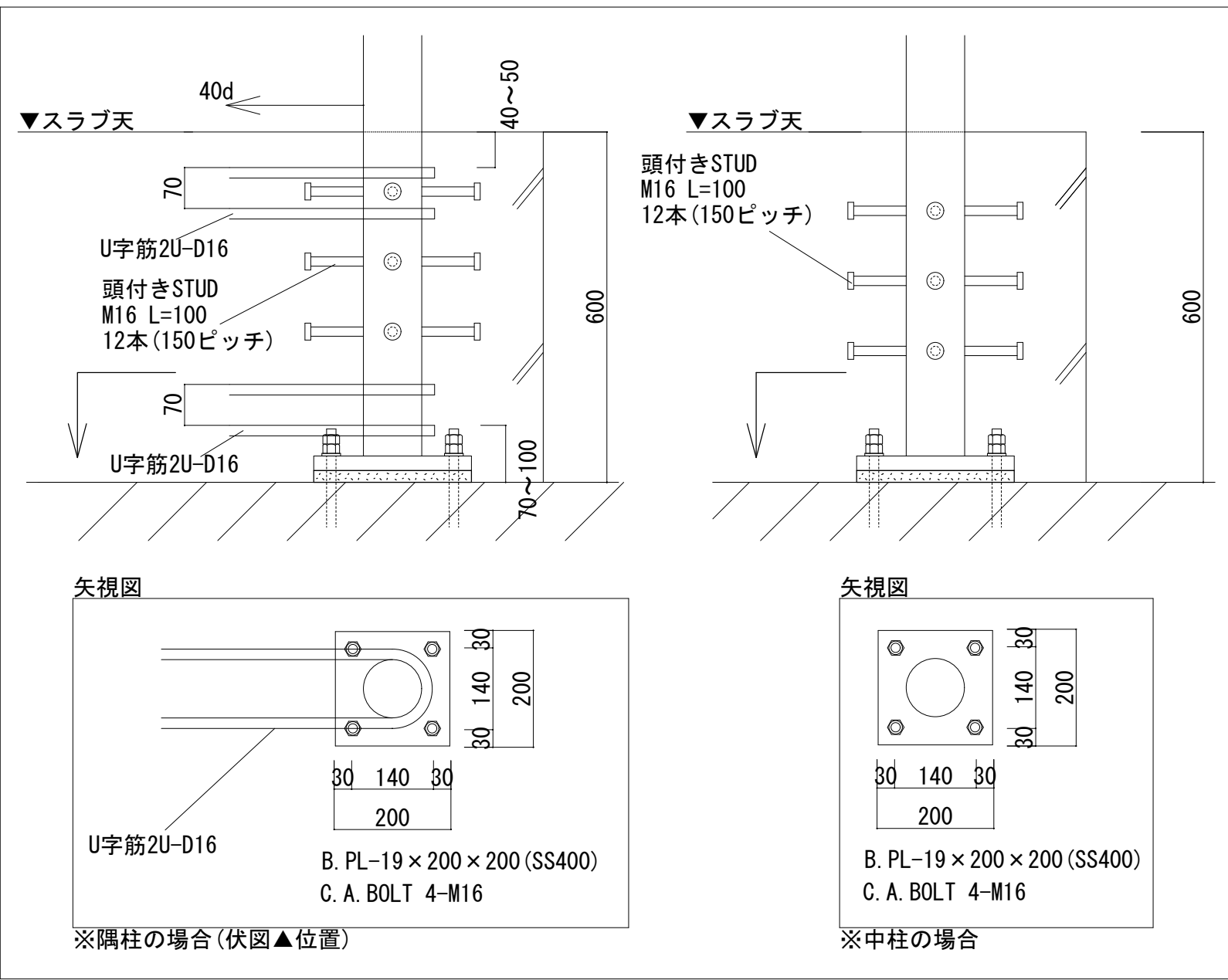
西駐輪場 柱梁仕口詳細図 S=1/10

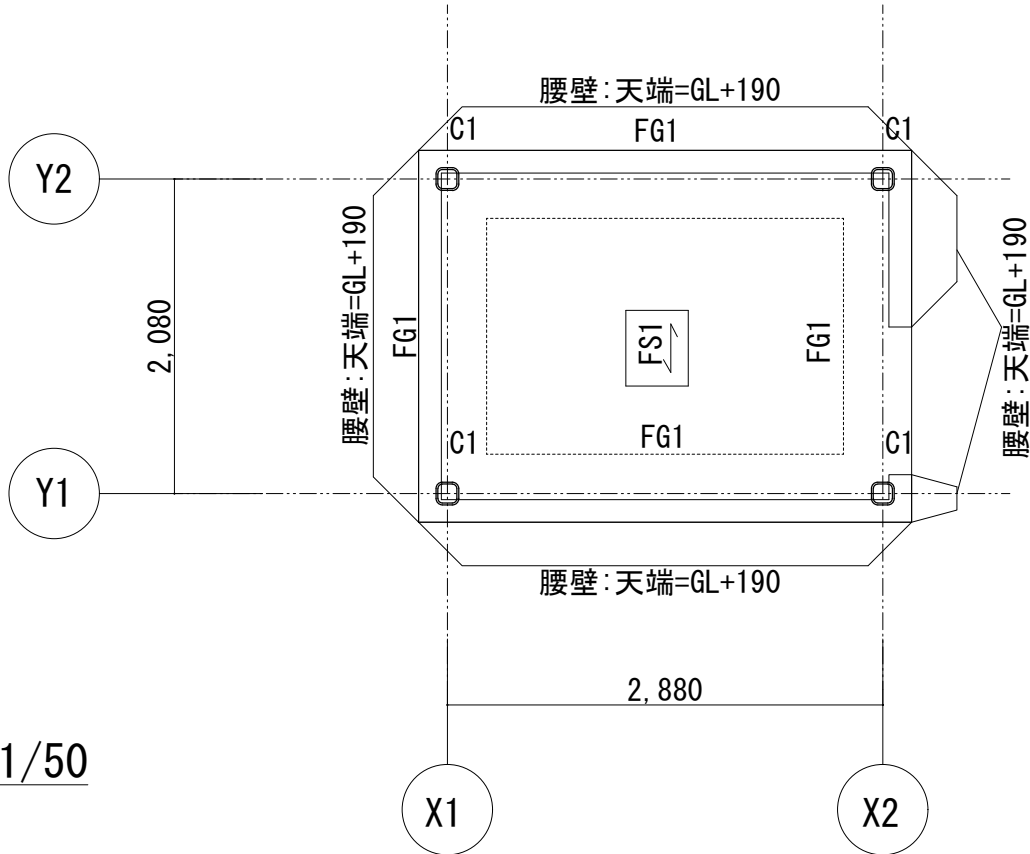


西駐輪場 屋根デッキ受け詳細図 S=1/10



西駐輪場 柱脚詳細図 S=1/10

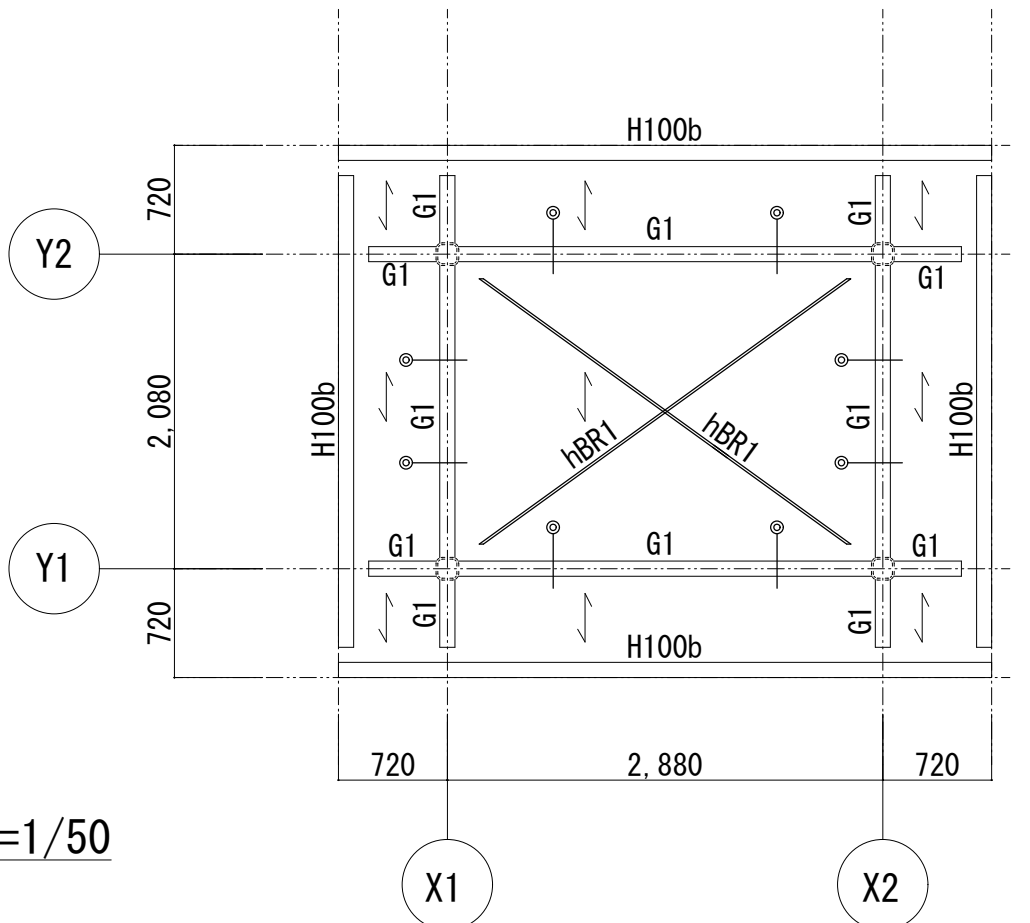




誘導員詰所 1階伏図 S=1/50

特記事項

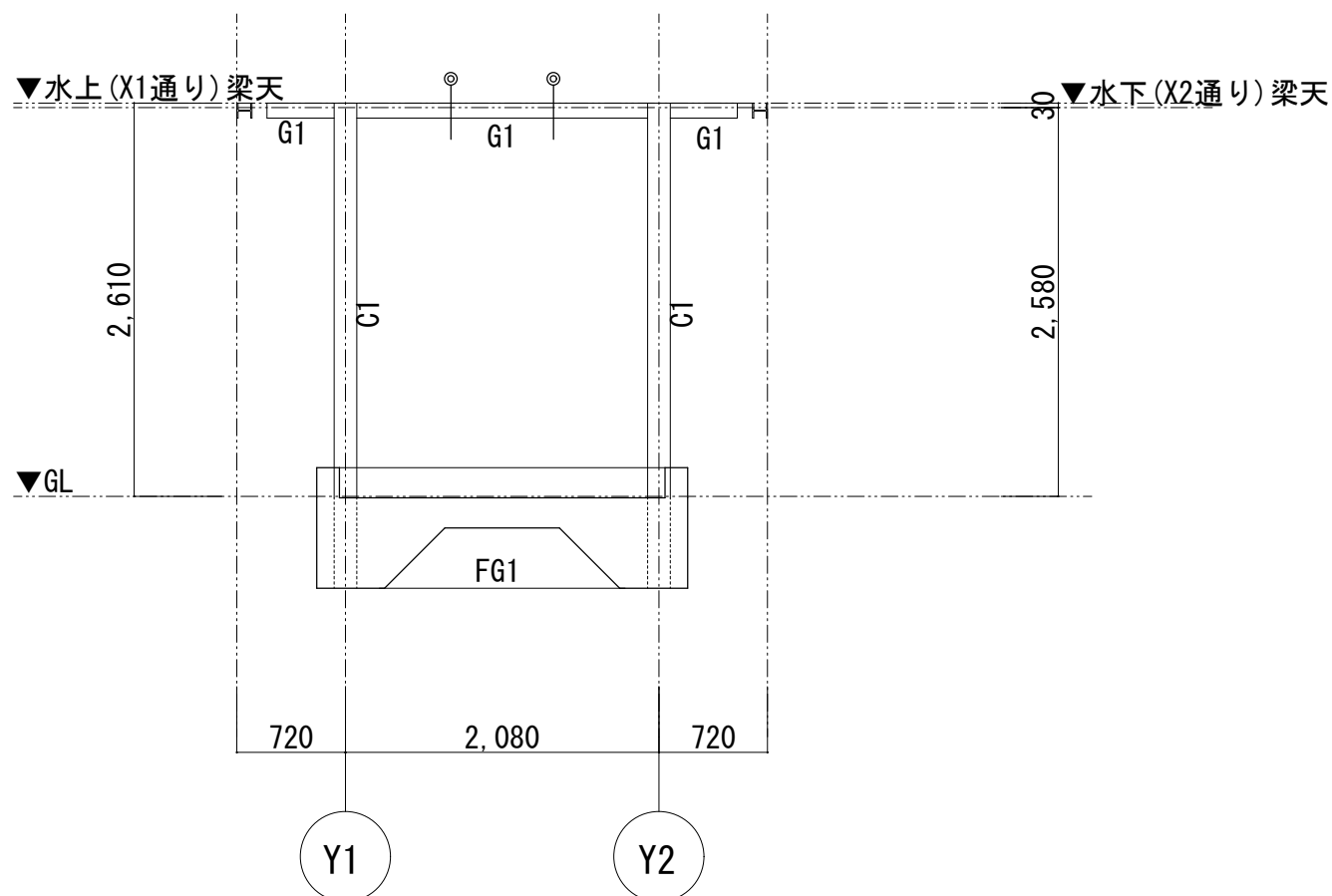
1. \swarrow は主筋方向を表す
2. 基礎梁天, スラブ天=GL-10
3. 腰壁の厚さは150mm, 配筋はD13@200シングル縦横とする



誘導員詰所 屋根伏図 S=1/50

特記事項

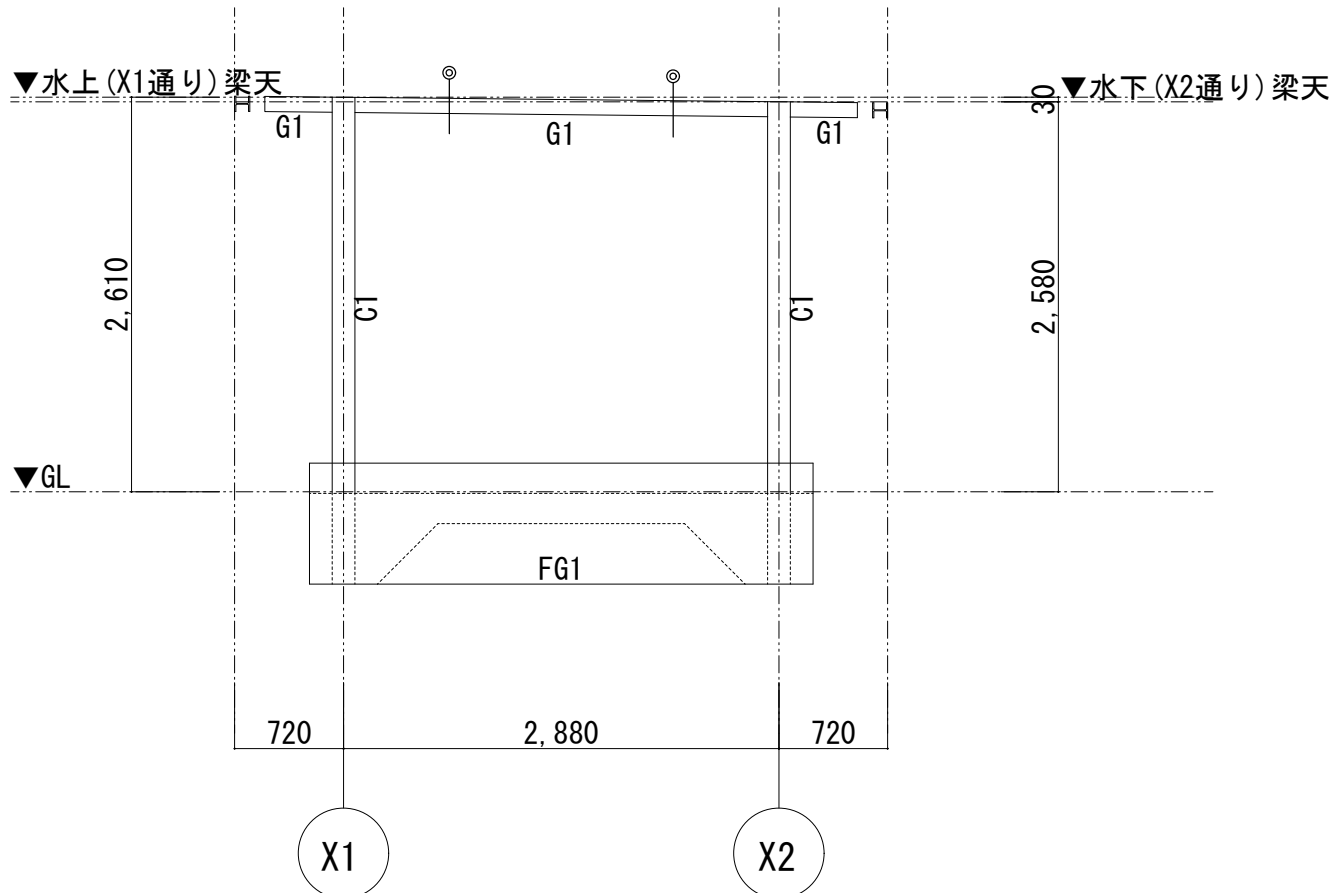
1. \circ — は現場継手位置を表す。特記無き限り柱芯から700mmとする。
2. 水上梁天 (X1通り)=GL+2610
 水下梁天 (X2通り)=GL+2580
3. 屋根下地はVデッキ「V50 (t=1.2)」とする
 \swarrow はデッキ溝方向を表す



誘導員詰所 X1通り軸組図 S=1/50

特記事項

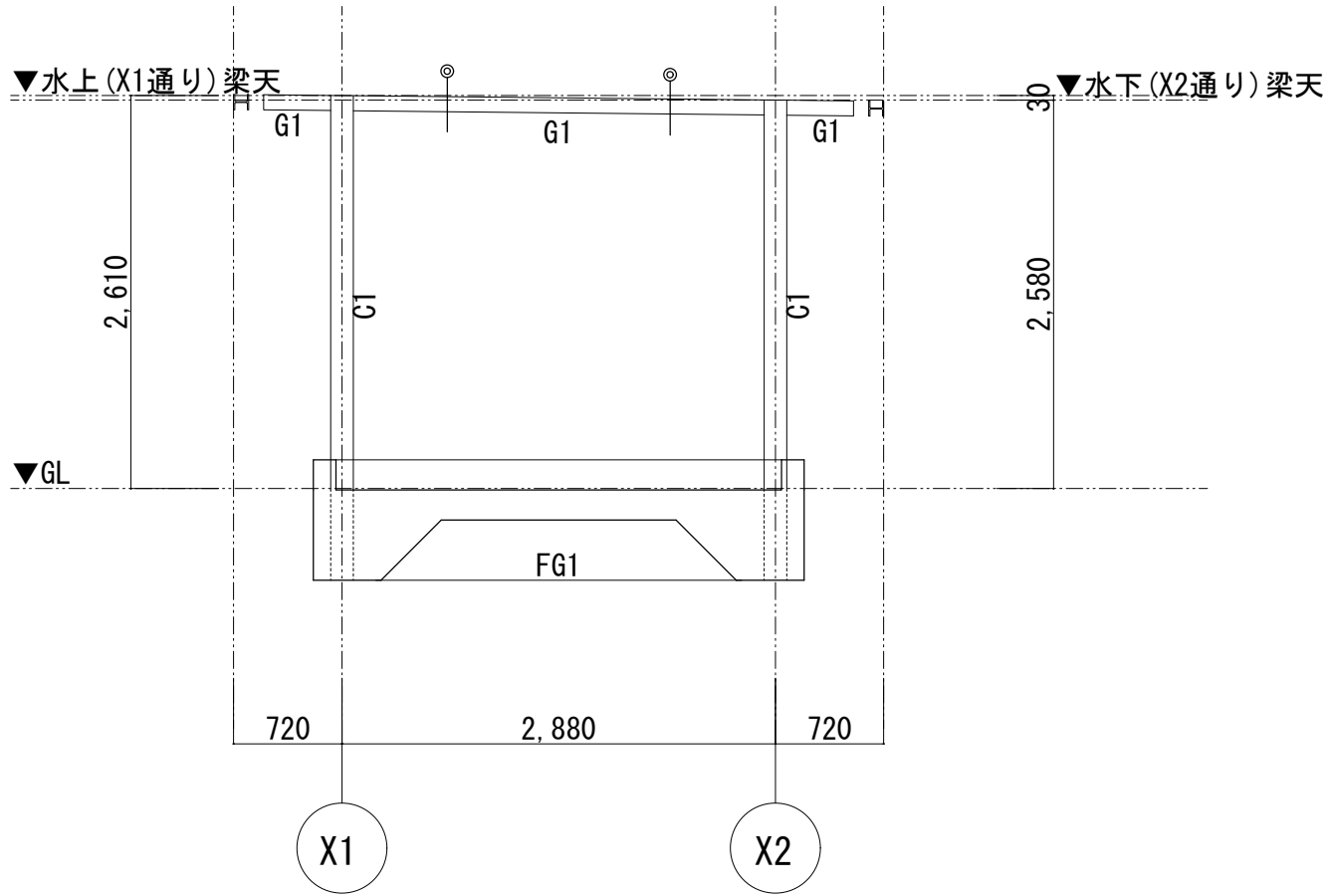
1. \circ — は現場継手位置を表す



誘導員詰所 Y1通り軸組図 S=1/50

特記事項

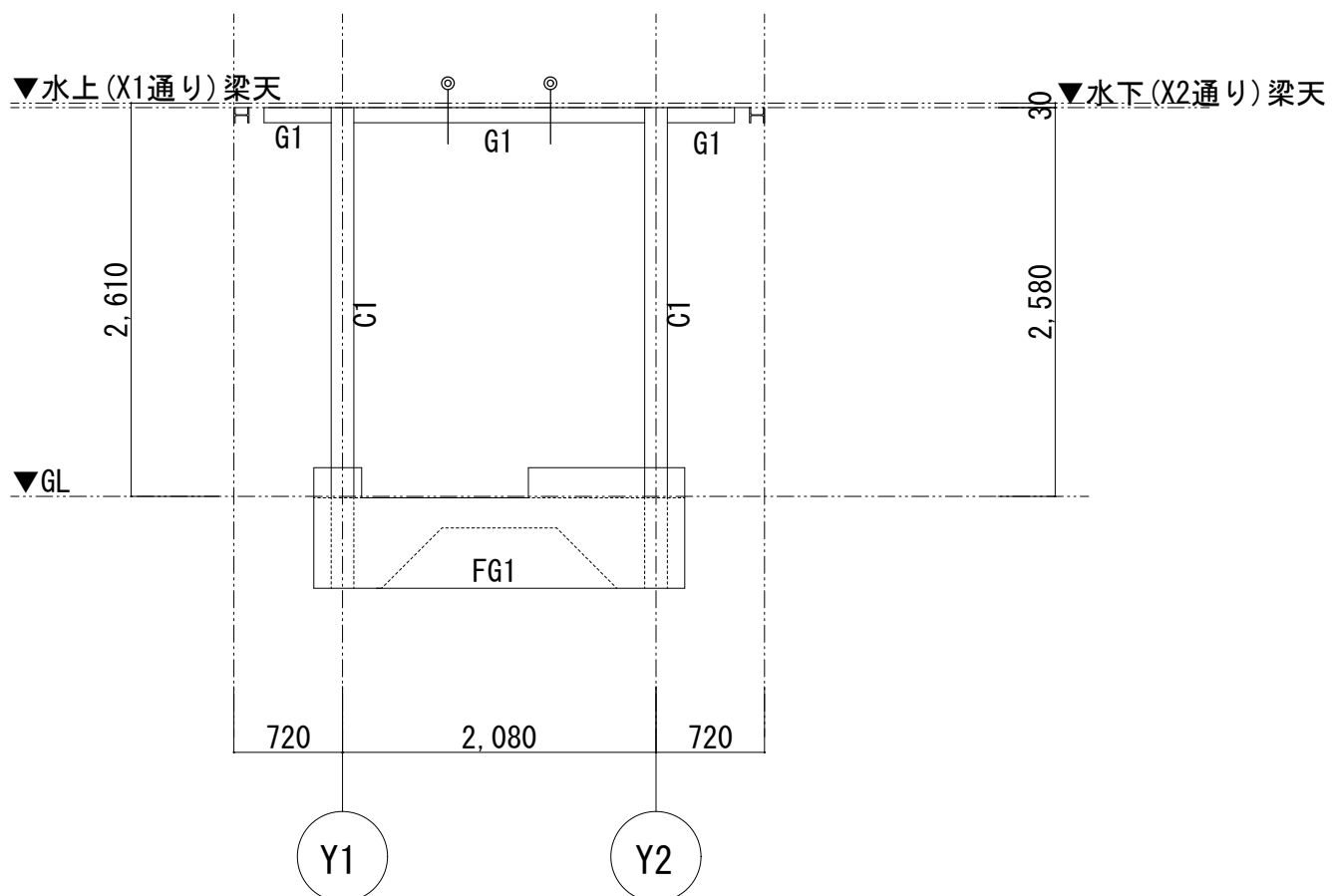
1. \circ — は現場継手位置を表す



誘導員詰所 Y2通り軸組図 S=1/50

特記事項

1. \circ — は現場継手位置を表す



誘導員詰所 X2通り軸組図 S=1/50

特記事項

1. \circ — は現場継手位置を表す

誘導員詰所 基礎梁リスト S=1/30

| 記 号 | FG1 |
|-------|------------------|
| 位 置 | 全断面 |
| 断 面 | |
| B X D | 450x600 |
| 上 端 筋 | 2/2-D16 |
| 下 端 筋 | 2/2-D16 |
| S T P | 2-D13@200 |
| 腹 筋 | 2-D13 |
| 備 考 | 捨てコンt=50, 砕石t=60 |

誘導員詰所 スラブリスト

| 記号 | スラブ厚 | 位置 | 主筋方向 | 配力筋方向 | 備 考 |
|-----|------|----|---------|---------|----------|
| FS1 | 200 | 上端 | D13@200 | D13@200 | 捨てコンt=50 |
| | | 下端 | D13@200 | D13@200 | 砕石t=60 |

誘導員詰所 鉄骨部材リスト

| 種別 | 記号 | 部材 | 材質 |
|------|-------|---------------------|--------|
| 柱 | C1 | □-150x150x12 | BCR295 |
| 梁 | G1 | H-100x100x6x8 | SN400B |
| | H100b | H-100x100x6x8 (横使い) | SS400 |
| ブレース | hBR1 | M16 (ターンバックル付き) | SS400 |

誘導員詰所 鉄骨梁剛継手リスト S=1/20

| H-100x100x6x8 | SN400B |
|--------------------------|--------|
| | |
| F. SPL 外 1SPL-16x100x290 | HTB |
| 内 2SPL-12x50x350 | 4-M16 |
| W. SPL 2SPL-12x50x350 | 2-M16 |

誘導員詰所 鉄骨梁ピン継手リスト S=1/20

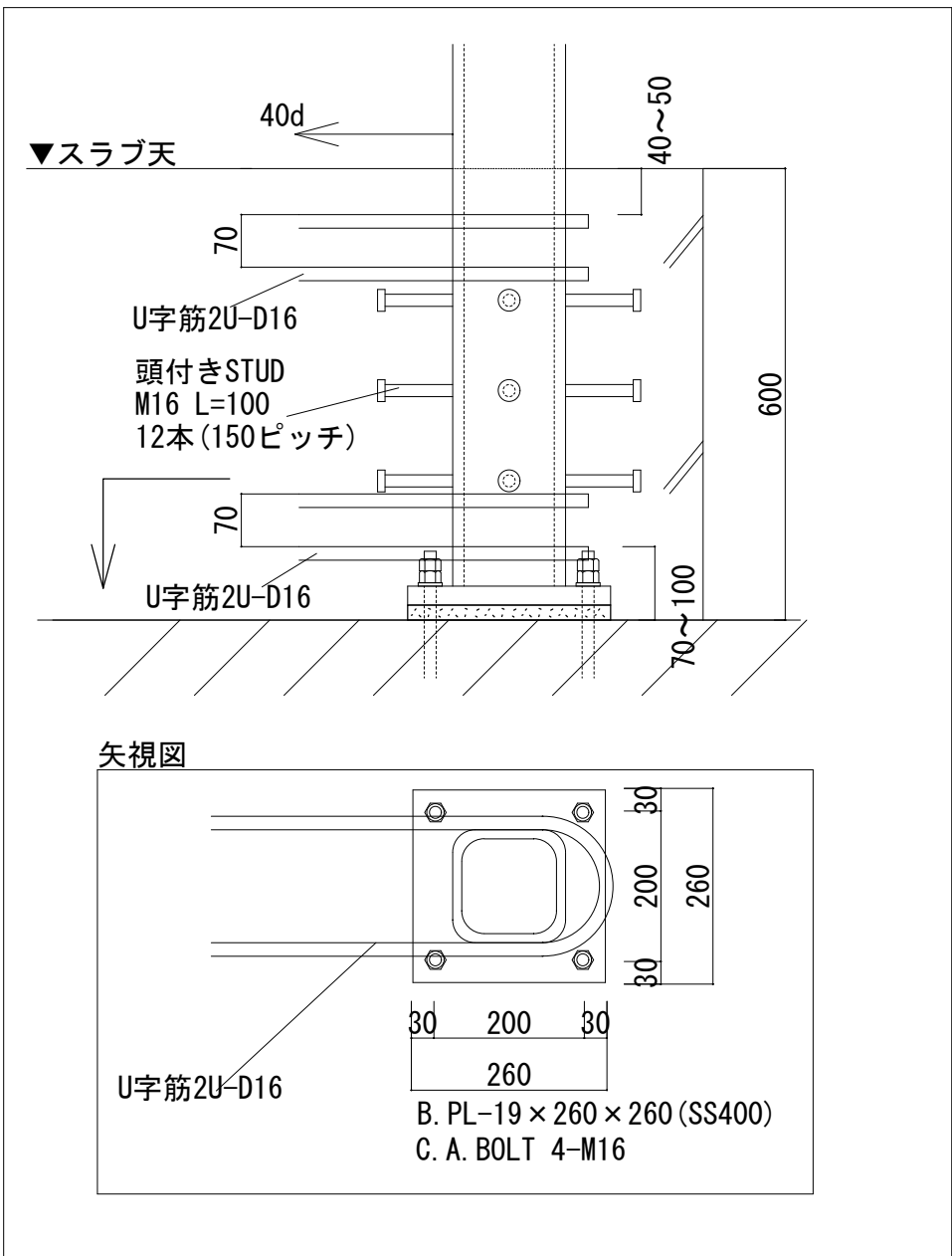
| H-100x100x6x8 | SS400 |
|---------------|-----------------|
| | |
| G. PL-9 | HTB 2-M16 (F8T) |

※G. PLの対面にはR. PLを設けること
厚さ, 材質はG. PLと同等とする

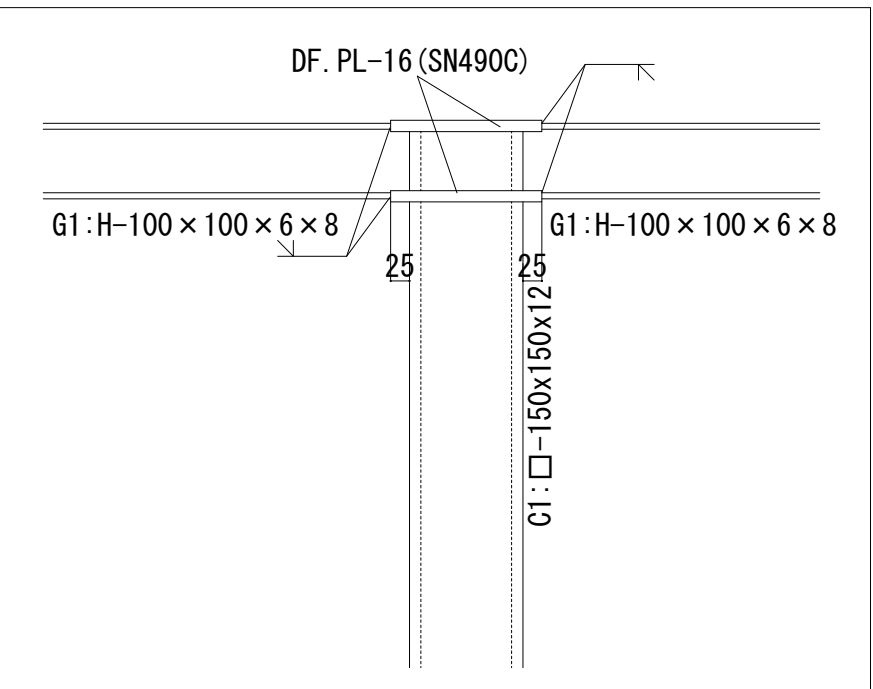
誘導員詰所 ブレース継手リスト S=1/20

| M16 (TB) | SS400 |
|----------|-----------|
| | |
| G. PL-9 | HTB 1-M16 |

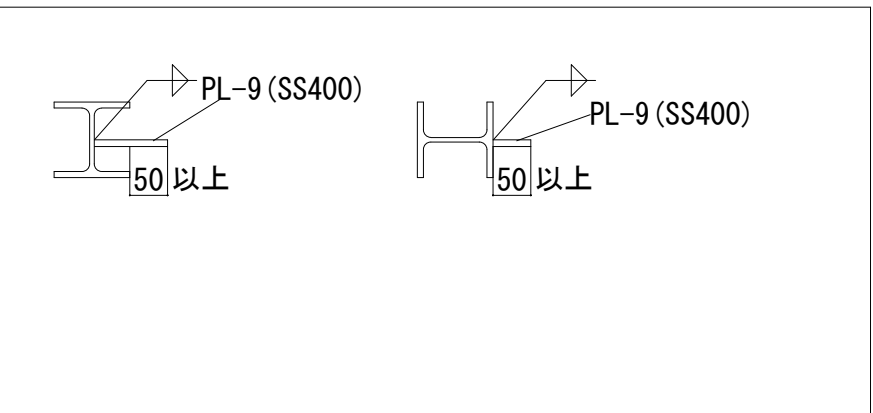
誘導員詰所 柱脚詳細図 S=1/10



誘導員詰所 柱梁仕口詳細図 S=1/10



誘導員詰所 屋根デッキ受け詳細図 S=1/10



深層混合処理工法特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に攪拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター）（ベターリビング）による。

3. 特記事項

- (1) コラムの径・掘削深度（設計コラム長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
 - (2) コラムの設計基準強度は $F_c = 800 \text{ kN/m}^2$ とする。
 - (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
 - (4) 本工事は、改良体強度の品質が変動係数 25% 以下であることを「建設技術審査証明協議会（平成 13 年 1 月 10 日設立）」に属する機関で証明された技術審査証明取得工法とし、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。
- 又、品質確保の為、技術審査証明取得業者が常駐管理の元に施工を行う。

4. 施工計画

- (1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものととする。
- (2) 施工計画書
工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- ・工事名称及び工事場所
 - ・コラム仕様及び数量
〔コラム径、掘削深度（設計コラム長＋空掘長）、本数、設計基準強度〕
 - ・工事期間及び工程
 - ・工事の組織（建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名及び責任者、各種作業の主たる従事者）
 - ・施工手順
 - ・施工管理項目
 - ・固化材配合条件
 - ・施工機器
 - ・品質検査
 - ・安全衛生対策
 - ・土質柱状図
 - ・コラム伏図
 - ・技術審査証明書（写）

5. 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- (2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
 - a. 攪拌混合装置をコラム心に合わせる。
 - b. 固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘進する。
 - c. 固化材液を吐出しながら掘進・攪拌混合する。
 - d. 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の練り返しを行う。
 - e. 先端練り返し工程が終了したら、攪拌軸を逆回転し引上げ攪拌混合する。
- (3) 設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長という。
- (4) 本工事でより排出される発生残土は場内処分を原則とする。
- (5) 施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6. 施工機械

- (1) 共回り現象を防止する機構を有し、固化材と原位置土を確実に攪拌混合できる攪拌装置を用いること。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- (3) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

- (1) 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
- (2) 配合強度
変動係数を25%と想定し、9項に規定する抜き取り箇所数N、合格確率 80%とした下表を用いて設定する。

| | | | | | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| N | 1 | 2 | 3 | 4~6 | 7~8 | 9 |
| α | 2.163 | 1.918 | 1.815 | 1.719 | 1.651 | 1.594 |

$$Xf = \alpha \times Fc \quad [\alpha : \text{割り増し係数、} Xf : \text{配合強度}]$$

- (3) 室内配合試験
- 固材材量の配合（W／C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。
- 設計段階で想定する添加量 【 200 kg／m³ 】

8. 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。
- | | | |
|---------|---------------------------------------|---|
| ① 形状・寸法 | 鉛直性 コラム芯 掘削深度 コラム径 | 改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する 事前にコラム芯にマークを設ける 深度計で計測し記録する 攪拌装置の形状・寸法を記録する |
| ② 固化材 | 材料計量 固化材液の密度 固化材液の添加量又はスラリーの吐出量 | 水、固化材の重量 マッドバランス等 スーパースystemによる施工管理又は流量計で計測し、記録する |
| ③ 攪拌混合度 | 攪拌混合回数又は掘進・引上げ速度 | スーパースystemによる施工管理又は速度計で計測し、記録する |
| ④ 支持地盤 | 仕事量又は掘進速度・オーガー電流値（又はトルク値） | スーパースystemによる施工管理又は速度計・電流計（又はトルク計）で計測し、記録する （着底判定（仕事量・電流値・トルク値）は、先行コラムの施工状況により、監督員と協議して決定する） |

- (2) コラムの芯ズレ
 コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
- (3) 施工の立会い
 建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9. 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数
 - ① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
 - ② 検査対象層は【礫混じり砂】 【軽石混じり砂】 【シルト混じり砂】 であり、設計対象層を 【シルト混じり砂】 とする。ただし、設計対象層以外の平均強度が設計対象層の平均強度より小さい場合は、最も小さい平均強度の層を設計対象層とする。
 - ③ 調査箇所数（1検査対象群に対して）
 - 頭部コア 100コラムに1ヶ所
 - 深度コア 100コラムに1ヶ所コア採取方法は、モールドコア採取とする。
- (2) 可否の判定
 - ① 設計対象層についての抜取箇所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を取り、その平均強度をその箇所の強度とする。
 - ② 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
 - ③ 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法Aによる。
 - ④ 検査手法Aによる品質検査
可否の判定は検査対象層におけるNヶ所（抜取箇所数）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$$\bar{X}_N \geq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma$$

\bar{X}_N : Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値 (kN/m²)

XL: 合格判定値(kN/m²)

F_c : 設計基準強度 (kN/m²)

k_a : 合格判定係数

$$\sigma : \text{標準偏差 (kN/m}^2\text{)} = v \cdot \bar{q}ud \quad \left(\begin{array}{l} v : \text{変動係数、品質確認書により想定する} \\ \bar{q}ud : \text{想定した平均一軸圧縮強さ (kN/m}^2\text{)} \end{array} \right)$$

| | | | | | | |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 抜き取りヶ所数N | 1 | 2 | 3 | 4~6 | 7~8 | 9 |
| 合格判定係数 ka | 1.9 | 1.7 | 1.6 | 1.5 | 1.4 | 1.3 |

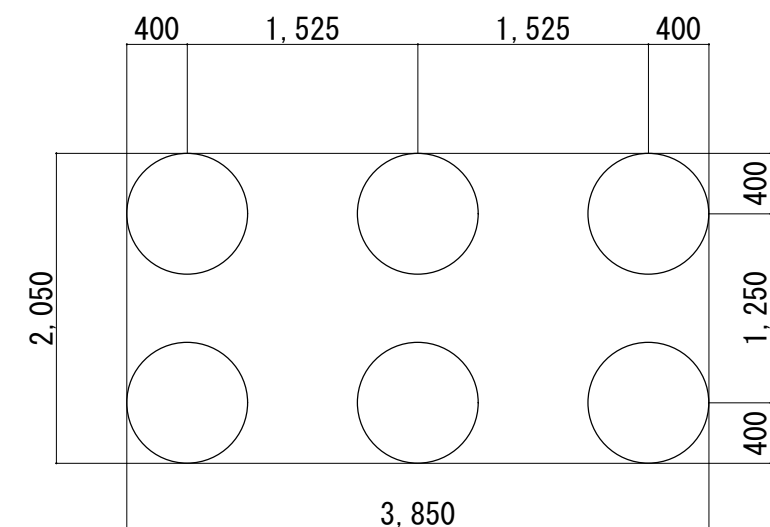
10. 報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に3部提出する。

- | | | | |
|---|-----------------------|---|-------------------------|
| ① | コラムの伏図及び番号 | ⑥ | 仕事量又は、掘進速度及び電流値（又はトルク値） |
| ② | コラムの施工日 | ⑦ | 固化材液の配合と固化材の使用量 |
| ③ | コラムの径及び実施コラム長 | ⑧ | コア供試体の一軸圧縮強度試験結果 |
| ④ | 掘削深度 | ⑨ | 合否判定結果 |
| ⑤ | 攪拌混合回数又は、掘進速度及び引き上げ速度 | | |

11. 六価クロム溶出試験

本工事は、施工前において六価クロム溶出試験を行い、その結果が満足することを確認する。



オイルタンク 基礎伏図 S=1/50

特記事項

1. 躯体寸法、配筋は別途埋設図参照
2. 基礎スラブ下端=GL-2332
3. 基礎直下は柱状改良を行い長期許容支持力
70kN/m²を確保する仕様とする
改良体径800φ 計6本
Fc=800kN/m²
改良体上端=GL-2382
改良体長=5300mm

増打コンクリート躯体補強要領

使用材料

1. コンクリート

・コンクリートの種別

J I S表示許可工場にて製造された、レディーミクストコンクリート

・設計基準強度

$F_c=30\text{N/mm}^2$

・スランブ

18cm 以下

・粗骨材最大径

20mm 程度

・単位セメント量

270kg/m^3 以上（膨張性混和材を含む。）

・水セメント比

65% 以下

・膨張性混和材

C S A系 参考品
プラント投入とし、メーカー指定の添加量とするよう気を付ける事。

2. 鉄筋

・全般

SD295A 規格品（D10～D16）
SD345 規格品（D19～D25）

・スパイラル筋

SR235（6φ）設計図による。（JIS G 3112）

・鉄筋継手

重ね継ぎ手を原則とする。
（スパイラル筋は1巻半以上重ねる。）

3. 接合部アンカー（既存柱梁面）

・接着系アンカー

カプセル型（有機系・無機系）

・アンカー筋（ナット付）

SD295A 規格品（D10～D16）（JIS G 3112 3種）
SD345 規格品（D19）（JIS G 3112 3種）

4. 無収縮モルタル

・グラウト材

セメント系無収縮モルタル

・設計基準強度

$F_m=30\text{N/mm}^2$ 以上

・コンシステンシー

J14ロート試験方法による。

5. シアコネクター

・金属系アンカー

JIS G 3101,3123,3445,4805の規格を満足するもの、
もしくは、これらと同等またはそれ以上の品質を有するもの。

・アンカー筋

JIS G 3112 3種 SD295A 規格品

一般事項

1. あと施工アンカー（接着系アンカー）の間隔

(a) シングル配置

(b) チドリ配置

(c) ダブル配置

2. あと施工アンカー（接着系アンカー）の埋込み深さおよび定着長さ（定着長さは詳細図による。特記なき定着長さは、下記による）

単位（mm）

| ナット付の場合 | | | フックまたはナットなし | | |
|---------|-------------------------|-------------------------|-------------|-------------------------|-------------------------|
| アンカー径 | 埋込み深さ $L_a \geq 8da$ | 定着長さ $L_2 \geq 20da$ | アンカー径 | 埋込み深さ $L_a \geq 8da$ | 定着長さ $L_1 \geq 35da$ |
| D13 | 104以上 | 260以上 | D13 | 104以上 | 455以上 |
| D16 | 128以上 | 320以上 | D16 | 128以上 | 560以上 |
| D19 | 152以上 | 380以上 | D19 | 152以上 | 760以上 |

a. 一般部アンカー筋の有効埋込み長さは、7da以上、また穿孔長さL aは 8da以上とする。

b. 開口補強部アンカー筋の埋込み深さLaは、18da以上とする。

c. アンカー筋と鉄筋を重ね継手を行う場合は、「4. 鉄筋の重ね継手長さ」を参照する事。

3. スパイラル筋

形状は下記による。

スパイラル筋 6φ

ピッチ

| 鉄骨幅・壁厚 | 鉄筋径 | 外径 | ピッチ |
|---------|-----|-----|-----|
| 120、150 | 6 | 75 | 50 |
| 180 | 6 | 100 | 50 |
| 200、220 | 6 | 120 | 50 |
| 250 | 6 | 150 | 50 |
| 300 | 6 | 200 | 50 |

4. 鉄筋の重ね継手長さ（定着長さは詳細図による。特記なき定着長さは、下記による）

直線重ね継手の長さ

| 設計基準強度 | SD295A SD295B | SD345 |
|--------|------------------|-------|
| 27 | 35d | 40d |

フック付き重ね継手の長さ

| 設計基準強度 | SD295A SD295B | SD345 |
|--------|------------------|-------|
| 27 | 25d | 30d |

5. シアコネクター（金属系アンカー）の埋込み深さ（daはアンカー本体の外径）

| アンカー筋 | アンカー本体の外径 | 埋込み深さ |
|-------|-----------|------------|
| D10 | 13～14mm | 65～70mm 以上 |

6. フレア溶接（dは異形鉄筋の呼び名）

両側フレア溶接

片側フレア溶接

7. 注意事項

1）スパイラル筋や壁配筋等の材料の加工に先立ち躯体寸法を実測し、これらの補強筋等を、実状に合った寸法に加工する。

2）増打部材と既存コンクリート躯体との接合面については既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート打設前に充分な水湿しを行う。

3）コンクリートの打設には、パイプレーター又はタタキにより忠実なコンクリートとなるように充分な施工計画を立てる。

4）後打ちコンクリートは無収縮コンクリートとして計画施工する。

5）後打ちコンクリートは梁下約200mmまで打設し壁頂部は無収縮モルタル圧入とする。

6）コンクリートの強度発現期間内は充分な湿潤状態で養生する。
また養生期間中は振動等を与えないように注意する。

7）RC造部分の撤去等を行う場合に、鉄筋がコンクリート内より突出する時は防錆処理等を行うものとする。また、コンクリートを打設して再びコンクリート内に納まる場合は、防錆処理はしないものとする。

増打耐震壁補強配筋納まり標準詳細

開口廻り納まり標準詳細

コンクリート及びモルタル圧入要領図

(1) による普通コンクリート施工後 (2) によるモルタルを圧入する。

yAt構造設計事務所 合同会社 一級建築士事務所
一級建築士 第 341807 号
構造一級建築士 第 9582 号 中島 敦広

みのだ・プランディー設計共同企業体
代表事務所 株式会社 みのだ設計
一級建築士事務所 知事登録 第 1-3-140 号
一級建築士 第 148365 号 養田 満康

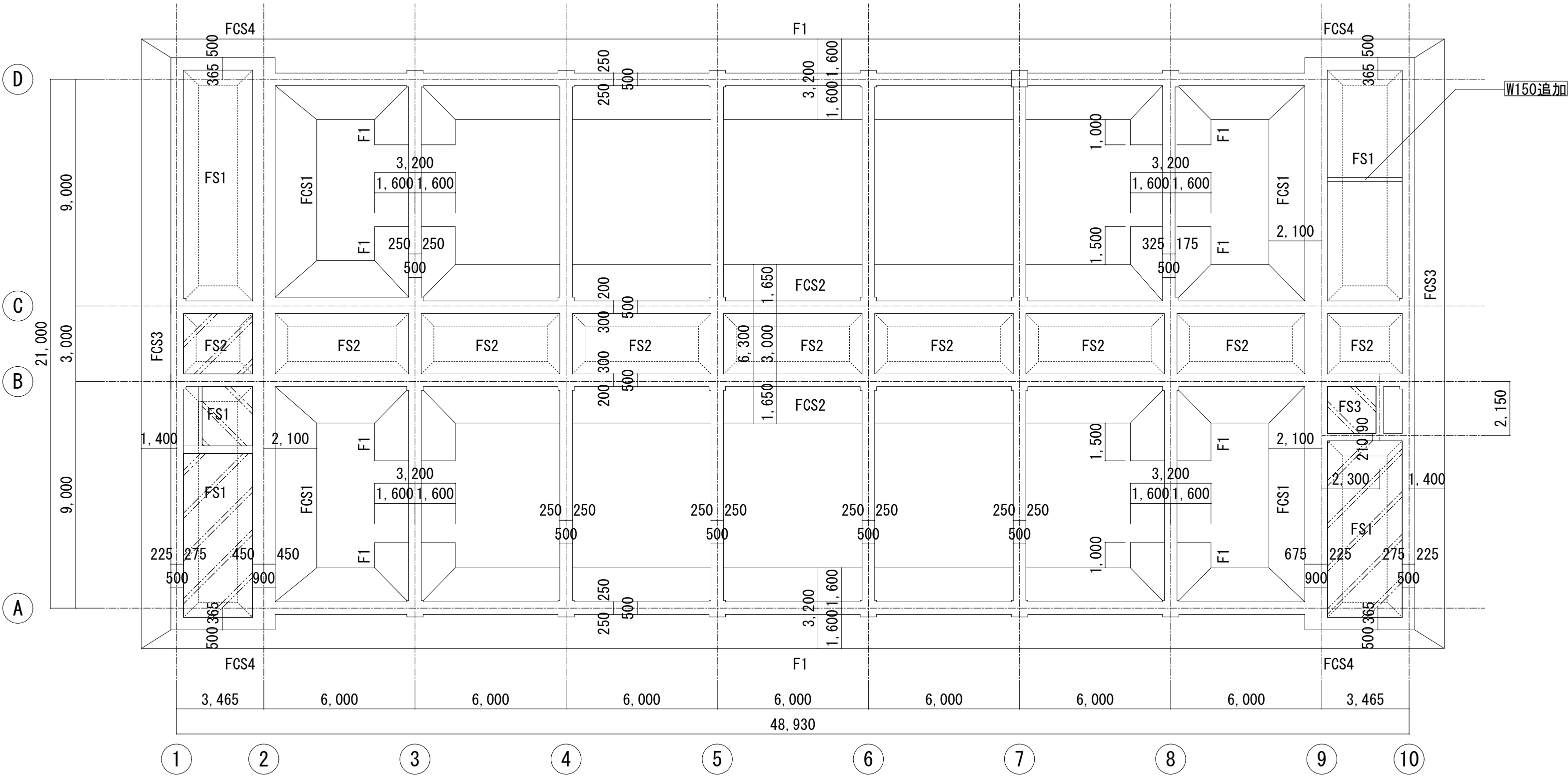
谷山支所庁舎大規模改修その他本体工事

増打コンクリート躯体補強仕様書

No.

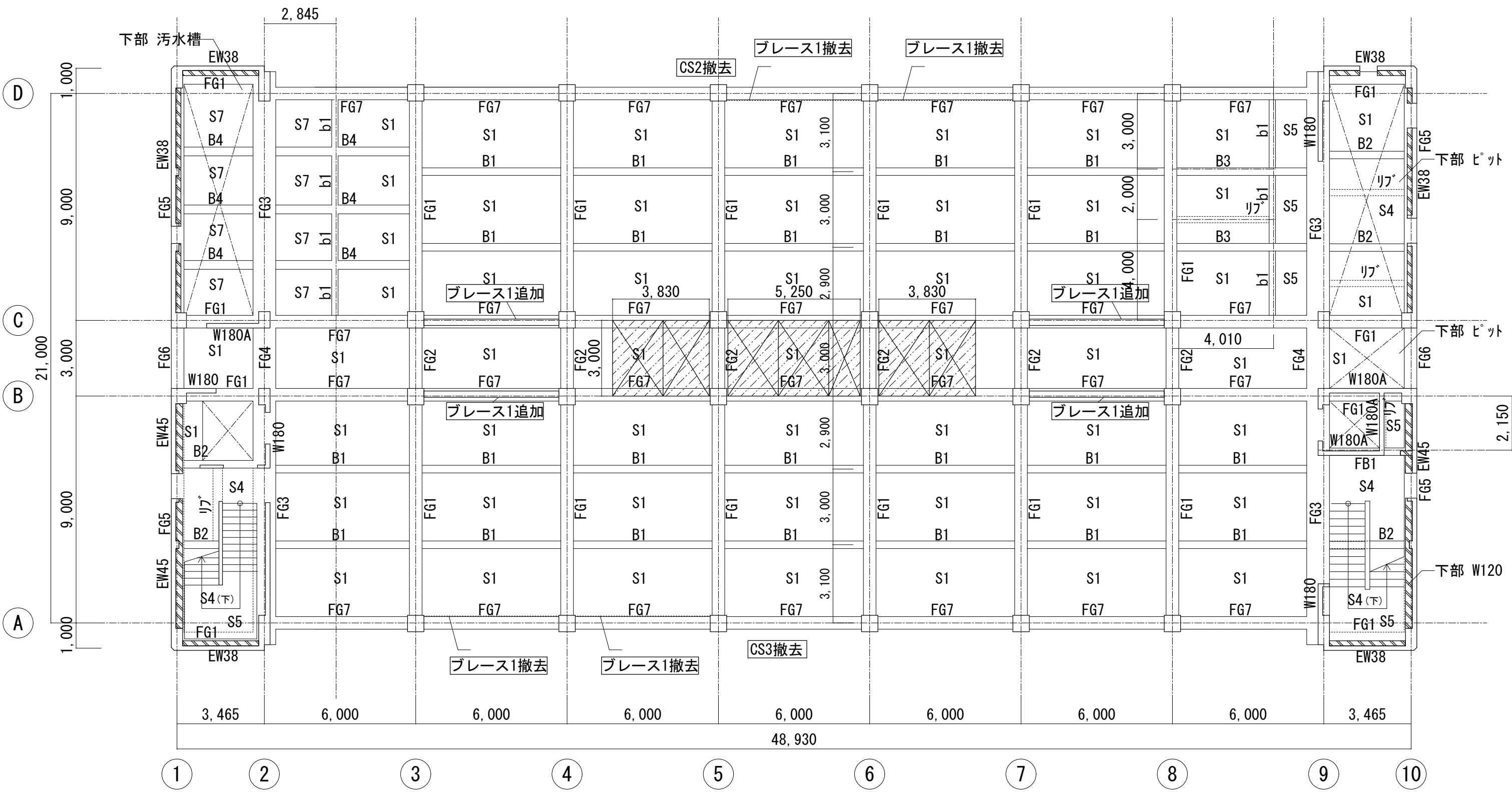
鹿児島市建設局建築部建築課

S - 38






既存庁舎基礎伏図

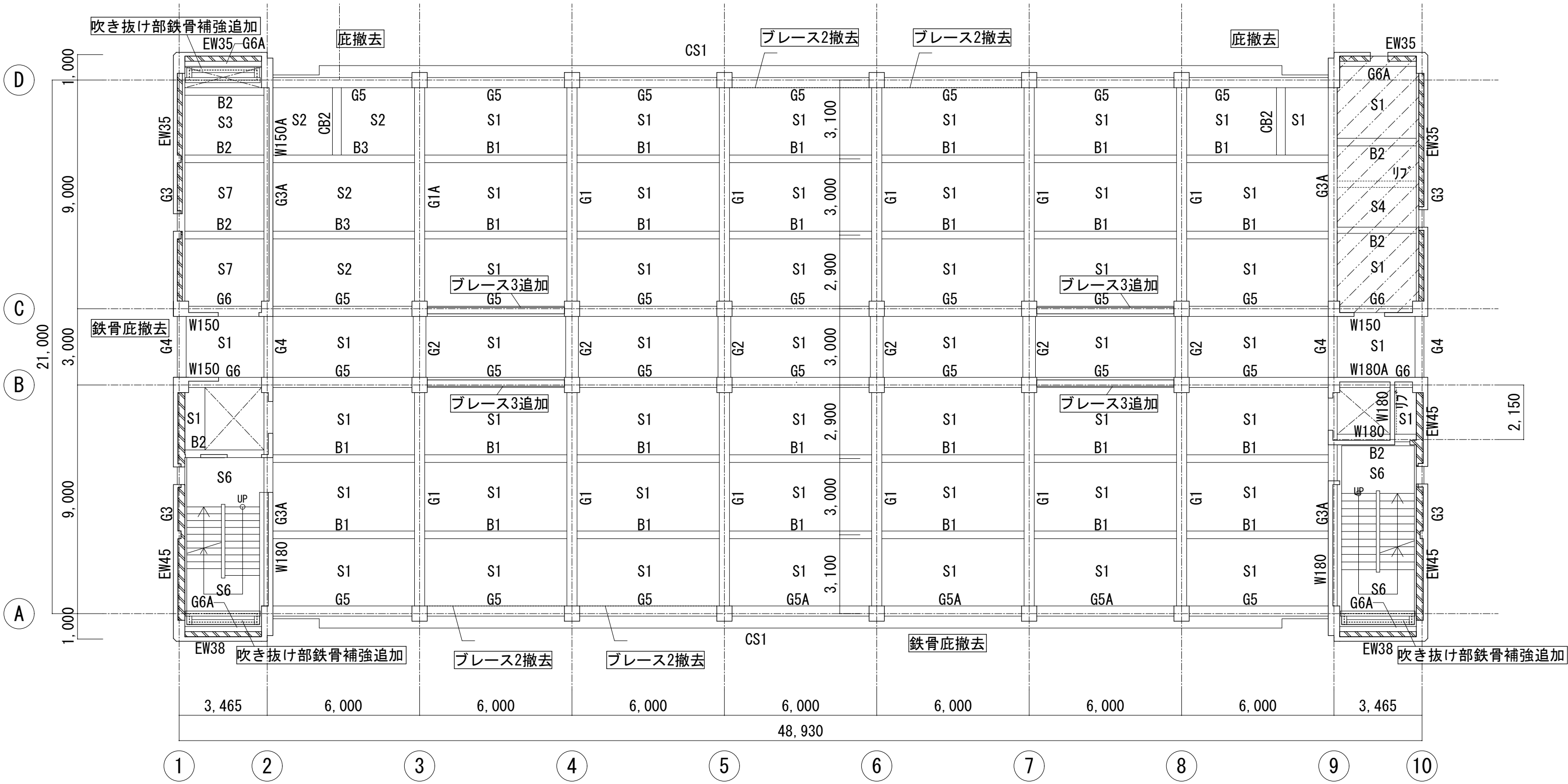
- 特記事項
1. はピット内コンクリート埋め戻し範囲を表す
- 範囲は基礎スラブ上端～1階スラブ下端
- 範囲は基礎スラブ上端～基礎スラブ上端+300
- 範囲のみ上端、下端にD13@200タテヨコを配置





既存庁舎 1 階伏図

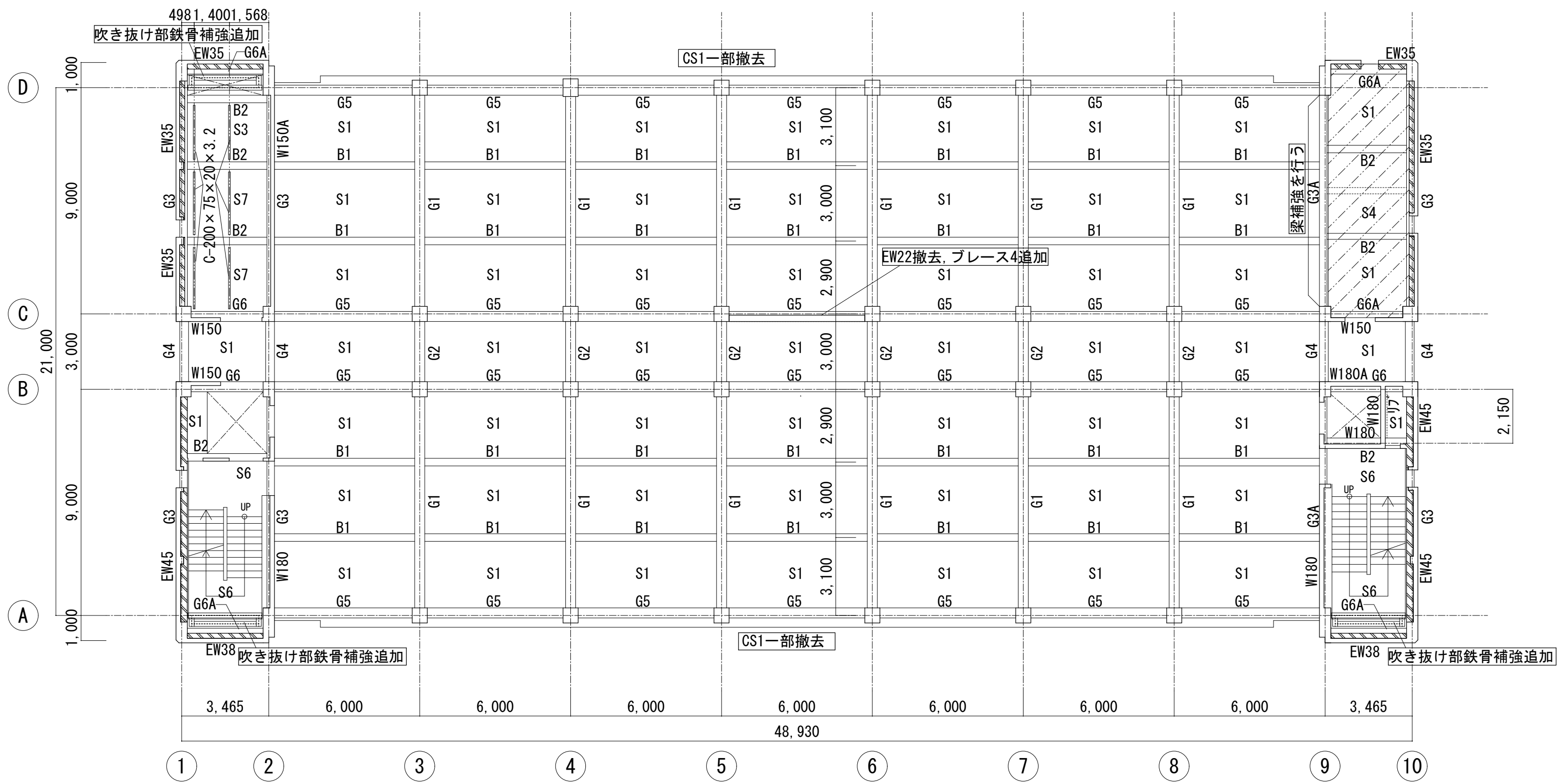
特記事項

- 特記なき壁は外壁W150、内壁W120とする
 -  は壁補強範囲を表す
 -  はPL-19 (SS400) 補強範囲を表し、 は想定分割位置とする
- 既存スラブに対し1分割単位について4箇所のと施工アンカーM16により接合すること





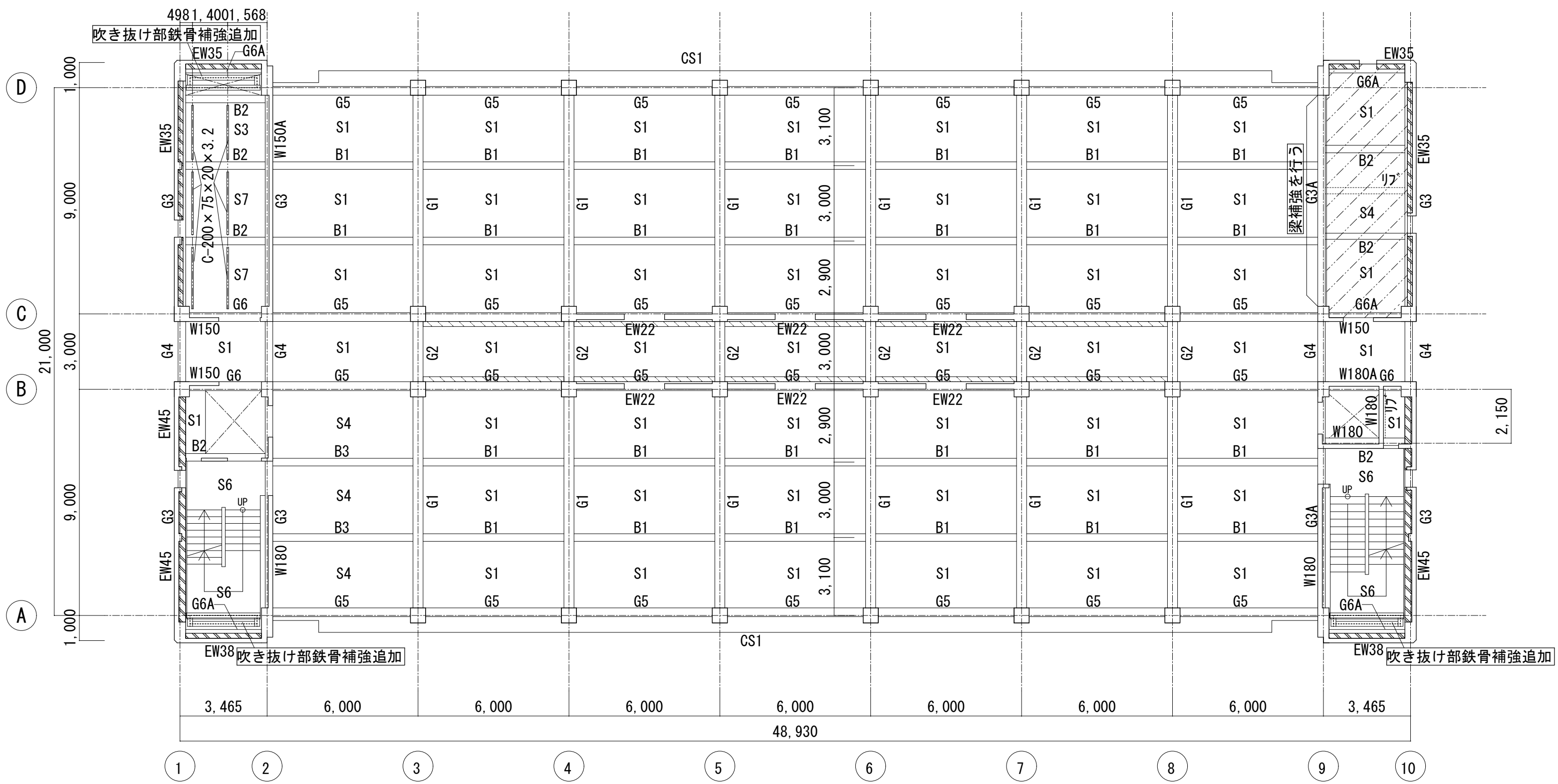
既存庁舎2階伏図

- 特記事項
- 1. 特記なき壁は外壁W150、内壁W120とする
 - 2.  部FL-50(その他はFL-30)
 - 3.  は壁補強範囲を表す



既存庁舎3階伏図

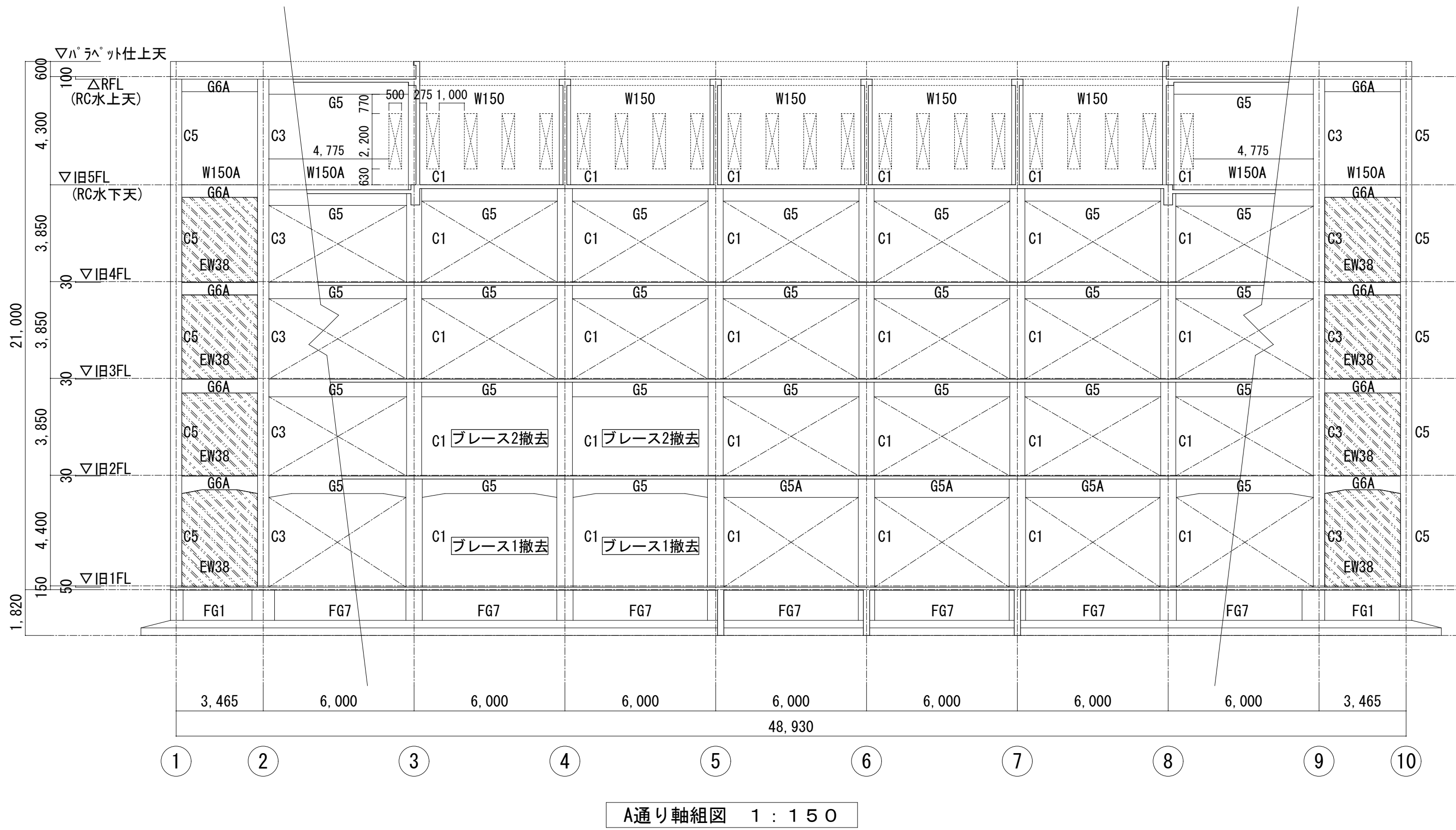
- 特記事項
- 1. 特記なき壁は外壁W150、内壁W120とする
 - 2.  部FL-50(その他はFL-30)
 - 3.  は壁補強範囲を表す



既存庁舎 4 階伏図

特記事項

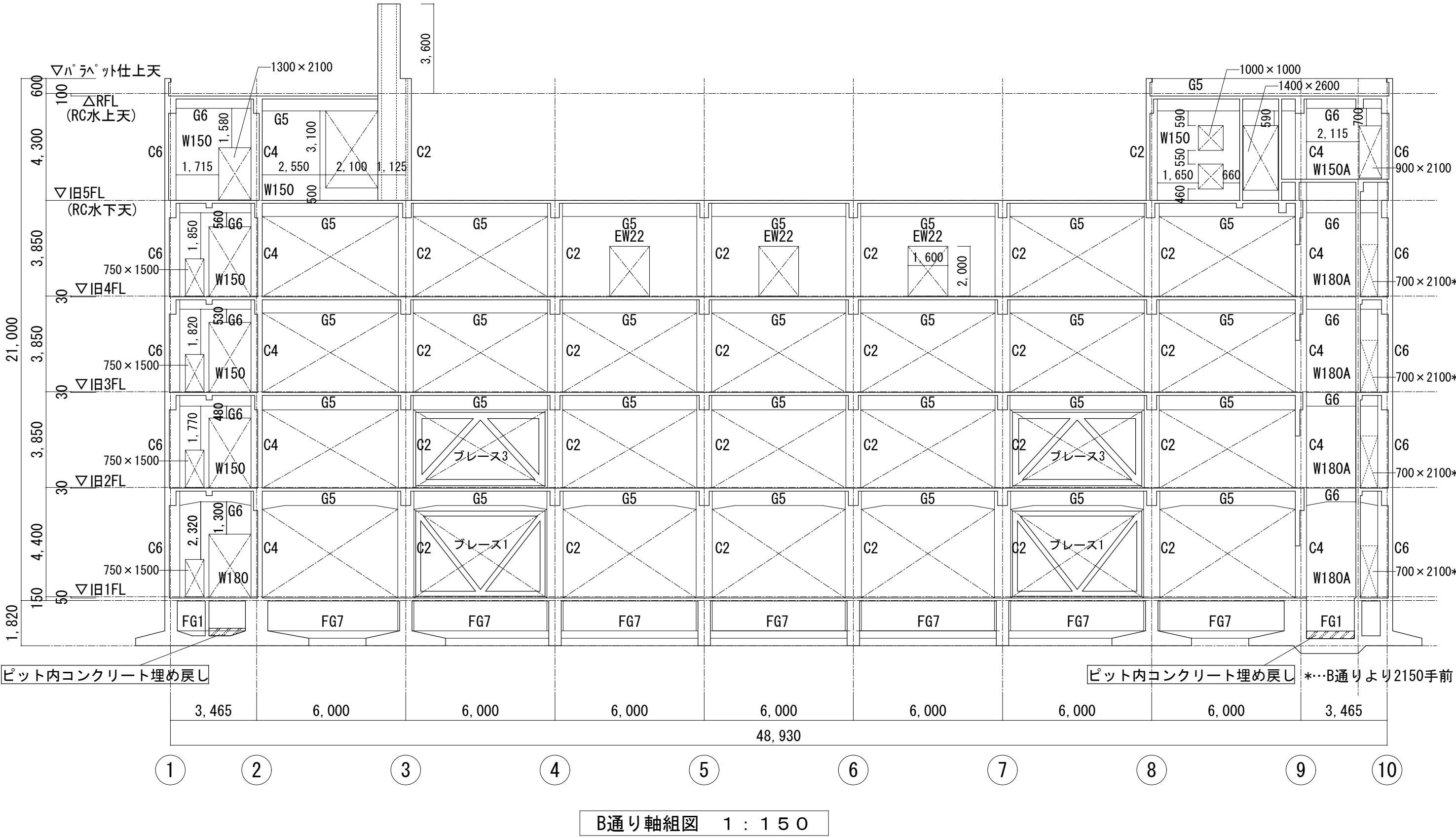
- 1. 特記なき壁は外壁W150、内壁W120とする
- 2. 部FL-50(その他はFL-30)
- 3. は壁補強範囲を表す
- 4. 部梁側面ふかし補強範囲を表す



既存庁舎A通り軸組図

特記事項

1. は壁補強範囲を表す



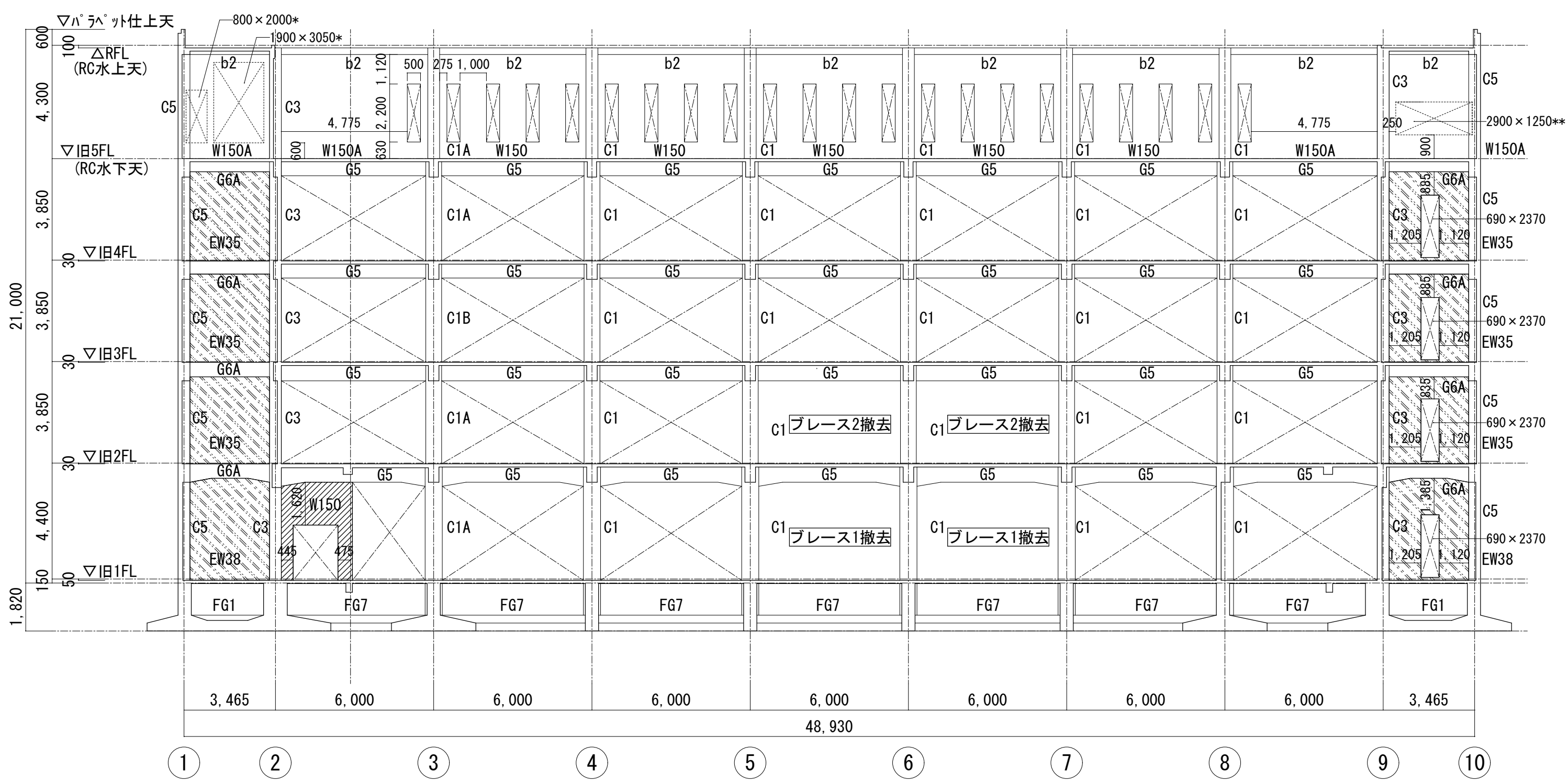
既存庁舎B通り軸組図
特記事項



既存庁舎C通り軸組図

特記事項

1. 撤去壁範囲を表す



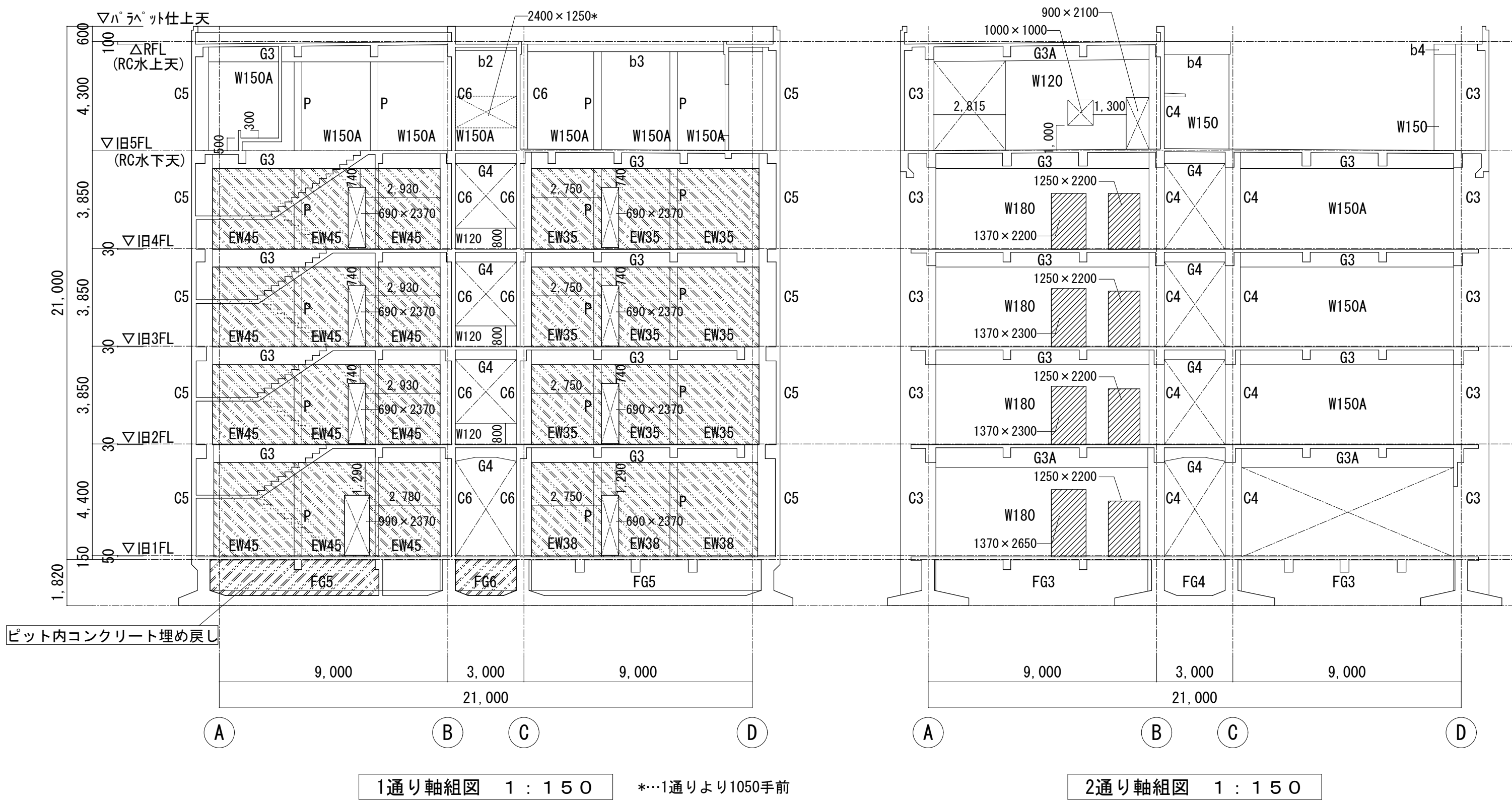
D通り軸組図 1 : 1 5 0

***D通りより1000手前
****D通りより225手前

既存庁舎D通り軸組図

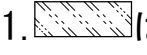
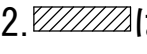
特記事項

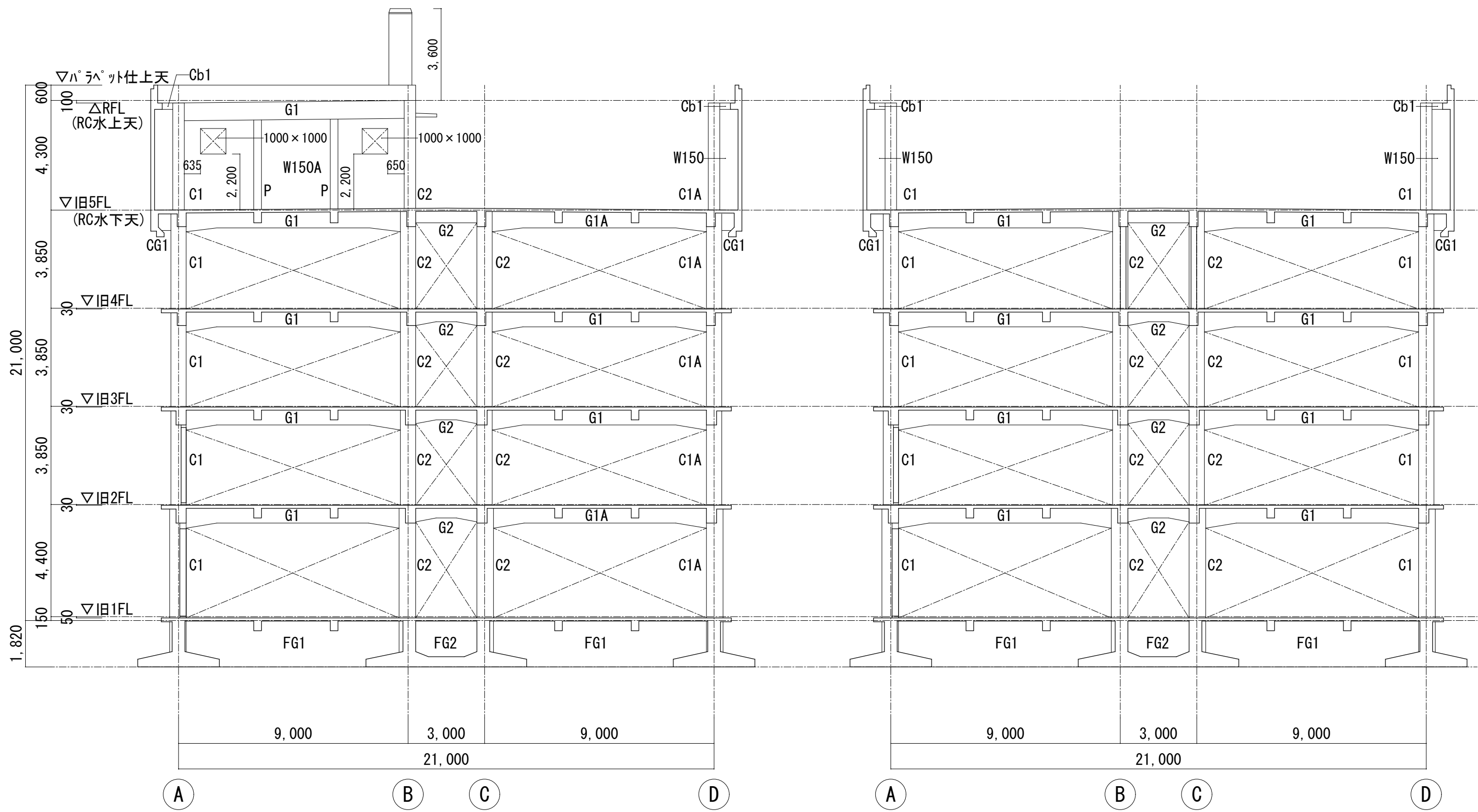
- 1. [Hatched Box] は壁補強範囲を表す
- 2. [Cross-hatched Box] は撤去壁範囲を表す



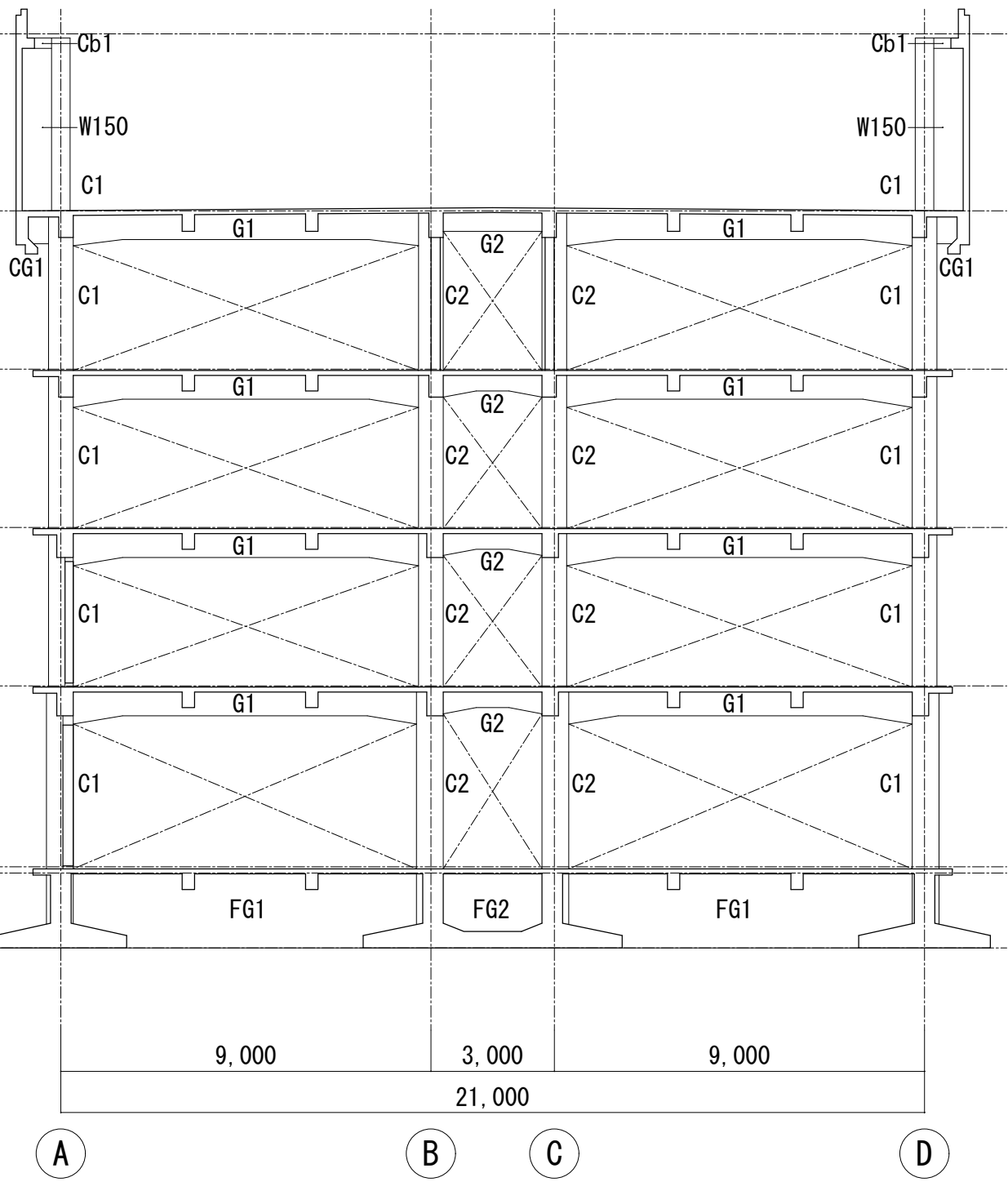
既存庁舎1通り, 2通り軸組図

特記事項

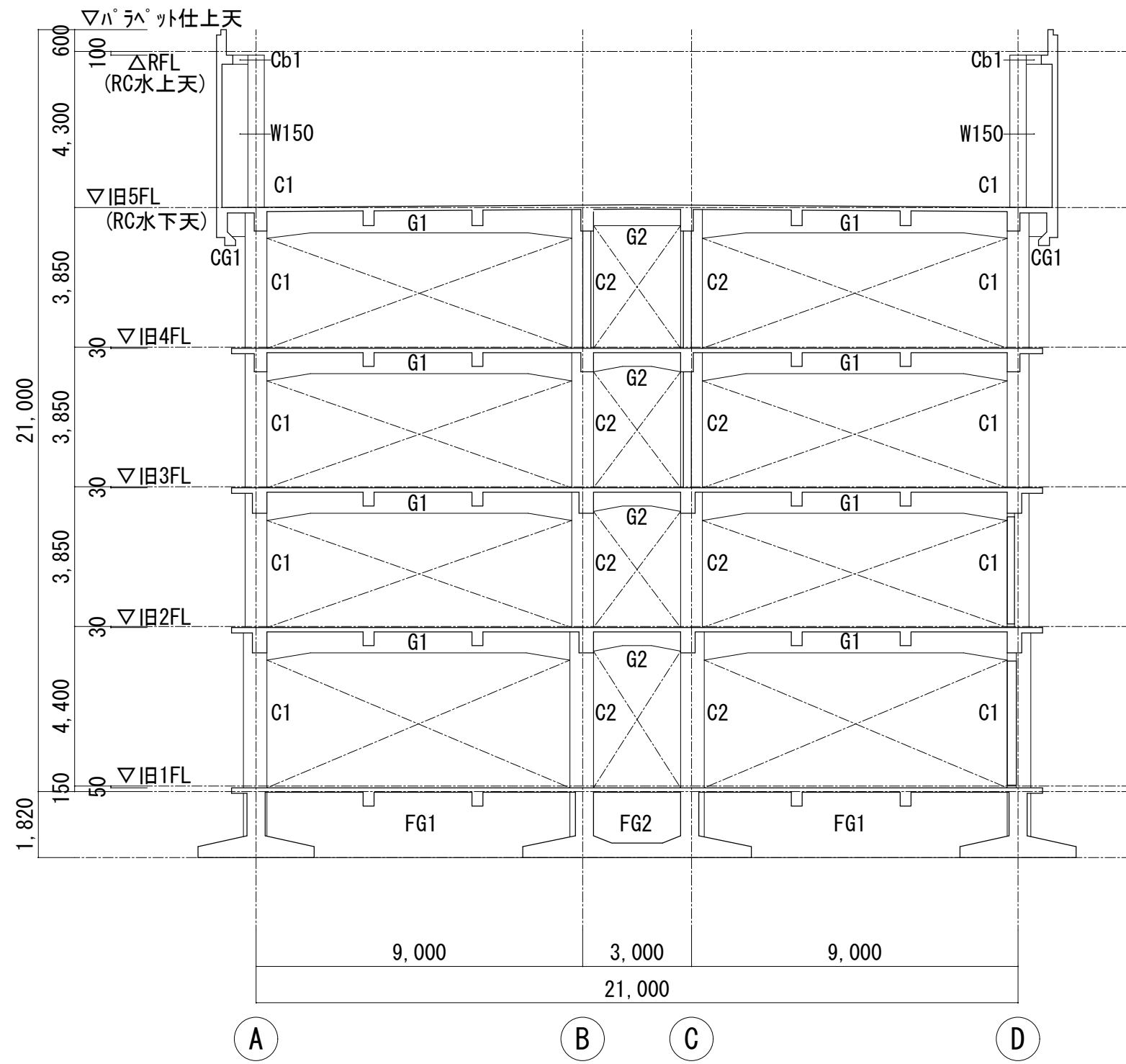
1. は壁補強範囲を表す
2. は撤去壁範囲を表す



3通り軸組図 1 : 1 5 0

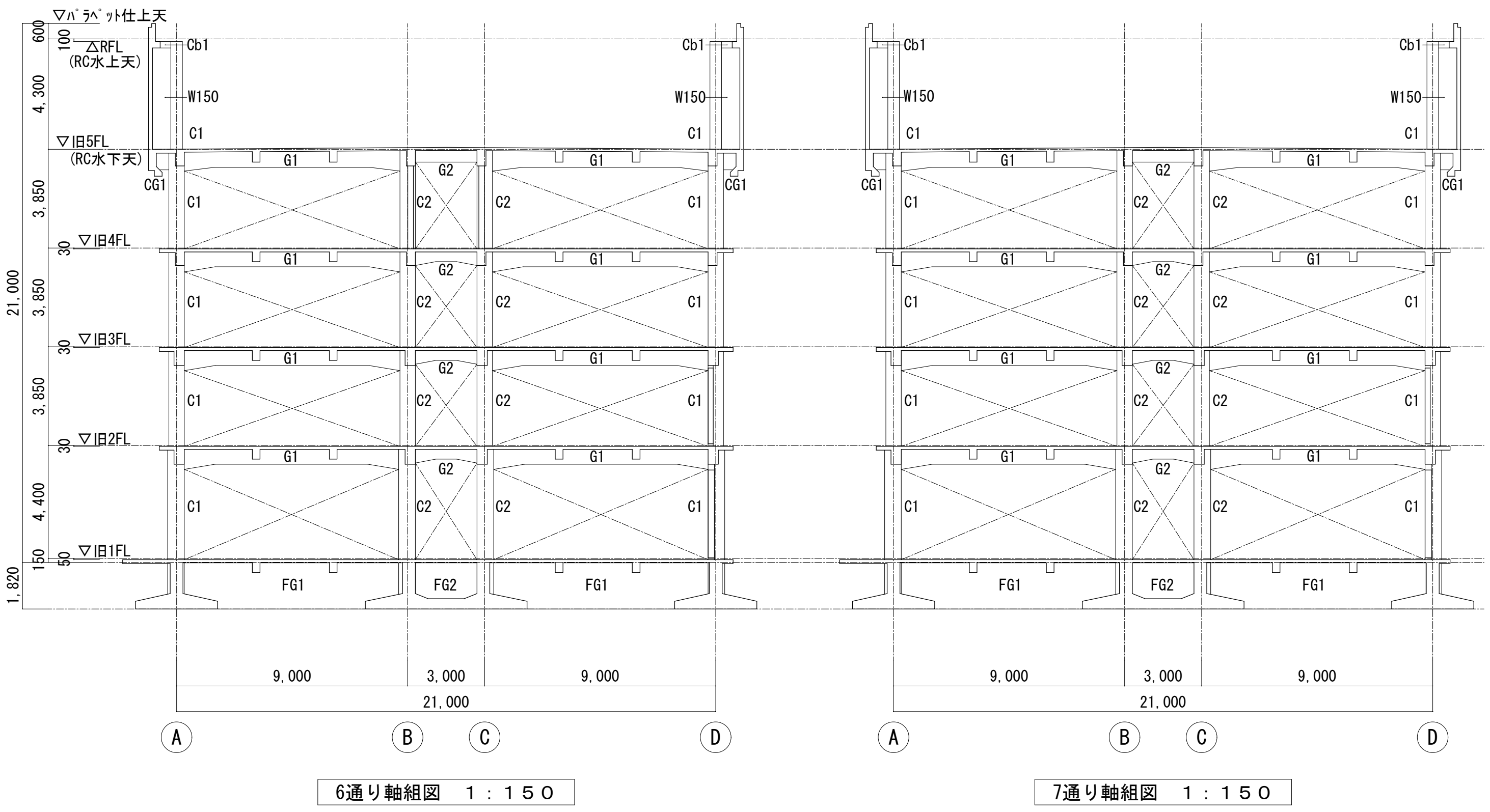


4通り軸組図 1 : 1 5 0



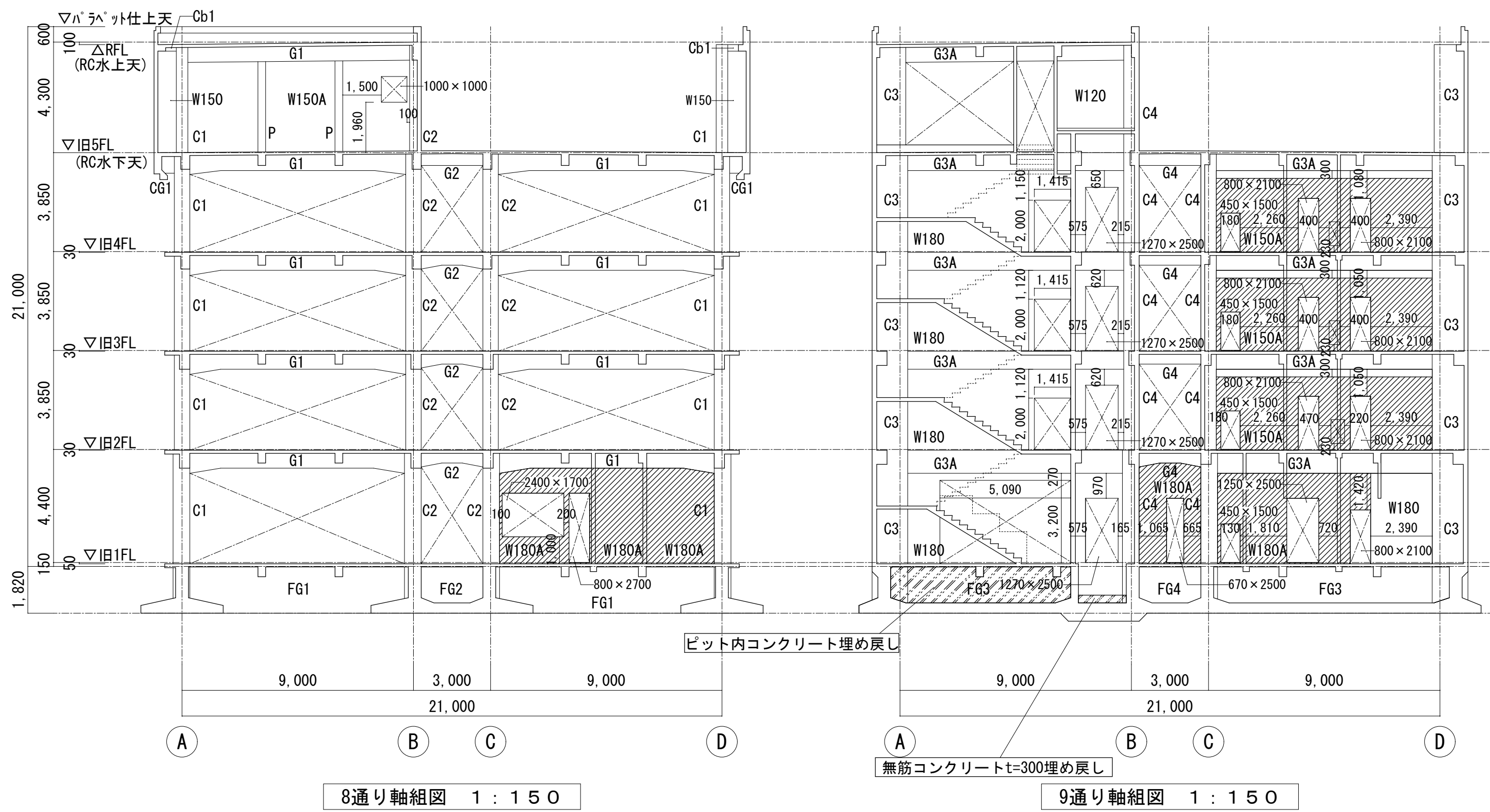
5通り軸組図 1 : 1 5 0

既存庁舎3通り, 4通り, 5通り軸組図
特記事項



既存庁舎6通り, 7通り軸組図

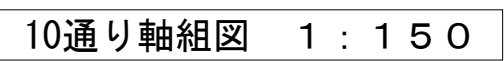
特記事項




既存庁舎8通り, 9通り軸組図

特記事項

- 1. [Hatched Box] は壁補強範囲を表す
- 2. [Diagonal Hatched Box] は撤去壁範囲を表す



1.  は壁補強範囲を表す

| 記号 | FG1 | | | FG2, FG6 | | FG3 | | | FG4 | |
|-------|-------------|-------|-------|-------------|-------|-------------|--------|-------------|-------------|------|
| | 外端 | 中央 | 内端 | 全断面 | | 外端 | 外端 | 外端 | 全断面 | |
| 断面 | | | | | | | | | | |
| b × D | 500 × 1,800 | | | 500 × 1,800 | | 900 × 1,800 | | | 900 × 1,800 | |
| 上端筋 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | | 7-D25 | 17-D25 | 7-D25 | 7-D25 | |
| 下端筋 | 4-D25 | 3-D25 | 6-D25 | 6-D25 | | 7-D25 | 7-D25 | 16-D25 | 16-D25 | |
| S.T.P | 2-D13 @150 | | | 2-D13 @200 | | 3-D16 @100 | | | 2-D16 @200 | |
| 腹筋 | 8-D13 | | | 8-D13 | | 8-D13 | | | 8-D13 | |
| 記号 | FG5 | | | FG7 | | FB1 | | FB2 | | 共通事項 |
| 断面 | 外端 | 中央 | 内端 | 端部 | 中央 | 全断面 | | 全断面 | | |
| | | | | | | | | | | |
| b × D | 500 × 1,800 | | | 500 × 1,800 | | 300 × 2,130 | | 250 × 1,800 | | |
| 上端筋 | 4-D25 | 6-D25 | 4-D25 | 3-D25 | 4-D25 | 3-D19 | | 2-D19 | | |
| 下端筋 | 4-D25 | 4-D25 | 6-D25 | 7-D25 | 3-D25 | 3-D19 | | 2-D19 | | |
| S.T.P | 2-D13 @150 | | | 2-D16 @150 | | 2-D10 @200 | | 2-D10 @200 | | |
| 腹筋 | 8-D13 | | | 8-D13 | | 10-D13 | | 8-D13 | | |

| 記号 | F1 | | FCS3, FS1, FCS1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|--|------------------------|-----|---------------|------------------|---------------|------------------|---|--|------|------|-----------|------------------|-----------|------------------|---|--|------|------|-----------|------------------|-----------|------------------|---|--|----|-----|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 断面 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>主筋</th><th>補助筋</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上端筋 D10 @ 150</td><td>2-D13, D10 @ 300</td></tr> <tr> <td>下端筋 D16 @ 150</td><td>2-D13, D10 @ 250</td></tr> </tbody> </table> | | 主筋 | 補助筋 | 上端筋 D10 @ 150 | 2-D13, D10 @ 300 | 下端筋 D16 @ 150 | 2-D13, D10 @ 250 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>主筋</th><th>補助筋</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D13 @ 200</td><td>1-D13, D10 @ 300</td></tr> <tr> <td>D16 @ 200</td><td>1-D13, D10 @ 250</td></tr> </tbody> </table> | | 主筋 | 補助筋 | D13 @ 200 | 1-D13, D10 @ 300 | D16 @ 200 | 1-D13, D10 @ 250 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>短辺方向</th><th>長辺方向</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D16 @ 150</td><td>D16 @ 200</td></tr> <tr> <td>D16 @ 100</td><td>D16 @ 200</td></tr> </tbody> </table> | | 短辺方向 | 長辺方向 | D16 @ 150 | D16 @ 200 | D16 @ 100 | D16 @ 200 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>主筋</th><th>補助筋</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D13 @ 200</td><td>1-D13, D10 @ 300</td></tr> <tr> <td>D16 @ 100</td><td>1-D13, D10 @ 250</td></tr> </tbody> </table> | | 主筋 | 補助筋 | D13 @ 200 | 1-D13, D10 @ 300 | D16 @ 100 | 1-D13, D10 @ 250 |
| 主筋 | 補助筋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上端筋 D10 @ 150 | 2-D13, D10 @ 300 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下端筋 D16 @ 150 | 2-D13, D10 @ 250 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主筋 | 補助筋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D13 @ 200 | 1-D13, D10 @ 300 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D16 @ 200 | 1-D13, D10 @ 250 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 短辺方向 | 長辺方向 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D16 @ 150 | D16 @ 200 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D16 @ 100 | D16 @ 200 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主筋 | 補助筋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D13 @ 200 | 1-D13, D10 @ 300 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D16 @ 100 | 1-D13, D10 @ 250 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | スラブ厚400~600、ハッチ長 L=600 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 記号 | FCS2, FS2 | | FCS4 | | | FS3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 断面 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>主筋</th><th>補助筋</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D13 @ 200</td><td>1-D13, D10 @ 300</td></tr> <tr> <td>D16 @ 150</td><td>1-D13, D10 @ 250</td></tr> </tbody> </table> | | 主筋 | 補助筋 | D13 @ 200 | 1-D13, D10 @ 300 | D16 @ 150 | 1-D13, D10 @ 250 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>短辺方向</th><th>長辺方向</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D16 @ 200</td><td>D16 @ 250</td></tr> <tr> <td>D16 @ 150</td><td>D16 @ 250</td></tr> </tbody> </table> | | 短辺方向 | 長辺方向 | D16 @ 200 | D16 @ 250 | D16 @ 150 | D16 @ 250 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>主筋</th><th>補助筋</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D13 @ 200</td><td>1-D13, D10 @ 300</td></tr> <tr> <td>D16 @ 200</td><td>1-D13, D10 @ 250</td></tr> </tbody> </table> | | 主筋 | 補助筋 | D13 @ 200 | 1-D13, D10 @ 300 | D16 @ 200 | 1-D13, D10 @ 250 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>主筋</th><th>補助筋</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タテ、ヨコ共 D16 @ 200</td><td></td></tr> <tr> <td>タテ、ヨコ共 D16 @ 200</td><td></td></tr> </tbody> </table> | | 主筋 | 補助筋 | タテ、ヨコ共 D16 @ 200 | | タテ、ヨコ共 D16 @ 200 | |
| 主筋 | 補助筋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D13 @ 200 | 1-D13, D10 @ 300 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D16 @ 150 | 1-D13, D10 @ 250 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 短辺方向 | 長辺方向 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D16 @ 200 | D16 @ 250 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D16 @ 150 | D16 @ 250 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主筋 | 補助筋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D13 @ 200 | 1-D13, D10 @ 300 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D16 @ 200 | 1-D13, D10 @ 250 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主筋 | 補助筋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| タテ、ヨコ共 D16 @ 200 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| タテ、ヨコ共 D16 @ 200 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | スラブ厚400~600、ハッチ長 L=500 | | | スラブ厚600 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 種別 | 材料 | 備考 |
|--------|---|---------------------------|
| 鉄筋 | SD35 (≧D19) SD30 (≦D16) | D19以上の鉄筋は、ガス溶接とする。 |
| コンクリート | FC28=210kg/cm ³ (建物主体・基礎) FC28=180kg/cm ³ (土間コンクリート) | 海砂使用時の、防錆材使用 (ボグリスNR1900) |
| 地耐力 | 150KN/m ² (長期) | 地盤改良 バイプロフローテーション工法 |
| 鉄骨 | SS41, SSC41 H.T.B F10T $\mu = 0.45$ | |

| 記号 | C1 | C2 | C3 | C4 | C5 | C6 | C1A |
|-----|----------|----------|--------------|----------|----------|----------|----------|
| 5階 | | | | | | | |
| 主筋 | 12-D22 | 8-D22 | 10-D25、6-D19 | 10-D25 | 7-D22 | 12-D22 | 12-D22 |
| フープ | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 |
| ツナギ | D10 @300 | D10 @300 | | D10 @300 | D10 @300 | D10 @300 | D10 @300 |
| 4階 | | | | | | | |
| 主筋 | 12-D25 | 12-D25 | 10-D25、6-D19 | 10-D25 | 8-D25 | 8-D25 | 14-D25 |
| フープ | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 |
| ツナギ | D10 @300 | D10 @300 | | D10 @300 | D10 @300 | D10 @300 | D10 @300 |
| 3階 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 主筋 | 12-D25 | 12-D25 | 10-D25、6-D19 | 10-D25 | 8-D25 | 8-D25 | 14-D25 |
| フープ | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 | D10 @100 |
| ツナギ | D10 @300 | D10 @300 | | D10 @300 | D10 @300 | D10 @300 | D10 @300 |
| 2階 | | | 同上 | | 同上 | | |
| 主筋 | 18-D25 | 22-D25 | 10-D25、6-D19 | 16-D25 | 8-D25 | 10-D25 | 20-D25 |
| フープ | D13 @100 | D13 @100 | D10 @100 | D13 @100 | D10 @100 | D13 @100 | D13 @100 |
| ツナギ | D13 @300 | D13 @300 | | D13 @300 | D10 @300 | D10 @300 | D10 @300 |
| 1階 | | | | | | | |
| 主筋 | 22-D25 | 26-D25 | 20-D25、6-D19 | 24-D25 | 8-D25 | 14-D25 | 24-D25 |
| フープ | D13 @100 | D13 @100 | D13 @100 | D13 @100 | D13 @100 | D13 @100 | D13 @100 |
| ツナギ | D13 @300 | D13 @300 | | D13 @300 | D13 @300 | D13 @300 | D13 @300 |

| 増打ちコンクリート厚 | 補強筋 | 補助フープ 又は スターアップ |
|--------------------|-------|-----------------|
| $< A \leq 50$ | | |
| $50 < A \leq 150$ | 3-D13 | D10 @200 |
| $150 < A \leq 200$ | 3-D16 | D10 @200 |
| $200 < A$ | 3-D19 | 柱又梁と同間隔 |

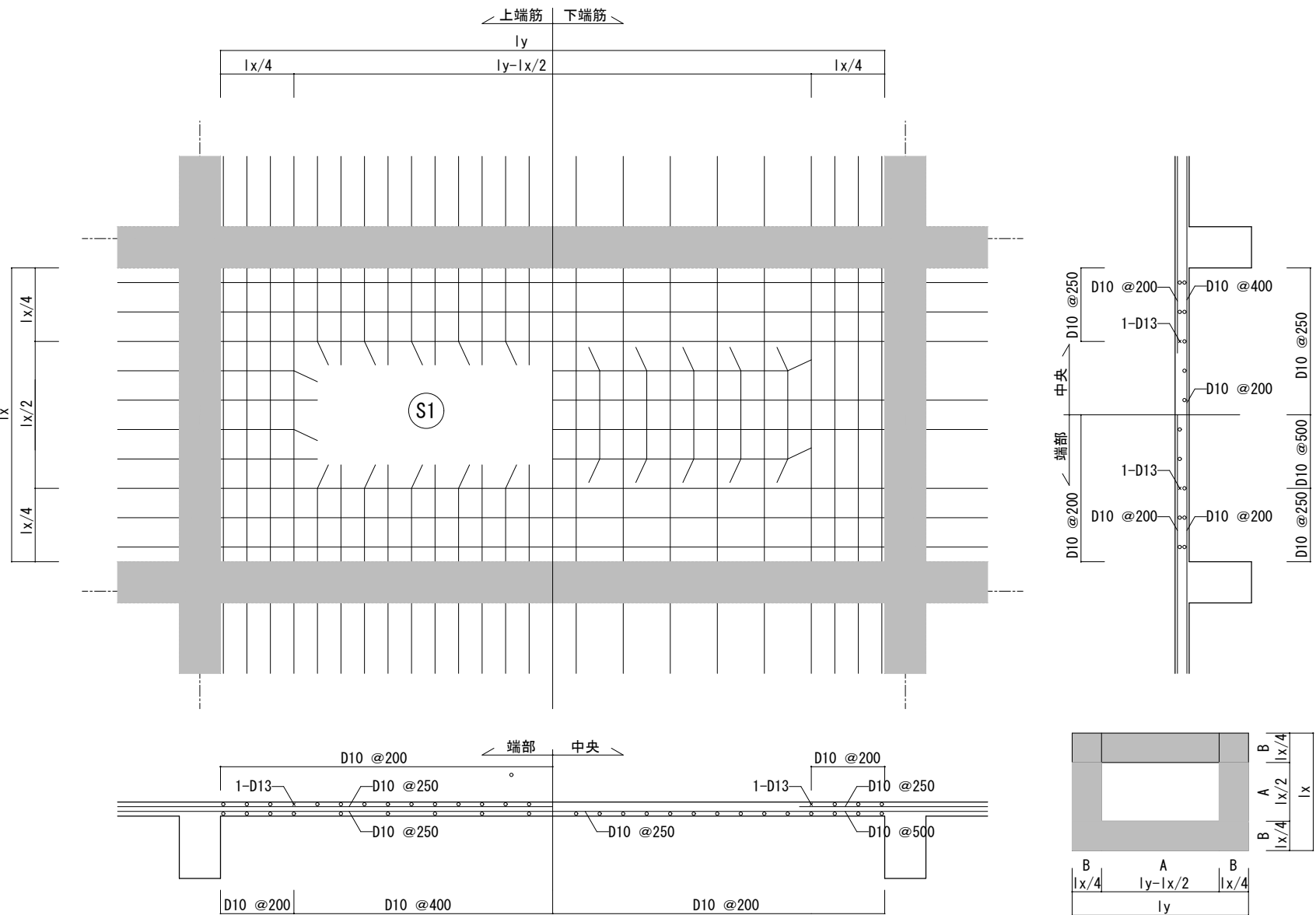
| | | | | |
|--|---|---------------------|---------------------|-----|
| yAt構造設計事務所合同会社一級建築士事務所 一級建築士 第 341807 号 構造一級建築士 第 9582 号 中 畠 敦 広 | みのだ・プランディー設計共同企業体 代表事務所 株 式 会 社 み の だ 設 計 一級建築士事務所 知事登録 第 1-3-140 号 | 谷山支所庁舎大規模改修その他本体内工事 | | |
| | | 既存庁舎断面リスト① | A1 1/50 A3 1/100 | No. |
| | 一級建築士 第 148365 号 蓼 田 満 康 | 鹿児島市建設局建築部建築課 | | |

既存梁リスト 1：50

| 記号 | G1, (G1A) ※()はG1Aを併用 ※ハンチング L=1,200 | | | | G2 ※ハンチング L=800 | G3 | G3A | | G4 ※ハンチング L=800 | G5 ※ハンチング L=900 | | G5A | | G6 ※ハンチング L=800 | | | G6A ※ハンチング L=800 | | |
|-------|---|---------------|------------|-----------|--------------------|------------|------------|------------|--------------------|--------------------|-----------|------------|------------|--------------------|-----------|------------|---------------------|-----------|-----------|
| 位置 | 全断面 | | | | | 全断面 | 端部 | 中央 | | 端部 | 中央 | | | 外端 | 中央 | 内端 | 全断面 | | |
| R階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| b × D | 300 × 700 | | | | | 300 × 700 | 350 × 700 | 350 × 700 | | 350 × 600 | 350 × 600 | | | 300 × 500 | 300 × 500 | 300 × 500 | 300 × 500 | | |
| 上端筋 | 3-D25 | | | | | 3-D25 | 6-D25 | 3-D25 | | 4-D25 | 2-D25 | | | 3-D25 | 2-D25 | 3-D25 | 3-D25 | | |
| 下端筋 | 3-D25 | | | | | 3-D25 | 4-D25 | 4-D25 | | 3-D25 | 3-D25 | | | 3-D25 | 3-D25 | 2-D25 | 3-D25 | | |
| S.T.P | 2-D13 @250 | | | | | 2-D10 @150 | 2-D13 @150 | | | 2-D10 @150 | | | | 2-D10 @100 | | | 2-D10 @200 | | |
| 腹筋 | 2-D10 | | | | | 2-D10 | 2-D10 | | | 2-D10 | | | | 2-D10 @100 | | | 2-D10 @200 | | |
| 位置 | 端部 | 中央 | 全断面 | | | 全断面 | 全断面 | | 全断面 | 端部 | 中央 | | | 外端 | 中央 | 内端 | 全断面 | | |
| 5階 | | | | | | 同上 | | | | | | | | | | | | | |
| b × D | 350 × 850 | 350 × 700 | 350 × 500 | | | 300 × 700 | | 300 × 500 | 350 × 650 | 350 × 650 | | | 350 × 500 | 350 × 500 | 350 × 500 | 350 × 500 | | | |
| 上端筋 | 5-D25 (6-D25) | 3-D25 | 4-D25 | | | 4-D25 | | 3-D25 | 4-D25 | 2-D25 | | | 4-D25 | 2-D25 | 3-D25 | 3-D25 | | | |
| 下端筋 | 3-D25 | 5-D25 (6-D25) | 3-D25 | | | 4-D25 | | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | | | 4-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | | | |
| S.T.P | 2-D13 @200 (2-D13 @100) | | 2-D13 @150 | | | 2-D10 @200 | | 2-D10 @150 | 2-D10 @150 | | | | 2-D13 @100 | | | 2-D10 @150 | | | |
| 腹筋 | 2-D10 | | | | | 2-D10 | | | 2-D10 | | | | 2-D13 @100 | | | | | | |
| 位置 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | | 全断面 | 全断面 | | 全断面 | 端部 | 中央 | | | 外端 | 中央 | 内端 | 全断面 | | |
| 4階 | | | | | | 同上 | 同上 | | | | | | | | | | 同上 | | |
| b × D | 400 × 900 | 400 × 700 | 400 × 650 | 400 × 500 | | | | 300 × 500 | 350 × 650 | 350 × 650 | | | 350 × 500 | 350 × 500 | 350 × 500 | | | | |
| 上端筋 | 5-D25 | 3-D25 | 5-D25 | 4-D25 | | | | 4-D25 | 5-D25 | 3-D25 | | | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | | | | |
| 下端筋 | 3-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | | | | 4-D25 | 3-D25 | 3-D25 | | | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | | | | |
| S.T.P | 2-D13 @250 | | 3-D13 @100 | | | | | 3-D13 @100 | 2-D10 @150 | | | | 3-D13 @150 | | | | | | |
| 腹筋 | 2-D10 | | | | | | | | 2-D10 | | | | | | | | | | |
| 位置 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | | 全断面 | 全断面 | | 全断面 | 端部 | 中央 | | | 外端 | 中央 | 内端 | 全断面 | | |
| 3階 | | | | | | 同上 | | | | | | | | | | | | | |
| b × D | 400 × 900 | 400 × 700 | 400 × 650 | 400 × 500 | | 300 × 700 | | 350 × 500 | 400 × 700 | 400 × 700 | | | 400 × 550 | 400 × 550 | 400 × 550 | 400 × 550 | | | |
| 上端筋 | 6-D25 | 3-D25 | 6-D25 | 6-D25 | | 5-D25 | | 5-D25 | 5-D25 | 3-D25 | | | 8-D25 | 6-D25 | 6-D25 | 4-D25 | | | |
| 下端筋 | 3-D25 | 4-D25 | 6-D25 | 6-D25 | | 5-D25 | | 5-D25 | 4-D25 | 3-D25 | | | 8-D25 | 6-D25 | 6-D25 | 4-D25 | | | |
| S.T.P | 2-D13 @250 | | 3-D16 @100 | | | 2-D13 @250 | | 3-D16 @100 | 2-D13 @200 | | | | 3-D13 @100 | | | 2-D13 @150 | | | |
| 腹筋 | 2-D10 | | | | | 2-D10 | | | 2-D10 | | | | 3-D13 @100 | | | 2-D13 @150 | | | |
| 位置 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | | 全断面 | 全断面 | | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | 外端 | 中央 | 内端 | 端部 | 中央 |
| 2階 | | | | | | 同上 | | | | | | | | | | | | | |
| b × D | 400 × 900 | 400 × 700 | 500 × 650 | 500 × 500 | | 350 × 900 | | 350 × 650 | 350 × 500 | 400 × 850 | 400 × 700 | 400 × 850 | 400 × 850 | 400 × 700 | 400 × 550 | 400 × 700 | 400 × 700 | 400 × 700 | 400 × 550 |
| 上端筋 | 6-D25 (7-D25) | 3-D25 | 7-D25 | 7-D25 | | 6-D25 | | 6-D25 | 6-D25 | 6-D25 | 3-D25 | 7-D25 | 3-D25 | 8-D25 | 6-D25 | 6-D25 | 6-D25 | 4-D25 | |
| 下端筋 | 4-D25 | 4-D25 (5-D25) | 7-D25 | 7-D25 | | 6-D25 | | 6-D25 | 6-D25 | 5-D25 | 3-D25 | 6-D25 | 4-D25 | 8-D25 | 6-D25 | 6-D25 | 6-D25 | 4-D25 | |
| S.T.P | 2-D13 @200 (2-D13 @100) | | 4-D16 @100 | | | 2-D13 @200 | | 4-D16 @100 | | 2-D13 @100 | | 2-D13 @100 | | 3-D16 @100 | | | 2-D13 @100 | | |
| 腹筋 | 2-D10 | | | | | 2-D10 | | 2-D10 | | 2-D10 | | 2-D10 | | 2-D10 | | | | | |

増設壁リスト 1：50

| 記号 | EW38 | EW35 | EW45 |
|-------|---|---|---|
| 断面 | | | |
| 縦筋 | D10 @200 (既存部)+D13#150 (増設部) | D10 @200 (既存部)+D10#200 (増設部) | D10 @200 (既存部)+D10#200 (増設部) |
| 横筋 | D10 @200 (既存部)+D13#150 (増設部) | D10 @200 (既存部)+D13#150 (増設部) | D10 @200 (既存部)+D13#150 (増設部) |
| 開口補強筋 | 縦筋 6-D16 (既存部), 増設部は詳細図参照 横筋 6-D16 (既存部), 増設部は詳細図参照 斜筋 6-D16 (既存部), 増設部は詳細図参照 | 縦筋 6-D16 (既存部), 増設部は詳細図参照 横筋 6-D16 (既存部), 増設部は詳細図参照 斜筋 6-D16 (既存部), 増設部は詳細図参照 | 縦筋 6-D16 (既存部), 増設部は詳細図参照 横筋 6-D16 (既存部), 増設部は詳細図参照 斜筋 6-D16 (既存部), 増設部は詳細図参照 |



※ハンチ長さは、全て柱面からとし、各階共通

既存小梁リスト 1：50

| 記号 | B1 | | B2 | | B3 | | B4 | | B5 | | B6 | |
|-------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|
| 位置 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 |
| 断面 | | | | | | | | | | | | |
| b × D | 300 × 500 | | 300 × 500 | | 300 × 500 | | 350 × 600 | | 300 × 500 | | 300 × 825 | |
| 上端筋 | 4-D19 | 2-D19 | 3-D19 | 2-D19 | 5-D19 | 2-D19 | 6-D22 | 3-D22 | 3-D19 | 2-D19 | 4-D19 | 2-D19 |
| 下端筋 | 2-D19 | 3-D19 | 2-D19 | 3-D19 | 3-D19 | 5-D19 | 5-D22 | 6-D22 | 2-D19 | 4-D19 | 2-D19 | 3-D19 |
| S.T.P | 2-D10 @200 | | 2-D10 @200 | | 2-D13 @150 | | 3-D13 @150 | | 2-D10 @150 | | 2-D10 @150 | |
| 腹筋 | | | | | | | 2-D10 | | | | 2-D10 | |
| 記号 | b1 | | b2 | | b3 | | CG1 | | CG2, CB2 | | CB1 | |
| 位置 | 全断面 | | 全断面 | | 端部 中央 | | 全断面 | | 全断面 | | 元端 | 先端 |
| 断面 | | | | | | | | | | | | |
| b × D | 250 × 450 | | 250 × 450 | | 300 × 450 | | 350 × 800 | | 350 × 400 | | 350 × 600 | |
| 上端筋 | 2-D19 | | 2-D19 | | 3-D19 | 2-D19 | 4-D25 | | 4-D25 | | 6-D22 | 4-D22 |
| 下端筋 | 2-D19 | | 2-D19 | | 2-D19 | 4-D19 | 2-D25 | | 3-D25 | | 5-D22 | 3-D22 |
| S.T.P | 2-D10 @200 | | 2-D10 @200 | | 2-D10 @200 | | 2-D13 @200 | | 2-D13 @150 | | 2-D13 @150 | |
| 腹筋 | | | | | | | 2-D10 | | | | 2-D10 | |
| 記号 | | | Cb1 | | リブ | | b4 | | | | | |
| 位置 | | | 全断面 | | 全断面 | | 全断面 | | | | | |
| 断面 | | | | | | | | | | | | |
| b × D | | | 450 × 250 | | 250 × 300 | | 200 × 400 | | | | | |
| 上端筋 | | | 2-D19 | | 2-D19 | | 2-D19 | | | | | |
| 下端筋 | | | 2-D19 | | 2-D19 | | 2-D19 | | | | | |
| S.T.P | | | 2-D10 @200 | | 2-D10 @150 | | 2-D10 @200 | | | | | |
| 腹筋 | | | | | | | | | | | | |

既存壁リスト 1：50

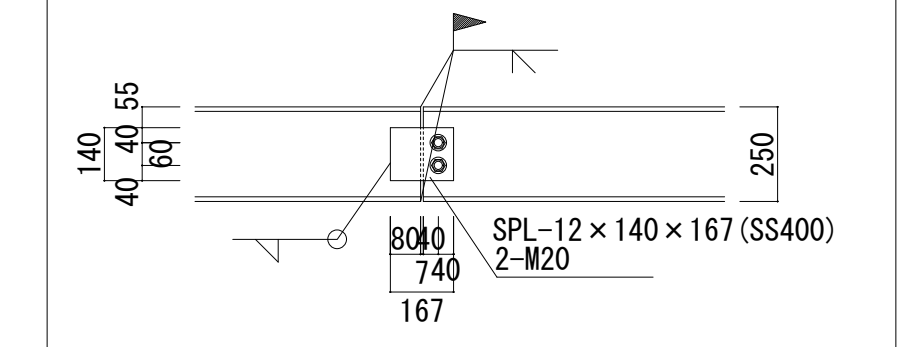
※W180A, W150A, EW22は、耐震壁を示す。(伏図参照)

| 記号 | W180 | W180A | W150 | W150A | W120 | CB150, 100 | EW22 |
|-------|----------------------------------|-----------|-----------|-----------|----------|------------|----------------|
| 断面 | | | | | | | |
| | チド'リ'ダ'ブル | チド'リ'ダ'ブル | チド'リ'ダ'ブル | チド'リ'ダ'ブル | シングル | シングル | ダ'ブル |
| 縦筋 | D10 @200 | D10 @200 | D10 @200 | D10 @200 | D10 @200 | D10 @400 | D16 @200 |
| 横筋 | D10 @200 | D10 @200 | D10 @200 | D10 @200 | D10 @200 | D10 @600 | D16 @200 |
| 開口補強筋 | 縦筋 2-D16 横筋 2-D16 斜筋 2-D16 | 4-D16 | 2-D13 | 6-D13 | 1-D13 | 1-D13 | 5-D22 6-D22 |

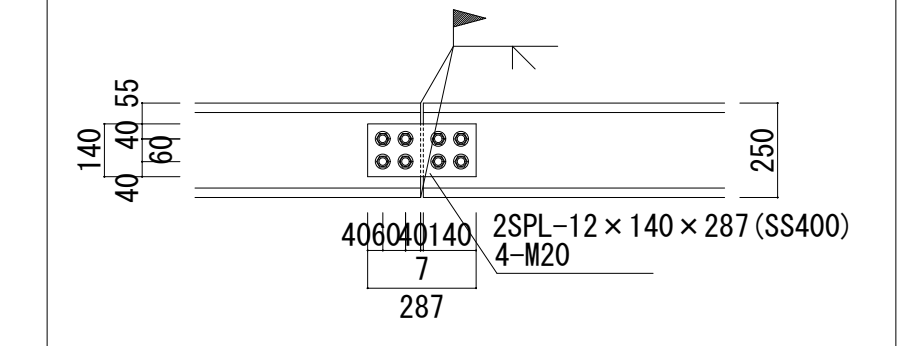
既存スラブリスト

| 記号 | 位置 | 配筋 | | | | 版厚 | 備考 | |
|----|----|------|---------------|------------|-------------|------------|-----|--------------|
| | | 短辺方向 | | 長辺方向 | | | | |
| | | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | | | |
| S1 | A | 上 | D10 @200 | (D10 @400) | D10 @250 | (D10 @500) | 120 | ○内は、最上階スラブのみ |
| | | 下 | D10 @400 | D10 @200 | D10 @500 | D10 @250 | | |
| | B | 上 | D10 @200ダブル | | D10 @250ダブル | | | |
| | | 下 | | | | | | |
| S2 | A | 上 | D10, D13 @150 | D13 @300 | D10 @200 | D10 @400 | 150 | |
| | | 下 | D10 @300 | D10 @150 | D10 @400 | D10 @200 | | |
| | B | 上 | D10 @200ダブル | | D10 @250ダブル | | | |
| | | 下 | | | | | | |
| S3 | A | 上 | D10 @150 | D10 @300 | D10 @250 | D10 @500 | 150 | |
| | | 下 | D10 @300 | D10 @150 | D10 @500 | D10 @250 | | |
| | B | 上 | D10 @200ダブル | | D10 @250ダブル | | | |
| | | 下 | | | | | | |
| S4 | A | 上 | D10 @150 | D10 @300 | D10 @200 | D10 @400 | 120 | |
| | | 下 | D10 @300 | D10 @150 | D10 @400 | D10 @200 | | |
| | B | 上 | D10 @200ダブル | | D10 @250ダブル | | | |
| | | 下 | | | | | | |
| S5 | A | 上 | D10 @200ダブル | | D10 @250ダブル | | 120 | |
| | | 下 | | | | | | |
| | B | 上 | D10 @200ダブル | | D10 @250ダブル | | | |
| | | 下 | | | | | | |
| S6 | A | 上 | D10 @150ダブル | | D10 @150ダブル | | 150 | |
| | | 下 | | | | | | |
| | B | 上 | D10 @150ダブル | | D10 @150ダブル | | | |
| | | 下 | | | | | | |
| S7 | A | 上 | D10 @200ダブル | | D10 @250ダブル | | 150 | |
| | | 下 | | | | | | |
| | B | 上 | D10 @200ダブル | | D10 @250ダブル | | | |
| | | 下 | | | | | | |

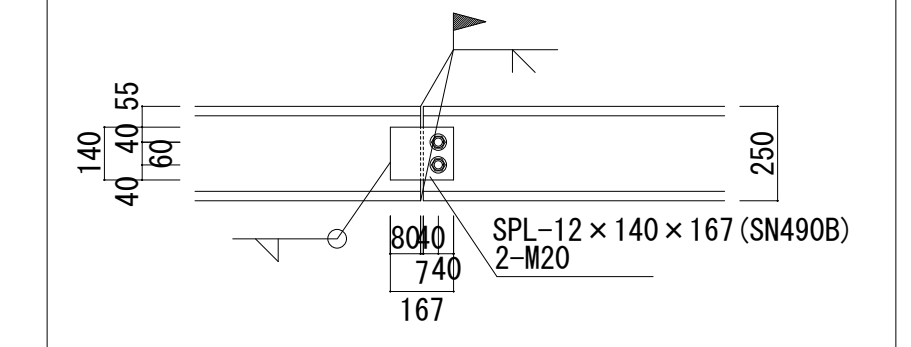
H-250×250×9×14(水平材) 現場継手要領



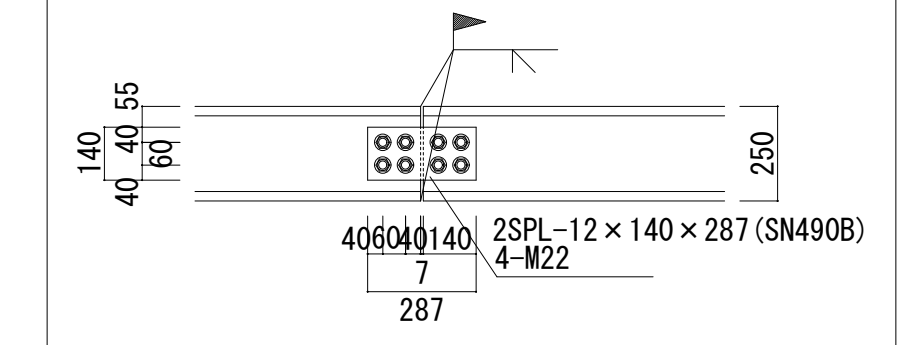
H-250×250×9×14(斜材) 現場継手要領



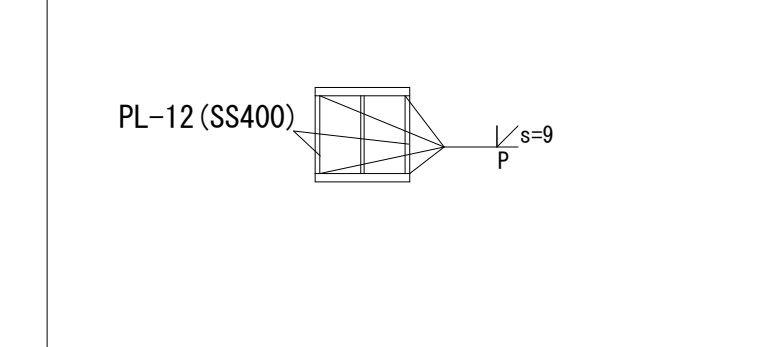
BH-250×250×9×22(水平材) 現場継手要領



BH-250×250×9×22(斜材) 現場継手要領

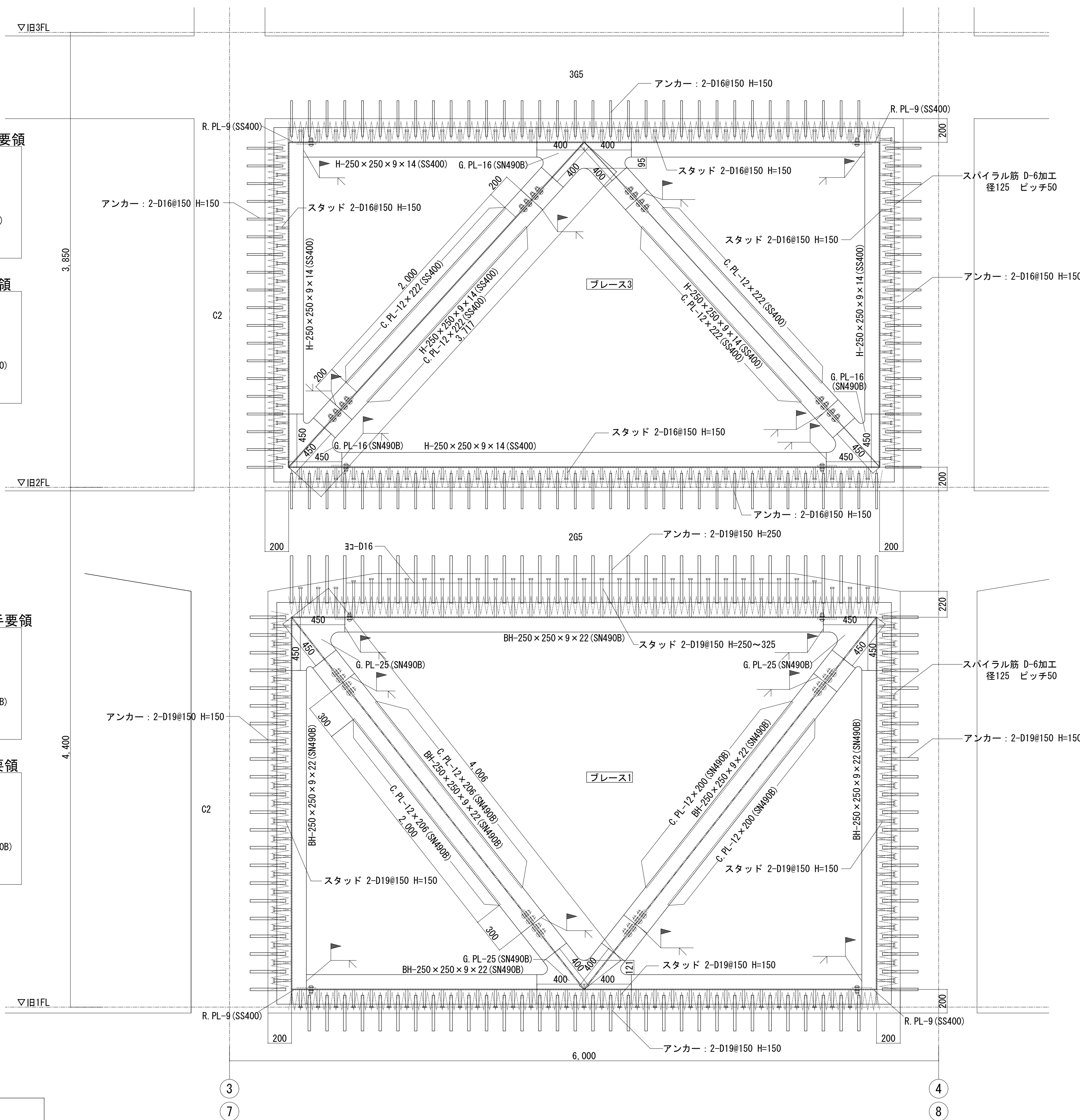


ブレースカバープレート 溶接要領



枠組K型ブレース補強図① S=1/20

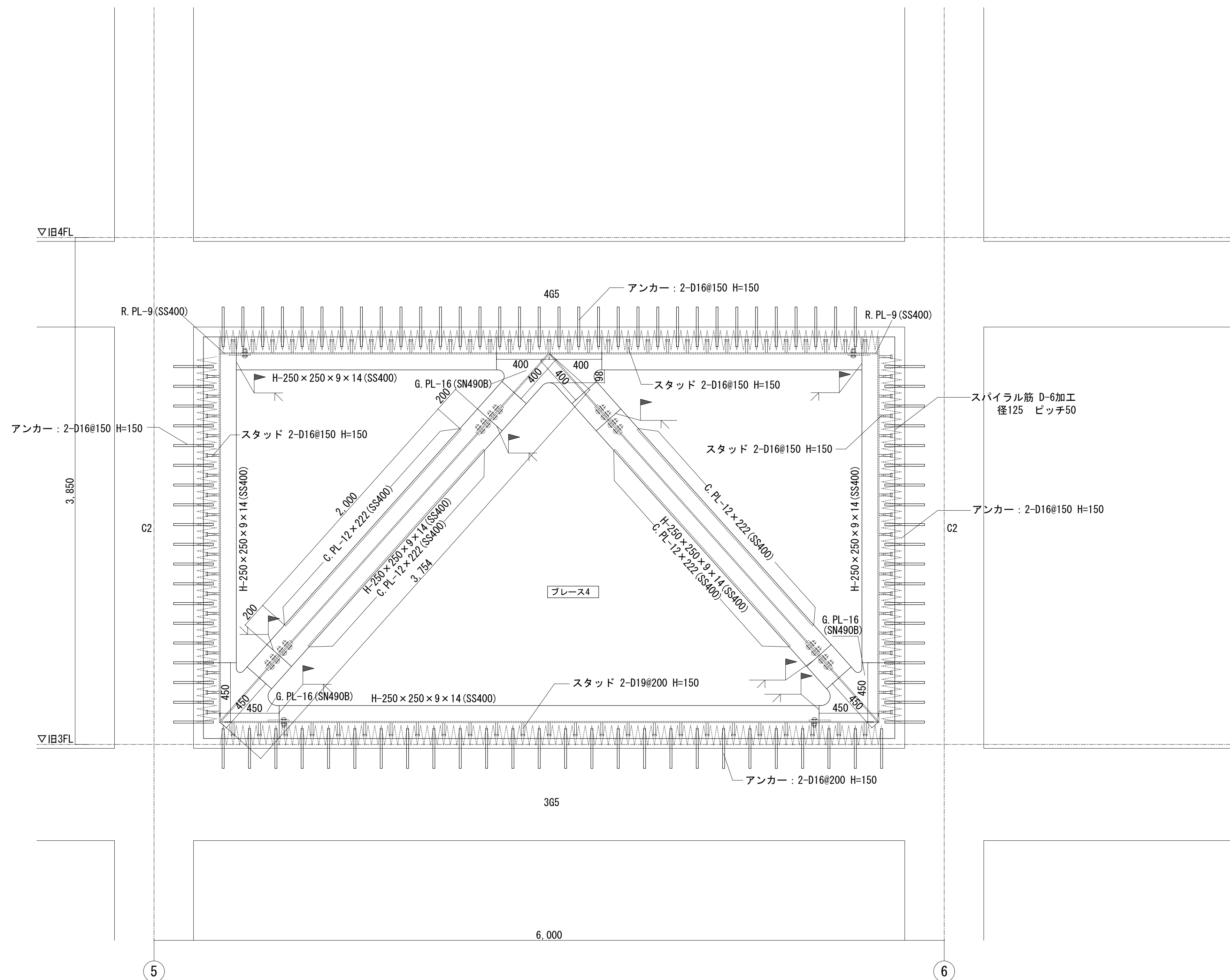
- ※アンカーの彫り込み深さ=7d以上
- ※枠は継ぎ手接合(保耐力接合)とする
- ※使用材は現場溶接の場合、SM400以上を使用



Technical drawing of a beam-to-column connection. The drawing shows a cross-section of a beam (SPL-12 x 140 x 167) and a column (2-M20). The beam is welded to the column with a 250mm weld. Dimensions are given in mm: 140, 40, 55, 60, 80, 740, 167, 250. The beam is labeled "SPL-12 x 140 x 167 (SS400)" and the column is labeled "2-M20".

Technical drawing of a 2SPL-12 beam-to-column connection. The drawing shows a cross-section of a 250mm high beam with 4M20 reinforcement bars. The beam is connected to a column using 2SPL-12 x 140 x 287 (SS400) plates. Dimensions include 140mm for the plate height, 40mm for the beam flange thickness, 55mm for the beam web thickness, 60mm for the plate width, 140mm for the plate length, 287mm for the plate width, and 7mm for the plate thickness. A 45-degree angle is indicated for the plate connection.

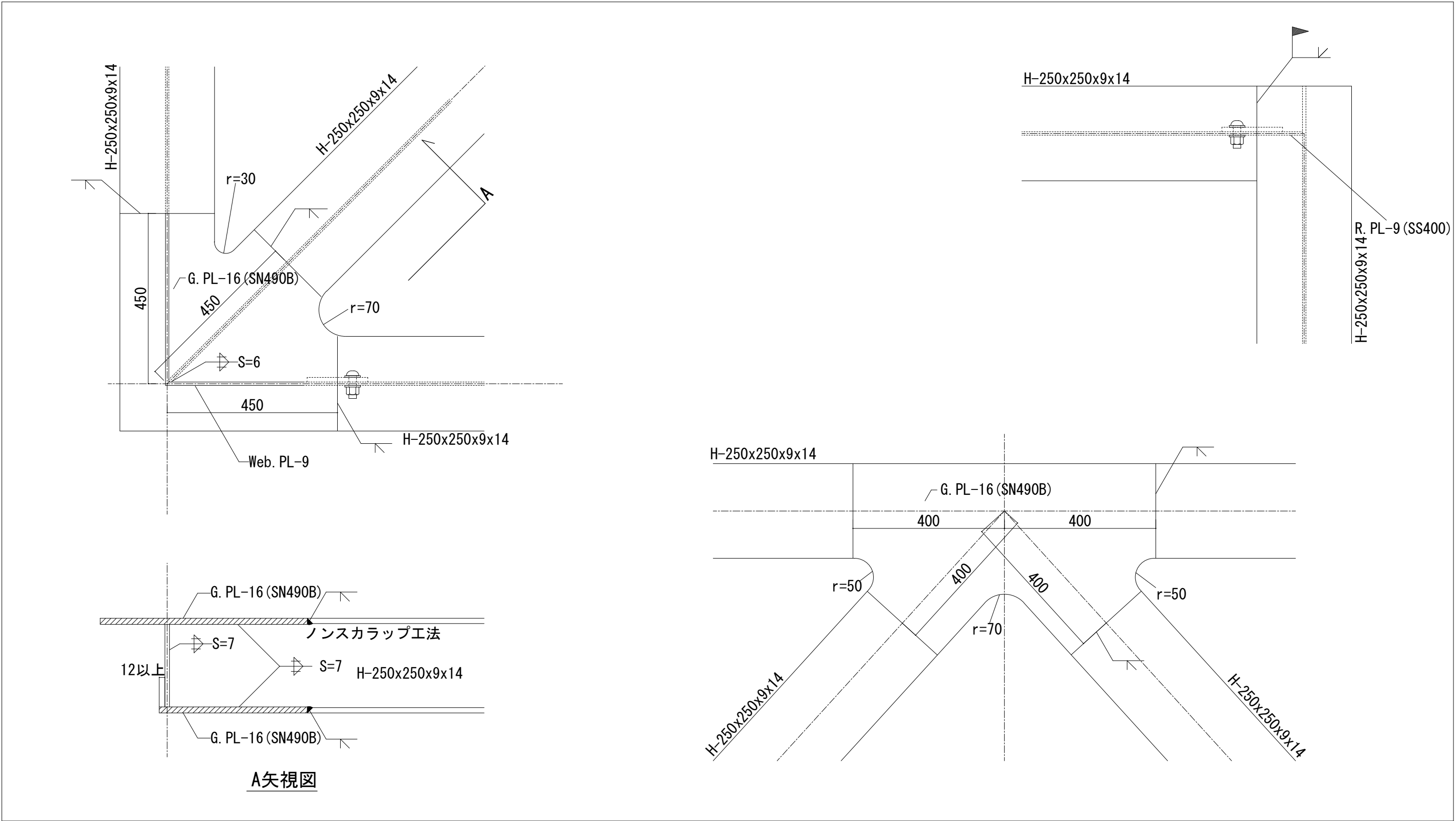
PL-12 (SS400)



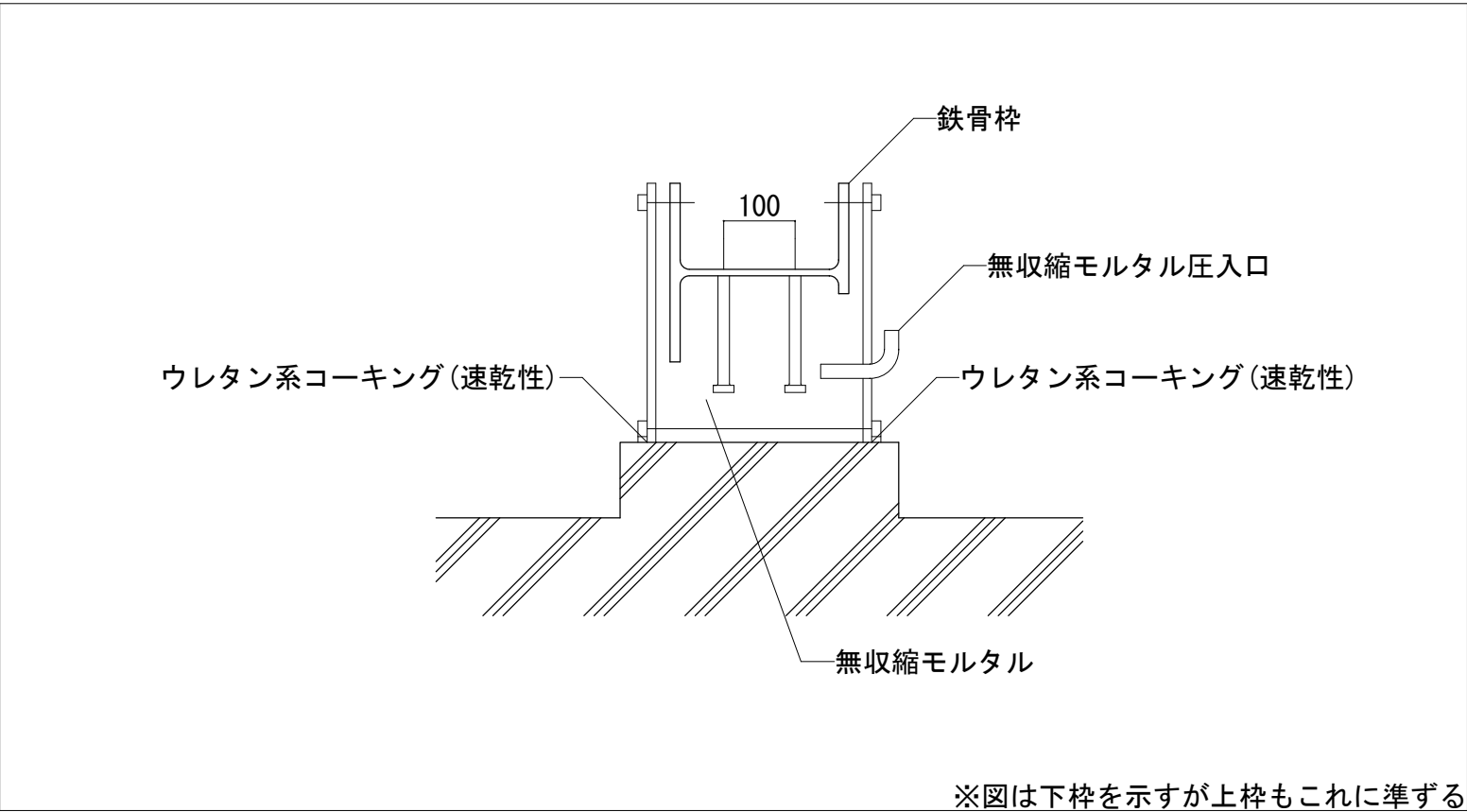
600
アンカー: 2-D16@150
C 600
115
既存EW22アンカー: 1-D19@150

- ※アンカーの彫り込み深さ=7d以上
- ※枠は継ぎ手接合（保有耐力接合）とする
- ※使用材は現場溶接の場合、SM400以上を使用

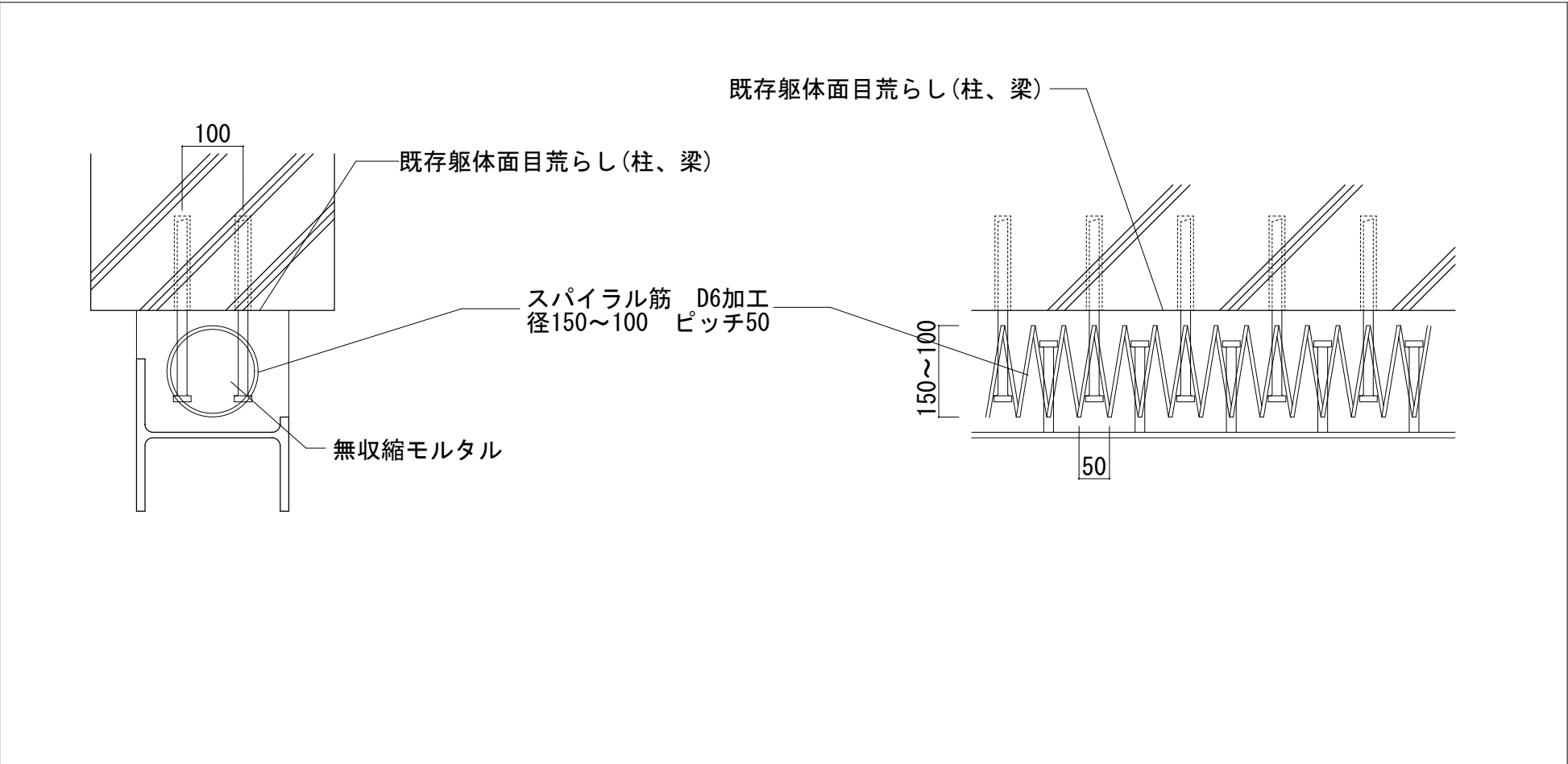
2階ブレース3,3階ブレース4標準詳細図 S=1/10



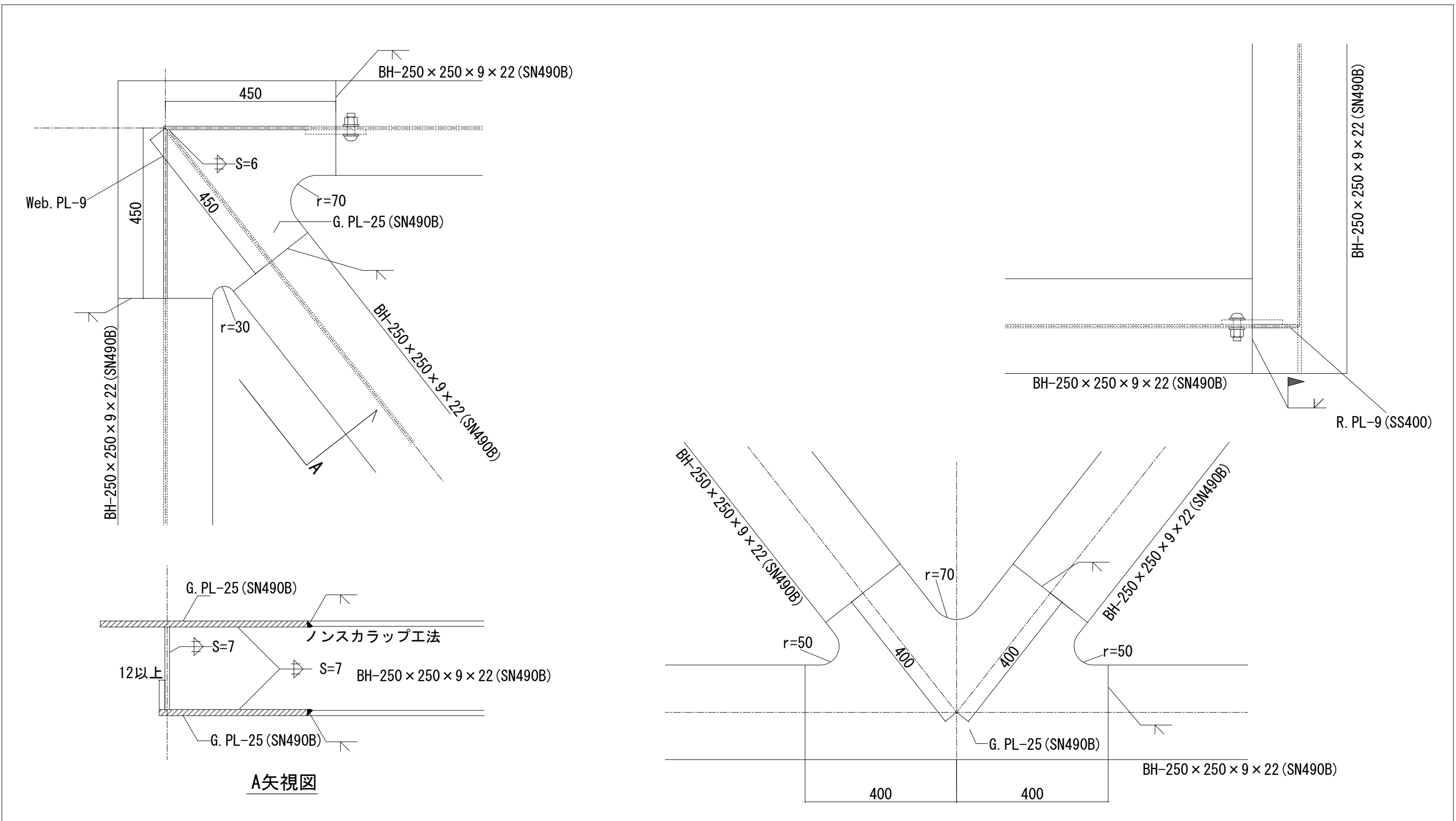
無収縮モルタル圧入要領 S=1/10

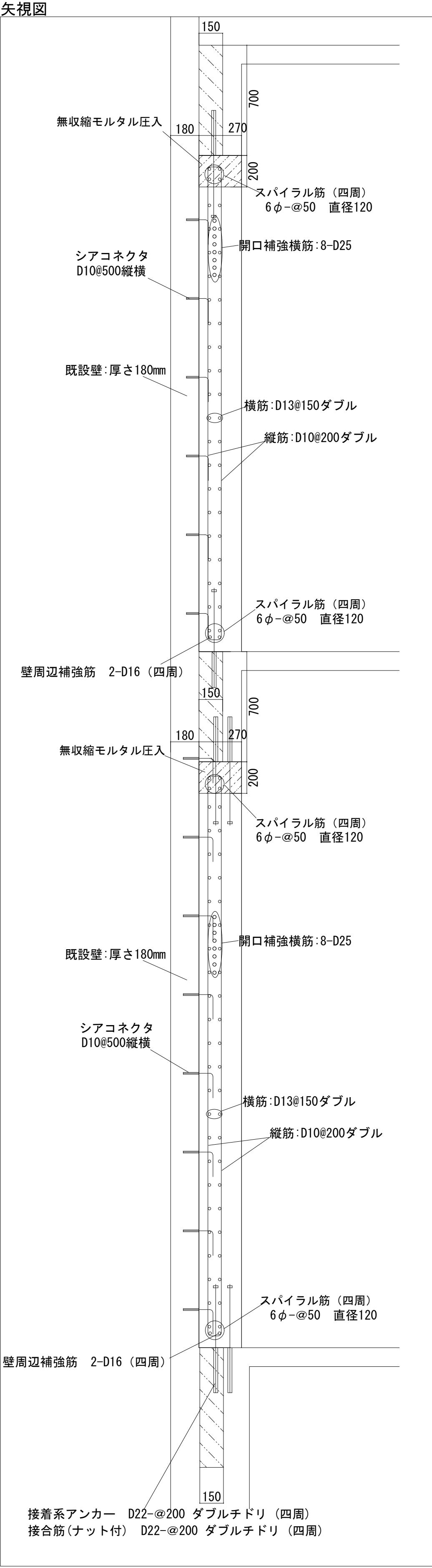


割裂補強スパイラル筋納まり図 S=1/10



1階ブレース1標準詳細図 1/10





矢視圖

接着系アンカー D22-@200 ダブルチドリ (四周)
接合筋(ナット付) D22-@200 ダブルチドリ (四周)

谷山支所庁舎大規模改修その他本体工事


増し打ち壁詳細図②

A 1 1/20

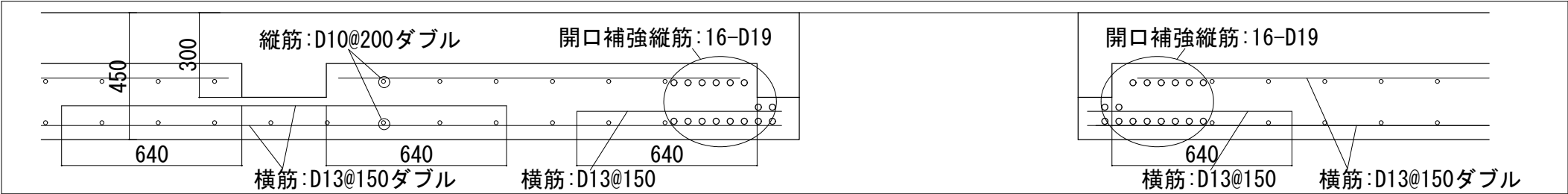
鹿兒島市建設局建築部建築課

S - 61

1通り増し打ち壁詳細図 S=1/20

※1通り3階以上, 10通りも上記の要領に従うこと
 ※  部は既存梁撤去・復旧範囲を表す
 復旧範囲は他増設部の配合にてコンクリートを充填すること

EW45リブ周辺配筋詳細図



yAt構造設計事務所合同会社一級建築士事務所

| | | | |
|---------|---|--------|---|
| 一級建築士 | 第 | 341807 | 号 |
| 構造一級建築士 | 第 | 9582 | 号 |

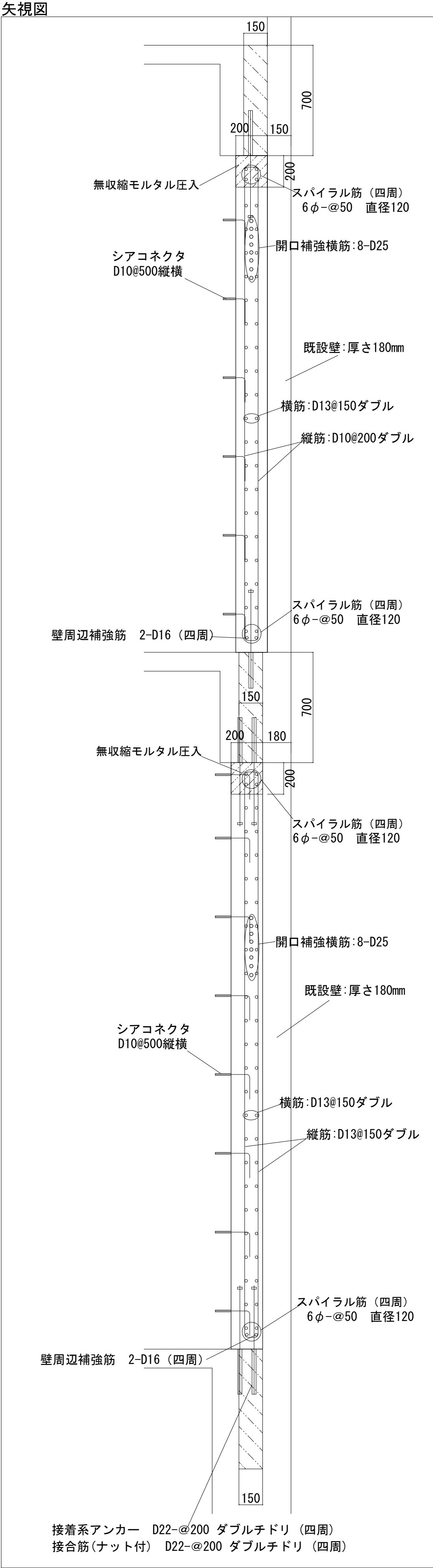
中畠 敦広


みのだ・プランディー設計共同企業体

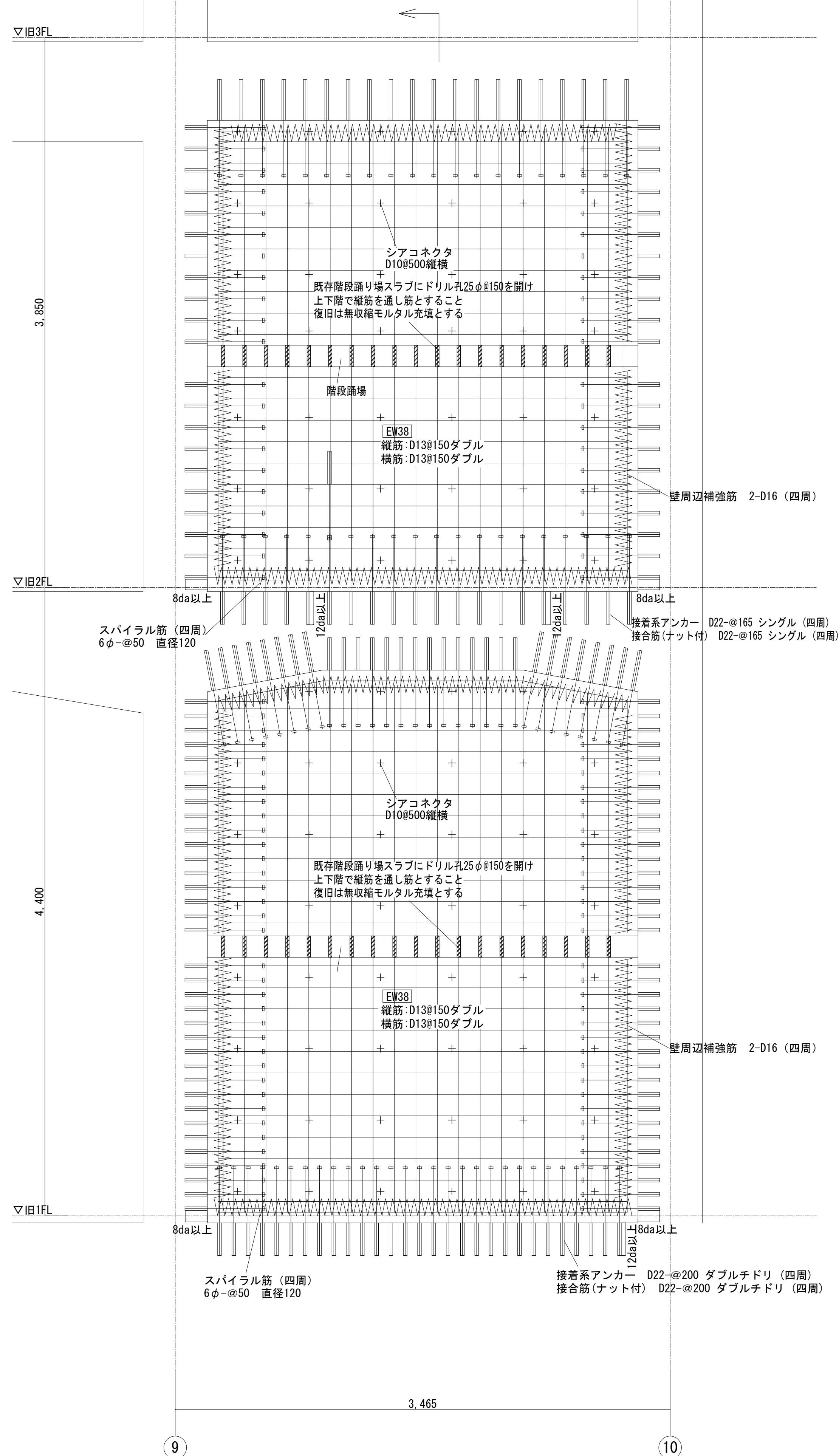
代表事務所 株式会社みのだ設計
一級建築士事務所 知事登録 第 1-3-140 号

一級建築士 第 148365 号

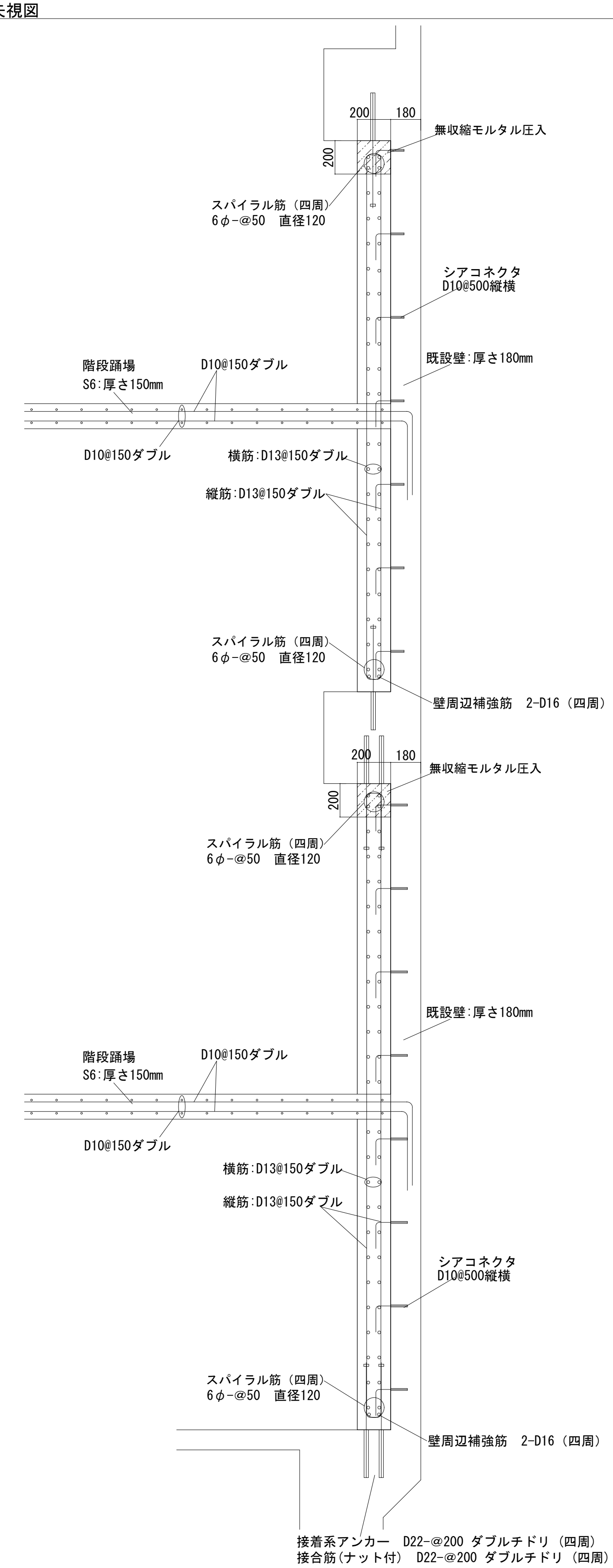
菱田 満康



※10通り3階以上も上記の要領に従うこと
※  部は既存梁撤去・復旧範囲を表す
復旧範囲は他増設部の配合にてコンクリートを充填すること



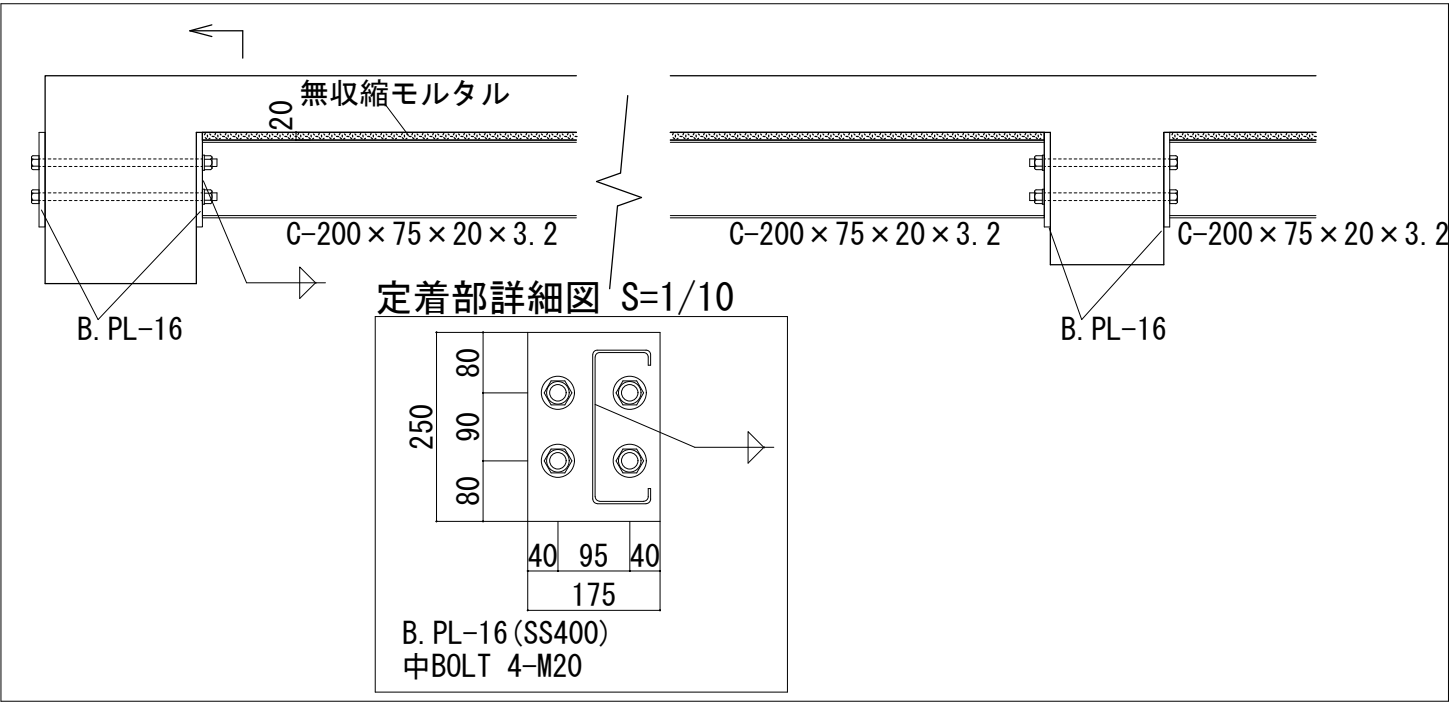
矢視図



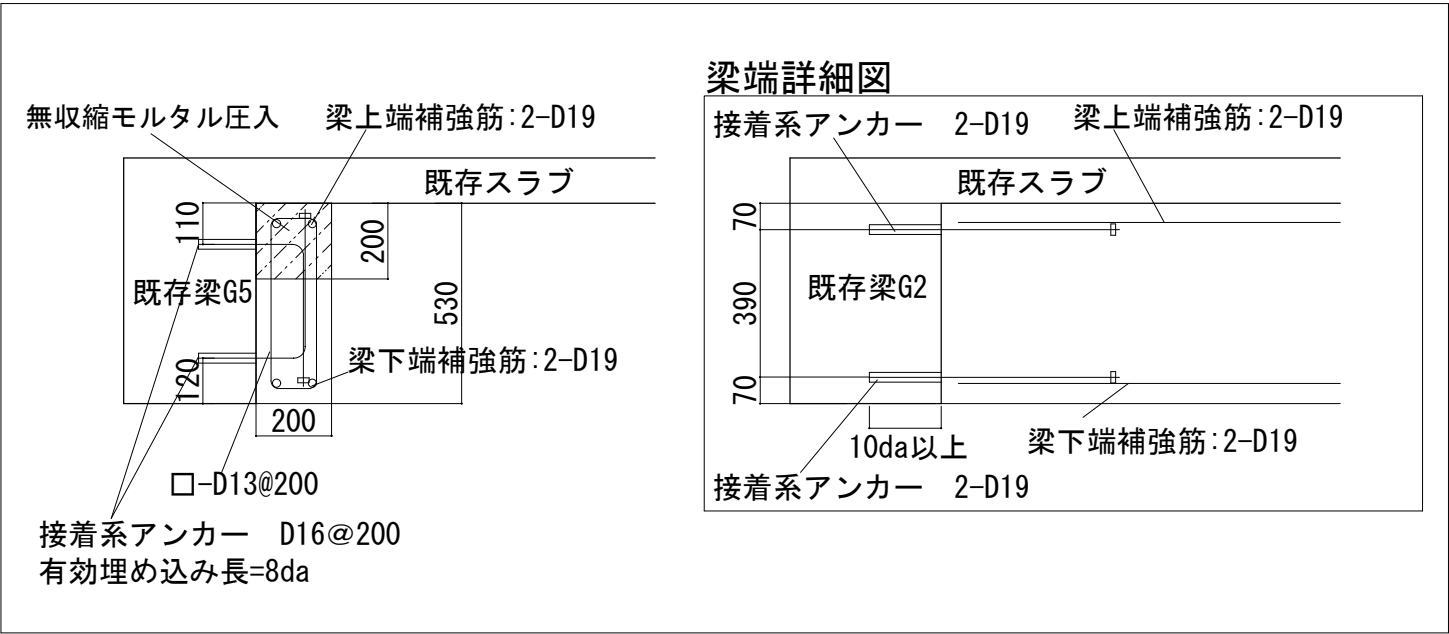
A通り増し打ち壁詳細図 S=1/20

※A通り3階以上も上記の要領に従うこと

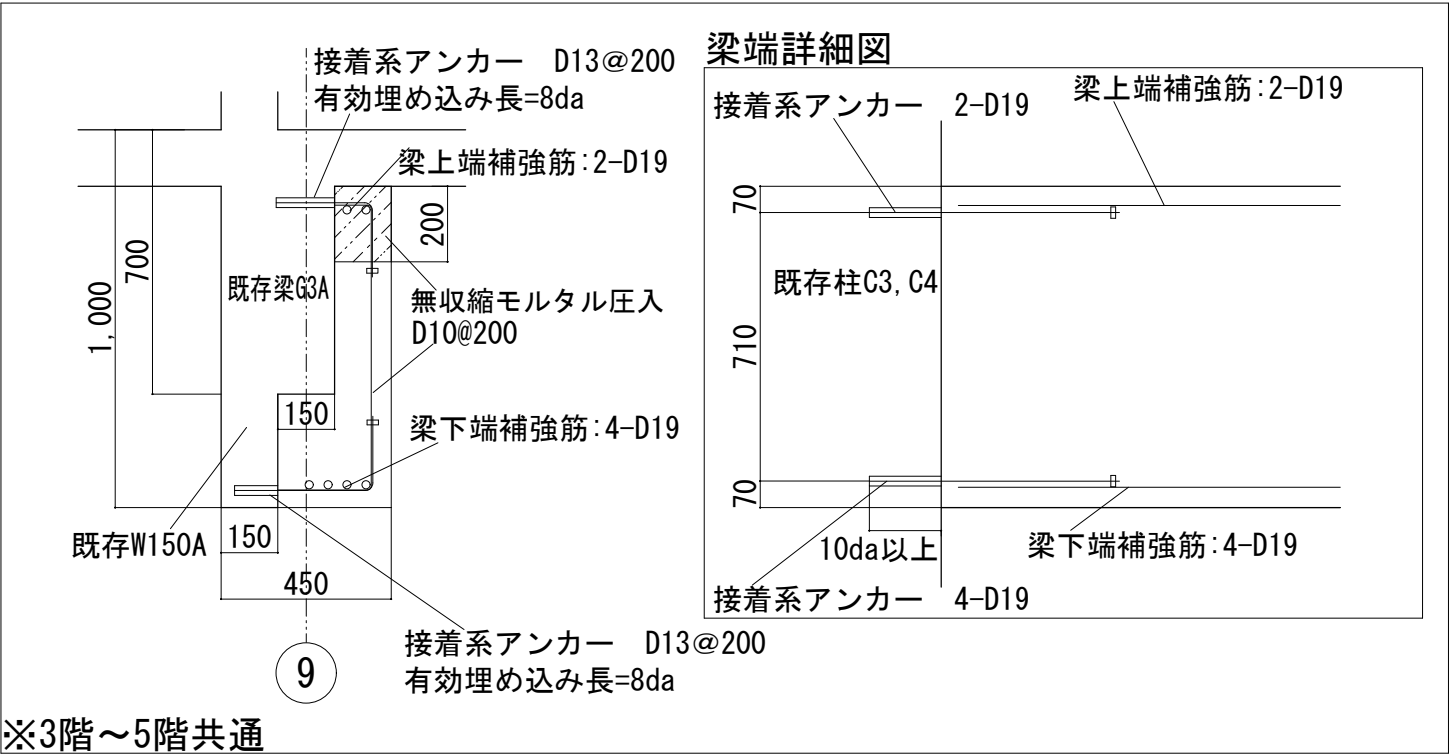
C-200×75×20×3.2による床補強要領図 S=1/20



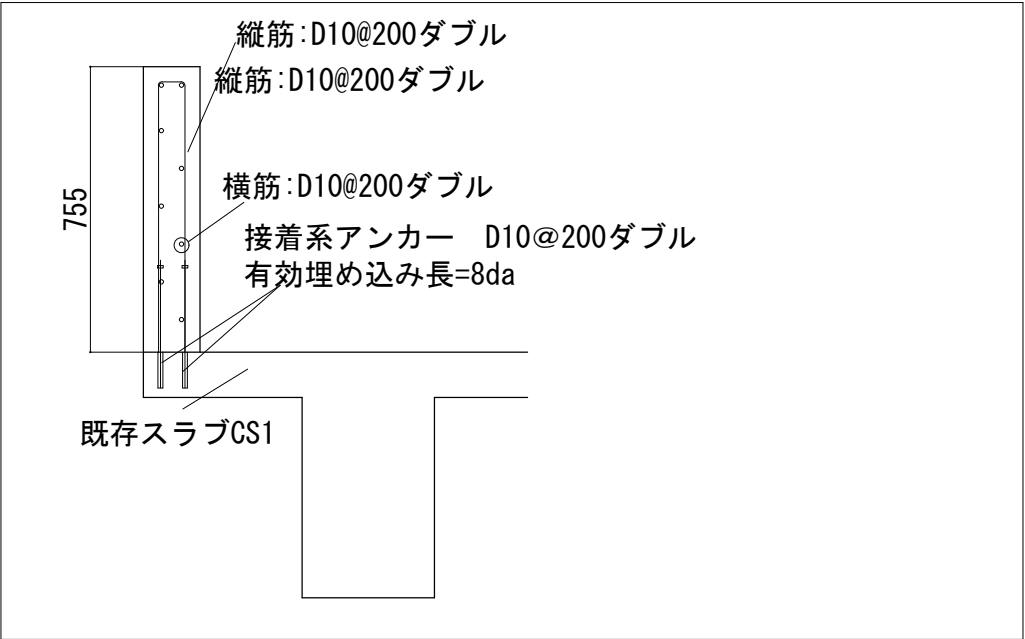
4階梁側面ふかし補強要領図 S=1/20



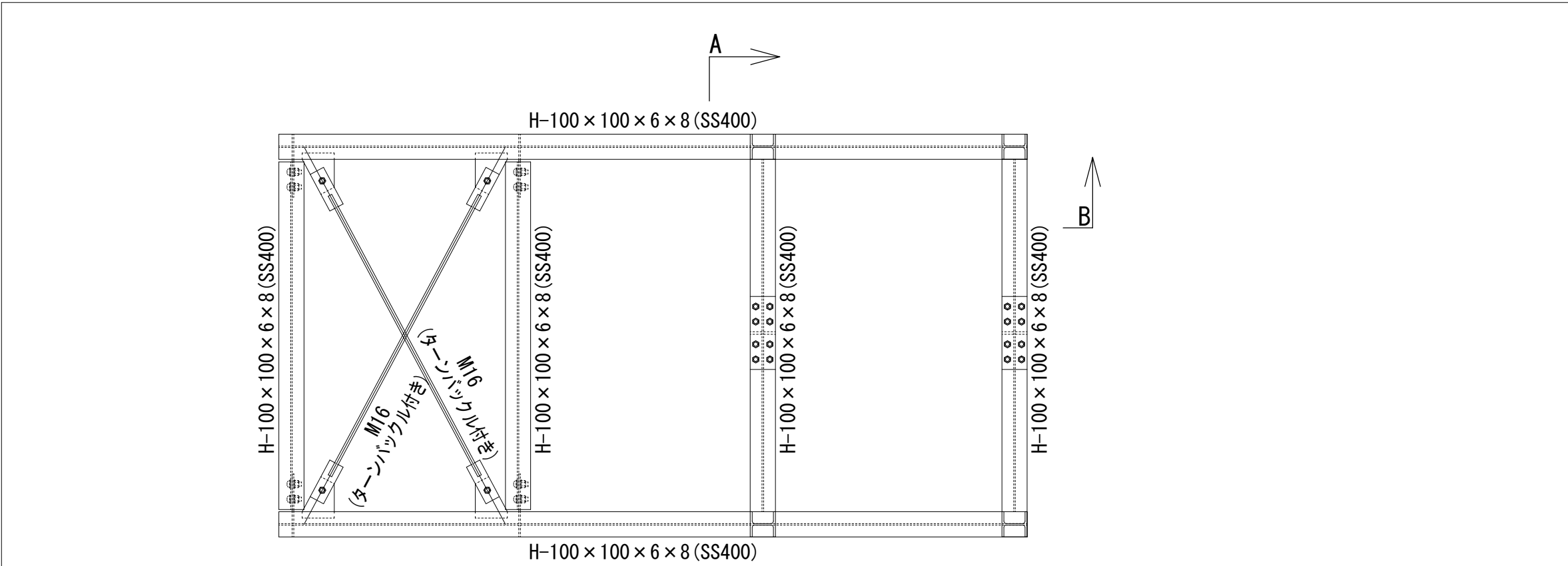
9通り上, C通り～D通りG3A補強要領図 S=1/20



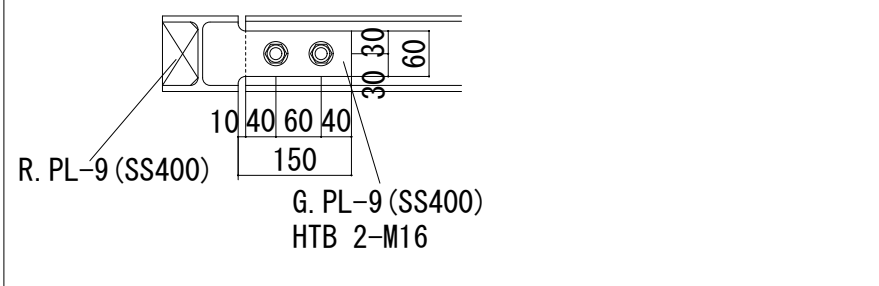
4階A通り, D通りスラブ先端腰壁追加要領図 S=1/20



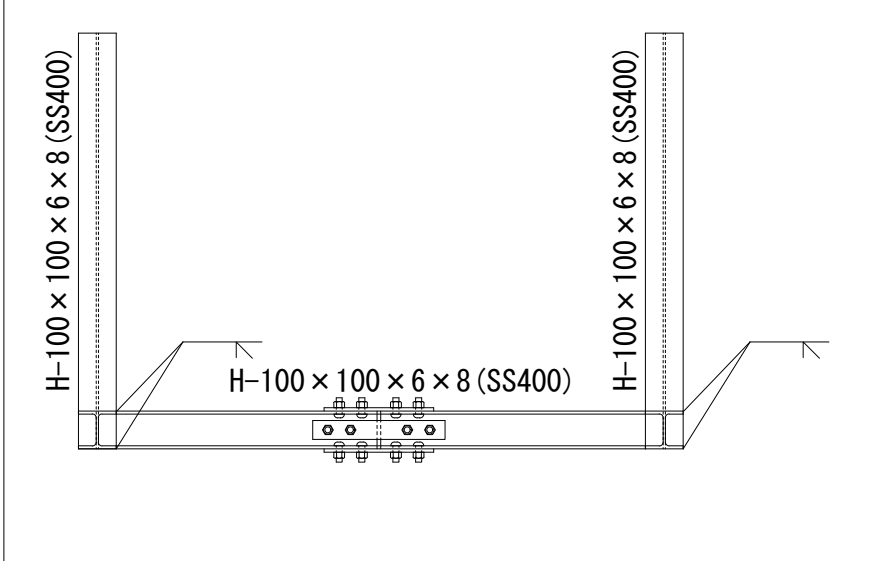
新設鉄骨底部分詳細図 S=1/20



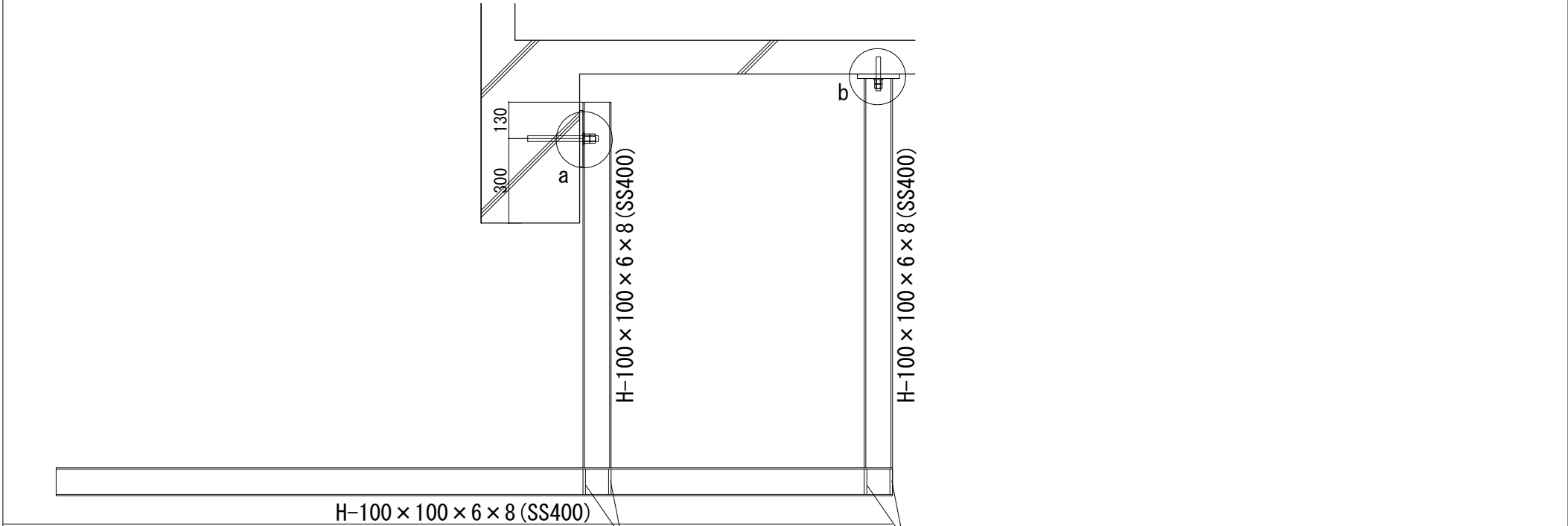
H-100×100×6×8ピン接合部詳細図 S=1/10



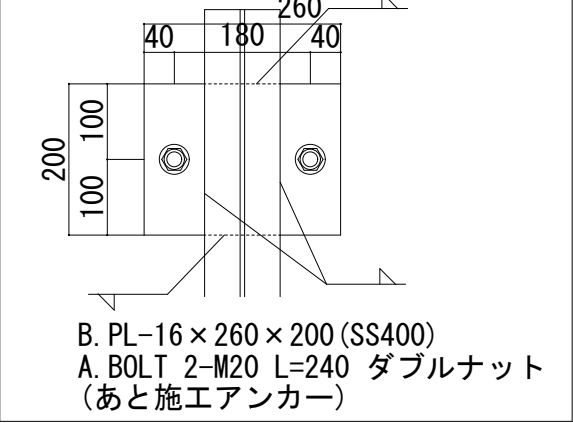
A矢視図



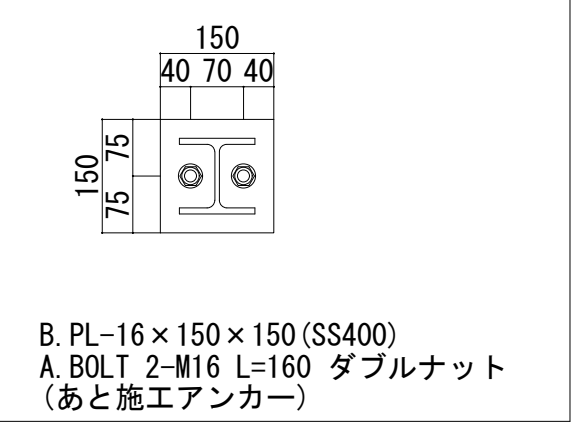
B矢視図



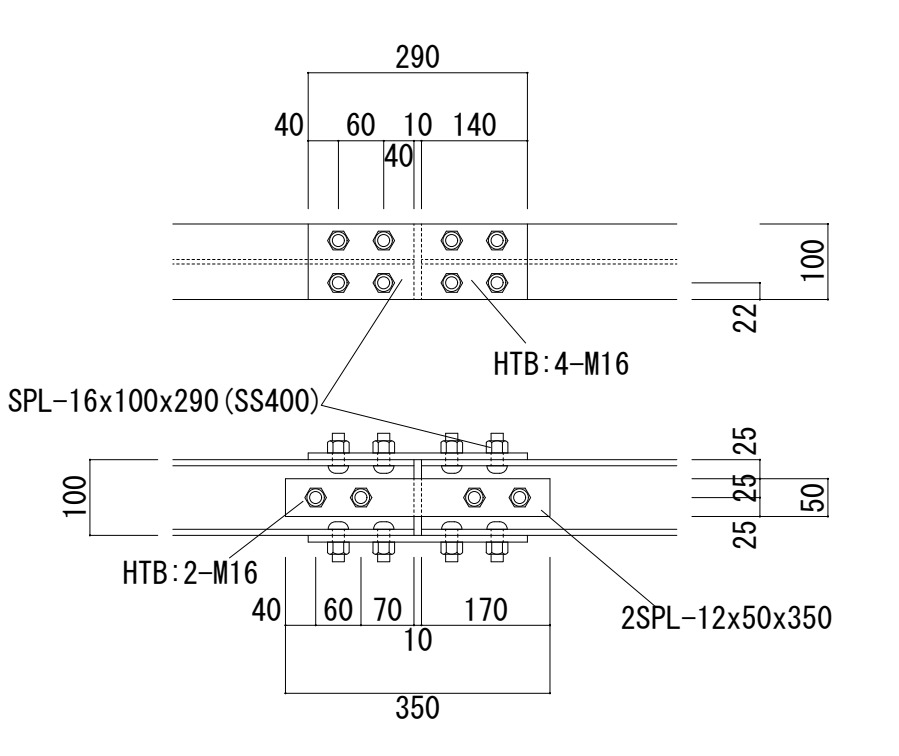
a部詳細図 S=1/10



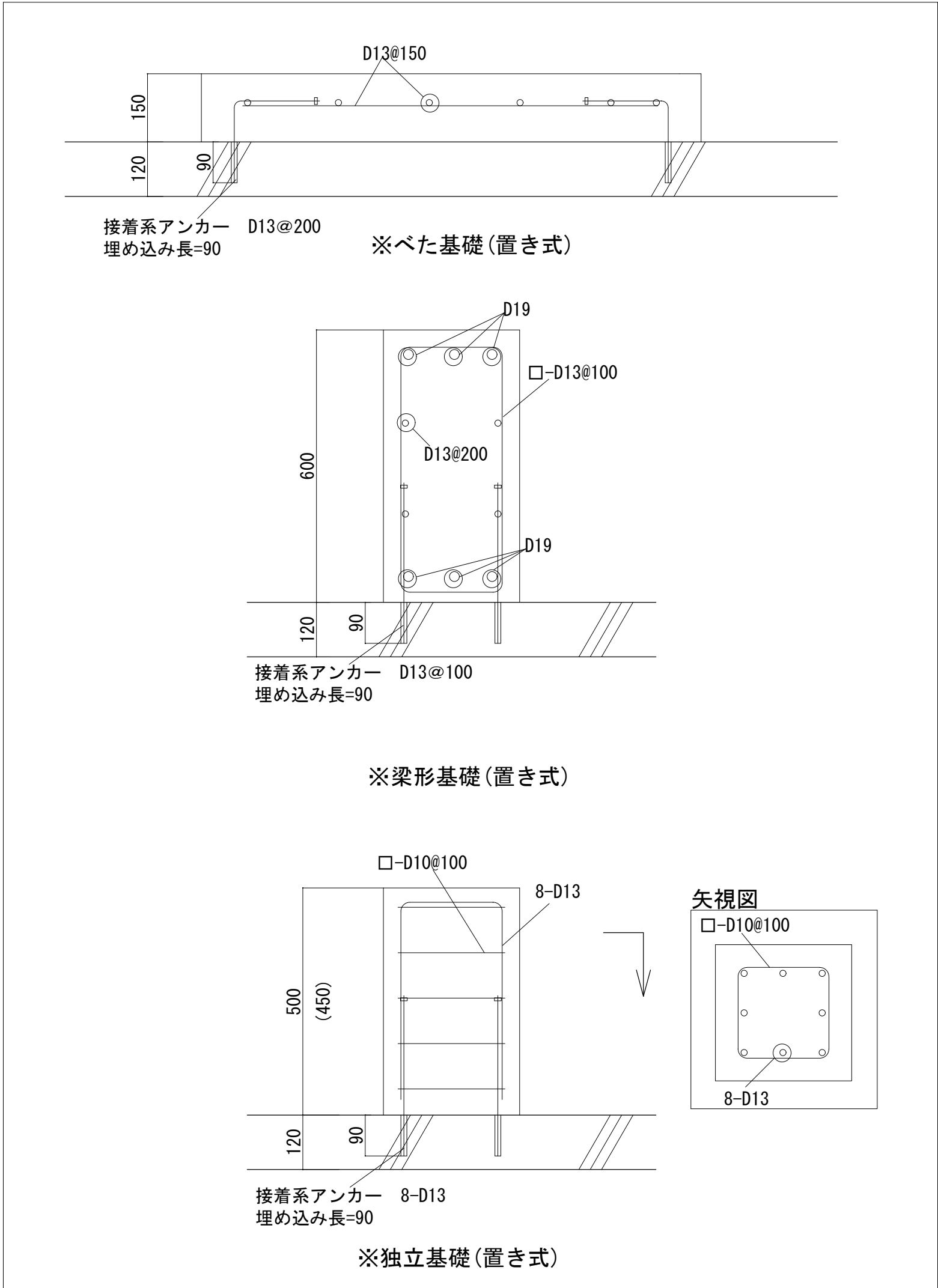
b部詳細図 S=1/10



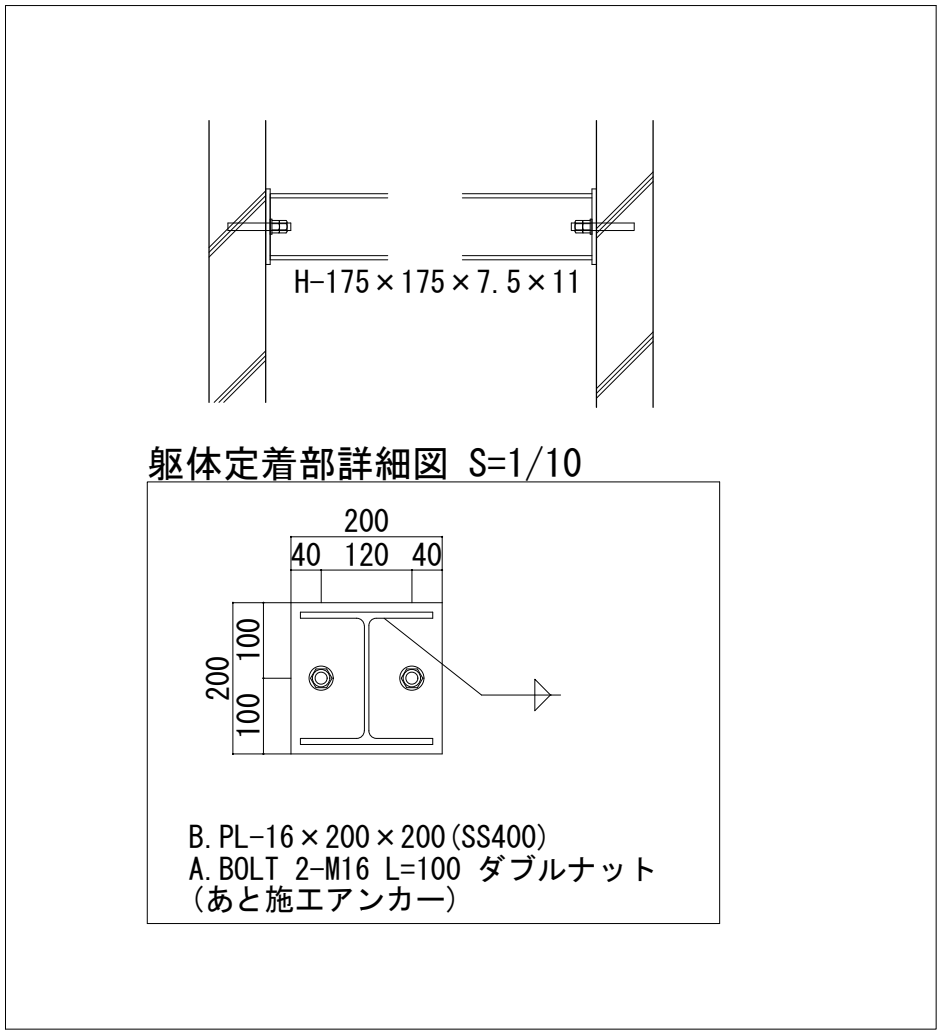
H-100×100×6×8剛継手詳細図 S=1/10



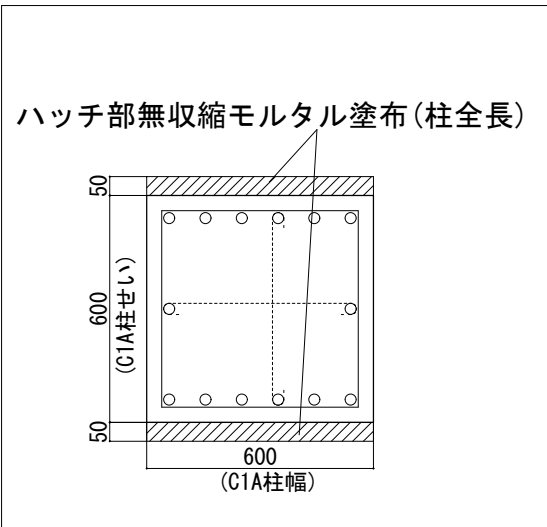
機械基礎配筋詳細図 S=1/10



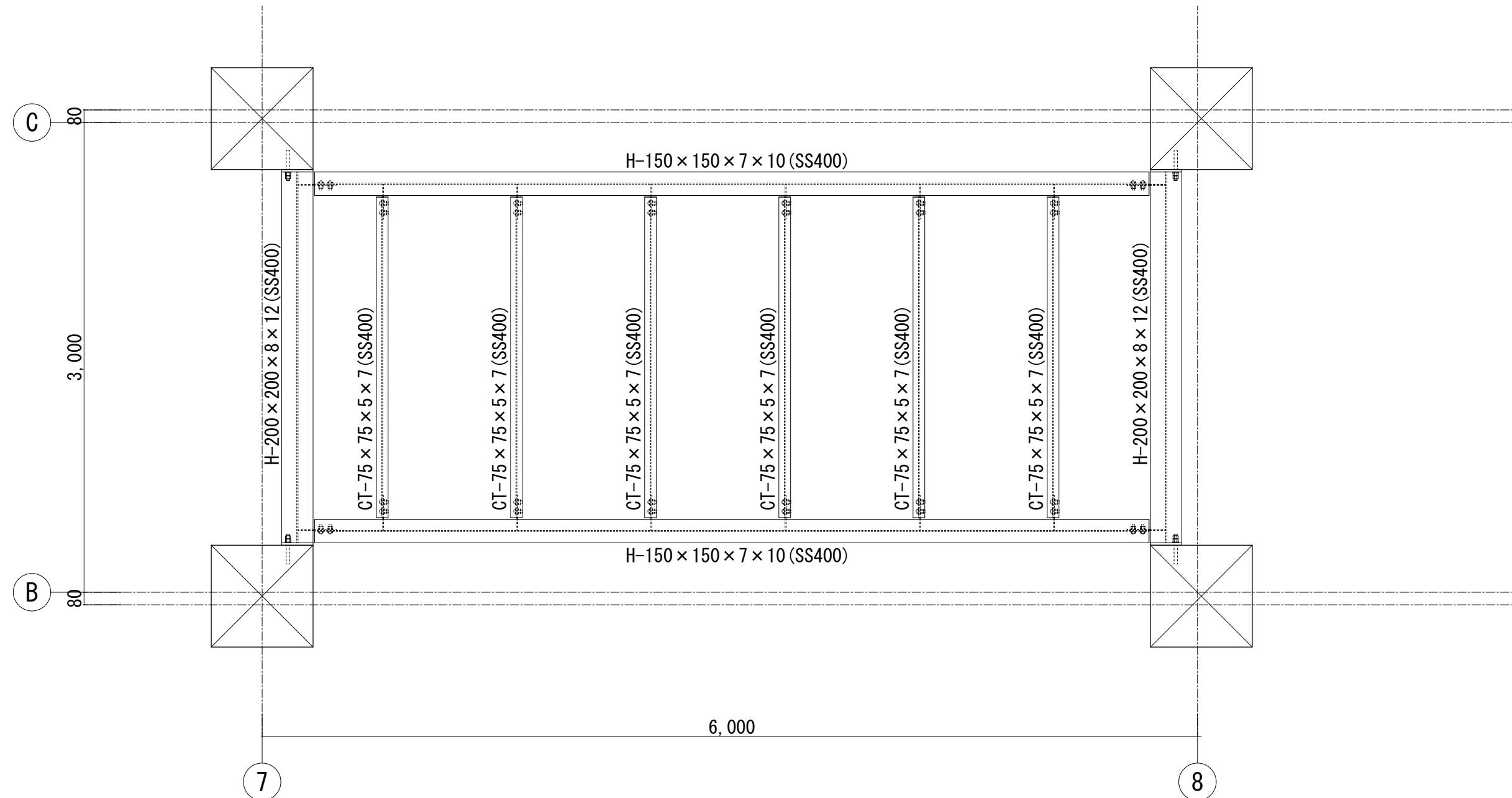
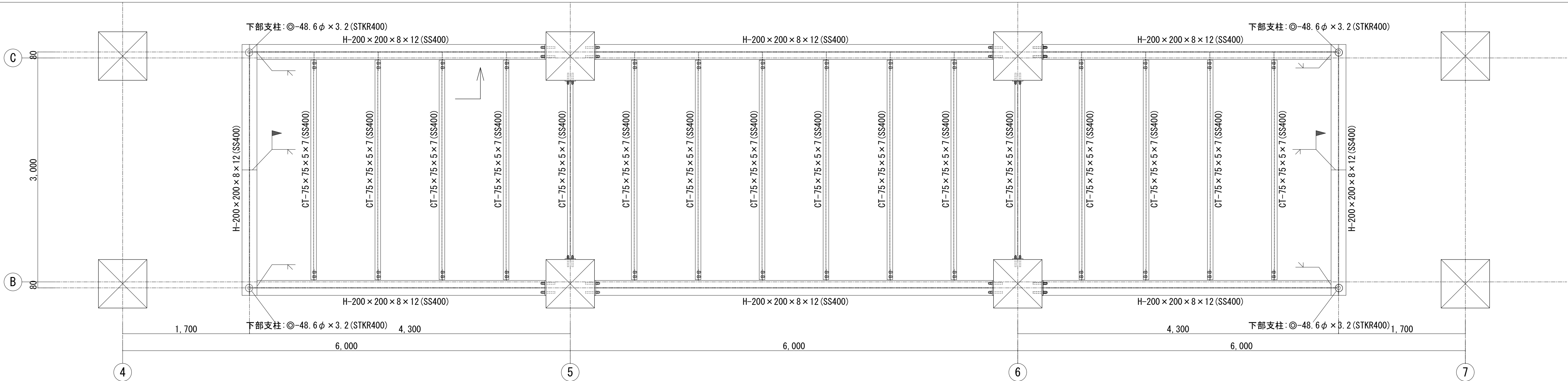
EV付帯鉄骨中間ビーム躯体接合要領図 S=1/20



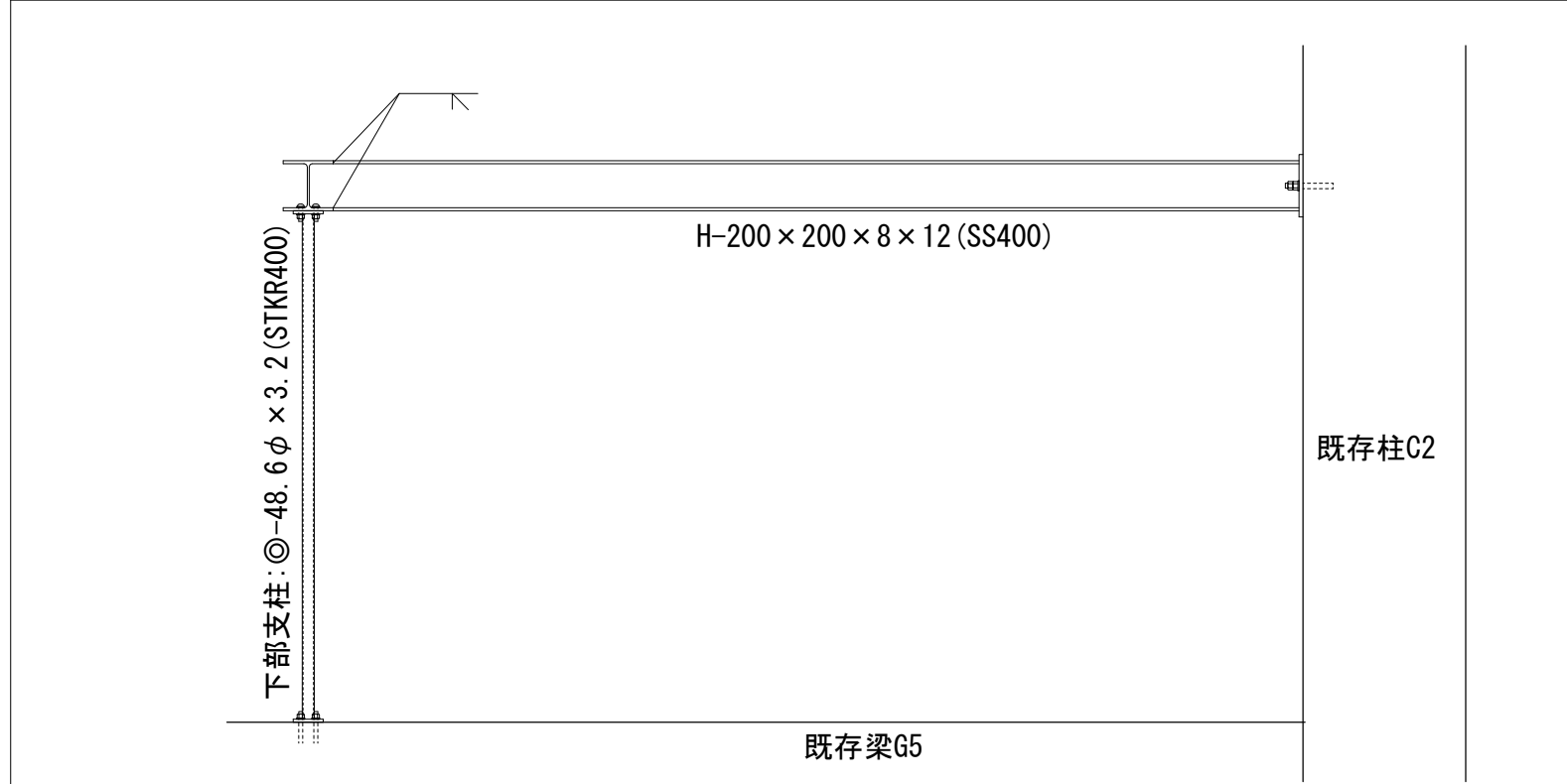
C1Bふかし要領図 S=1/20



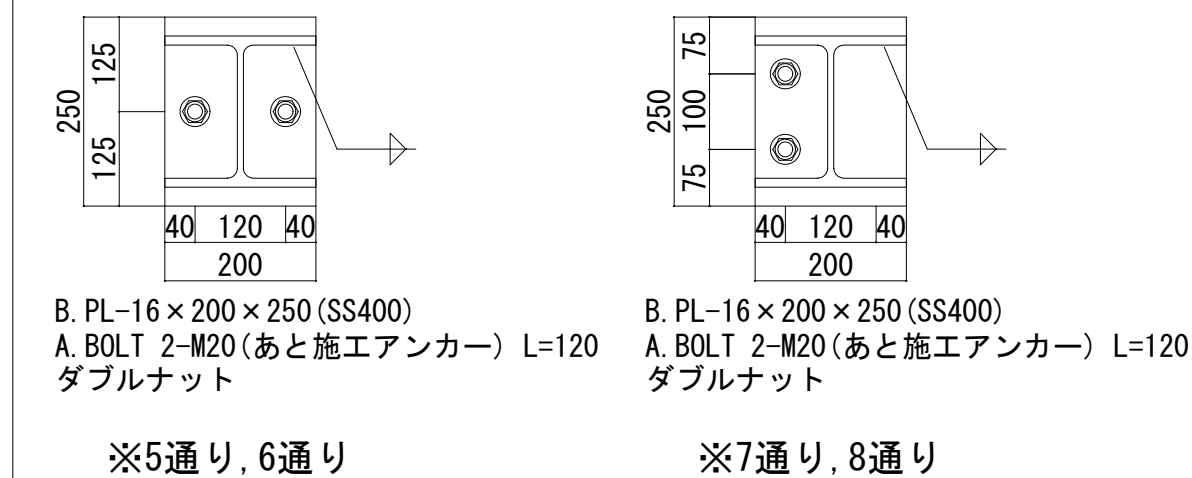
1, 2階書架周辺鉄骨架構詳細図 S=1/30



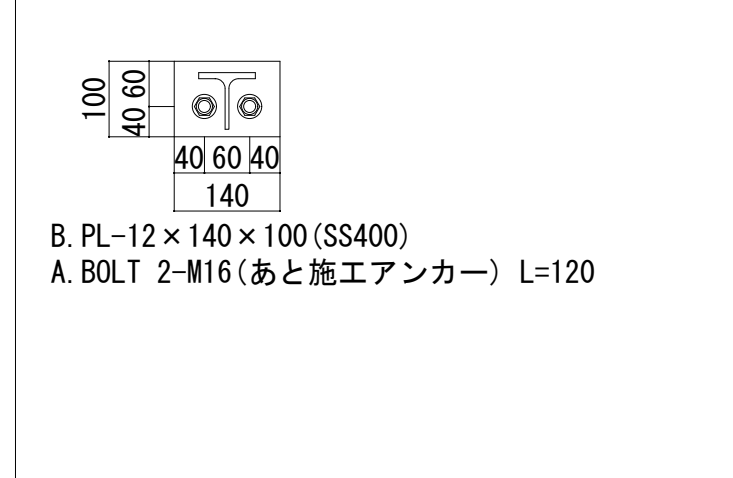
矢視図



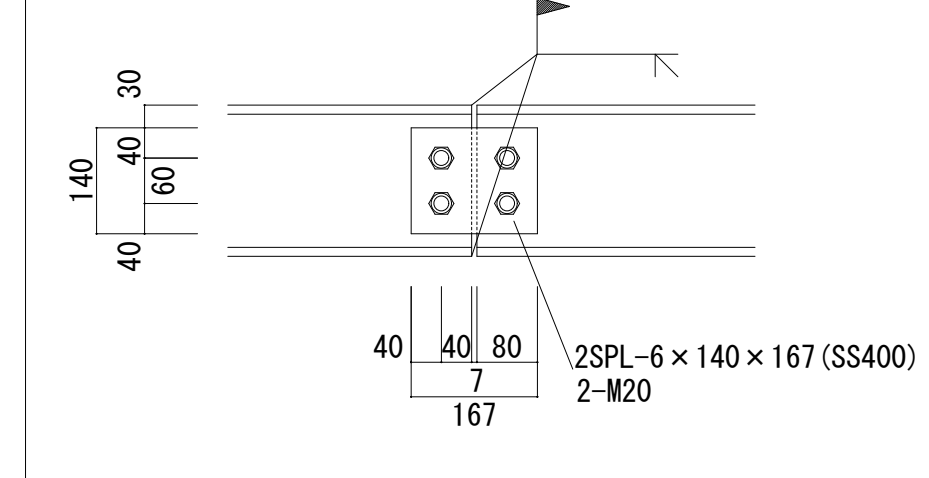
H-200×200×8×12-RC柱定着部詳細図 S=1/10



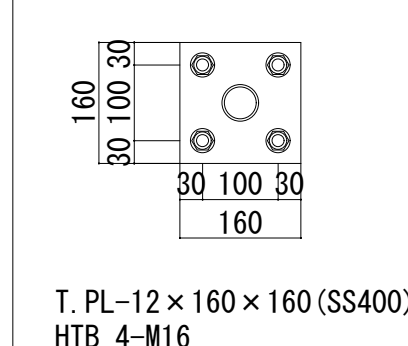
CT-75×75×5×7-RC柱定着部詳細図 S=1/10



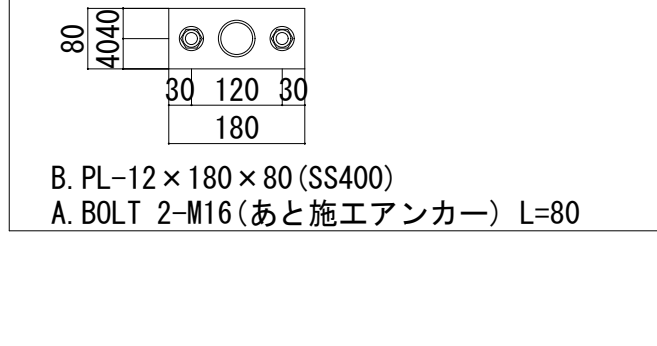
H-200×200×8×12現場溶接継手詳細図 S=1/10



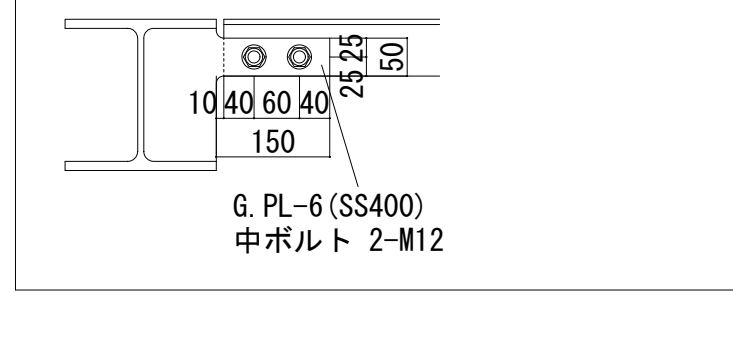
支柱柱頭詳細図 S=1/10



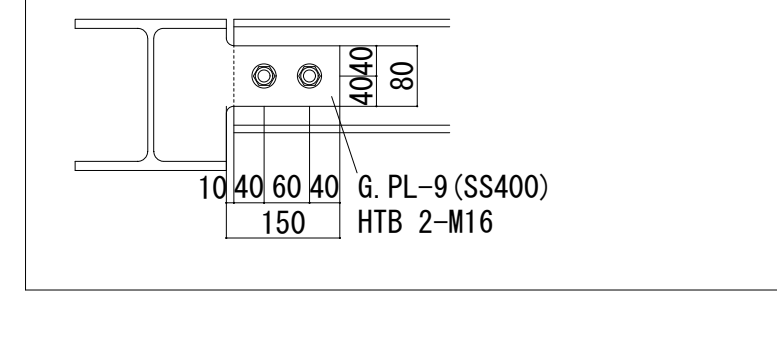
支柱柱脚詳細図 S=1/10



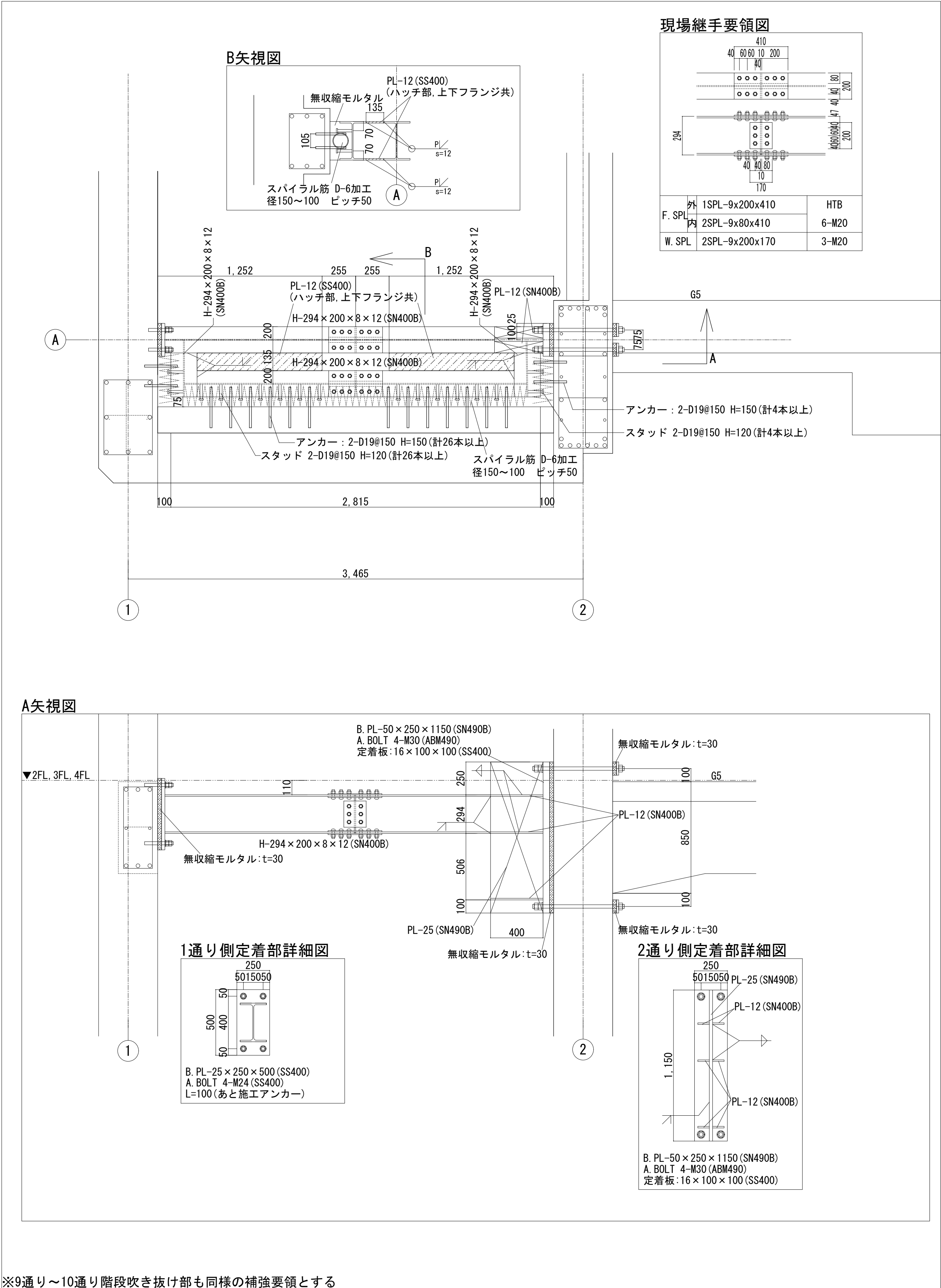
CT-75×75×5×7ピン接合部詳細図 S=1/10



H-150×150×7×10ピン接合部詳細図 S=1/10



1通り～2通り階段吹き抜け部補強詳細図 S=1/20



※9通り～10通り階段吹き抜け部も同様の補強要領とする

1通り～2通りDS吹き抜け部補強詳細図 S=1/20

